

田久瓜ヶ坂

—福岡県宗像市田久所在遺跡の発掘調査報告—

宗像市文化財調査報告書 第46集

1999

宗像市教育委員会

TA KU URI GA SAKA

田久瓜ヶ坂

—福岡県宗像市田久所在遺跡の発掘調査報告—

宗像市文化財調査報告書 第46集



1999

宗像市教育委員会



調査区周辺航空写真



1区1号墳 全 景



1区1号墳 主体部



1区1号墳 第3主体部円筒棺

序 文

宗像市は、福岡県の北東部で福岡市と北九州市の中間地点に位置し、三方を低い山地に囲まれた盆地状の地形を有しています。

かつての純農村は、昭和36年の国鉄鹿児島本線電化を契機に、福岡・北九州両政令指定都市への通勤圏として大規模な宅地開発が進められ、昭和38年にはじまった自由ヶ丘団地の造成、昭和41年にはじまった日の里団地の造成、さらには2つの大学の進出もあって、人口が急増し、活気ある住宅・学園都市として発展を遂げ、今日にいたっております。

急速な都市化は、おのずと自然環境や歴史的景観の変貌を伴うものであり、残念ながらほとんどの文化財は消滅の危機にさらされ、常に緊急の保存対策を迫られています。失われていく埋蔵文化財に対しては、緊急発掘調査を実施し、記録保存に努め多くの歴史を解明する成果をあげてまいりました。

本報告は、宅地造成に伴う緊急発掘調査によって検出された前方後円墳をはじめ、丘陵上に並ぶ墳墓群などの調査記録を納めております。

本書が広く文化財の保護および学術研究に貢献することを願いたしますとともに、発掘調査全般にわたってご協力をいただいた多くの方々に心からの感謝の意を表す次第であります。

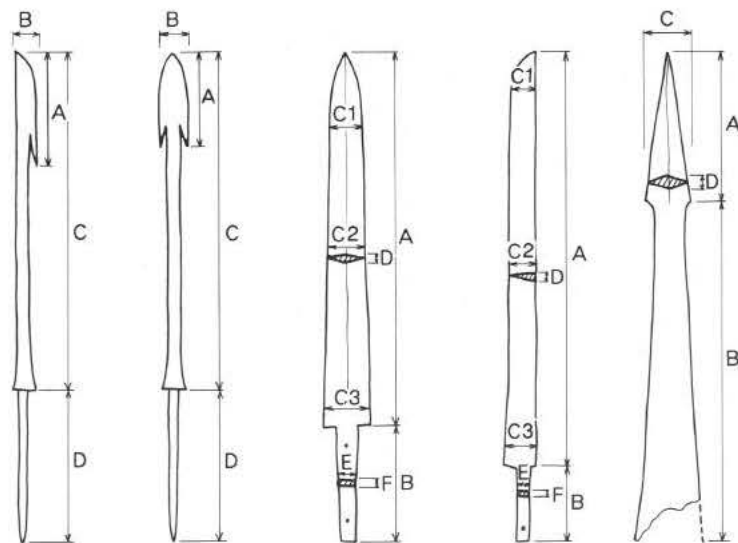
平成11年3月31日

宗像市教育委員会

教 育 長 原 田 慎 太 郎

例 言

1. 本書は、宅地造成に伴い、平成7年度から9年度にかけて緊急発掘調査を実施した田久瓜ヶ坂遺跡（宗像市大字田久字サヤ峠1ほか）の調査報告書である。
2. 発掘調査は、宗像市教育委員会が事業主体となって実施した。
3. 福岡県文化財番号は、田久瓜ヶ坂遺跡（330312他）である。
4. 遺物の挿図番号は、各挿図ごとに1番から番号を付している。
5. 測量は、国土調査法第Ⅱ座標系を用い、方位は主に磁北を用いた。
6. 調査は、安部裕久・岡崇・黒瀬茂文（現 篠栗町教育委員会）・白石康弘（現 大平村教育委員会）がそれぞれ担当した。
7. 遺構の実測は、安部・岡・黒瀬・白石・江崎靖隆・小樋千鶴子がおこない、遺構の写真は、岡・白石がおこなった。
8. 遺物の実測は、岡・江崎・秋成雅博・浅倉弥生・小樋・細川愛が、遺物の撮影は、岡がおこなった。
9. 遺構、遺物の製図は、中原美知子・多比良佳奈子が、遺物の整理は、西村広子・田代貞子・田崎紘子・東和子・濱田広美・浅倉がおこなった。
10. 本書の執筆および編集は、岡がおこなった。



第1図 鉄鏃・刀・剣類計測部位図

目 次

第1章 序 説	1
1. 調査の経過	1
2. 組織と構成	1
3. 位置と環境	2
4. 調査の概要	7
第2章 調査の記録	17
1. 古墳	17
2. 石棺墓	49
3. 石蓋土墳墓	50
4. 木棺墓	52
5. 土墳墓	52
6. 集石墓	61
7. 竪穴式住居	78
8. その他の遺構	80
第3章 ま と め	131
1. 前方後円墳	131
2. 埋葬施設と階層差	132
3. 出土遺物	134
4. 墳墓の構成	138

巻頭図版目次

巻頭図版 1 上	調査区周辺航空写真	下	1区1号墳全景
巻頭図版 2 上	1区1号墳主体部	下	1区1号墳第3主体部円筒棺

挿 図 目 次

第1図 鉄鏃・刀・剣類計測部位図	例言	第9図 5区遺構配置図 (1/200)	14
第2図 周辺遺跡分布地図 (1/25,000)	4	第10図 7区遺構配置図1 (1/200)	15
第3図 田久瓜ヶ坂事業計画図 (1/3,000)	5	第11図 7区遺構配置図2 (1/200)	16
第4図 調査区配置図 (1/3,000)	6	第12図 1区現況測量図 (1/300)	18
第5図 1区遺構配置図 (1/300)	8	第13図 1号墳墳丘土層図 (1/80)	19
第6図 2区A・C遺構配置図 (1/200)	10	第14図 1号墳主体部配置図 (1/30)	22
第7図 2区B遺構配置図 (1/200)	11	第15図 1号墳第1主体部実測図 (1/40)	23
第8図 3区遺構配置図 (1/200)	12	第16図 1号墳第2主体部実測図 (1/40)	24

第17図	1号墳第3主体部実測図 (1/40) ……	26	第48図	Ⅱ群遺構実測図2 (1/20) ……	72
第18図	1号墳第3主体部土層図 (1/40) ……	27	第49図	Ⅱ群遺構実測図3 (1/20) ……	74
第19図	1号墳第4主体部実測図 (1/10) ……	28	第50図	Ⅲ群遺構実測図 (1/20) ……	75
第20図	1号墳くびれ部西側遺物出土状況図 (1/100・1/10) ……	30	第51図	Ⅲ・Ⅳ群遺構実測図 (1/20) ……	77
第21図	1号墳主体部遺物出土状況図 (1/5) ……	31	第52図	竪穴式住居実測図 (1/80) ……	79
第22図	2号墳墳丘土層図 (1/80) ……	33	第53図	その他の遺構実測図1 (1/40) ……	82
第23図	2号墳主体部実測図 (1/40) ……	33	第54図	その他の遺構実測図2 (1/40) ……	83
第24図	2号墳墳丘東側遺物出土状況図 (1/100・1/10) ……	34	第55図	その他の遺構実測図3 (1/20) ……	84
第25図	3号墳主体部及び墳丘土層図 (1/80・1/40) ……	36	第56図	円筒棺実測図 (1/10) ……	87
第26図	3号墳祭祀土坑実測図 (1/20) ……	37	第57図	壺棺実測図 (1/3) ……	88
第27図	4号墳主体部実測図 (1/40) ……	38	第58図	1区出土遺物実測図1 (1/3) ……	89
第28図	4号墳閉塞状況図 (1/40) ……	39	第59図	1区出土遺物実測図2 (1/3) ……	90
第29図	14号墳主体部実測図 (1/40) ……	41	第60図	2区出土遺物実測図1 (1/3) ……	91
第30図	21号墳主体部実測図 (1/40) ……	42	第61図	2区出土遺物実測図2 (1/3) ……	92
第31図	31号墳主体部実測図 (1/40) ……	43	第62図	2区出土遺物実測図3 (1/3) ……	93
第32図	38号墳現況測量図 (1/250) ……	45	第63図	2区・3区出土遺物実測図 (1/4・1/3・1/2・1/1) ……	94
第33図	38号墳墳丘土層図 (1/200・1/80) ……	46	第64図	7区出土遺物実測図1 (1/3・1/2) ……	95
第34図	38号墳主体部実測図 (1/60) ……	48	第65図	7区出土遺物実測図2 (1/3) ……	96
第35図	1区遺構実測図 (1/40) ……	55	第66図	1号墳主体部出土鉄器実測図 (1/2) ……	97
第36図	2区遺構実測図1 (1/40) ……	56	第67図	2号墳主体部出土鉄器実測図 (1/2) ……	98
第37図	2区遺構実測図2 (1/40) ……	57	第68図	2号墳・21号墳主体部出土鉄器実測図 (1/4・1/2) ……	99
第38図	2区遺構実測図3 (1/40) ……	58	第69図	4号墳主体部出土鉄器実測図1 (1/2) ……	100
第39図	2区遺構実測図4 (1/40) ……	59	第70図	4号墳主体部出土鉄器実測図2 (1/2) ……	101
第40図	3区・5区遺構実測図 (1/40) ……	60	第71図	4号墳主体部出土鉄器実測図3 (1/2) ……	102
第41図	集石遺構配置図 (1/200) ……	61	第72図	4号墳主体部出土鉄器・石器実測図 (1/2) ……	103
第42図	I群上段遺構実測図1 (1/20) ……	63	第73図	4号墳主体部出土玉類実測図1 (1/1) ……	104
第43図	I群上段遺構実測図2 (1/20) ……	64	第74図	4号墳主体部出土玉類実測図2 (1/1) ……	105
第44図	I群下段遺構実測図1 (1/20) ……	65	第75図	4号墳主体部出土玉類実測図3 (1/1) ……	106
第45図	I群下段遺構実測図2 (1/20) ……	67	第76図	4号墳主体部出土玉類実測図4 (1/1) ……	107
第46図	I群下段遺構実測図3 (1/20) ……	68	第77図	38号墳主体部出土鉄器実測図 (1/2) ……	108
第47図	Ⅱ群遺構実測図1 (1/20) ……	70	第78図	集石墓出土石塔類実測図 (1/4・1/8) ……	109
			第79図	集石墓出土古銭拓本 (1/1) ……	110

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表 ……	4	第10表	古銭計測表 ……	110
第2表	1号墳墳丘計測表 ……	20	第11表	土器計測表 ……	111
第3表	古墳・主体部計測表 ……	85	第12表	鉄器計測表 ……	112
第4表	石棺墓計測表 ……	85	第13表	玉類計測表 ……	116
第5表	石蓋土壙墓計測表 ……	85	第14表	石器・石塔類計測表 ……	130
第6表	木棺墓計測表 ……	86	第15表	九州における多棺埋葬表 ……	132
第7表	土壙墓計測表 ……	86	第16表	墳墓階層表 ……	134
第8表	竪穴式住居計測表 ……	86	第17表	福岡県内前・中期古墳鉄器出土一覧表 ……	137
第9表	その他の遺構計測表 ……	86			

図版目次

図版1・航空写真	①全景
図版2・各調査区全景	①1区 ②2区A ③2区B ④2区C ⑤3区 ⑥5区 ⑦7区
図版3・1号墳	①現況 ②遠景(北から)
図版4・1号墳盛土土層	①主体部と土層 ②後円部東側土層 ③後円部南側土層 ④前方部南側土層 ⑤前方部東側土層 ⑥くびれ部西側土層 ⑦くびれ部屈曲部(西側) ⑧くびれ部遺物出土状況
図版5・1号墳	①遠景(西から) ②主体部(西から)
図版6・1号墳第1主体部	①小口部土層(東側) ②横断土層(中央) ③床面近景(東側) ④遺物出土状況 ⑤上粘土検出(西から) ⑥床面検出 ⑦粘土除去
図版7・1号墳第2主体部	①小口部土層(東側) ②横断土層(中央) ③床面近景(東側) ④遺物出土状況 ⑤上粘土検出(西から) ⑥床面検出(西から) ⑦粘土除去(西から)
図版8・1号墳第3主体部	①下蓋粘土土層 ②上蓋粘土土層 ③下蓋下粘土土層 ④上蓋下粘土土層 ⑤円筒棺検出(西から) ⑥円筒棺床面検出(西から) ⑦円筒棺除去(西から)
図版9・1号墳第3主体部 第4主体部	①第3主体部下蓋近景 ②第3主体部遺物出土状況 ③第3主体部上蓋と身の接合部分 ④第4主体部上蓋下蓋接合部 ⑤第4主体部壺棺検出状況 ⑥第4主体部壺棺除去
図版10・2号墳墳丘	①全景 ②現況 ③盛土土層(北側) ④盛土土層(東側) ⑤盛土土層(南側)
図版11・2号墳主体部他	①墳丘裾出土遺物 ②南側堀切土層 ③主体部全景(北から) ④小口部土層(南側) ⑤横断土層(中央) ⑥鉄剣出土状況 ⑦鉄矛・鉄鏃出土状況
図版12・3号墳4号墳14号墳	①3号墳現況 ②3号墳表土除去 ③3号墳祭祀土坑 ④4号墳主体部(北から) ⑤4号墳主体部(東から) ⑥4号墳閉塞石 ⑦14号墳主体部(西から)
図版13・21号墳 31号墳	①21号墳全景(西から) ②21号墳側壁(南から) ③21号墳小口部(東側) ④31号墳墳丘(東から) ⑤31号墳主体部石蓋 ⑥31号墳石蓋除去墳丘(東から) ⑦31号墳主体部石蓋除去
図版14・38号墳墳丘	①全景 ②墳丘土層(北側) ③墳丘土層(南西側) ④盛土土層(南東側) ⑤盛土土層(北東側)
図版15・38号墳主体部	①墓壇検出 ②上粘土検出 ③床面検出 ④横断土層 ⑤小口部(西側) ⑥鉄剣検出 ⑦鉄剣出土状況
図版16・石棺墓	①9号墓石蓋 ②9号墓石蓋除去 ③10号墓11号墓検出 ④10号墓石蓋除去 ⑤10号墓11号墓掘上 ⑥83号墓粘土検出 ⑦83号墓粘土縦断土層
図版17・石蓋土壙墓1	①5号墓石蓋検出 ②5号墓石蓋除去 ③12号墓石蓋検出 ④12号墓石蓋除去 ⑤13号墓石蓋検出 ⑥13号墓石蓋除去 ⑦19号墓石蓋検出 ⑧19号墓石蓋除去
図版18・石蓋土壙墓2	①22号墓石蓋検出 ②22号墓石蓋除去 ③34号墓石蓋検出 ④34号墓石蓋除去 ⑤73号墓石蓋検出 ⑥73号墓石蓋除去 ⑦74号墓石蓋検出 ⑧74号墓石蓋除去
図版19・石蓋土壙墓3	①75号墓石蓋検出 ②75号墓石蓋除去 ③77号墓石蓋検出 ④77号墓石蓋除去 ⑤78号墓石蓋検出 ⑥78号墓石蓋除去 ⑦80号墓横断土層 ⑧80号墓完掘
図版20・土壙墓木棺墓	①7号墓 ②8号墓 ③23号墓 ④29号墓 ⑤33号墓 ⑥33号墓鉄剣出土状況 ⑦76号墓 ⑧79号墓
図版21・集石墓1	①1号墓集石検出 ②2号墓集石検出 ③1号墓集石除去 ④2号墓集石除去 ⑤1号墓下部構造 ⑥2号墓下部構造 ⑦3号墓集石検出 ⑧3号墓下部構造
図版22・集石墓2	①4号墓集石検出 ②4号墓下部構造 ③5号墓集石検出 ④5号墓下部構造 ⑤6号墓集石検出 ⑥6号墓下部構造 ⑦24・25号墓集石検出 ⑧24・25号墓下部構造
図版23・竪穴式住居その他の遺構	①68号住居 ②69号住居 ③6号遺構検出 ④6号遺構石材除去 ⑤30号遺構礫検出 ⑥30号遺構掘上 ⑦26号小石室 ⑧35号遺構
図版24・その他の遺構	①24号遺構 ②25号遺構 ③67号遺構 ④64号遺構 ⑤65号遺構 ⑥66号遺構
図版25・円筒棺	①棺身 ②上蓋 ③下蓋 ④棺身外面調整1 ⑤棺身外面調整2 ⑥棺身外面調整3 ⑦棺身内面調整
図版26・1区出土土器	
図版27・2区出土土器1	
図版28・2区出土土器2	
図版29・7区出土土器・古銭	
図版30・1区2区出土鉄器・玉類	
図版31・5区出土鉄器・玉類・石器	
図版32・7区出土石塔・石器	

第1章 序 説

1. 調査の経過

平成3年10月11日、西日本鉄道株式会社から、宗像市大字田久字サヤ峠1ほかにおける文化財の有無についての依頼があった。

平成4年7月22日および9月18日、西日本鉄道株式会社と九州旅客鉄道株式会社との間で、開発の手続きおよび調査の実施方法などを協議した。

平成5年5月13日、工事区内にある前方後円墳の保存は難しいとの見解で、最終的に主体部を模型で復元する方向で検討された。このため主体部の構造を確認する必要があり、後日、試掘を実施した。

平成7年9月13日7宗教社676号、埋蔵文化財発掘の届出が提出された。

平成8年2月13日7宗教社第1049号、発掘調査の通知を提出し調査を実施する。

2. 組織と構成

(1) 平成7年度発掘調査組織

総 括	宗像市教育委員会	教 育 長	森 下 照 清
		教 育 部 長	芹 野 温 亘 (前任)
			中 野 和 人
		社会教育課長	藤 野 英 美
		文 化 係 長	原 俊 一
庶 務 ・ 会 計			原 俊 一
発掘調査担当		技 師	岡 崇

(2) 平成8年度発掘調査組織

総 括	宗像市教育委員会	教 育 長	森 下 照 清 (前任)
			林 英 典
		教 育 部 長	中 野 和 人
		社会教育課長	藤 野 英 美
		文 化 係 長	原 俊 一
庶 務 ・ 会 計		主 任 主 査	織 戸 敏 子
発掘調査担当		技 師	岡 崇
		嘱 託	白 石 康 弘

(3) 平成9年度発掘調査組織

総括	宗像市教育委員会	教 育 長	林 英 典
		教 育 部 長	織 戸 勝 也
		社会教育課長	藤 野 英 美 (前任)
			井 上 弘
		文 化 係 長	原 俊 一
庶務・会計		主 事	井 上 幸 恵
発掘調査担当		技 師	岡 崇

(4) 平成10年度報告書作成組織

総括	宗像市教育委員会	教 育 長	原 田 慎 太 郎
		教 育 部 長	織 戸 勝 也
		社会教育課長	井 上 弘
		文化財係長	原 俊 一
庶務・会計		主 査	安 部 裕 久
報告書担当		技 師	岡 崇

3. 位置と環境

本遺跡は、宗像市のほぼ中央、鞍手郡宮田町に所在する靡山（296.9m）から北北西に派生した丘陵上に所在する。この丘陵は自由ヶ丘南団地付近から、扇状に大きく3方に分かれており、西側は宮田・曲、中央は自由ヶ丘団地・田久、東側は徳重となる。遺跡は、中央に延びる丘陵の先端部分に位置している。^{註1}市内全体の地形を大きく見れば、3方を山地に囲まれ盆地状を呈しているが、この丘陵が盆地地形の真ん中を延びているため、東西に平地が形成されている。西は東郷を中心とした地域と、東は赤間を中心とした地域である。2級河川である釣川は、この丘陵を直行するように東から西へと流れている。本遺跡からは、赤間側を望む位置に立地し、釣川の中・上流域を視野に入れることができる。以下周辺遺跡の分布を釣川の中・上流域を中心に見ていくこととし、本調査と関連する遺跡を概観する。

旧石器時代から縄文時代中期にかけて、遺構・遺跡の発見例は、現在の所認められないが、縄文時代後・晩期になると、^{註2}吉留下惣原遺跡、^{註3}富地原深田遺跡など、三万田式から黒川式並行期の浅鉢や深鉢などの遺物がわずかに出土している。

縄文時代晩期から弥生時代前期は、本丘陵と谷を挟んで北西に派生する丘陵に^{註4}田久松ヶ浦遺跡がある。

弥生前期末から中期にかけて、^{註5}富地原梅木遺跡では、住居・貯蔵穴・墓等が検出されていることから、拠点的な集落が認められる。周辺にも^{註6}石丸遺跡、^{註7}田久甲ノ上遺跡、^{註8}富地原岩野B遺

跡など、貯蔵穴群や住居等の分布がみられる。

弥生時代後期は、遺跡検出例が極めて少なく、西新町式期前後になってベツトを持つ方形住居が主に丘陵の中腹から検出される例が増えてきた。

古墳時代前期の前方後円墳の調査が宗像市郡内で実施されたのは、^{it8}東郷高塚と今回報告する田久瓜ヶ坂1号墳の2基である。東郷高塚は、ほぼ郡単位の範囲を統括していたと考えられるが、古墳からの景観は、東郷高塚が釣川の下流域を、田久瓜ヶ坂1号墳は上流域をそれぞれ見通すことのできる位置に立地している。

古墳時代中期以降になると、石棺系の小型竪穴式石室と呼ばれる主体部が出現する。富地原梅木23号墳、^{it9}浦谷古墳群E-2号墳がこれに該当し、浦谷古墳群では、これ以降初期横穴式石室へと変化する過程が追える。

6世紀から7世紀になると、山裾に近い丘陵に古墳群が築造される。大化2年(646)の薄葬令が地方にどこまで浸透していたかは不明だが、宮地嶽大塚古墳の築造と時期を前後して、中小の石室墳も姿を消す。

8世紀になると^{it10}若宮町汐井掛遺跡の墳墓群調査では、5基の蔵骨器が検出され、朝町百田遺跡や浦谷古墳群のF・I区のものる丘陵稜線上より火葬蔵骨器が検出されている。

室町時代になると、薦ヶ岳城や許斐山城を中心に多くの山城が築かれる。調査区の南側には、^{it11}中世山城が所在する。徳重城・縁古城・名残城ともよばれ、史料中では、「^{it12}大宮司黒田刑部隆尚、後に赤間庄三百町分領せし時、この城に住す。」また、「(^{it13}上略)天文二年癸巳年(1533)、隆尚依再任辞職、端城名残城籠(下略)」と記される。

江戸時代になり全国的に街道が整備されるなか、^{it14}福岡藩内では、6本の街道と27の宿駅が整備された。そのなかで赤間宿も唐津街道の整備に伴い設置される。唐津街道は、赤間の宿から、曲、宮田、原町まではほぼ国道3号線バイパスと並行し、大穂、畦町、青柳へと向かう。

註1 宗像市史 通史編 第一巻 自然考古 1997

註2 吉留下惣原 宗像市文化財調査報告書 第12集 宗像市教育委員会 1987

註3 田久松ヶ浦 宗像市文化財調査報告書 第47集 宗像市教育委員会 1999

註4 名残Ⅳ 宗像市文化財調査報告書 第29集 宗像市教育委員会 1991

註5 石丸遺跡 宗像市文化財調査報告書 第4集 宗像市教育委員会 1980

註6 平成7年度の調査

註7 富地原上瀬ヶ浦 宗像市文化財調査報告書 第38集 宗像市教育委員会 1994

註8 東郷高塚1 宗像市文化財調査報告書 第21集 宗像市教育委員会 1989

註9 浦谷古墳群Ⅰ 宗像市文化財調査報告書 第5集 宗像市教育委員会 1982

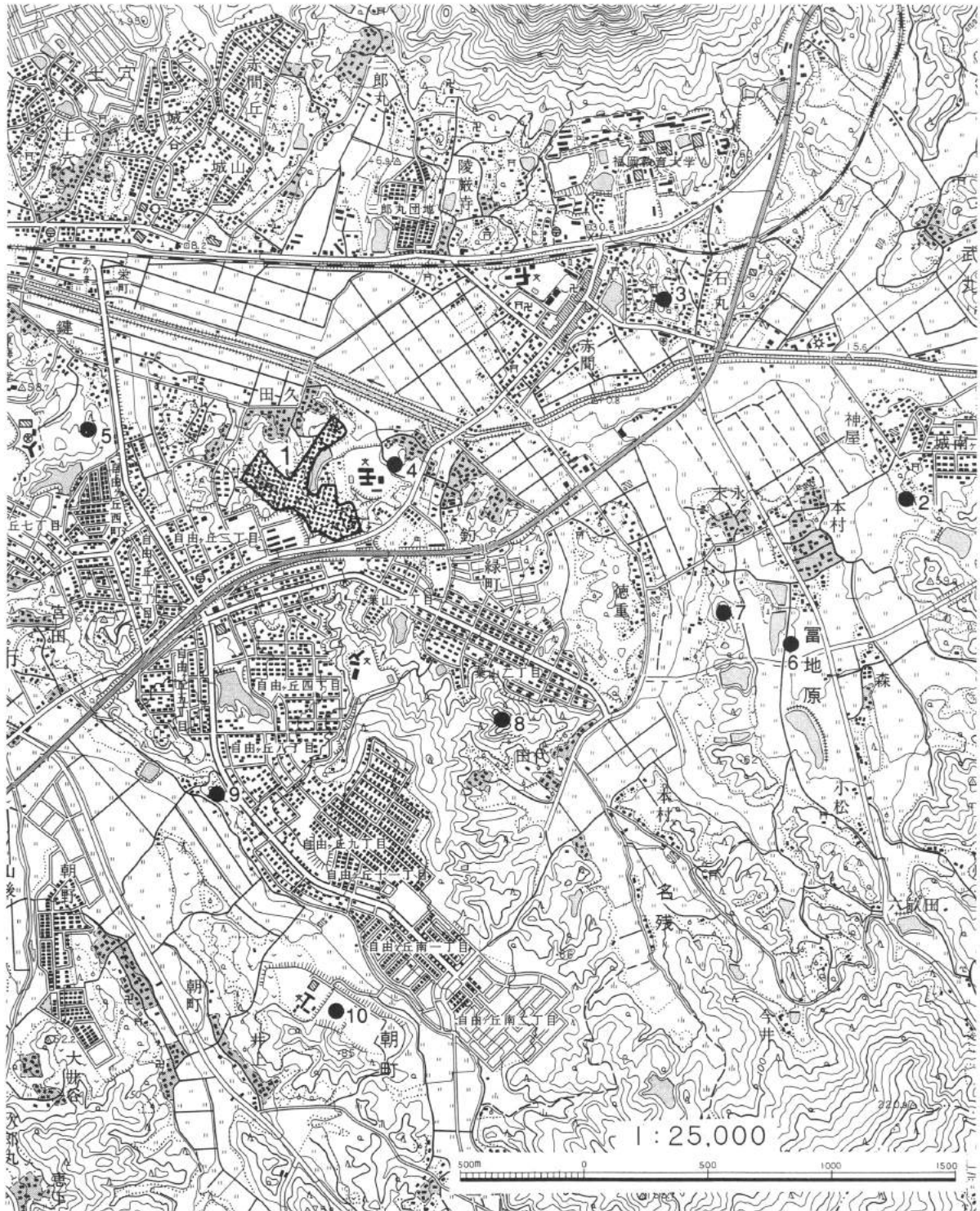
註10 九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -XX- 福岡県教育委員会 1978

註11 九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 -XXIX- 付録 福岡県教育委員会 1979

註12 筑前國統風土記 貝原益軒 1703 後に活字体で発行 栗田治美 1980

註13 宗像市史 史料編 第二巻 中世Ⅱ 1996

註14 旧宿場町・赤間(一) 宗像市民俗調査報告書 第1集 宗像市教育委員会 1986



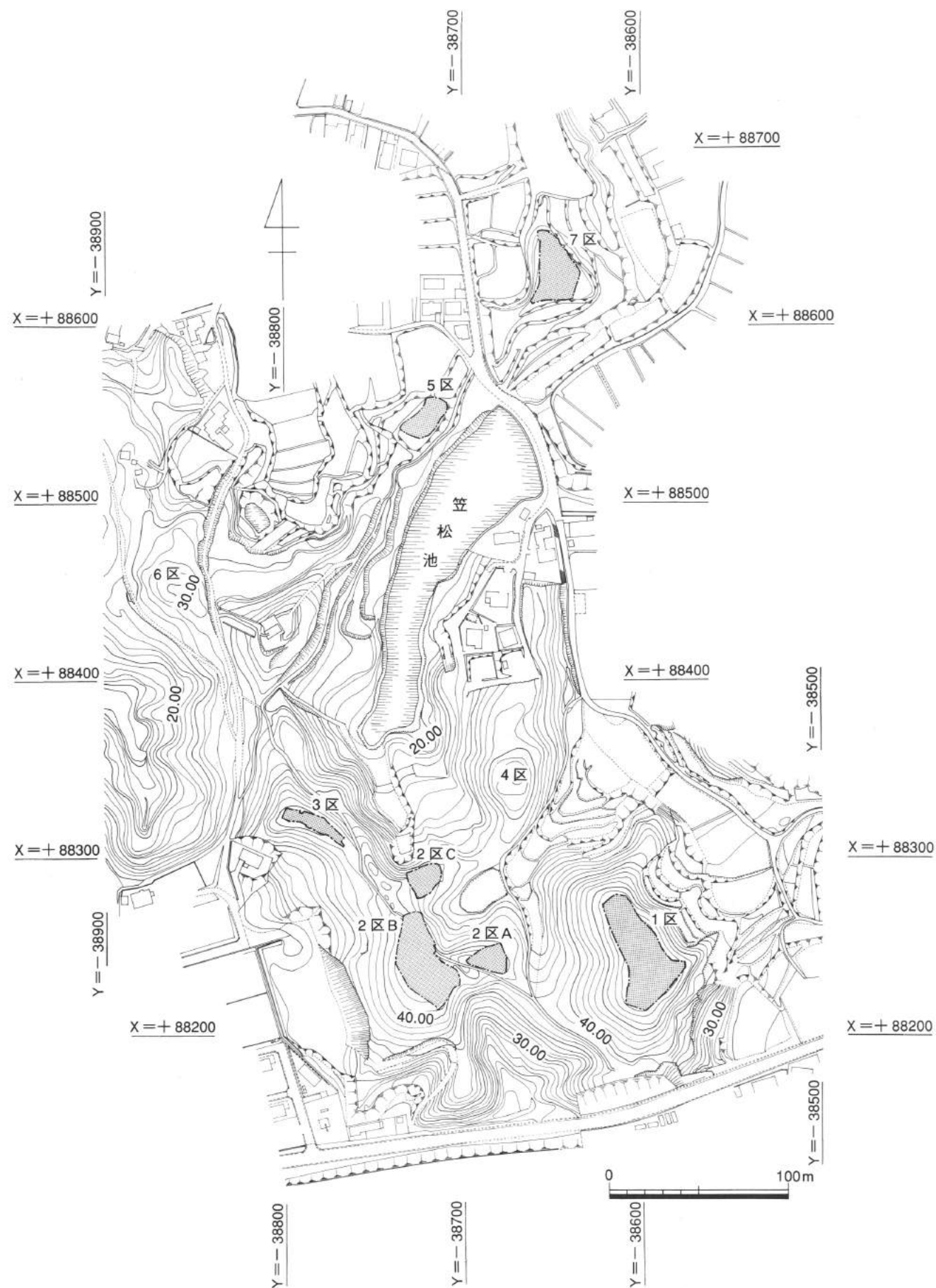
第2図 周辺遺跡分布地図 (1/25,000)

番号	遺 跡 名	登録番号	時 代	市内報告書	概 要
1	田久瓜ヶ坂	330312 ほか	古墳～中世	今回報告	
2	富地原深田	330548	縄文～古墳		集落
3	石丸	330476	弥生～中世	第4集	貯蔵穴・古墳・溝
4	田久甲ノ上	330792	弥生		貯蔵穴・古墳・溝
5	田久松ヶ浦	330801	弥生	第47集	墓・集落
6	富地原岩野B	330540	弥生・古墳	第38集	生活遺構および古墳
7	富地原梅木	330272	弥生・古墳	第25集	古墳・土壇墓・貯蔵穴
8	名残城	330297	中世		山城
9	朝町妙見	330469	古墳	第7集	前期古墳
10	浦谷古墳群	330480	古墳	第5集	古墳・小石室・窯

第1表 周辺遺跡一覧表



第3図 田久瓜ヶ坂事業計画図 (1/3,000)



第4図 調査区配置図 (1/3,000)

4. 調査の概要

(1) 調査区の設定

工事区全体の面積が、135,000 m²と広大であるため、調査区域をあらかじめ地形に沿って1区から7区にわけて設定した（第4図）。現状はほとんどが山林であり、調査の必要な部分に関しては、人力で伐採し、先にトレンチ調査を実施した。調査手順としては、試掘調査で検出された遺構を中心に、その密度と範囲によって調査区を設定した。人力が及ばない斜面や遺構密度の希薄な部分に関しては、平成9年度に伐採後重機によって調査区を広げ、セスナ機による全体写真で調査を終了した。調査は、平成8年1月12日より開始され、平成9年10月31日に終了した。

遺構

古墳 8基

1号墳・第1主体部割竹形木棺（粘土槨）、第2主体部割竹形木棺（粘土槨）

第3主体部円筒棺、第4主体部壺棺

2号墳・割竹形木棺（直葬）、3号墳・単室横穴式石室、4号墳・単室横穴式石室

14号墳・単室横穴式石室、21号墳・石棺系竪穴式石室、31号墳・石蓋土壙墓

38号墳・割竹形木棺（粘土槨）

石棺墓4基、石蓋土壙墓11基、木棺墓3基、土壙墓13基、集石墓25基

竪穴式住居2棟、集石遺構1基、小石室1基、焼土坑2基、土坑6基

遺物

土器 円筒棺、二重口縁壺、蔵骨器ほか

鉄器 武器（剣・刀・矛・鏃）、農工具（鋤先・斧・鉋・刀子）

馬具（杏葉・輪鐙・引手・轡・辻金具・留金具ほか）

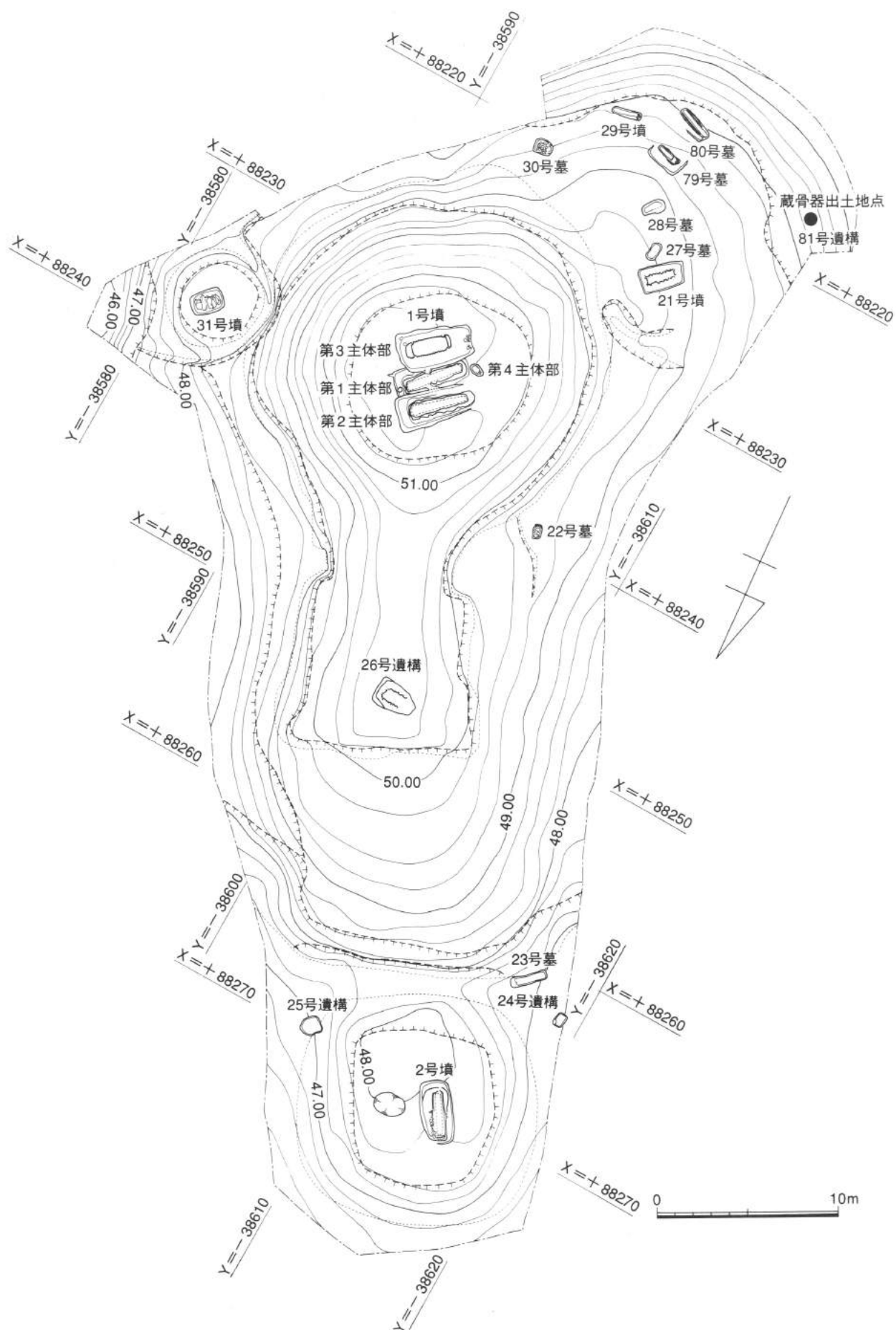
装身具 玉類（勾玉・管玉・切子玉・空玉・丸玉）

石器 砥石、剣、柱状片刃石斧、石塔（板碑・地輪・水輪・空輪）

1. 1区（第5図）

1区は、丘陵頂部が標高52.04mで本工事区内の範囲のなかでは、最高所に位置している。当初から雑木林が多く茂っており、外観からは前方後円墳の存在を確認することはできなかったが、事前の踏査によって墳形を確認することができた。

前方後円墳は、前方部のやや低い古式の様相を持つ古墳であった。後円部頂部西側が若干削られた痕跡を残していたため、盗掘の可能性が考えられたが、幸いにも墓壙上面の削平だけに留



第5図 1区遺構配置図 (1/300)

まっていた。

前方後円墳の北側にはマウンドのはっきりした円墳が確認されており、前方後円墳（1号墳）および円墳（2号墳）の存在があきらかとなった。

調査は、前方後円墳の割付に沿って進められた。伐採および掘削は、丘陵頂部全面を人力でおこない、斜面は、重機によって実施した。調査面積は約 1500 m²で、その範囲に前方後円墳 1 基、円墳 3 基、石蓋土壙墓 1 基、土壙墓 5 基、木棺墓 1、焼土坑 2 基、礫を含む土坑 1 基、小石室 1 基と南側斜面より火葬蔵骨器が検出された。

2. 2 区（第 4 図）

2 区は、1 区の丘陵頂部より一旦鞍部を挟んで西へ派生した丘陵上に位置する。現状は、いずれも雑木林の茂る山林で、容易に入ることができなかった。調査は、伐採後、トレンチを設定し、遺構を検出した地点より拡張する方法をとった。

調査区は、地形の関係からさらに A 区・B 区・C 区と細分した。

1 区より西へ派生した丘陵の頂部を 2 区 B とした。丘陵頂部の標高は 44.25 m で、1 区の頂部から直線距離にして約 120m、比高差は約 17 m である。2 区 B より南東側へ伸びる支丘陵を 2 区 A、北東側へ伸びる支丘陵を 2 区 C とし、2 区 B よりさらに西へ伸びる丘陵の端を 3 区とした。

2 区 A（第 6 図）

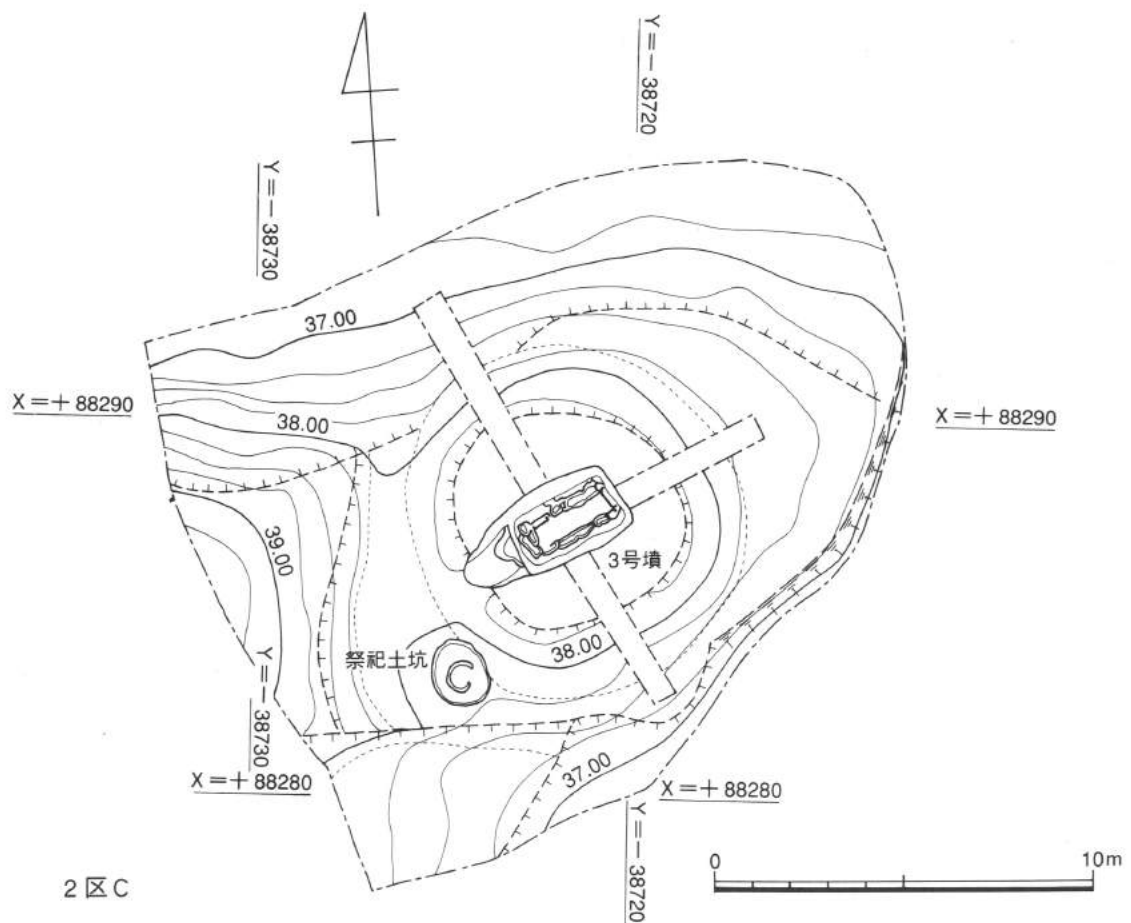
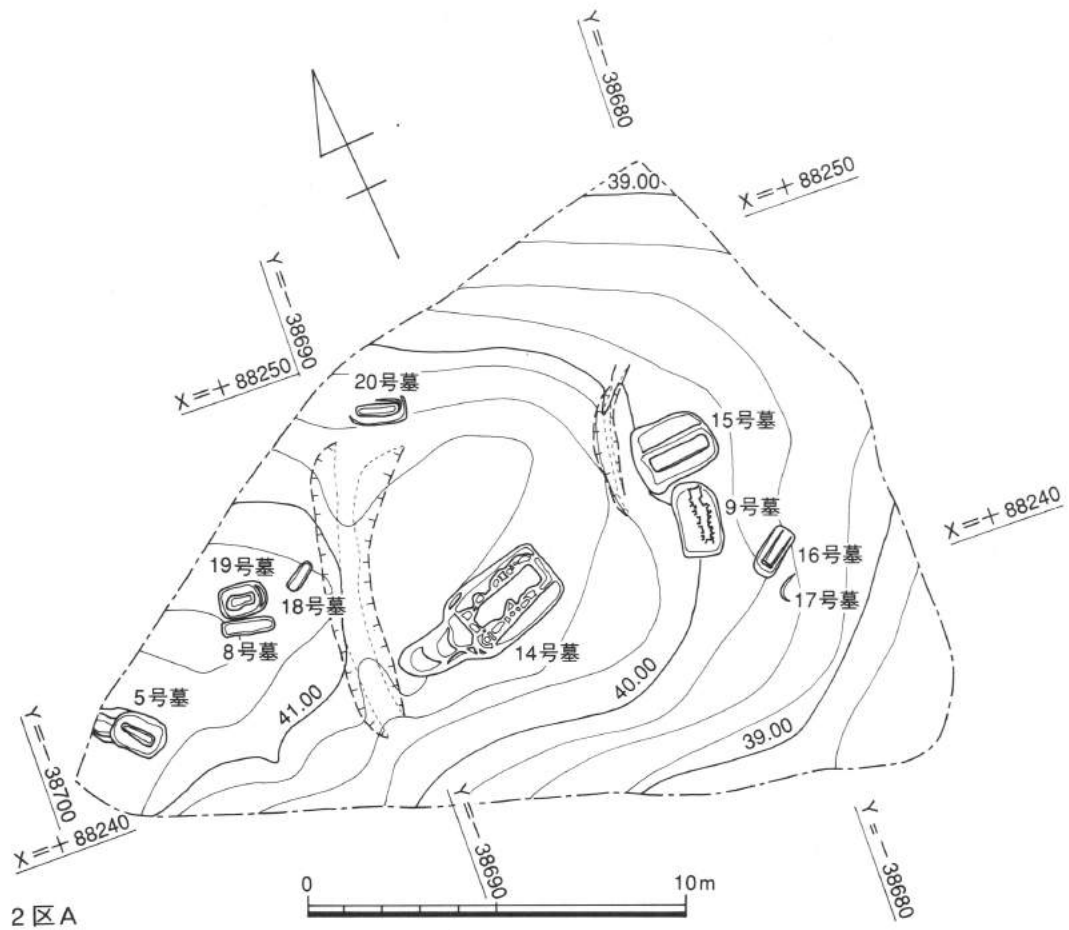
調査区は、面積約 200 m²で、調査区北西側を最高所とする標高 41.5 ～ 38.5 m で比高差が 4 m あり、南東方向の下り傾斜である。伐採終了後、丘陵の尾根に沿ってトレンチを設定した結果、5 号石蓋土壙墓や 9 号石棺墓などが検出されたため、面的に広げ調査を実施した。遺構は、古墳 1 基・石棺墓 1 基・石蓋土壙墓 2 基・木棺墓 1 基・土壙墓 5 基を検出した。

2 区 B（第 7 図）

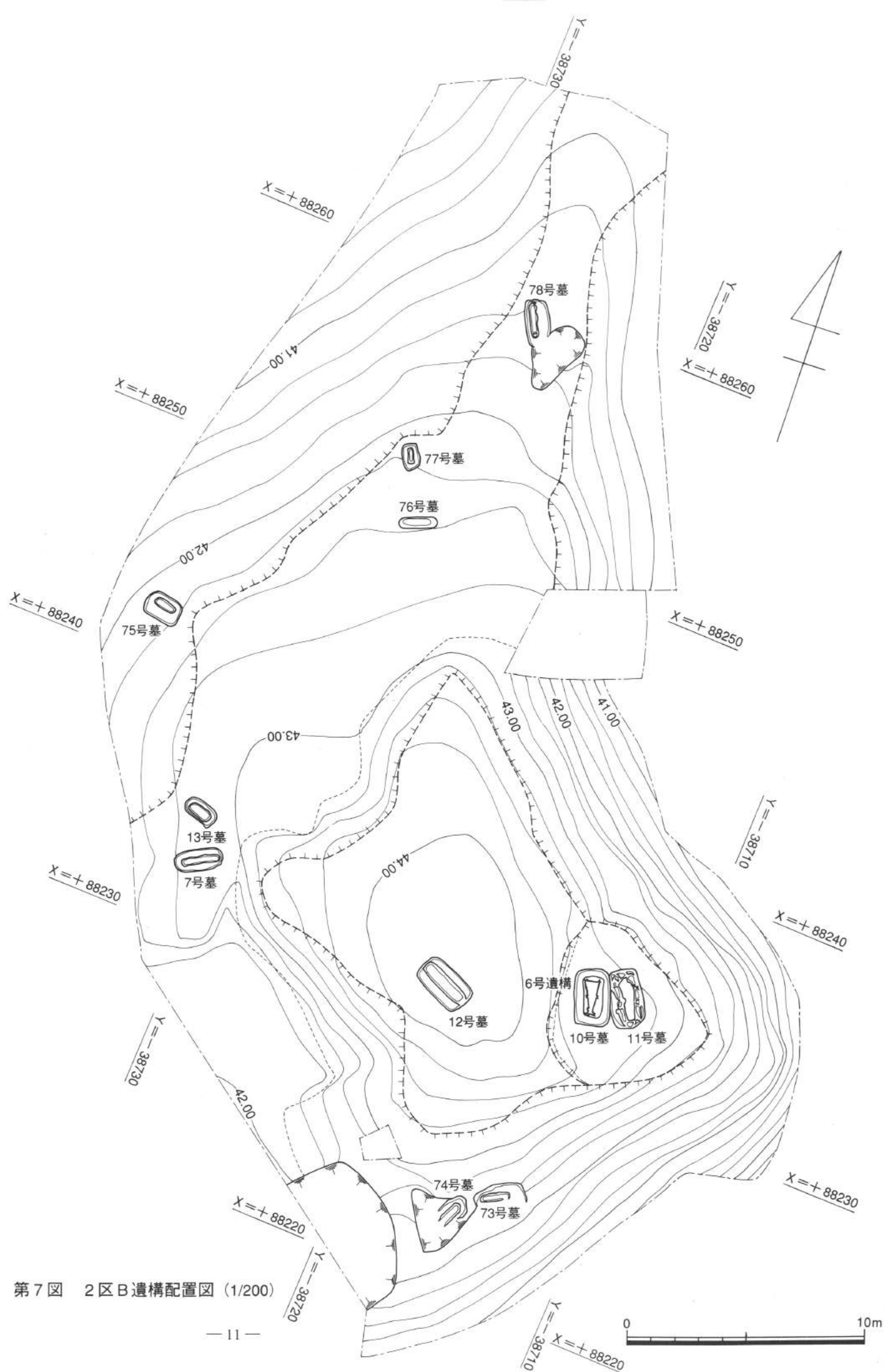
調査区は、面積約 1000 m²で、調査区中央を最高所とする標高 44.25 ～ 42m の範囲を設定した。尾根の東側にトレンチを設定した結果、集石遺構を検出し、周辺より火葬蔵骨器片などが出土した。また、丘陵尾根などで石蓋等を検出したことから拡張し、面的調査を実施した。遺構は、石棺墓 2 基・石蓋土壙墓 2 基・土壙墓 1 基・集石遺構などである。再度広範囲に調査をする必要があったため人力で及ばない範囲を重機で拡張した。拡張後遺構は石蓋土壙墓 6 基、土壙墓 1 基を検出した。

2 区 C（第 6 図）

調査区は、面積約 300 m²で、調査区の最高所標高 39.25 ～ 36.50m の範囲を設定した。2 区 B から北東へ派生する支丘陵上で、当所より墳丘状の高まりとそのほぼ中心部に盗掘壙が確認されていたため、1 区の 1 号墳・2 号墳につづき 2 区 C の 3 号墳として、調査を実施した。



第6図 2区A・C遺構配置図 (1/200)



第7図 2区B遺構配置図 (1/200)

3. 3区 (第8図)

3区は、2区の最高所からさらに西へ約100m進んだところに位置し、ここで再び丘陵の頂部となる。2区から3区の間は、狭長な尾根でつながっているもののやや鞍部であったため、トレンチを入れ試掘調査を実施したが、遺構は認められなかった。3区より西は、急傾斜となり、1区より伸びてきた丘陵はここで一旦途切れている。

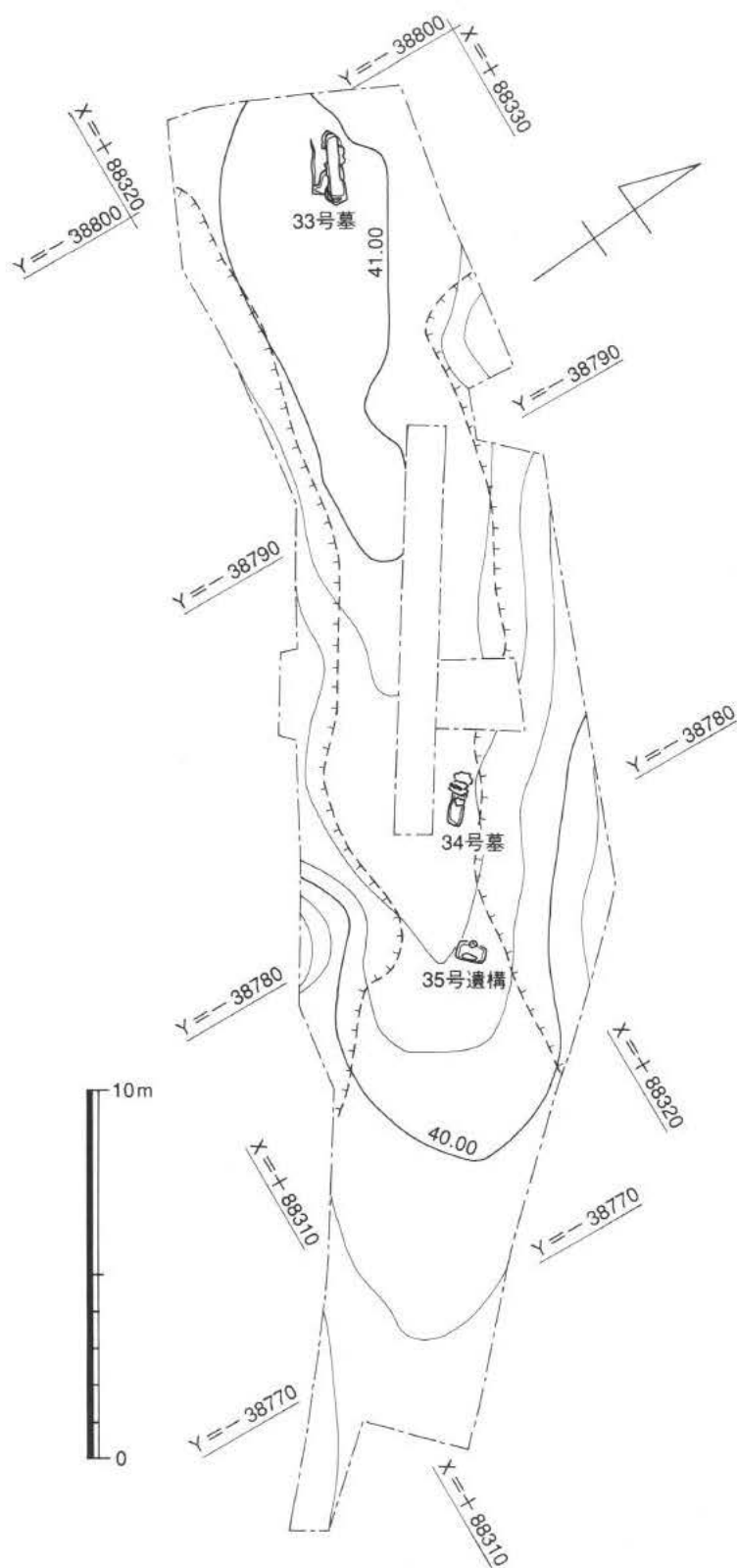
現況は、2区同様雑木に覆われていたため、人力で伐採し、トレンチの掘削を実施した。調査は、尾根の軸に沿って設定したトレンチから、石蓋を検出したため拡張した。調査面積は約300㎡あり、最高所標高は41.1mで調査区の北西端に位置する。

遺構は、土壙墓1基・石蓋土壙墓1基・土坑1基を検出した。

4. 4区 (第4図)

4区は、2区Cより北東へのびる支丘陵上で、約100mのところの位置する。独立丘陵の高まりがあり、大型円墳の指摘もあった。丘陵頂部の標高は、38.50mを測り、2区Cからのびる丘陵鞍部からの比高差は、4mを測る。

トレンチは、頂部を中心に東西方向に入れて調査を実施した。頂上付近では、表土より50cmの深さで地山を検出し、盛土などは確認されなかった。さらに主体部を検出するため、



第8図 3区遺構配置図 (1/200)

頂部を面的に広げたが、遺構なども確認されなかった。

その後調査は、頂部から斜面にかけて放射状にトレンチを入れ試掘をおこなったが、なおも遺構は検出されず、埋土中より須恵器片などの遺物を出土したに留まる。

結果、明瞭な遺構はなく本調査には、至らなかった。

5. 5区（第9図）

5区は、3区から北北東へ1段下ってのびる丘陵上で、この丘陵先端の7区から約100m戻った所に位置する。2区Cや4区からは、笠松池を含む谷を挟んで、北約200mのところに位置する。周囲は、畑などの開墾で地形がかなり改変しており、崖落ちになっている。頂部も、岩盤などが露出していたことから削平うけていると考えられるが、調査区の北東端より石室が確認された。また、丘陵残部が前方後円墳の形を呈していたため、調査区を広めに設定し、面積約700㎡を範囲とした。頂部の標高は、29.74mを測る。

遺構は、古墳1基、木棺墓1基、石棺墓1基を検出した。

6. 6区（第4図）

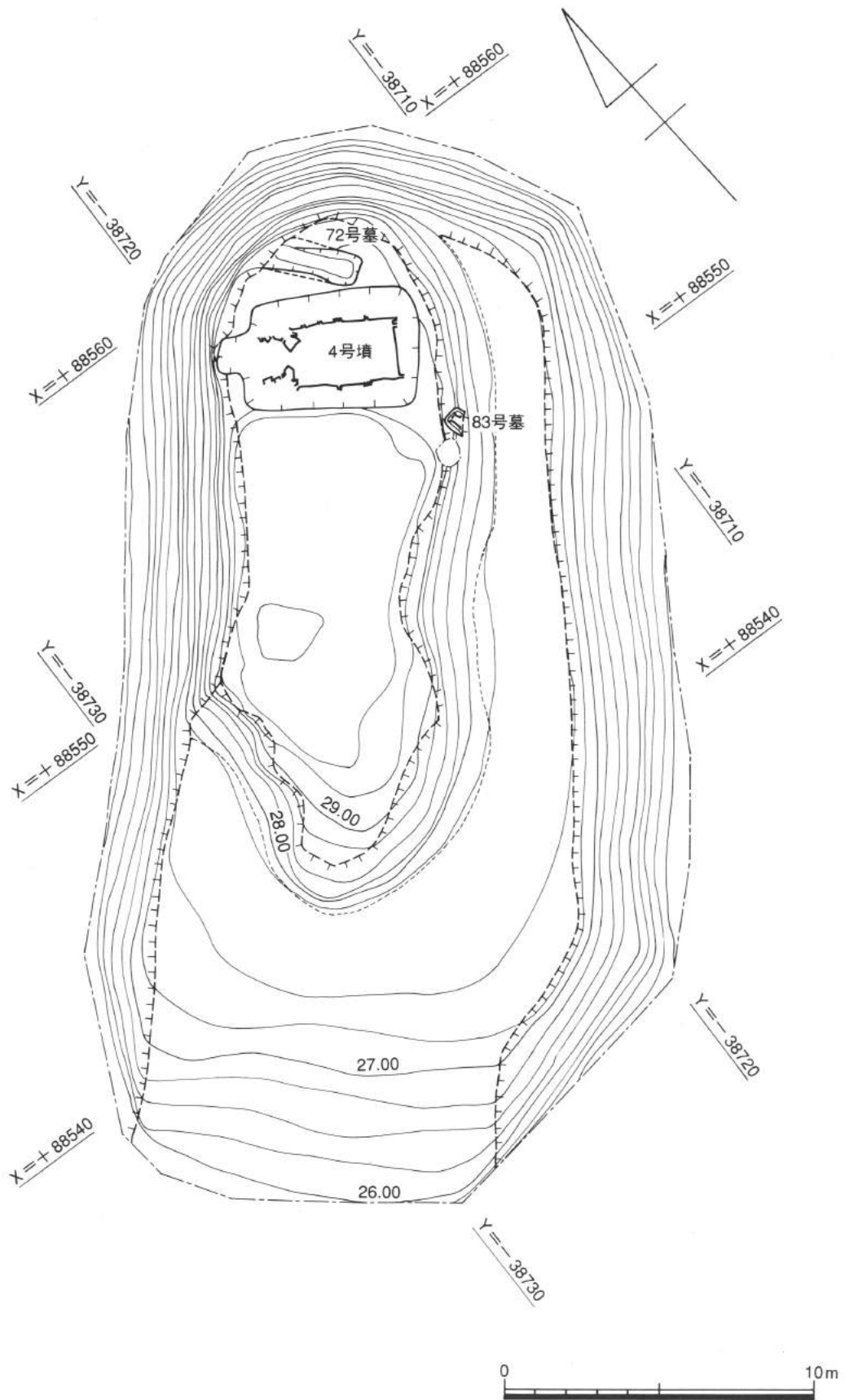
6区は、3区と5区の西側を範囲とする。試掘調査の結果、遺構は認められず少量の遺物を出土したに留まる。

7. 7区（第10, 11図）

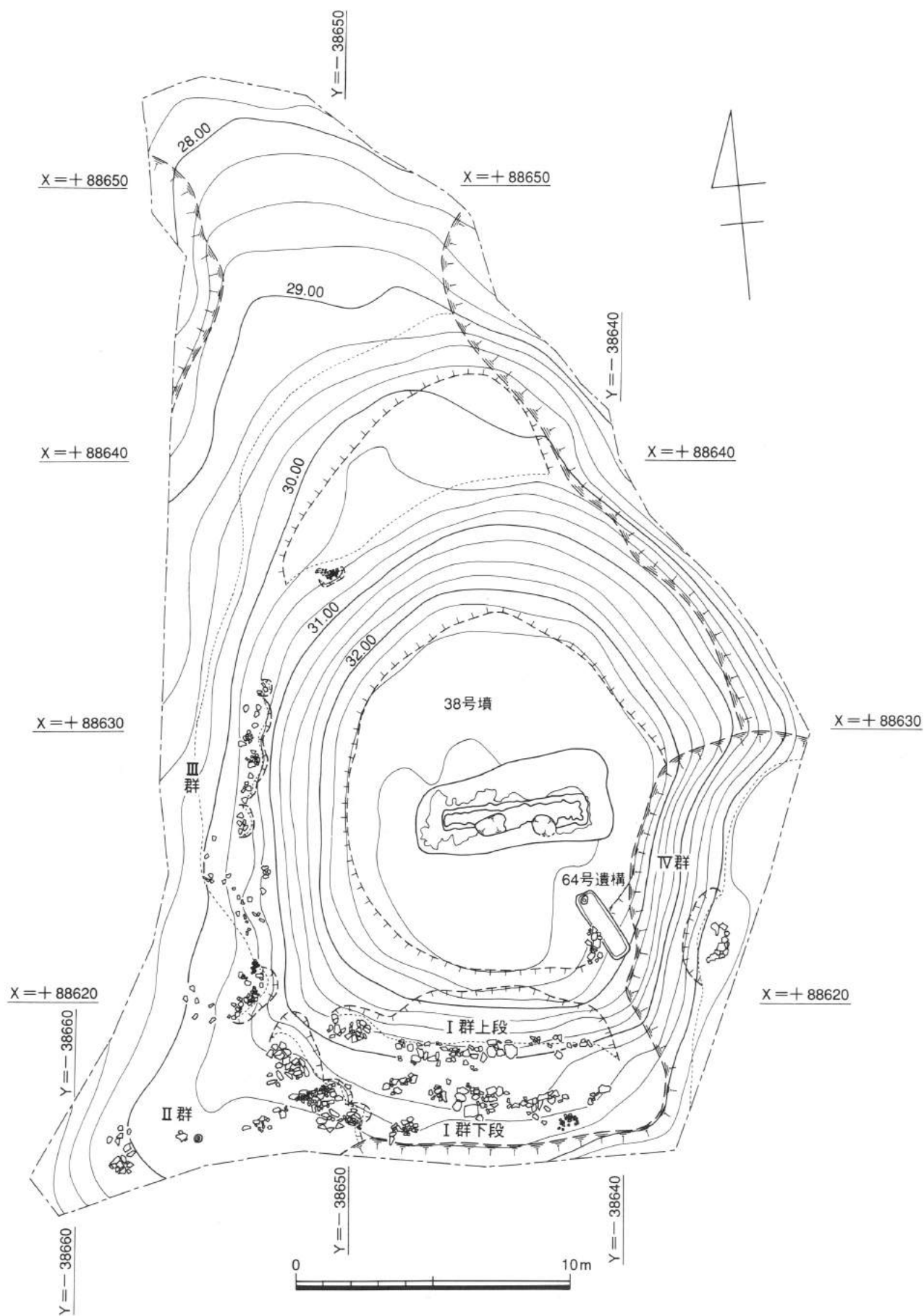
7区は、5区からさらに北北東へ張り出した丘陵の先端に位置する。工事区全体の丘陵の中では、釣川に最も張り出している。当初から市内では、やや大形の規模をもつ円墳が確認されており、宗像市遺跡分布地図には、田久内園2号墳として記載している。

現状は、植林と竹林に覆われており、墳丘のみが確認できる状態であった。この古墳周辺は、著しく削平されており、遺跡の残る範囲は丘陵頂部周辺に限っていた。調査面積は、約1000㎡で、標高は33.52～28.75mの範囲である。

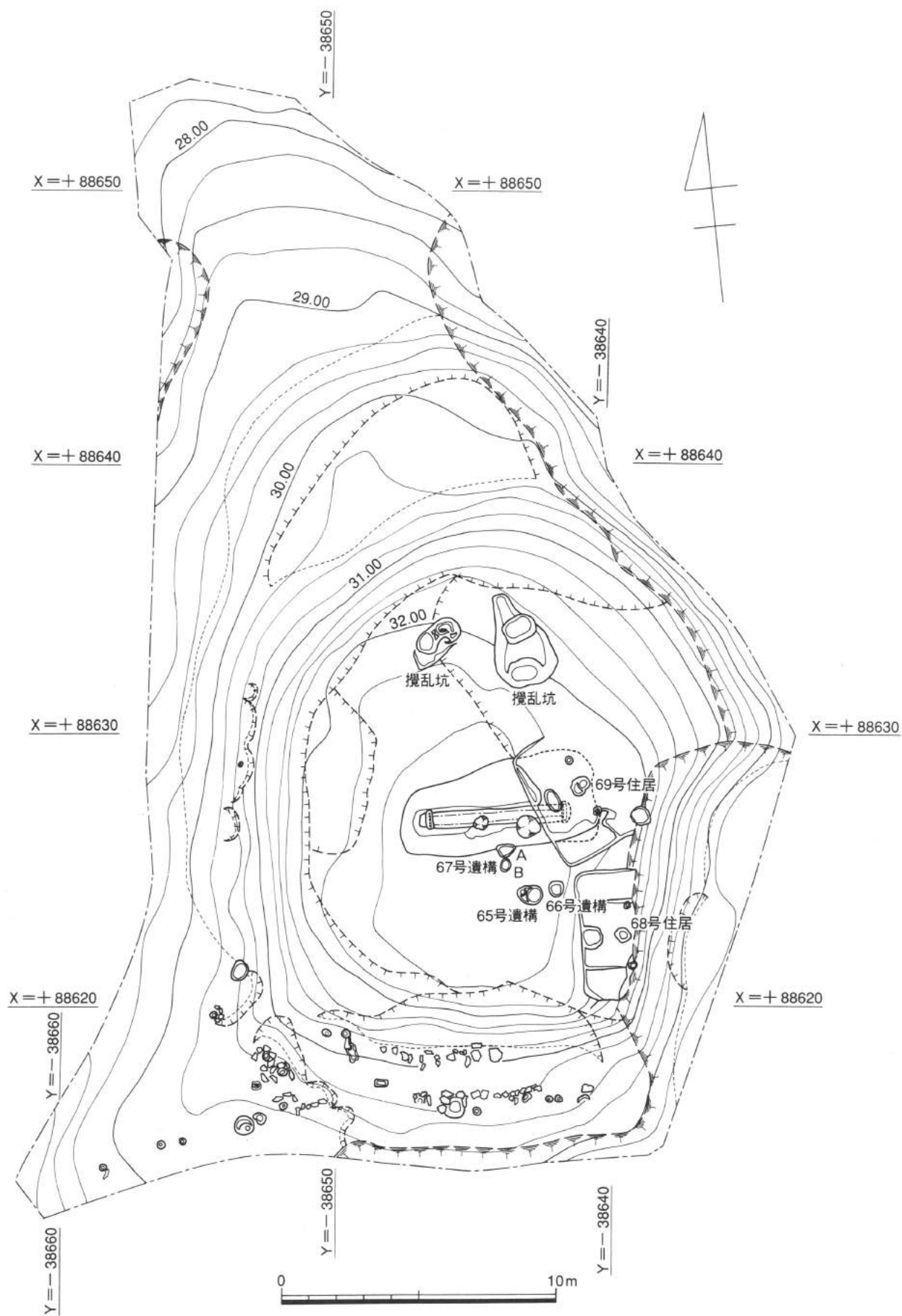
遺構は、集石墓群と円墳1基で、古墳の盛土を除去後、住居跡2棟、土坑4基が検出された。



第9図 5区遺構配置図 (1/200)



第10図 7区遺構配置図1 (1/200)



第11図 7区遺構配置図2 (1/200)

第2章 調査の記録

1. 古 墳

(1) 1号墳

1. 墳丘 (第5, 12, 13図・第2表・図版3, 4)

本墳は、1区の丘陵頂部に築かれた前方後円墳である。規模は、全長30.77m、後円部径20.28m、くびれ部幅8.13m、前方部幅10.98mで非常に小形である。また、後円部頂部から前方部頂部の比高差は、0.97mを測る。埴輪、葺石、周溝など外表施設は、検出されなかった。墳丘盛土は、後円部の東側で最も厚く、前方部では、地山整形のみである。墳形は、くびれ部が後円部から前方部にかけてカギ状に繋がっているところが特徴である。

土層の調査

土層は、前方部を北側として、後円部は、南側土層・東側土層・西側土層、くびれ部は、東側土層・西側土層、前方部は、東側土層・西側土層とし、後円部南側を除き主軸土層とした。土層は大きく5層に分けられる。

0層：表土

1層：自然堆積土（暗褐色から明黄褐色で細砂粒）

2層：第3主体部の盛土（黄褐色細砂粒）

3-a層：第1第2主体部の盛土（明黄褐色細砂粒）

3-b層：墳丘を補強する（一部で版築状に検出）

4層：古墳築造時の盛土（暗褐色シルト）

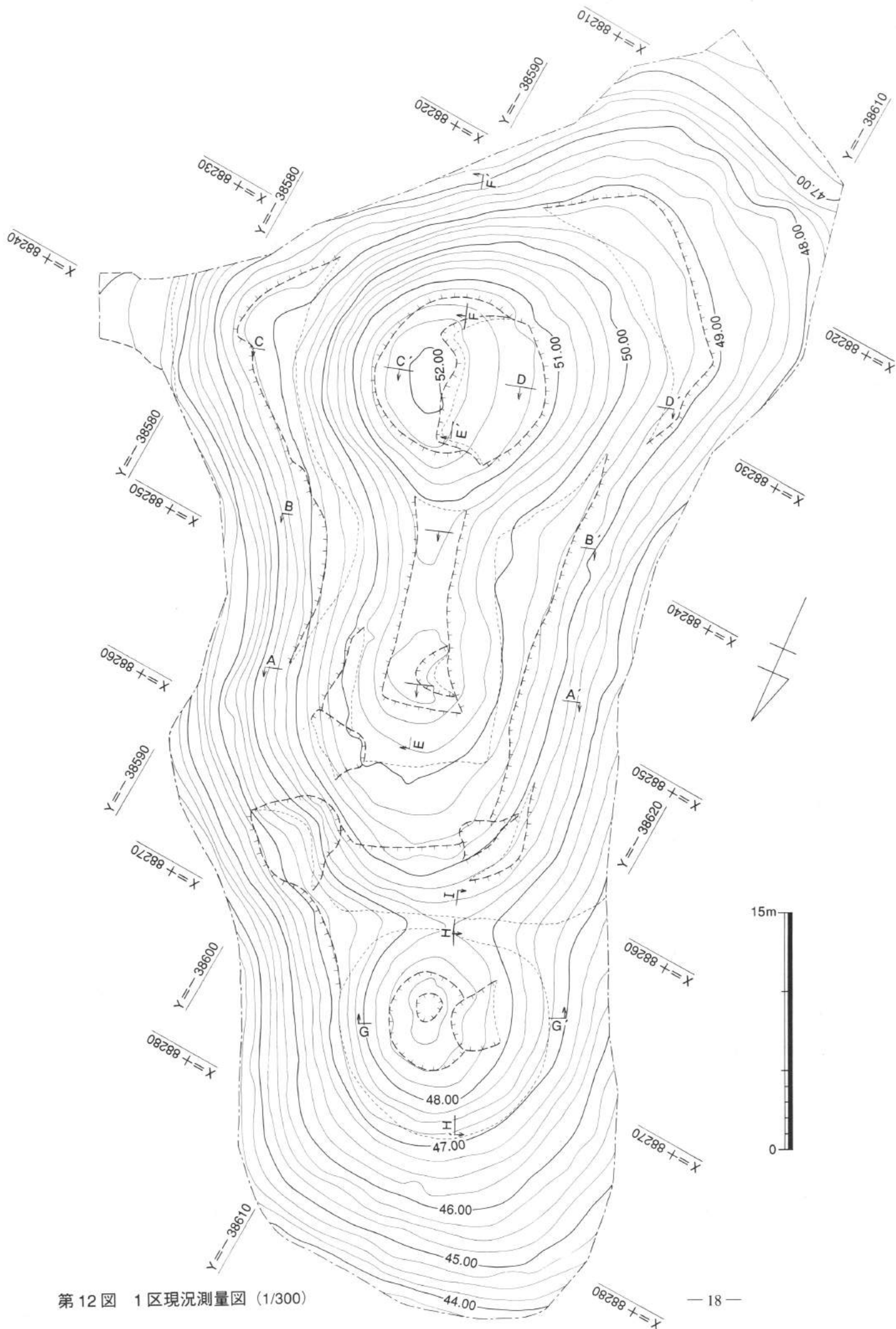
5層：地山風化土

後円部南側は、墳裾から0.53m幅で平らな面を有す他は、墳丘頂部からほとんど急傾斜で下る。墳裾から高さ0.54mまでは、地山整形である。盛土は、旧地形に覆う程度で4層と3-b層が検出され、墳頂部で2層が検出された。

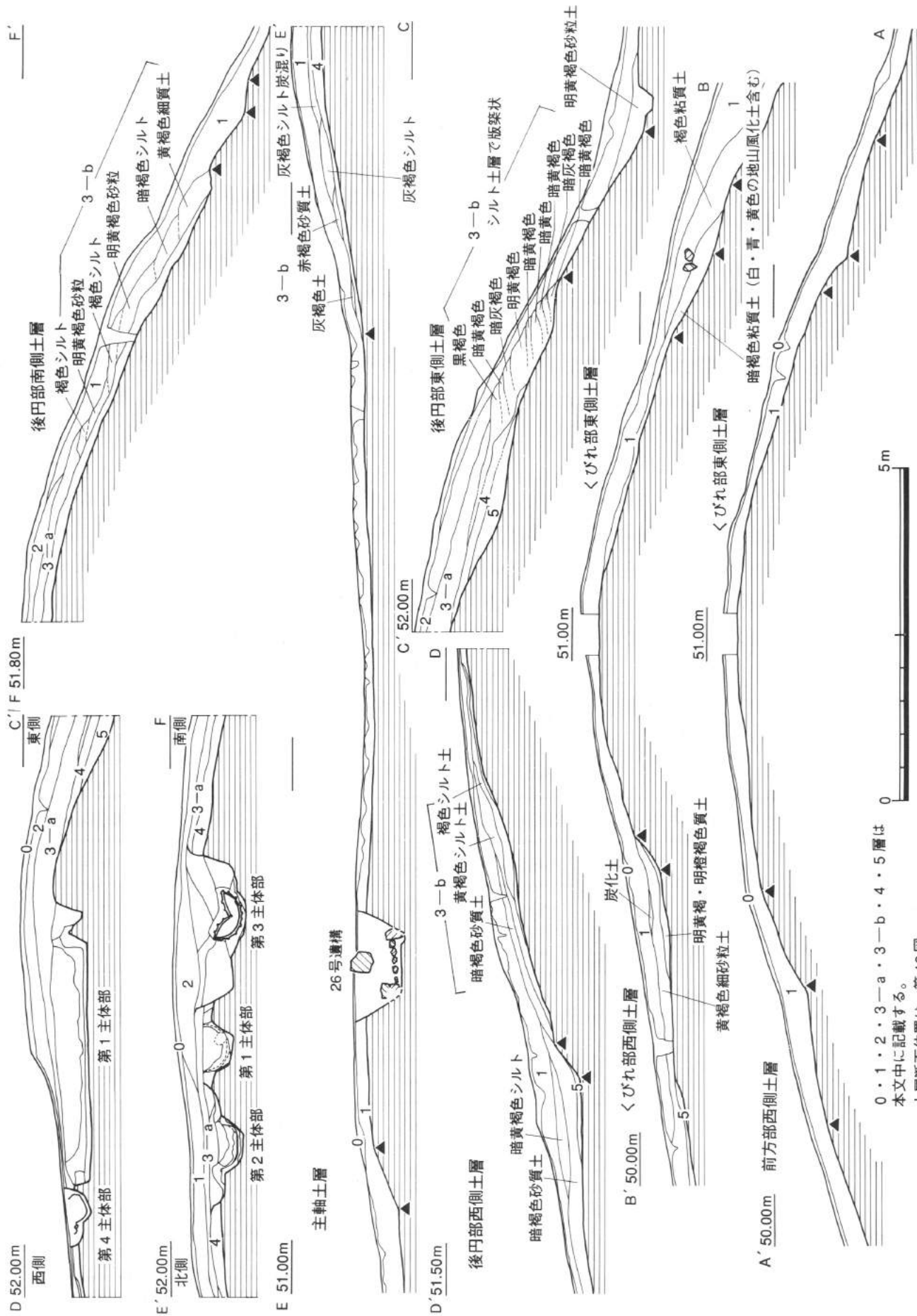
後円部東側は、墳裾から高さ1.23mまでは、地山整形であるが、一部31号墳の溝で削られる。墳丘の旧地形には、起伏があり、築造当初4・5層でその起伏を埋めたと推測される。その後3-a層と同時に3-b層によって盛土の補強をおこない、東側からの景観をさらに発揮させたものと考えられる。最後に2層によって盛土は完成する。

後円部西側は、裾から高さ0.38m削り出して地山整形し、低い部分に4層を、その上に3層を施す。東側トレンチに比べ比高差がなく盛土も少ないため、東側からの景観に比べるとやや劣る。

くびれ部東側は、基底部より高さ0.67m削り出して整形し、墳丘は、自然地形の傾斜を利用している。基底部を削り出した分、基底部の外側にもフラットな面を1.05m有す。丘陵斜面は、



第12図 1区現況測量図 (1/300)



急峻で地形に余裕がない。

くびれ部西側は、基底部より高さ 0.37m 削り出して整形し、墳丘は、自然地形の傾斜を利用している。基底部を削り出した分、基底部の外側にもフラットな面を 3m 有し、丘陵斜面は緩傾斜である。

前方部東側は、盛土を有さずくびれ部同様地山の削り出しで整形され、墳丘は、自然地形を利用している。地山整形は基底部より高さ 0.34m 削り、それに伴って基底部より外にややフラットな面を 1.85m 有し、その外側は、自然傾斜となる。

前方部西側は、盛土を有さずくびれ部同様地山の削り出しで整形され、墳丘は、自然地形を利用している。地山整形は基底部より高さ 0.67m 削り、それに伴って基底部より外にややフラットな面を 2m 有し、その外側は、自然傾斜する。

主軸土層は、後円部上で若干の盛土を確認したが、前方部上では、表土と腐植土で盛土は確認できなかった。前方部稜線上の中ほどより 26 号小石室が検出されたが、腐植土層より切り込まれているため 1 号墳に伴わない。

墳形の調査

前方後円墳という墳形は、現状で確認できたが、具体的な部分に関しては、各土層トレンチによって墳裾を確認し、そこから面的に広げ、地山整形を手がかりに調査を実施した。

後円部の東側および南側墳丘は、基底面から急な角度で傾斜している。これは丘陵自体の急峻な地形をそのまま取り込んでいるものと考えられる。西側は、古墳築造以前、丘陵頂部からそのまま緩やかな傾斜を呈していたと考えられ、地山整形時かなり削り込んで円形に整えている。

前方部の墳丘は、丘陵の地形をそのまま利用し、34 ～ 67cm 程度の段をつけて形を整えている。

第2表 1号墳墳丘計測表

単位:m

部 位	地山頂部標高	※方向	墳裾標高	比高差	中軸から墳裾	径・幅	地山整形の高さ
後円部	51.56	南側	48.50	3.06	10.65	17.65	0.54
		北側	50.62	0.94	7.00		—
		東側	48.56	3.00	10.58	20.28	1.23
		西側	49.52	2.04	9.70		0.38
くびれ部	50.60	東側	48.87	1.73	5.05	8.13	0.67
		西側	49.70	0.90	3.08		0.37
前方部	50.59	東側	48.94	1.65	5.90	10.98	0.34
		西側	49.5	1.09	5.08		0.67
		中軸	50.1	0.49	—	—	0.38
後円部頂部から前方部頂部				0.97	全長	30.77	—

※前方後円墳の前方部主軸方向を北とする。

くびれ部は、後円部裾から調査を進め、西側より墳裾の検出を実施した。後円部から前方部に達しても通常屈曲する位置で曲がらなかったため、円墳と方墳ではないかと考えたが、約1m入り込んだ所で、くびれの屈曲が確認された。前方部側では、ずれた幅をカギ形に整形し前方部に取り付いていることが確認された。東側くびれ部も同様である。

2. 主体部（第14図・第3表1～4・図版5）

主体部は、後円部の頂部に4基検出された。第1主体部は、後円部の中央部にあり、最初に造られる。その後北側に第1主体部の墓壇を切って第2主体部が造られ、続いて第1主体部の南側の墓壇を切って、第3主体部が造られる。第3主体部は、第2主体部を覆う盛土から切り込まれることから、3番目に造られたのは確実である。第4主体部は、検出時第1主体部の墓壇を切っていることが確認されたが、盛土がほとんど削平されていることから、他との新旧関係は不明である。

主体部の調査

主体部の調査は、平成5年度に試掘確認調査をおこなった。トレンチは、後円部のほぼ中心部分で東西方向に長さ約4m、幅約80cmの第1トレンチと、その南側と北側に2本ずつ第2トレンチから第5トレンチを設定した。深さは、墓壇検出面までである。その結果2基の主体部が切り合っていることが確認された。

今回はそのトレンチを先に掘り上げ、どの部分の粘土が検出されたのかを先に確認し、そこから面的に広げることにした。

第1トレンチでは、主体部の切り合い部分を確認していたが、調査の結果第3主体部が第1主体部を切る部分であった。さらに第3トレンチで確認されていた墓壇ラインは、第1トレンチで確認していた第1主体部のコーナーのラインと若干のずれがあったため、面的な調査をおこなった結果、第2主体部が新たに検出された。第3主体部は、第2主体部盛土である黄褐色細砂粒土層から掘り込まれ、さらに第1主体部を切ることがわかった。

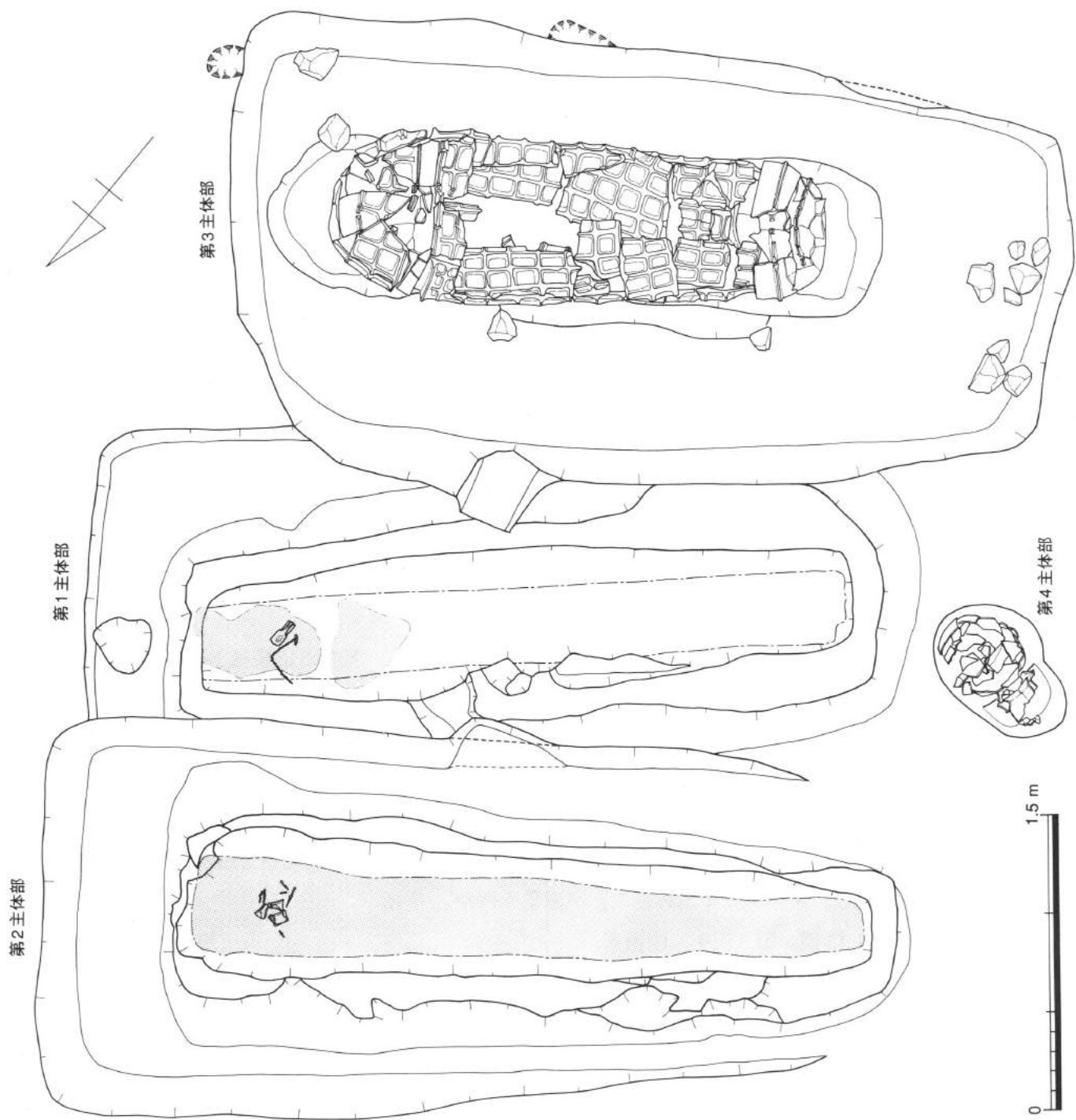
後円部西側トレンチでは、墳頂部より表土からわずか5cmの深さで、壺棺を検出した。壺棺は、第4主体部とし、主体部は4基あることが確認された。

第1主体部（第15図・第3表1・図版6）

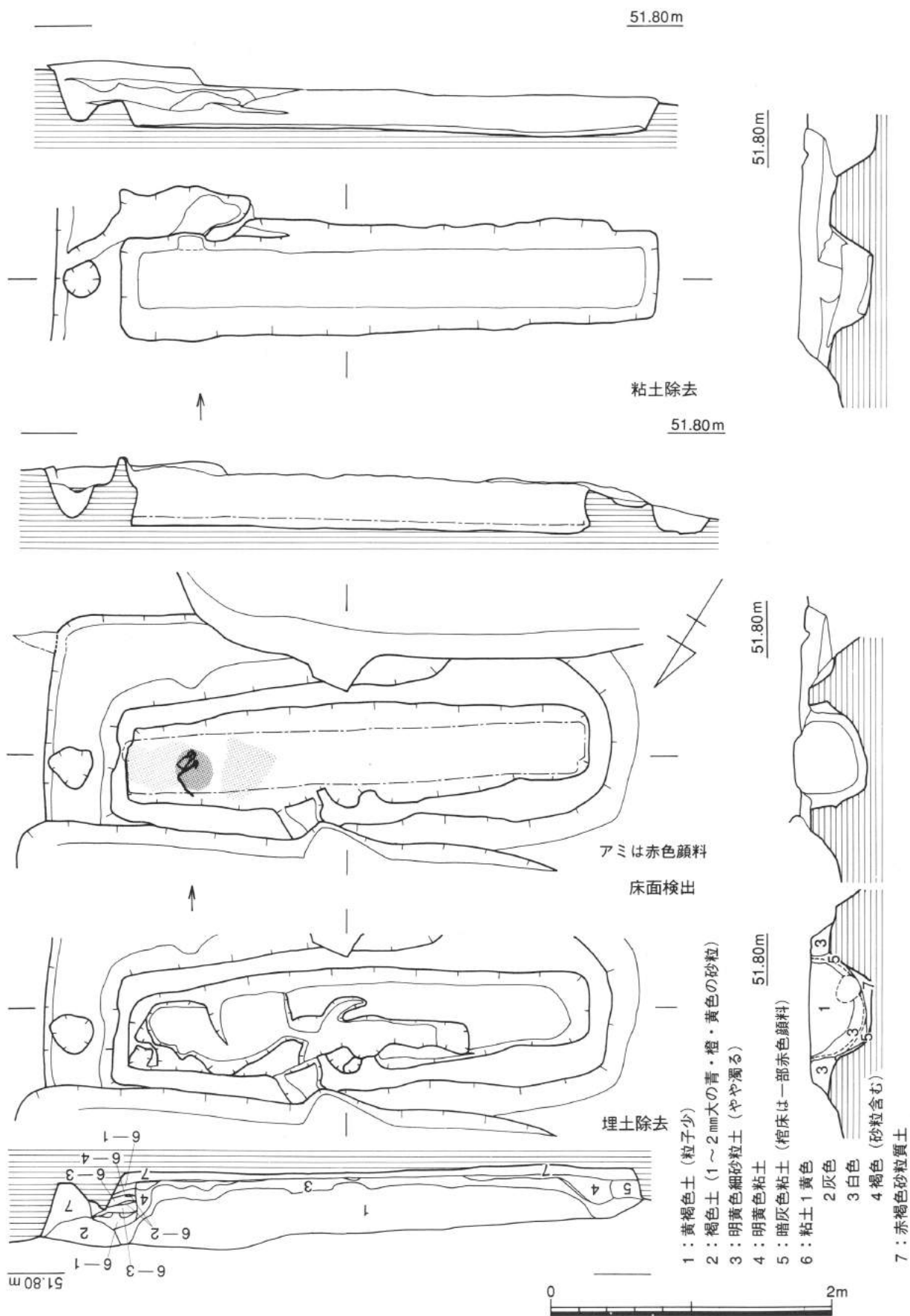
第1主体部の墓壇は、南北両側に造られた第2主体部と第3主体部にそれぞれ切られ、西側も上面が削平により失う。東側は残存する。埋葬壇は、切り合いの影響を受けずなお深いため、ほぼ完存する。

埋葬主体は、割竹形木棺を想定する粘土槨であるが、棺材は残っていない。粘土槨は、埋葬壇床面に、粗雑な灰白色粘土を全面に貼っている。木棺の底部は、横断面U字形を呈している。検出時粘土は既に陥没した状態であったが、下粘土と上粘土に挟まれて床面が残っていたため、木蓋の上部を粘土で覆っていたものと想定される。

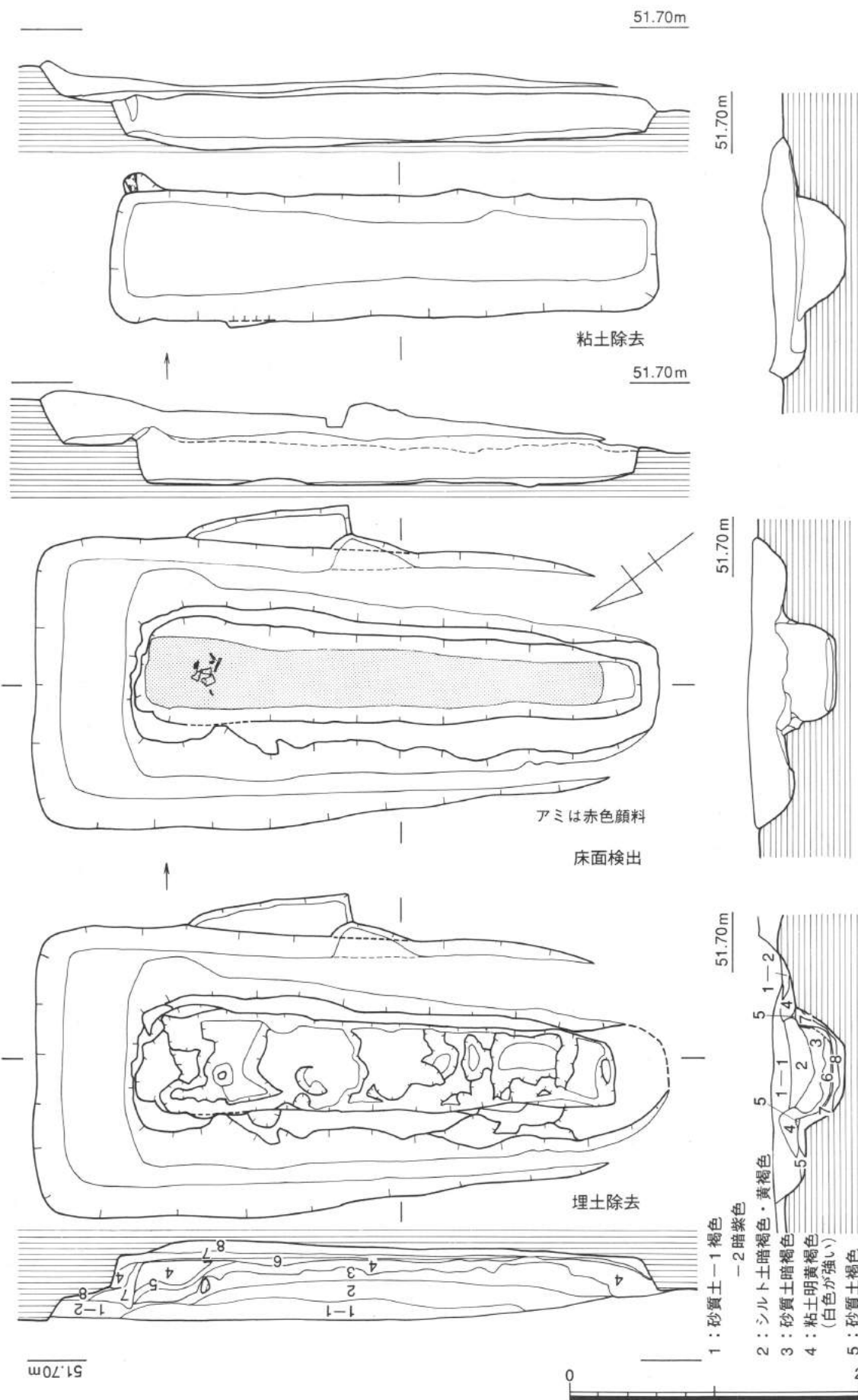
小口部の掘り込みは確認できず、小口は、木棺内で納まっていたものと想定される。埋葬壇と小口の間は、粘土で固定され、東側小口は、異色の粘土を版築状に詰めている。



第14図 1号墳主体部配置図 (1/30)



第15図 1号墳第1主体部実測図 (1/40)



第16図 1号墳第2主体部実測図 (1/40)

顔料は、木棺床面の頭部の一部と、頭部東側の副葬品が一括出土した付近に集中して塗布している。

第2主体部（第16図・第3表2・図版7）

第2主体部の墓壙は、第1主体部の墓壙北側を切ってつくられる。西側は、上面が先の削平により失うが、3辺は残りが良い。平面形は隅丸の長方形を呈し、断面形は2段掘りで埋葬壙に粘土を貼っている。

埋葬主体は、割竹形木棺を想定する粘土槨であるが、棺材は残っていない。粘土槨は、埋葬壙床面に、上層の黄白色粘土と下層の灰白色粘土を5～10cmの厚さで全面に貼っている。木棺の底部は、横断面U字形で、やや平らな面を有している。1号主体部同様、検出時既に粘土は陥没した状態であったが、下粘土と上粘土に挟まれて床面が残っていたため、木蓋の上にも厚さ5cm程度の粘土が覆っていたものと推定される。

小口部の掘り込みは確認できず、小口は、木棺内で納まっていたものと想定される。東側小口と、埋葬壙の間は粘土を詰め固定されるが、西側小口は、固定の痕跡が認められない。

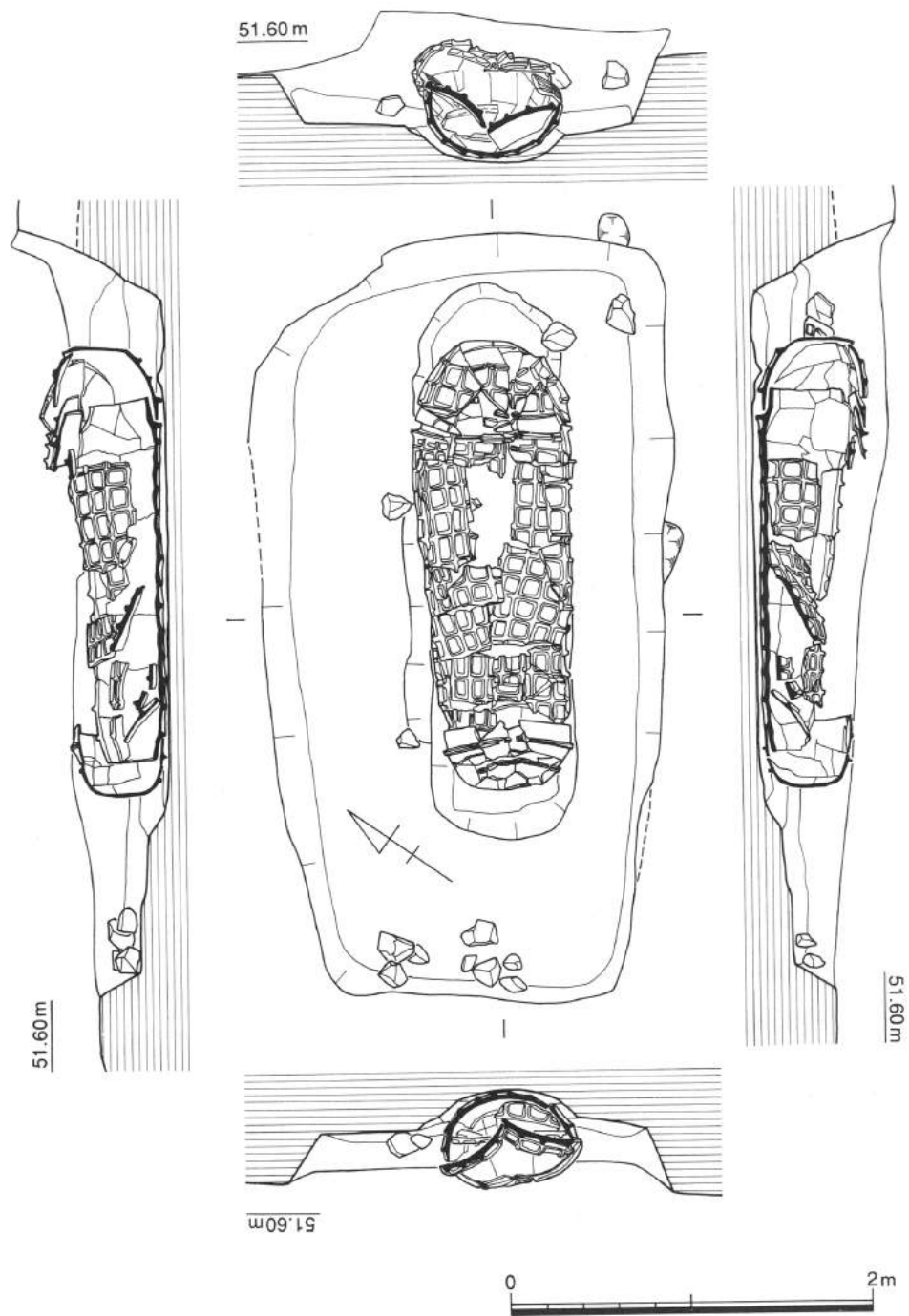
顔料は、床面全体に塗布されていた。

第3主体部（第17, 18図・第3表3・図版8, 9）

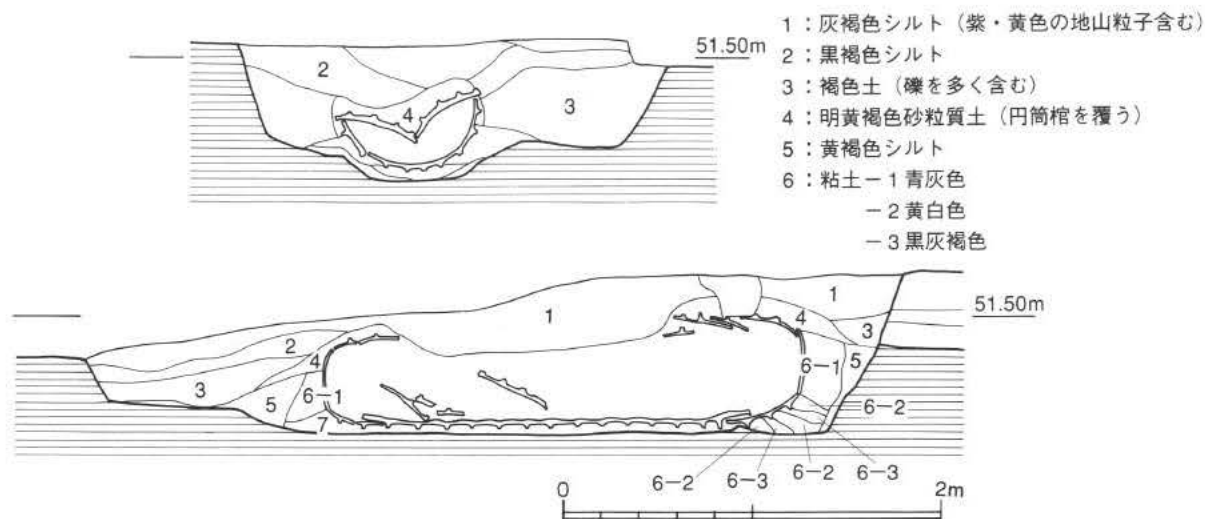
第3主体部の墓壙は、第1主体部・第2主体部を覆う黄褐色細砂粒質土の盛土より切り込まれ、平面プランは、隅丸長方形である。墓壙検出面とほぼ同じ高さで棺のタガの一部が検出された。棺の表面は、白色の細砂粒質粘土で覆われており、格子状のタガが確認された。上面に付着する粘土および埋土を除去後、棺は上蓋と身と下蓋の3分割からなることが解り、円筒棺であることが確認された。身の上面は既に土圧によって棺内に割れて落ち込んでいたことから、棺内は当初空洞であったと想定される。人骨は、既になく内部は崩落時の埋土が詰まっていた。

土層の観察で、墓壙に棺本体を埋設する方法を7段階の工程で復元する。

- 1工程 第1主体部と第2主体部および古墳の盛土を馴らす。
- 2工程 盛土から墓壙を掘削し、棺のサイズに合わせ埋葬壙を掘り窪める。
- 3工程 埋葬壙に粘土を敷き、棺身を固定する。
- 4工程 上蓋と下蓋を棺身にはめ込んで、蓋がずれないように外から粘土で固定している。
特に上蓋は、黄白色粘土と灰白色粘土を交互に使用し押し固めている。
- 5工程 埋葬壙の深さまで埋め込んだところで一旦中断し、墓壙の両端に礫を置いている。
- 6工程 棺本体が見える部分全体を粘土で覆う。
- 7工程 墓壙に盛土をする。



第 17 図 1 号墳第 3 主体部実測図 (1/40)



第18図 1号墳第3主体部土層図 (1/40)

第4主体部 (第19図・第3表4・図版9)

第4主体部の墓壇は、第1主体部の西側より検出された。平面プランは、楕円形を呈し、底部は棺身と棺蓋を安定させるため段を有している。

埋葬主体は、壺棺である。壺棺は、棺身が二重口縁壺で、口縁部の屈曲部に、棺蓋の口縁端部を噛み合わせて埋納していた。

3. 出土遺物

墳丘周辺では、西側くびれ部 (第20図) より壺の底部2点と器台 (第58図1～3) が出土した。そのうち壺 (1) の内面には、赤色顔料が埋納されていた。その外1号墳周辺より土器の小片 (第58図4～7・第11表4～7・図版26) を出土しているが、これは1号墳には直接伴わない。

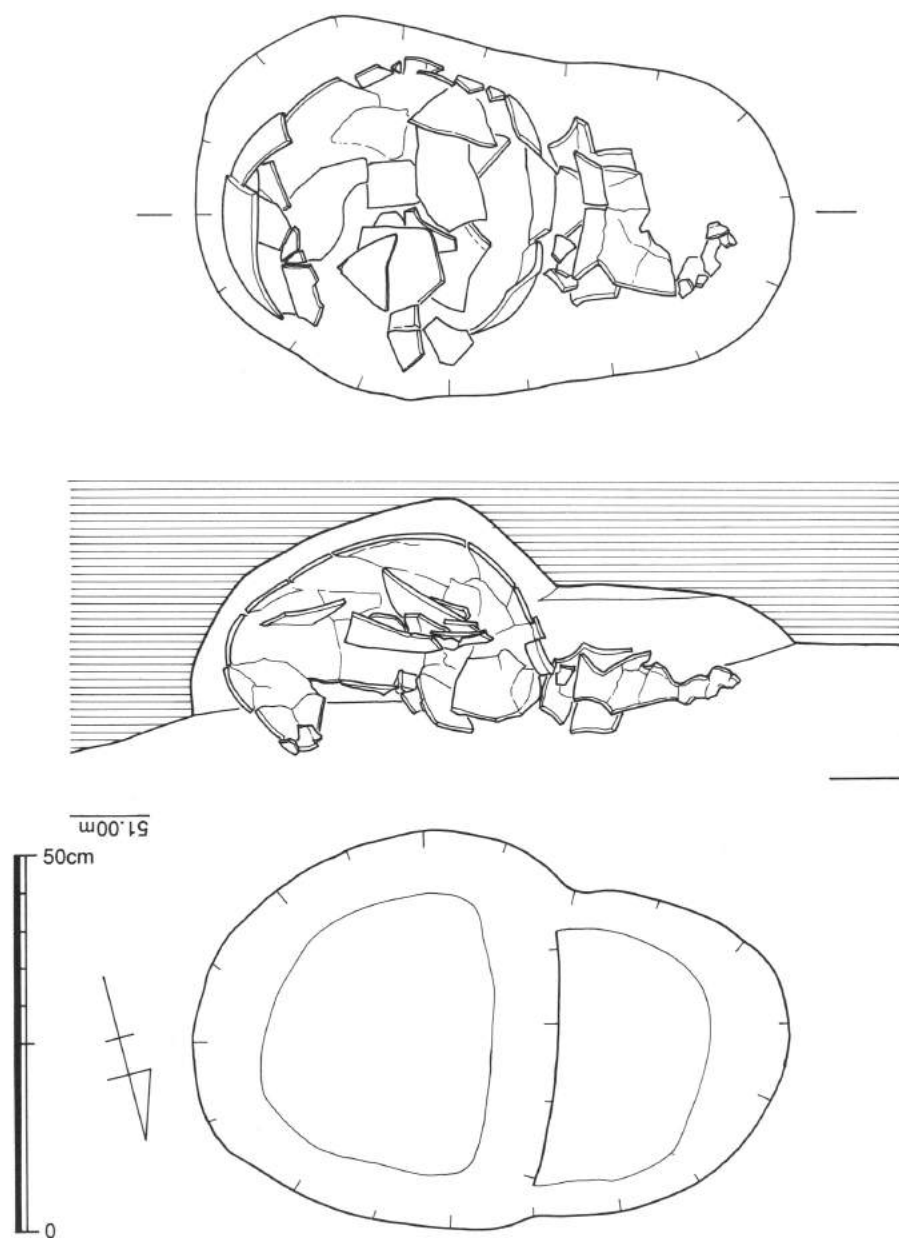
第1主体部 (第21図1出土状況・第66図1～3・第12表1～3・図版30) は、床面東側より鉋・鉄斧・刀子が出土した。鉋は、ほぼ直角に折り曲げられており、刀子は、鉋の上で浮いた状態で出土し、鉄斧も主軸に対して45度の角度で出土した。この状態から一点一点丁寧に置いたとは考えられず、一括まとめて置いたものと想定される。

第2主体部 (第21図2出土状況・第66図4～11・第12表4～11・図版30) は、床面東側より、鋤先・鉋・鉄斧2・刀子4が出土した。出土配置は、鋤先と鉄斧、鉋と刀子がそれぞれ左右に分かれているが、いずれも方向が一定していないことから、ここでも一点一点丁寧に置いたとは考えられず、一括まとめて置いたものと想定される。

第3主体部 (第21図3出土状況・第66図12～16・第12表12～16・図版30) は、棺身の内部床面より、刀子5が出土した。刃をいずれも南西に向けてまとまって出土したことから、一点一点丁寧に置いたか、意図的に柄の方向を揃えたものと考えられる。

円筒棺 (第56図・図版25)

上蓋の規模は、内径74～69cm・器高46cmを測る。



第 19 図 1 号墳第 4 主体部実測図 (1/10)

外面は、格子状の突帯を貼る。突帯の数は、横3本、縦14本である。調整は、天井部に不定方向のハケ、中位は、縦のハケ目調整後に突帯を貼り、口縁側は突帯貼り付け後に再度縦方向のハケを施している。

内面は、口縁部から高さ7cm幅で、ナデによる調整、中位下段は、横方向のハケ、上段は、左上から右下方向のハケ、上段から天井部にかけて一部に工具による調整を施す。

赤色顔料は、内面ほぼ全面に塗布される。

身は、上蓋側と下蓋側で口径が異なり、円錐形を呈す。規模は、上側口縁部内径66～55cmで楕円形、下側口縁部内径は、44cmでほぼ円形である。全長は、192.5cmを測る。

外面は、格子状の突帯を施し、上部の1条は、高く突き出る。突帯の数は、横14本、縦17本である。調整は、上側の口縁部から突帯までが縦方向のハケ、下側の口縁部から突帯までは、一部横方向のハケである。胴部は、全体にハケを施していたと考えられ、方向は、縦・横・斜めいずれも認められる。ハケ目調整後に突帯が貼り付けられ、突帯裾には、貼り付け時の指ナデ痕が、ハケ目を消している。さらに一部の格子内には、ハケ目痕をも全面ナデ消している。

内面は、ハケ目調整を施し、ほとんどが横方向と左上から右下にかけての斜め方向で縦方向は見られない。下側口縁部は、端部から小刻みな横方向のハケ目ではじまり、端部より40～90cmの範囲では、製作時についた、指圧痕が等間隔に認められる。上側口縁部は、端部から30cmまでのところは、ハケ目調整はほとんど見られない。

赤色顔料は、内面全面と外面の両口縁部から突帯までの間に塗布される。

下蓋の規模は、内径57cm・器高35.5cmを測る。

外面は、2条の突帯を貼る。調整は、底部に不定方向のハケ目を施し、中位から口縁部にかけてハケ目は認められない。

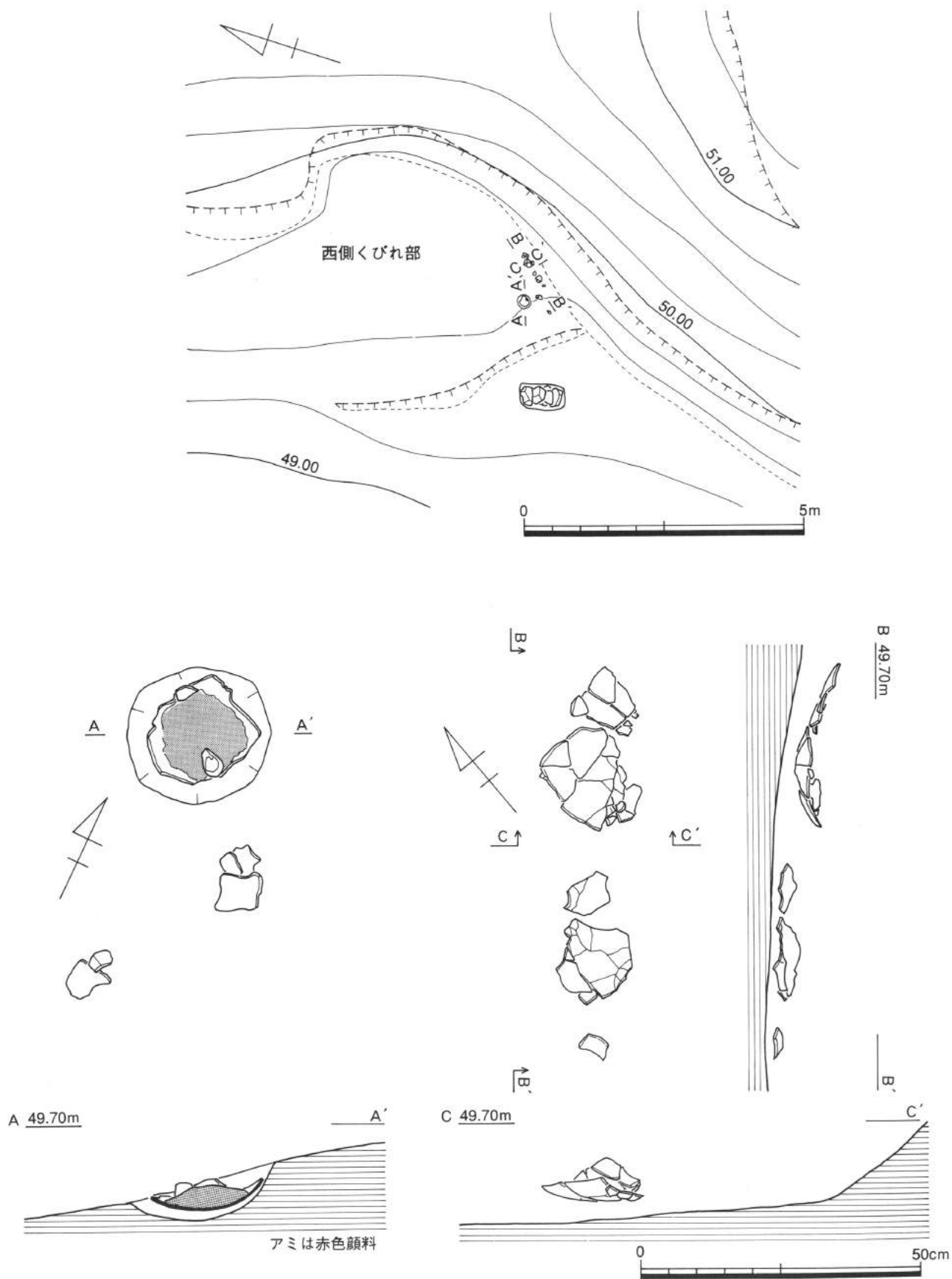
内面は、口縁端部から小刻みな横ハケ調整を施し、徐々にハケの長さが長くなる。端部より11～16cmの幅で左方向の工具による調整を施し、胴部下位から底部にかけて一部ハケ目調整を施す。

赤色顔料は、内面にほぼ全面塗布される。

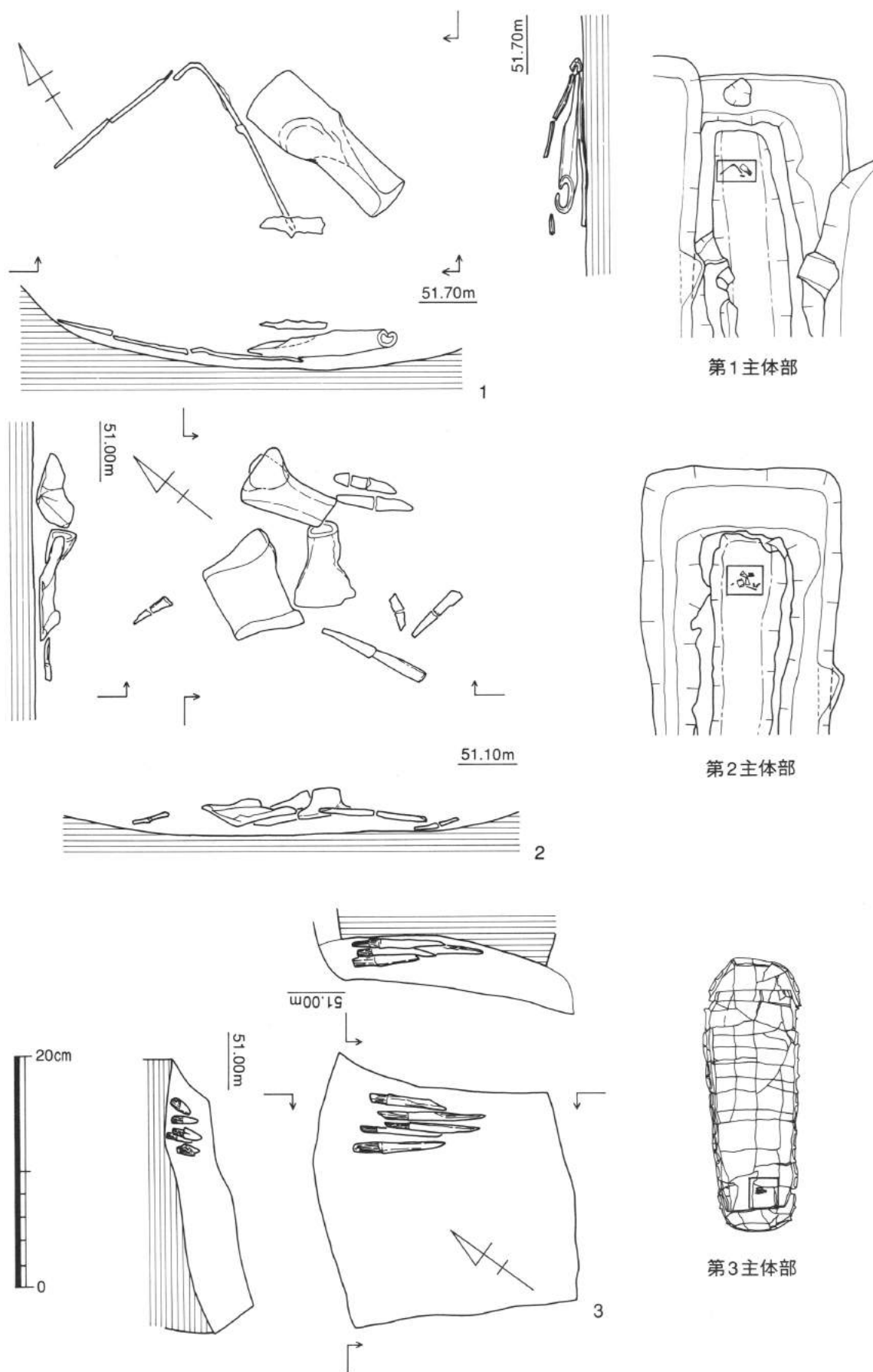
第4 主体部の壺棺（第57図・図版9、26）は、棺外より刀子1（第66図17・第12表17・図版30）を出土した。

棺蓋は、1/3ほど残る。口縁上半部は、やや段を有し、端部は如意状に外反する。頸部は、「く」の字状に折れ、胴部は、肩部に張りがなく弧状に開く。調整は、口縁部でナデ調整し、胴部外面は肩部に縦方向のハケ目を施す。内面は、工具による削りと考えられるが風化が著しく判断しがたい。

棺身は、口縁部1/2と胴部の一部を失うが、ほぼ完形に復元できる。口縁部は、二重口縁でほぼ直線的に立ち上がる。口縁端部には、段を有し、口縁下部にも1条の張り出しを有す。胴部は扁球形で上半部に最大径がある。底部は丸底である。調整は、口縁部内外面ともにナデ調整で、胴部外面は、肩部でヨコ方向のハケ目調整、中位から下部にかけてタテ方向のハケ目調整を施す。胴部内面は、ほぼ全面に工具による削り調整である。胴部中位には、水抜きと想定される穿孔が認められる。



第20図 1号墳くびれ部西側遺物出土状況図 (1/100・1/10)



第21図 1号墳主体部遺物出土状況図 (1/5)

(2) 2号墳

1. 墳丘 (第5, 12, 22図・第3表5・図版10)

1区1号墳の北側で丘陵の稜線上に造墓される。規模は、南北13m・東西11mのやや楕円形に近い円墳で、墳高は、最大2.2mを測る。墳丘の南側には、墓域を区画する堀切があり、1号墳の前方部裾から堀切の外周までは11.5mで、一定の空間を保っている。堀切は、幅3.5m、深さは表土から70cmを測り、堀切部分の墳裾および外周が直線的であることから、方墳との指摘もあったが、墳裾の地山整形面を検出したところ円形であることを確認した。

土層の設定は、墳丘の中心から丘陵稜線の方角と、それに直行する方向にあわせ、さらに主体部の墓壙を面的に検出するため、ベルトを十字に残し、掘り下げていった。

墳丘は、基底面から表土までの厚さ約80cmを測り、1号墳や38号墳に比べるとほとんど盛土によって高さが保たれている。土層は、暗褐色砂粒土層や青灰色風化砂礫土層、橙褐色細砂粒土層を交互に積み上げ、一気に盛り上げたものと想定される。また、盛土の土質などは、当古墳の地山整形面と類似することから、地山整形時の廃土を盛土に転用しているものと想定される。地山整形面から主体部は掘り込まれていることから、盛土までの行為には、時間差が考えられる。

2. 主体部 (第23図・第3表5・図版11)

主体部は、地山整形で整えられた墳丘面の中心ではなく、やや西にずれて検出された。このことは当初より、複数の主体部を造墓する予定があったのではないかと推測される。

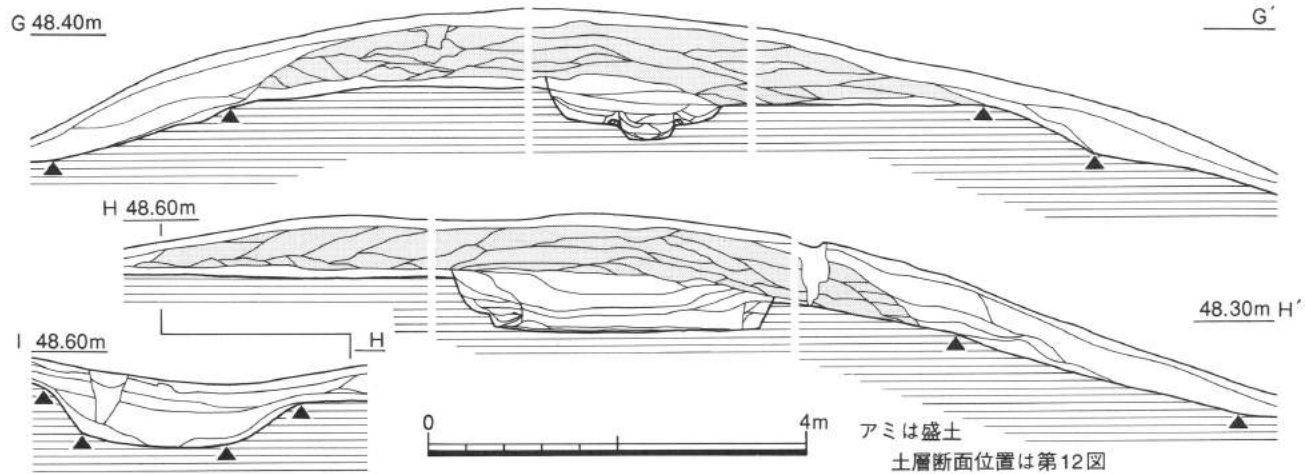
墓壙の上面プランは、隅丸の長方形である。墓壙の中央に浅い埋葬壙があり、横断面では2段の掘り込みである。埋葬施設は、割竹形木棺墓の直葬を想定するもので、両小口部に幅5cm程度の白色粘土が確認され、両側面にも礫をならべていた。これは木棺の小口部と木棺そのものを固定するために使われていたものと推測する。

埋葬壙の床面は、赤色顔料が全面に塗布されている。特に南側では枕状の高まりをもち、頭位が想定される。

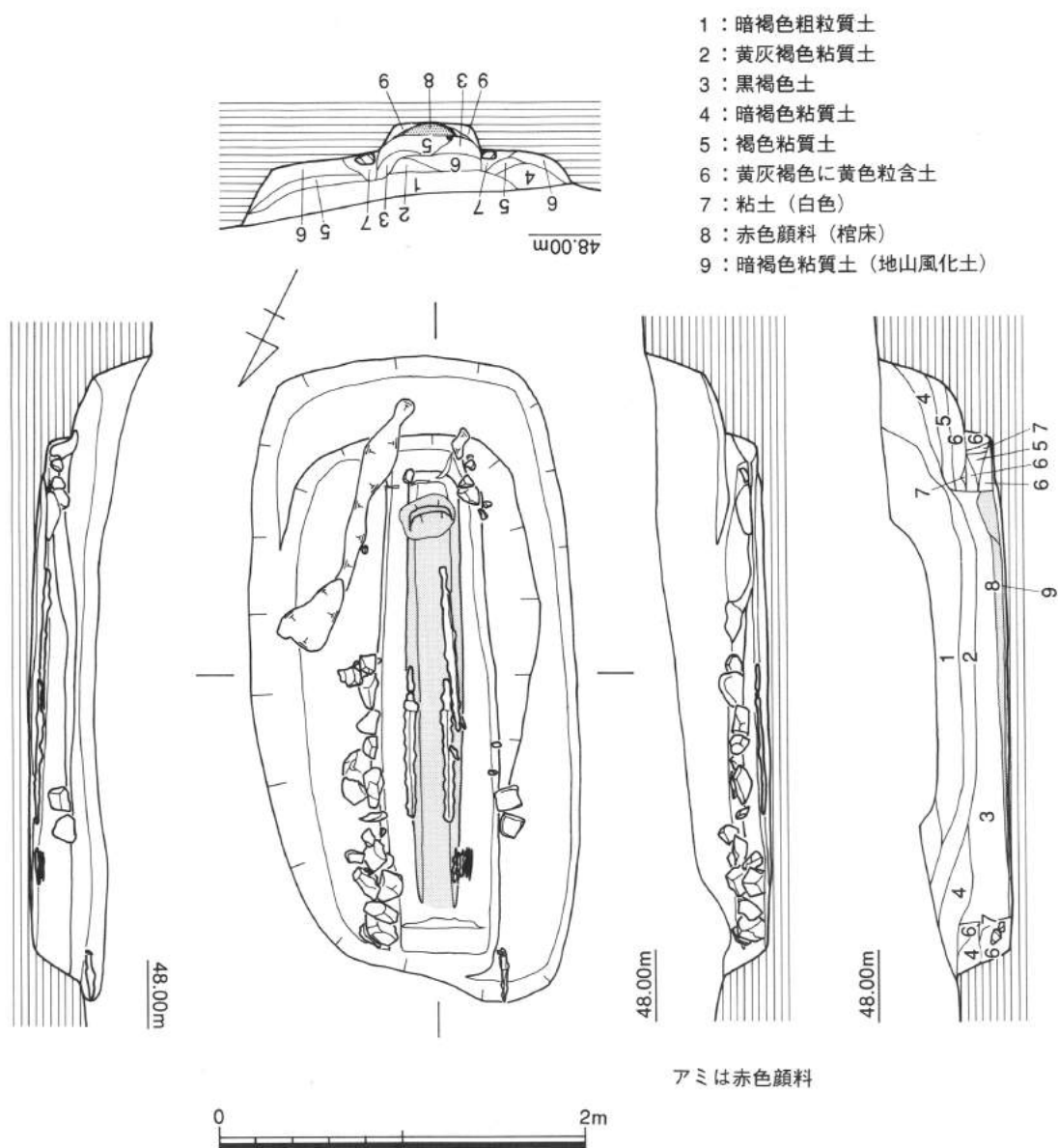
3. 出土遺物

墳丘(第24図・図版11)からは、東側の地山整形面と盛土の境より高坏が3点、いずれも坏部を伏せた状態で出土した。二重口縁壺の口縁部の一部や壺の底部などは、墳丘からの流出土中より出土したことから現位置を留めていない。(第58図8～15・第11表8～15・図版26)

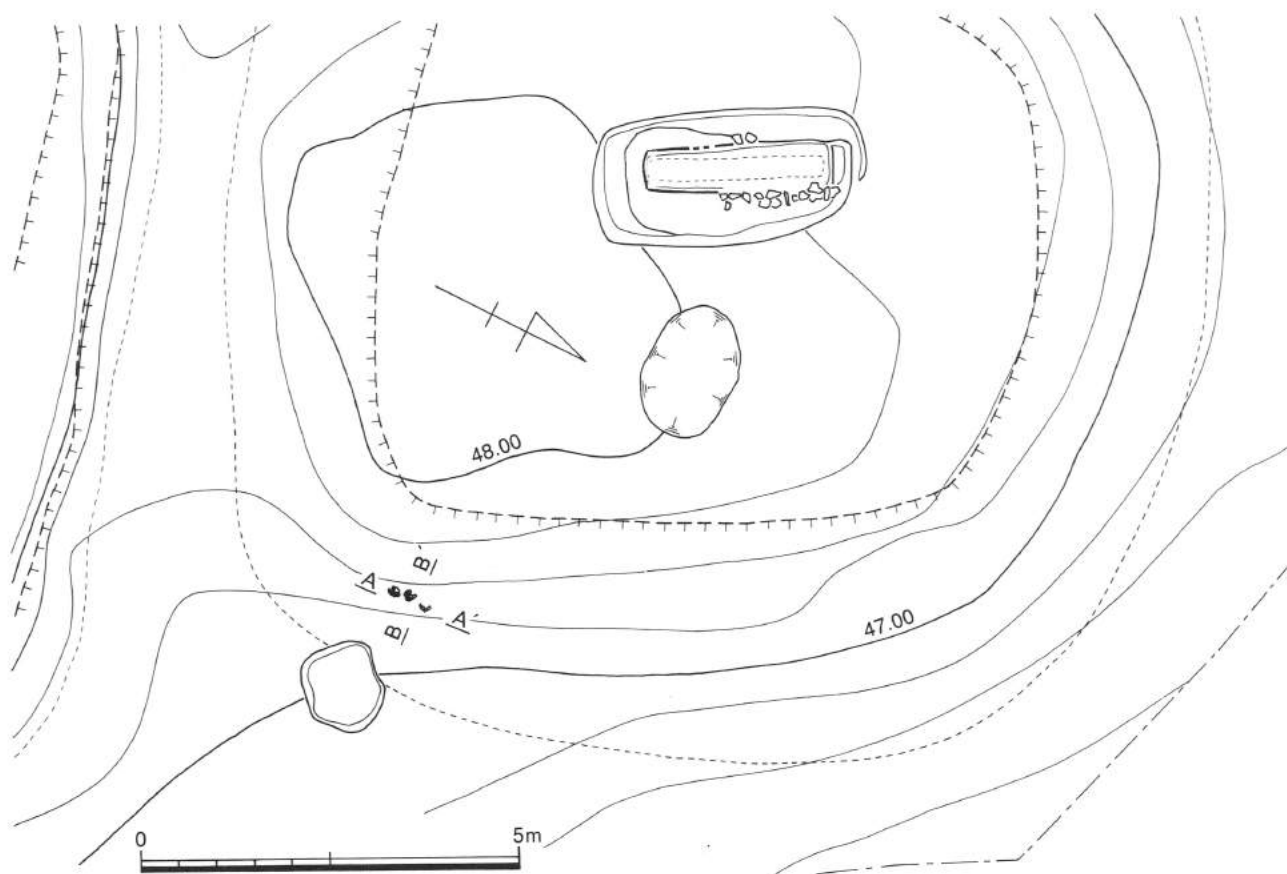
主体部(第23図・図版11)からは、屍床中位より切先をすべて北に向けた鉄剣2と鉄刀1が出土し、北西端には鉄鏃が21本鏃身部をすべて北に向け束ねた状態で出土した。棺外の北西側より鉄矛1を検出した。(第67図1～21・第68図1～5・第12表18～43・図版30)



第22図 2号墳墳丘土層図 (1/80)



第23図 2号墳主体部実測図 (1/40)



A 47.60m

A'

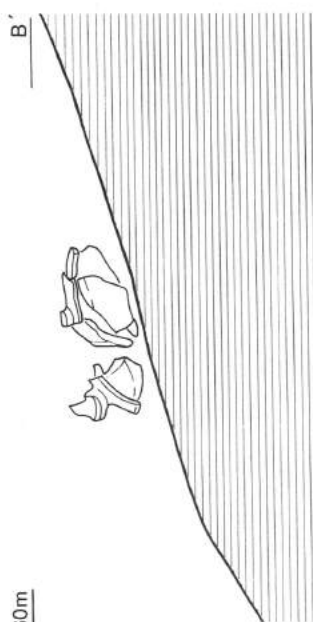


A ↑

↑ A'

↑ B'

↑ B



B 47.60m

第 24 図 2 号墳墳丘東側遺物出土状況図 (1/100 ・ 1/10)

(3) 3号墳

1. 墳丘 (第6, 25図・第3表6・図版12)

本墳は、2区Cより検出された円墳で、当初より墳丘とその中央部に盗掘坑が認められた。墳丘規模は、径8.75m、墳高1.20mを測る。

調査は、最初に盗掘坑から掘り進めていった。主体部完掘後、主軸に沿って墳丘の割付をおこなった。墓道は、西側に取り付くため、土層は南側・東側・北側で観察を実施した。

南側土層では、墳裾から高さ90cm削り出して整形している。盛土は、20cmほどで、残り50cmは、盗掘時に掘り上げた廃土である。主体部の中心から墳裾まで4.75mを測る。

東側土層では、墳裾から高さ66cm削り出して整形している。盛土は30cmほど残存し、10cmは、表土である。主体部の中心から墳裾まで3.80mを測る。

北側土層では、墳裾から高さ51cm削り出して整形している。盛土は14cm残存し、表土は8cmである。主体部の中心から墳裾まで4.00mを測る。

墳丘の西側には、丘陵と墓域を区画する馬蹄形溝がある。規模は、幅3.54mで、深さ50cmである。

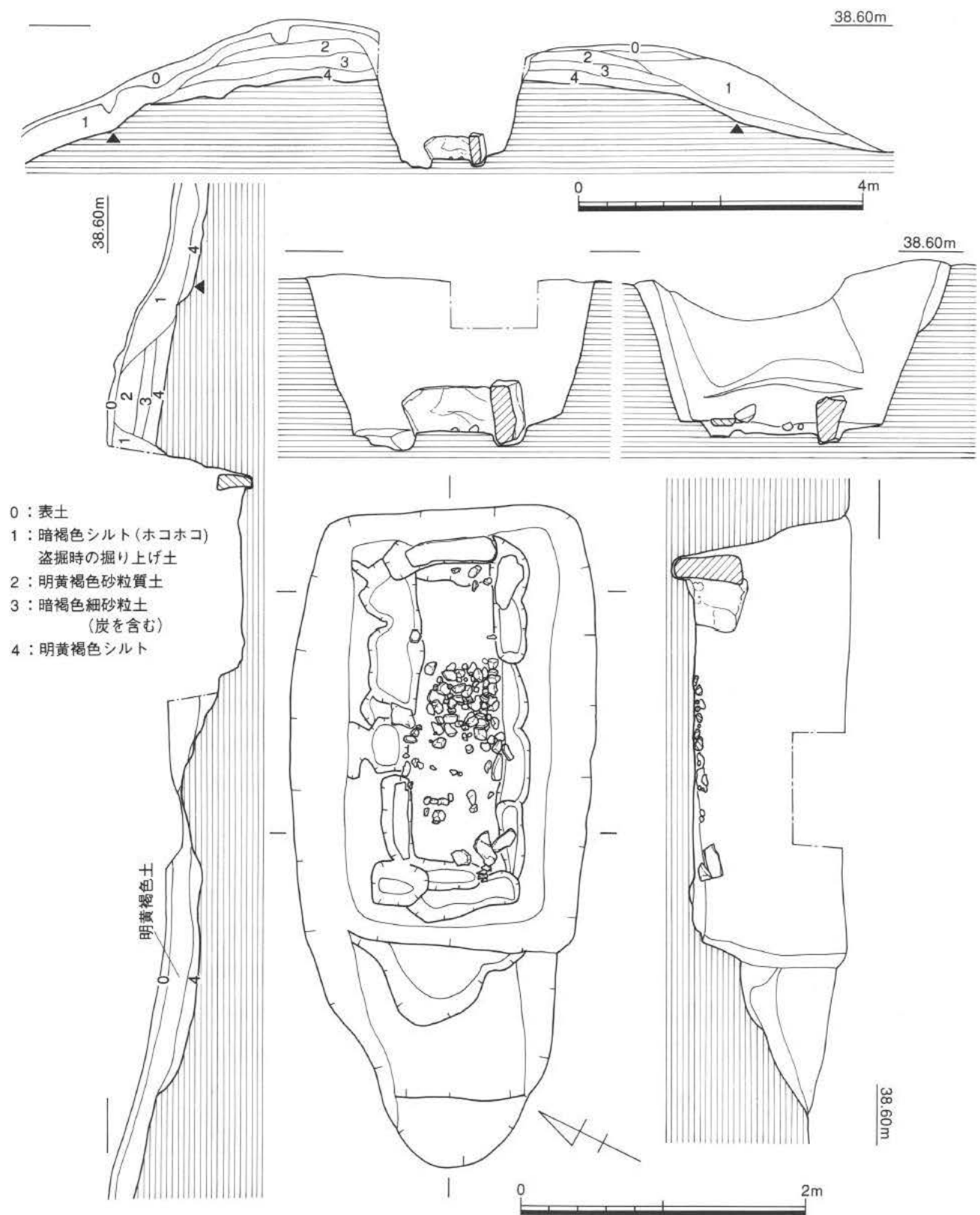
2. 主体部 (第25図・第3表6・図版12)

主体部は、単室の横穴式石室である。墓壙上面プランは、長方形を呈し、西側の短辺を削り出して丘陵の高い方へ墓道を付設している。

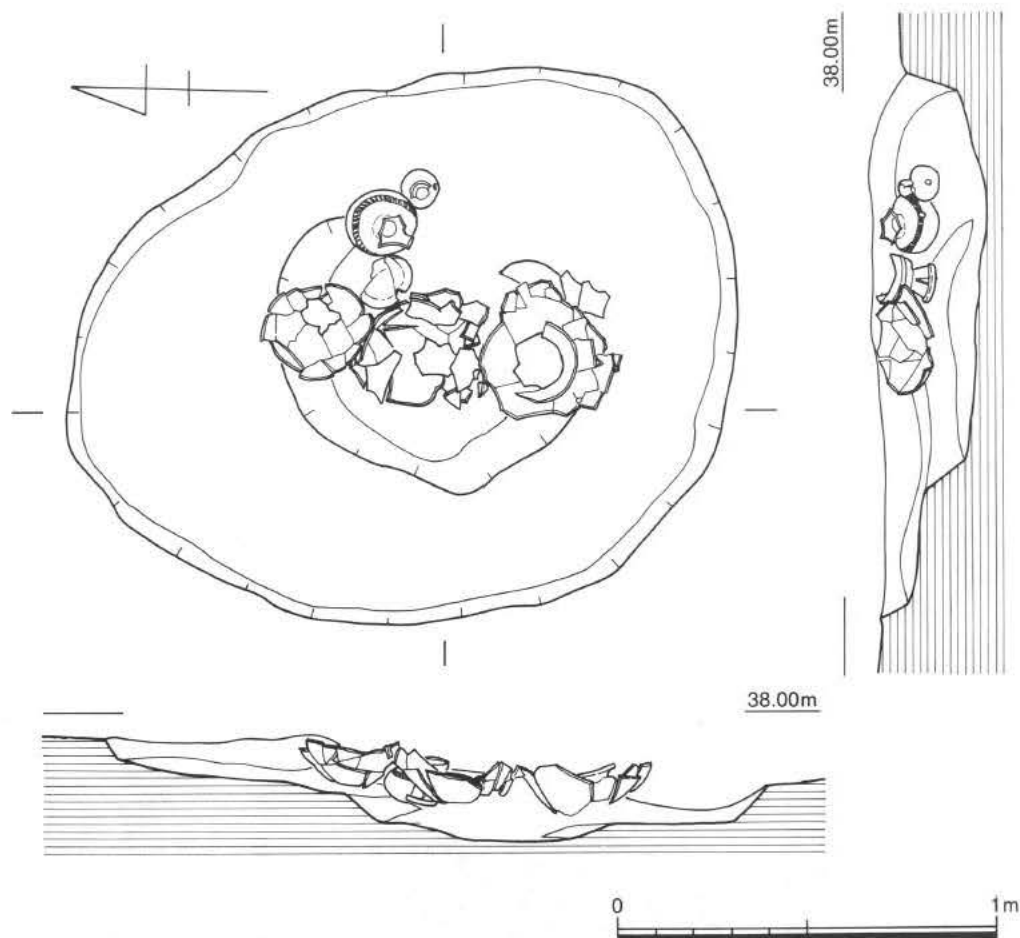
石材は、ほとんど盗掘によって失うが、腰石である奥壁1石と右奥の側壁1石、左墓道側の側壁1石が残る。石室プランを復元すると、奥壁1石・右側壁5石・左側壁4石で両袖石を構えて玄門としていたと推測する。敷石は、5～10cm大の礫を使用し、玄室床面の中央部分に検出されている。

3. 出土遺物

遺物のほとんどは、本墳の西側を区画する馬蹄形溝内のやや南から検出された祭祀土坑 (第26図・図版12) より出土した。遺物は、須恵器甕3・須恵器高坏1・須恵器甕1・擬似須恵土師器甕1の一括資料である。甕および須恵器甕は、いずれも底部を内側から打ち割られている。高坏や甕などの特徴から、TK208～TK23の時期に相当する。(第60図1～4・第61図1～3・第11表24～29・図版27)



第25図 3号墳主体部及び墳丘土層図 (1/80・1/40)



第26図 3号墳祭祀土坑実測図 (1/20)

(4) 4号墳

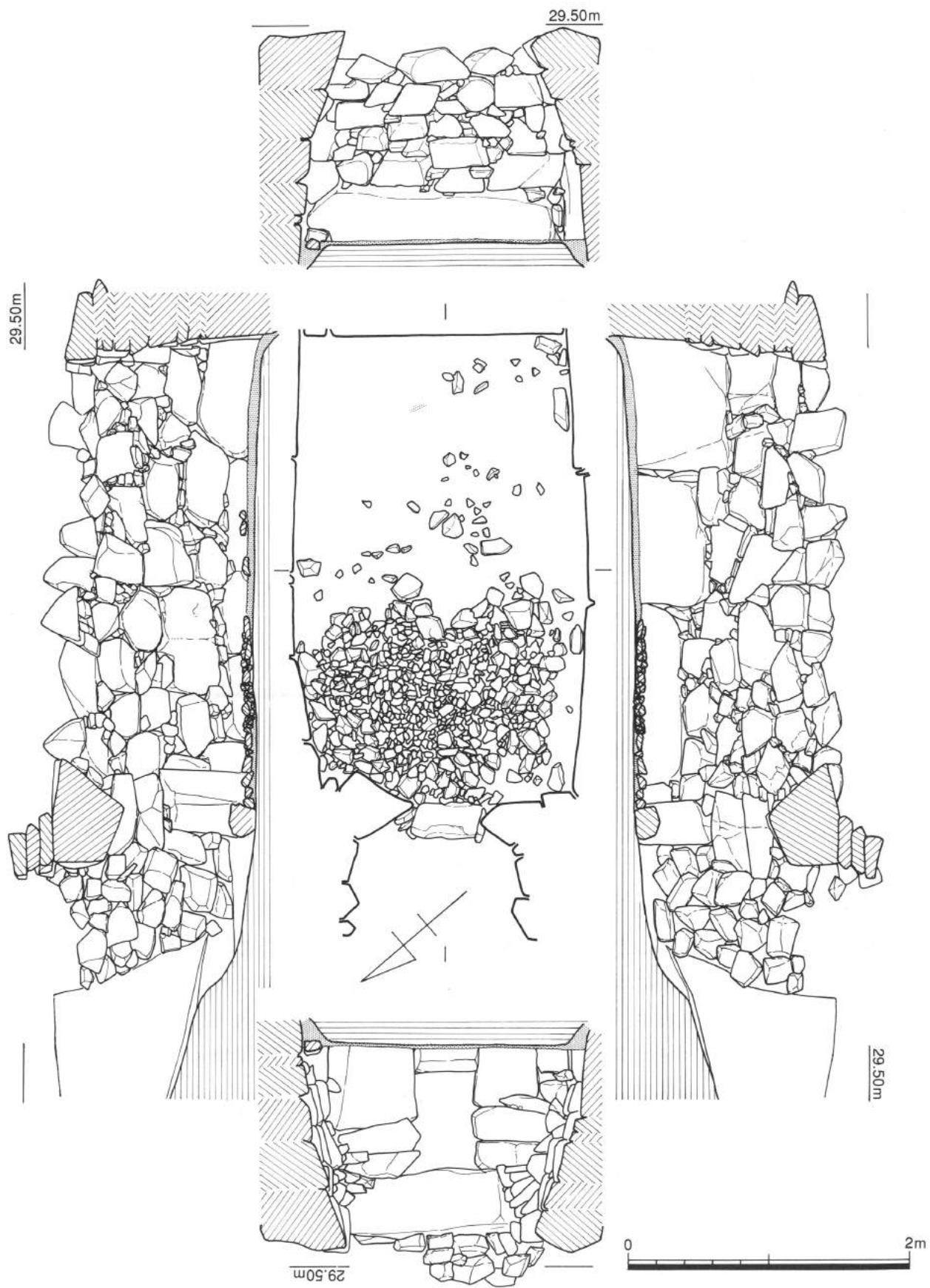
1. 墳丘 (第9図・第3表7・図版12)

本墳は、5区より検出された。盛土は、既になく、墳形も後世の造成によって定かではない。墳丘は、南西から北東方向にのびる自然の丘陵地形を利用して造られている。南西側では、墓域を区画する溝は検出されず、墓壙から15mほどのところで崖落ちとなり、北東側は、墓壙から2.5mのところで崖落ちとなる。前方後円墳とするには、外表施設などはなく、墳形もかなり荒らされていることから根拠に乏しいため円墳とする。

2. 主体部 (第27, 28図・第3表7・図版12)

主体部は、北西側の短辺に墓道が付設される、単室の横穴式石室である。墓壙の上面プランは、長方形を呈す。

調査前、天井石や側壁は、玄室内に落ち込んでいたため、チェンブロックおよび人力で転石および玄室内の埋土を除去した。その結果、玄室の側壁は、棚石の上面の高さまで残っており、棚石および閉塞石なども確認された。



第27図 4号墳主体部実測図 (1/40)

左側壁の腰石は、5石使用している。腰石より上に積まれた石材は、右袖石の高さに一旦そろえ、さらに石材を積んでいる。

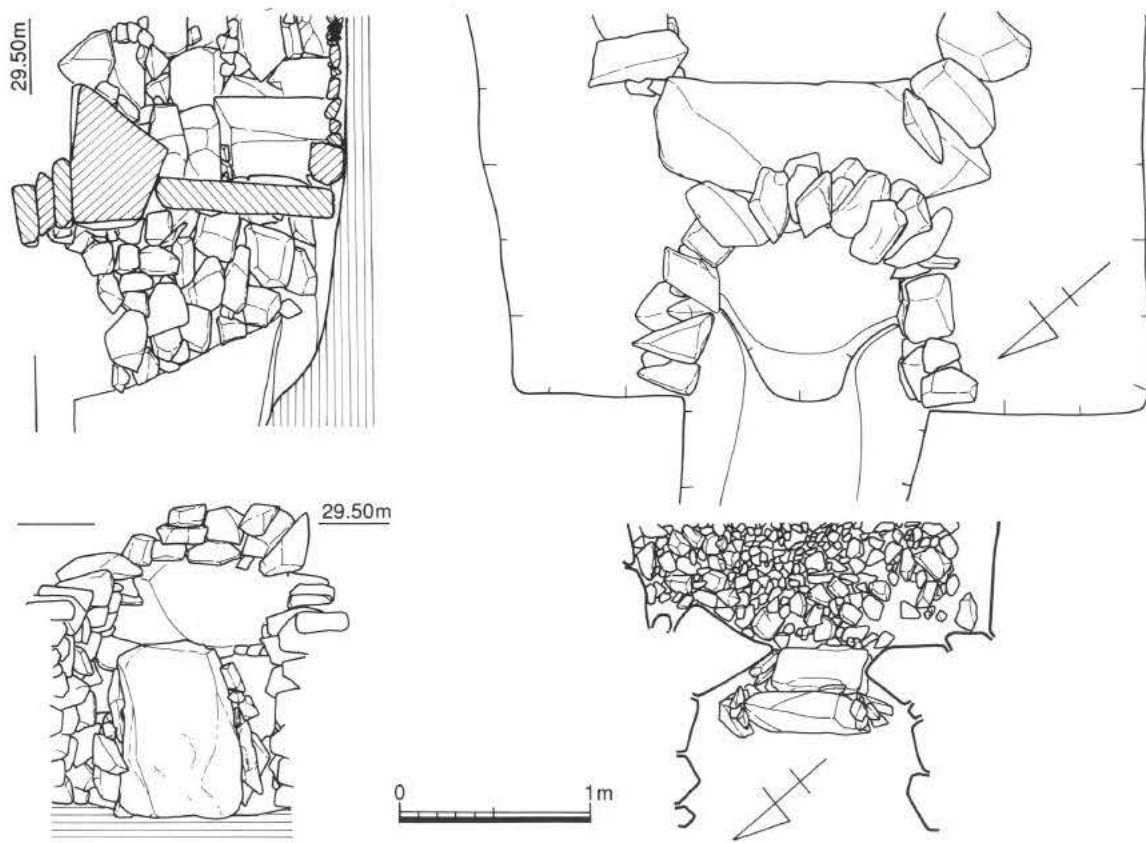
奥壁の腰石は、玄室幅の長さの石材を1石据えて、2段目は、左側壁の奥壁側の腰石に高さをあわせている。3段目からは、右側壁にあわせて積み上げている。

右側壁の腰石は、3石使用し、奥壁側の腰石が最も高く、中央の腰石がそれより約20cmほど低く、袖石側の腰石がさらに約20cmほど低くなっている。そのため上に積まれた石材も、高さの調節を考えている。低い腰石の上には、一段分の石材を積み中央の腰石の高さにあわせ、さらにその上に一段積んで、奥壁側の腰石の高さにあわせている。いずれの高さも揃った段階で、上に石材を積む。

玄室のプランは、やや胴張りである。

玄室の床面は、5～20cm大の石を敷いているが、奥壁側の2/3ほどが盗掘等によって紛失している。

袖石は、左右とも高さ60cmほどの立石を据え、その上に2段積んで楣石が載る。



第28図 4号墳閉塞状況図 (1/40)

前庭側壁は、墓道床面から積み上げ、袖石などに組み込まれ、さらに 棚石の上面まで達する。このことは、3号墳、14号墳に比べ、新しい構造である。

閉塞石は、高さ 90cm・幅 60cm の一枚岩で塞ぎ、隙間を埋めるように小礫を詰め込んでいる。

墓道は、北西側に開口し、外へ約 15 度の傾斜で上っていくが、玄門から長さ 1.5m のところで大きく削平される。

3. 出土遺物 (第 69～76 図・第 12 表 50～184・第 13 表 15～57・図版 31)

遺物はいずれも玄室埋土より現位置を留めずに出土した。土器の出土はみられず、おもに鉄器と装身具である。鉄器は、馬具 (杏葉・轡・輪鐙・辻金具)、武器 (鉄刀、鉄鏃)、工具 (小刀・刀子) などが出土し、装身具は、玉類で、勾玉・切子玉・管玉・空玉、土玉、丸玉および小玉が出土した。柱状片刃石斧も埋土中より出土したが、流れ込みである。

(5) 14 号墳

1. 墳丘 (第 6 図・第 3 表 8・図版 12)

本墳は、2 区 A のほぼ中央に検出した古墳である。盛土は既になく、墳丘裾は、丘陵地形をそのまま利用している。主体部の西側には、尾根を切って古墳を区画する溝が検出された。溝の規模は、幅 1.3m・深さ 30cm を測る。この溝から墳丘を復元すると、径 8m 程の円墳である。

2. 主体部 (第 29 図・第 3 表 8・図版 12)

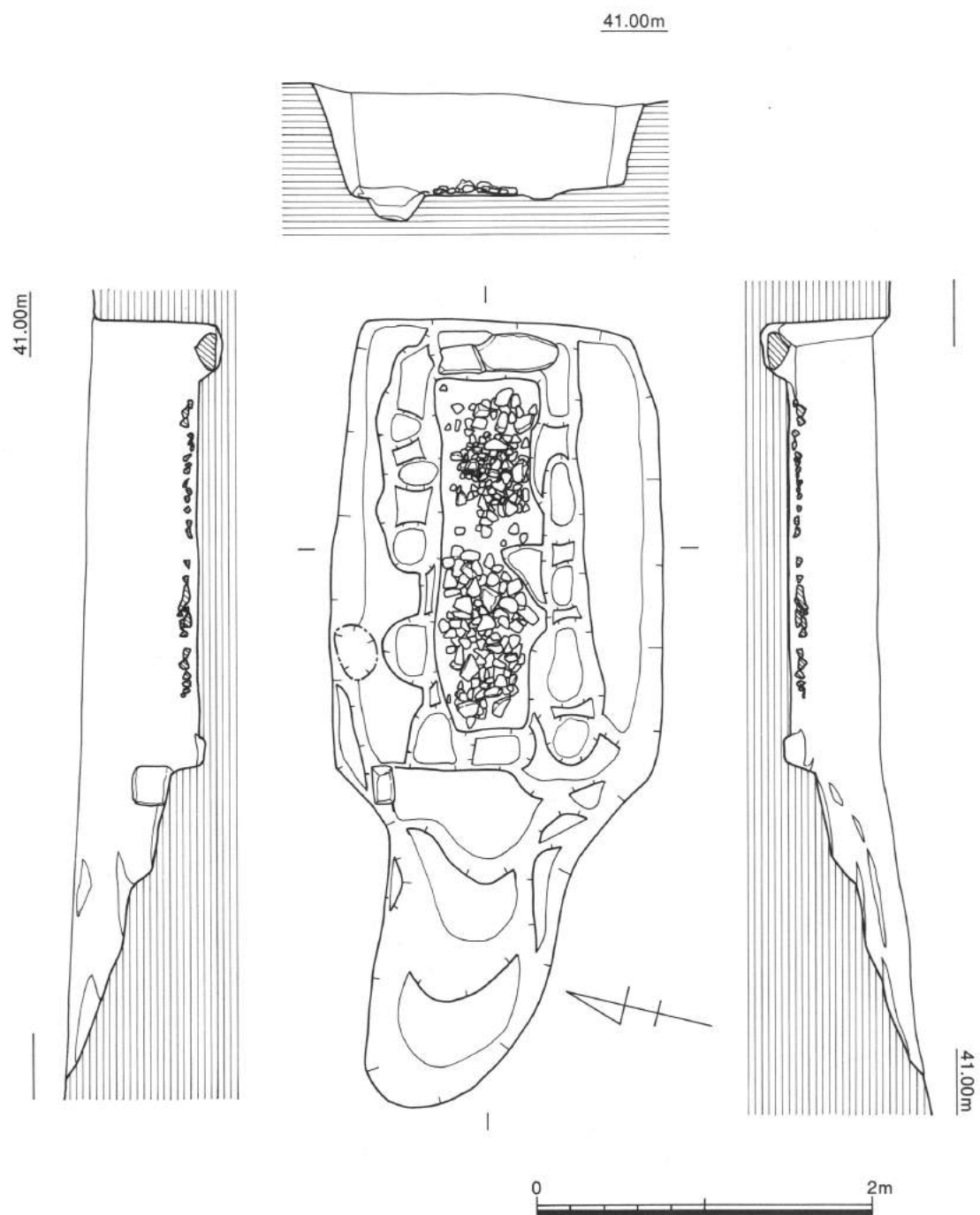
主体部は、単室の横穴式石室である。墓壙上面プランは、長方形を呈し、西側の短辺を削り出して丘陵の高い方へ墓道を付設している。

石材は、側壁や腰石など検出されず、すべてが抜かれていた。抜痕からプランを復元すると、奥壁 2 石・右左とも側壁 4 石・両袖石は、1 石ずつ据えるタイプと想定する。敷石は、ほぼ中央部に固まって検出された。

3. 出土遺物

遺物は、墳丘南側より須恵器小片が多数出土したが、ほとんど復元できず口縁部のみ図示した。(第 63 図 1, 2・第 11 表 42, 43・図版 28)

主体部からは、玄室床面の敷石上面より勾玉・丸玉などがまとまって出土した。(第 63 図 12～23・第 13 表 3～14・図版 30)



第29図 14号墳主体部実測図(1/40)

(6) 21号墳

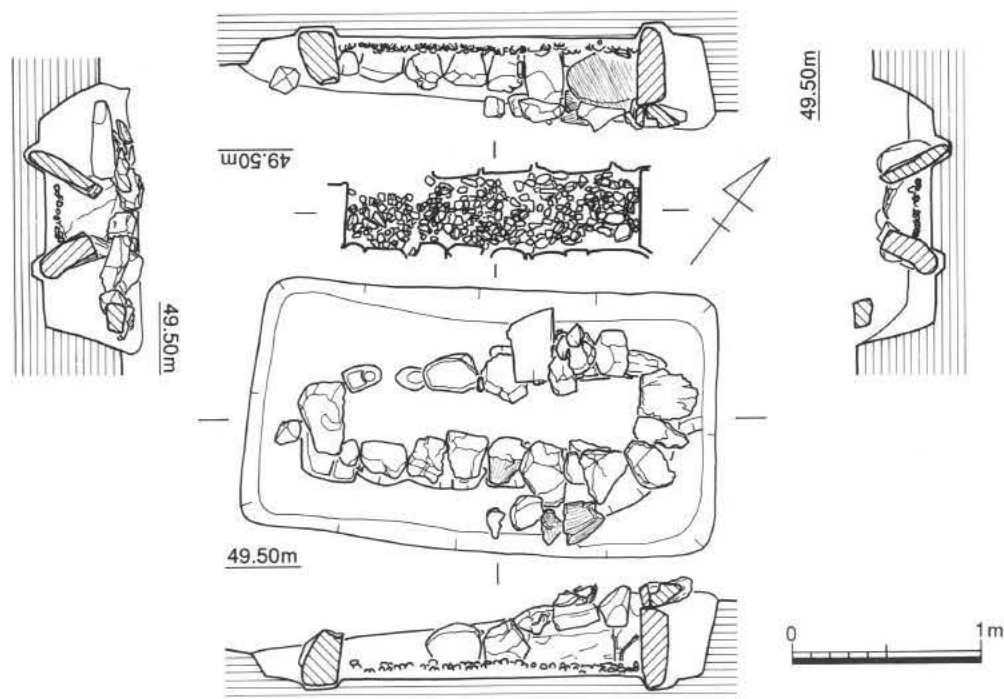
1. 墳丘 (第5図・第3表9・図版13)

本墳は、1区1号墳の後円部西側より検出された。盛土は、確認できなかったが、後円部と境を画する溝を検出した。溝の規模は、最大幅1.5m、深さ30cmである。基底面は、地山整形によって高まりを有しており、墳形は円墳である。推定規模は径約6m、高さ1mにも満たない。

2. 主体部 (第30図・第3表9・図版13)

内部主体は石棺系竪穴式石室である。墳丘上面がかなり削平されており、天井石などは既になかった。腰石は、両小口部に1石ずつ組み、右側壁に8石、左側壁に6石組んでいたと考えられるが、左側壁の南西側2石は、石拔痕である。北東側小口部から両側壁の3石目までは、腰石の上に1段石材を積んだ状態で検出した。石材は、腰石の一部に質の悪い風化の進んだ砂岩と火山岩を含むが、ほとんどが珪化木を使用している。床面は、敷石が検出され、3～5cm大の円礫が敷かれている。

遺物は、南東側の床面より、刀子(第68図6・第12表44・図版30)が出土している。



第30図 21号墳主体部実測図(1/40)

(7) 31号墳

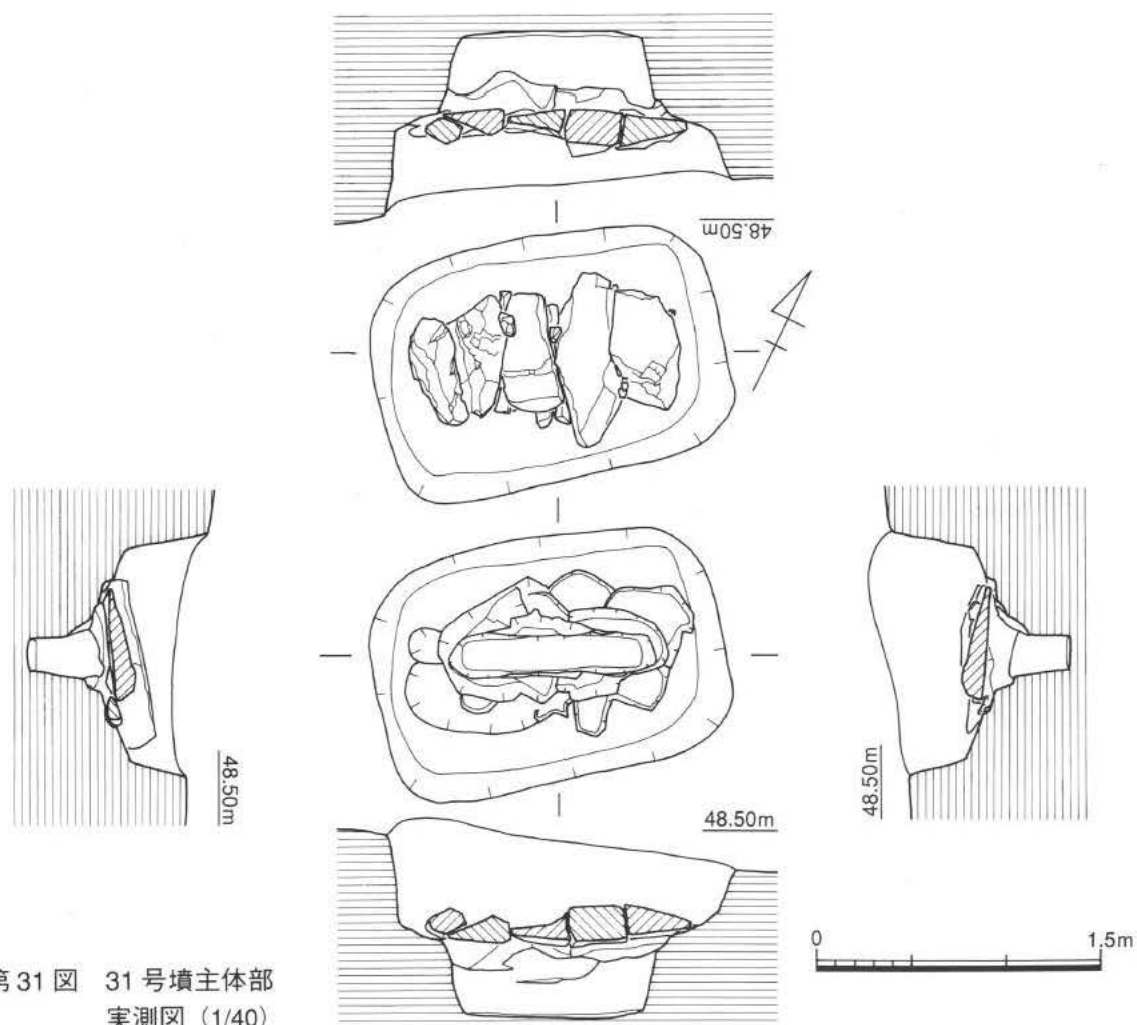
1. 墳丘 (第5図・第3表10・図版13)

本墳は、1区1号墳後円部の東側に検出されたもので、後円部裾から丘陵斜面のはじまる小範囲のスペースを利用して構築されている。そのため、溝は、後円部の裾をやや削り込んで西側をほぼ半周している。溝の規模は、幅1.30m・深さ60cmを測る。墳形は、西側の溝と東側の急峻な斜面を利用して、円形にしている。径は約5.5m、墳高は約1mである。

2. 主体部 (第31図・第3表10・図版13)

主体部は、墳丘のほぼ中央に検出された、石蓋土壙墓である。墓壙検出面は、隅丸長方形を呈し、墓壙上面から深さ40cmの所で、石蓋を検出した。遺構検出面から石蓋までの埋土は、暗黄灰色砂質腐植土および褐色砂質土や灰黄色砂質土などの互層でよく締まっている。

石蓋は5石使用され、隙間には拳大の礫と白色の粘土で目貼りされている。石蓋除去後は、素掘りの土壙墓が検出された。石蓋の土圧によって壁が一部崩壊し、土が内部に流れ込んでいた。遺物は出土していない。



第31図 31号墳主体部
実測図 (1/40)

(8) 38号墳

1. 墳丘 (第10, 32, 33図・第3表11・図版14)

本墳は、7区に所在する大形円墳である。規模は、復元径25.50m、墳高3.84～4.42mを測る。東側墳裾は、先の開拓によって大きく削平され、一部、墳丘上まで影響を及ぼしている。南側と西側墳裾は、集石墓群によって改変され、墳形を著しく乱している。

調査は、盛土土層と墳丘規模確認のための割付を実施した。墳丘上面はフラットな面を有していて、その中心部に杭を設定した。確実に墳裾が残っている、5区から伸びた丘陵の稜線上を見通して、杭を設定後直角に振った。

土層は、方位に基づき、5区を方向を南西側とし、以下北西側、北東側、南東側の4方向と、北側に段を有しておりその土層を確認するため、北側土層とした。

南西側は、墳裾から1.86mの高さより盛土がはじまる。墳裾の一部は、硬質の岩盤が露出している。盛土は、墓壙検出面まで35～40cmの厚さである。規模は、頂部の中心から墳裾までの距離13.14m、頂部の中心から墳裾までの比高差4.02m、頂部の中心から盛土基底部までの距離6.9mを測る。

北西側は、墳裾から2.42mの高さより盛土がはじまる。墳裾は、若干集石遺構の影響で段を有している。盛土は、墓壙検出面まで最大38cmの厚さである。規模は、頂部の中心から墳裾までの距離12.40m、頂部の中心から墳裾までの比高差3.84m、頂部の中心から盛土基底部までの距離6.52mを測る。

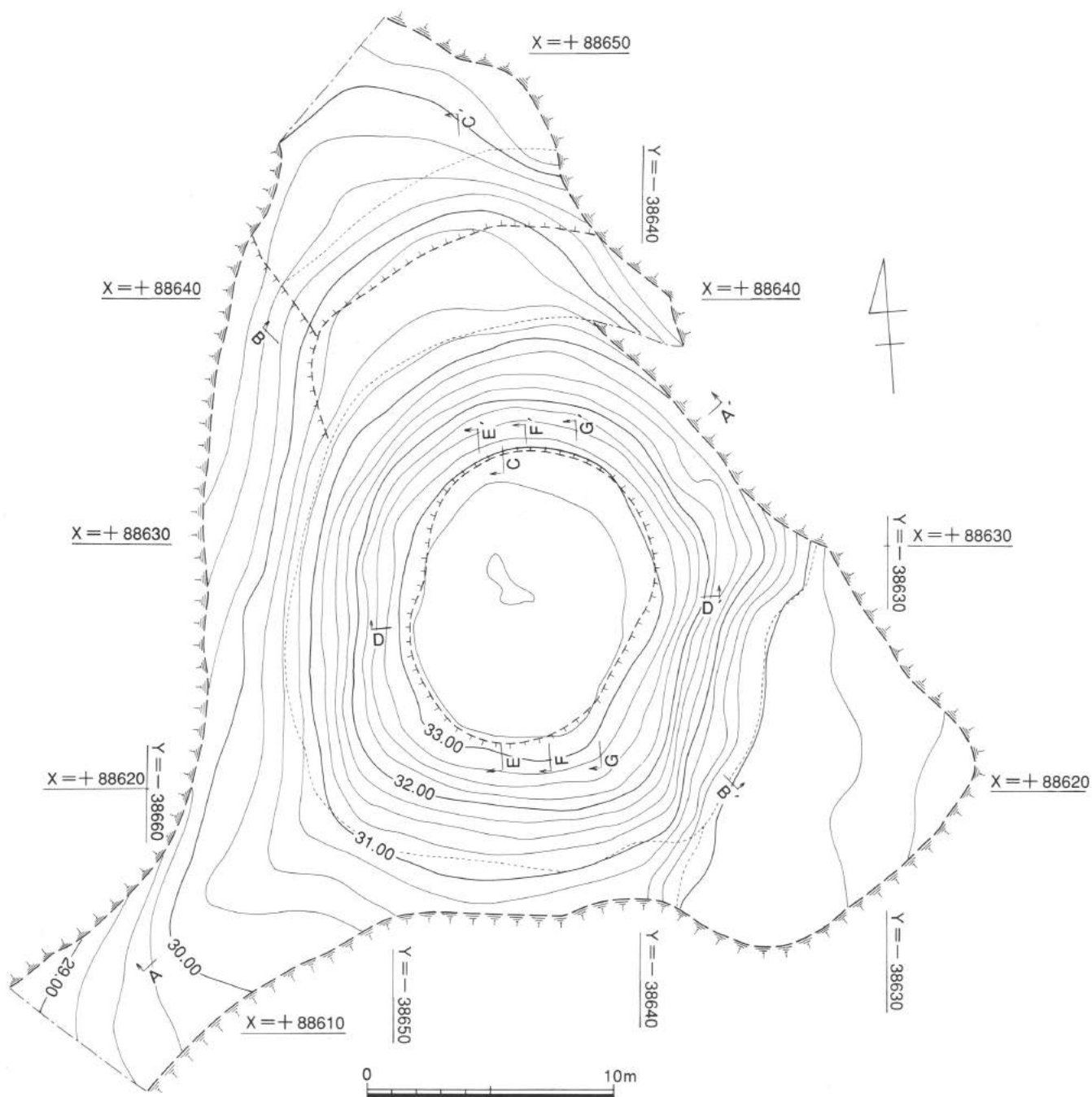
北東側は、墳裾が大きく削平される。盛土は、2層確認され墓壙検出面より最大34cmの厚さである。規模は、頂部の中心から盛土基底部までの距離8.46mを測る。

南東側は、墳丘から大きく削られており墳形を確認することはできないが、ほとんど岩盤が露出している。盛土は、3層確認され墓壙検出面より30～40cmの厚さである。規模は、頂部の中心から盛土基底部までの距離7.54mを測る。

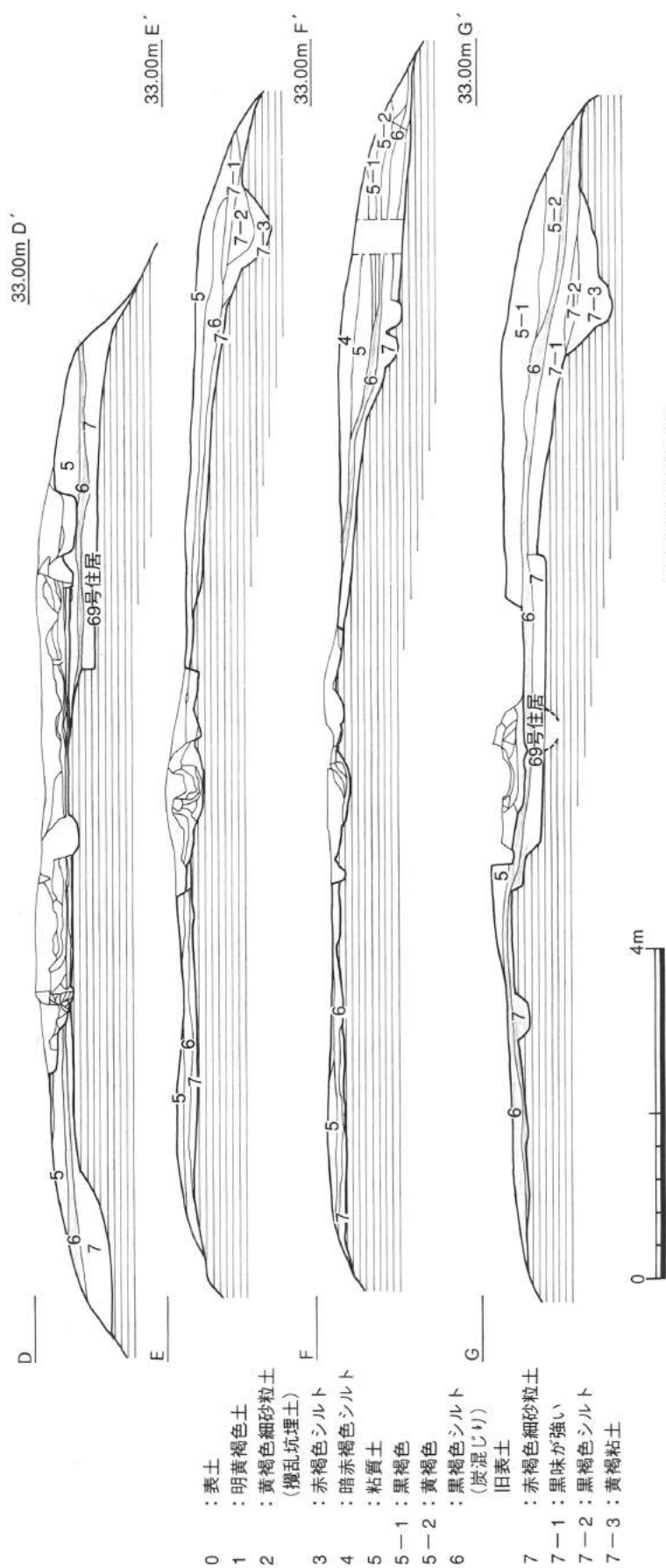
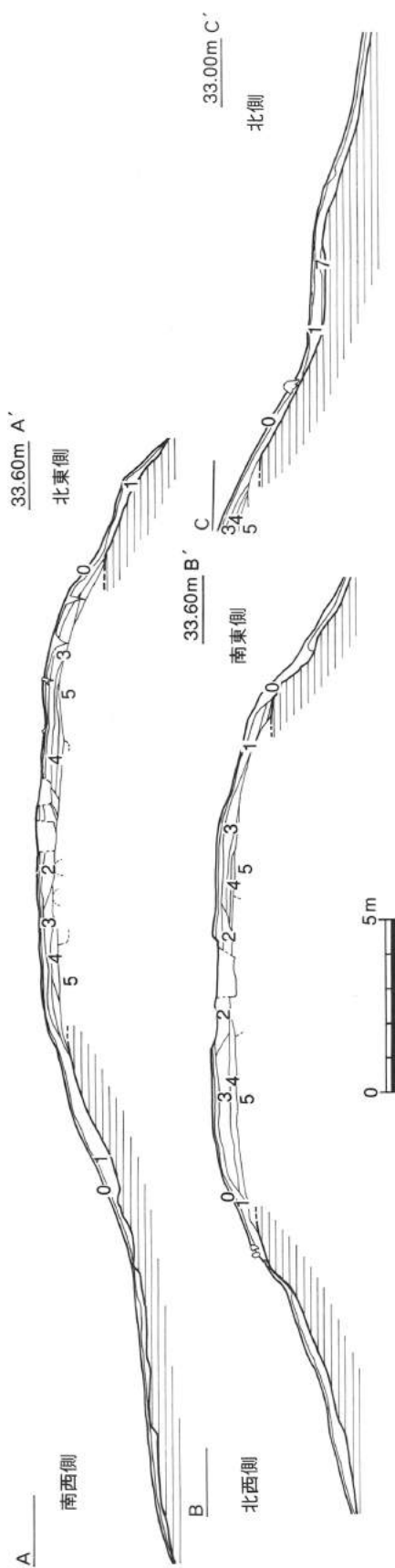
北側は、墳裾および段の基底部までいずれも盛土や祭祀遺物などの検出がなく、造出しの断定には至らなかった。段の規模は、墳裾から段の上面までの比高差1.00m、段の上面から盛土基底部までの比高差1.82mで、頂部の中心から墳裾までの距離17.50m、墳裾から段の基底部までの距離3.00m、頂部の中心から墳裾までの比高差4.42mを測る。

墳丘の中心付近で検出された、黄褐色細砂粒質埋土の締まった掘込みは、小規模な攪乱と考え、一部に主体部の粘土層まで達しているが、大きな影響はなかった。

以上、墳丘のほとんどは、丘陵を削り出して整形しており、葺石や埴輪といった外表施設はなく、周溝なども検出されなかった。



第 32 図 38 号墳現況測量図 (1/250)



- 0 : 表土
- 1 : 明黄褐色土
- 2 : 黄褐色細砂粒土 (攪乱坑埋土)
- 3 : 赤褐色シルト
- 4 : 暗赤褐色シルト
- 5 : 粘質土
- 5-1 : 黒褐色
- 5-2 : 黄褐色
- 6 : 黒褐色シルト (炭混じり)
- 旧表土
- 7 : 赤褐色細砂粒土
- 7-1 : 黒味が強い
- 7-2 : 黒褐色シルト
- 7-3 : 黄褐粘土

土層断面位置は第32図

第33図 38号墳墳丘土層図 (1/200・1/80)

2. 主体部（第34図・第3表11・図版15）

主体部は、粘土槨1基で、墳丘頂部のほぼ中央より主軸を東西に向けて検出された。墓壙長は、7.16mで、木棺内法長4.81mを測る。

主体部の検出は、盛土土層を確認しながら徐々に掘り下げ面的におこなった。主体部は、先の小トレンチによって白色粘土を検出していたため、粘土槨と想定し掘削を実施した。墓壙ラインが検出されたのは、30～40cmの盛土を除去した所で、粘土検出面とほぼ同レベルである。

墓壙は墳頂部に1基検出されたが、長軸が長いため、墳頂部を切り盛りして平らな面を整えている。具体的には、墓壙中央では、地山および旧表土から掘り込まれているが、両小口側では、旧地形が下っているため、盛土で水平に整形した後掘り込んでいる。

墓壙の平面形は、不定隅丸長方形を呈している。墓壙内の粘土槨の配置は、南側の墓壙ラインにあわせ、北東側はやや広い空間を保っている。

埋葬主体は、割竹形木棺を想定する粘土槨であるが、棺材は残っていない。棺の床面の中央部分に一部赤色顔料が検出された。

墓壙床面は、墓壙検出面からわずか5～30cmほどで検出された。

粘土槨の工程を復元すると次のようになる。

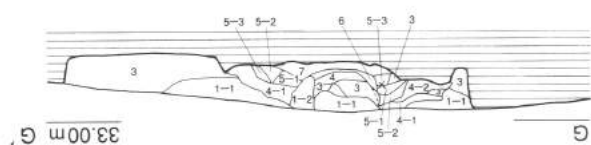
- 1・墓壙を掘り込み床面を水平にする。
- 2・埋葬壙の底部を横断面U字形に削り、その上に、暗黄白色の粘性の弱い粘土を敷いて棺台とする。
- 3・棺台に割竹形木棺を埋設後、側面を固定するため灰白色の粒子の細かい粘土を貼り付ける。
- 4・受棺の固定が終った段階で、棺外粘土上に副葬品を添え、死者に対する儀式を執り行なったものと想定される。
- 5・蓋棺を覆い、両小口部は、小口板の痕跡を確認していることから、割竹形木棺の外から蓋をしたものと想定される。
- 6・小口部の痕跡は、あらかじめ広く掘られ、小口板の設置後粘土で固定している。このとき、受棺と蓋棺も同時に黄白色粘土で目貼し、最終的には全面粘土で覆ったものと推測される。

3. 出土遺物

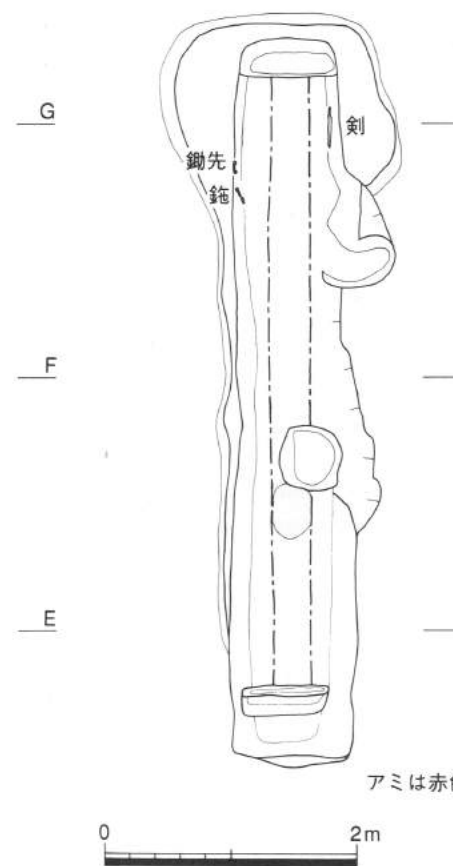
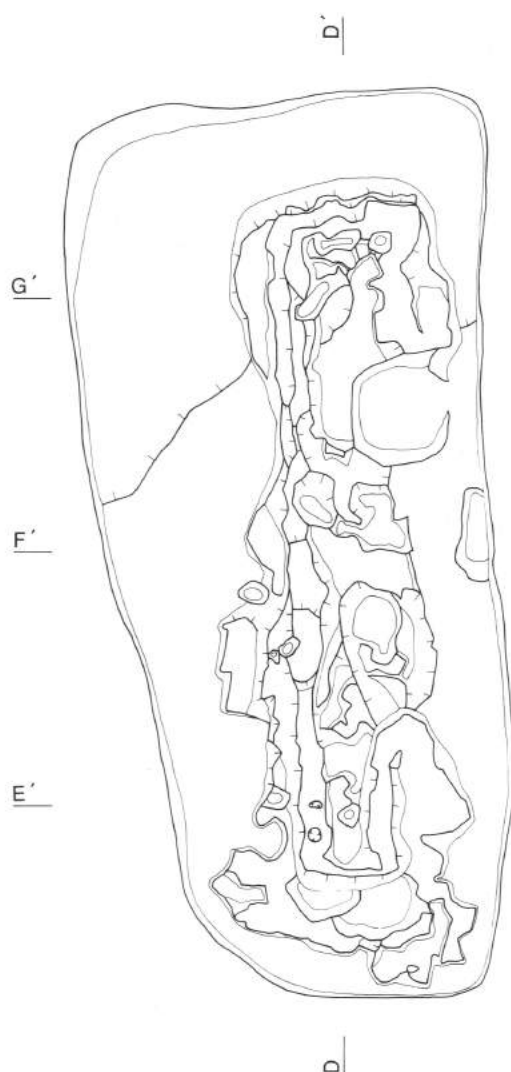
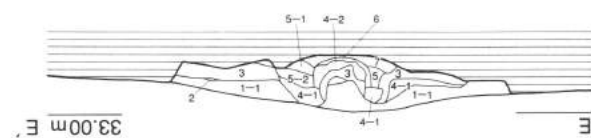
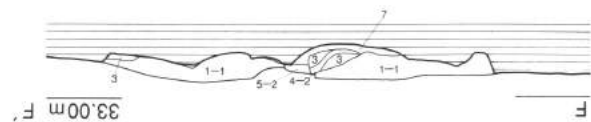
墳丘盛土内より器台（第64図1, 2）が出土したが、古墳には直接伴わない。旧表土下層より出土した壺底部、器台（第64図4, 5）、石剣は、いずれも弥生時代の遺物であり、地山整形以前に弥生の遺構があったと想定される。（第64図1～7・第11表46～50・図版29）

主体部からは、埋葬壙の東側で、粘土槨南側壁内より剣1が出土し、粘土槨北側壁内より鋤1・鉈1ほか出土した。いずれも棺を固定する粘土内からである。（第77図・第12表185～188・図版30）

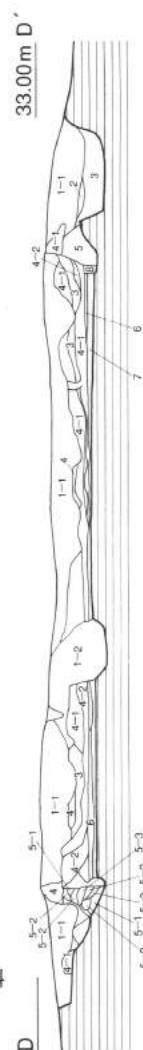
- 1-1 : 赤褐色細砂粒質土 (炭化物を含む)
- 1-2 : 暗赤褐色細砂粒質土
- 2 : 黄白色粘土
- 3 : 暗赤褐色粘質土
- 4-1 : 黄白色粘土
- 4-2 : 灰白色粘土
- 5-1 : 白色粘土
- 5-2 : 灰色粘土
- 5-3 : 黄白色粘土
- 6 : 赤褐色砂粒 (アミは赤色顔料) 棺床
- 7 : 暗黄白色粘土 (ボンボン) 棺台
- 8 : 暗赤褐色細砂粒土 小口部



×は鉄剣出土地点



アミは赤色顔料



第34図 38号墳主体部実測図 (1/60)

2. 石棺墓

2区Aより9号墓の1基、2区Bより10号墓・11号墓の2基、7区より83号墓の1基の計4基が検出された。

(1) 9号墓（第6図・第36図・第4表1・図版16）

本遺構は、2区Aの標高40mの傾斜面に検出された。墓壙は、西側で2段に掘り込んでいて、やや広い空間をもつ。石蓋は、隙間に小石を詰めさらに粘土で目貼りしている。

腰石は、北東側の3石が、倒れやや動いているが、その他は、内法の面を合わせている。

遺物は、北西側の蓋石と埋葬壙の間より鉈（第63図6・第12表45）を出土した。また、墓壙外の14号墳裾側より高坏（第63図3・第11表44・図版28）が出土した。

(2) 10号墓（第7図・第36図・第4表2・図版16）

本遺構は、2区Bの頂部より東へ5m、70cm下ったところで標高43.25～43.50mの範囲に検出された。10号墓の東側には、11号墓が検出されたが、11号墓の墓壙を切っている。10・11号墓が検出された地形は、フラットに整地されたように見えるが、6号集石遺構の築造によって削平されたものである。

蓋石、腰石ともに石材は、薄く板状に剥がれる性質の頁岩質砂岩を使用している。床面には、赤色顔料が塗布される。

遺物は、棺内の床面北側より管玉（第63図10・第13表1・図版30）が検出された。

(3) 11号墓（第7図・第37図・第4表3・図版16）

本遺構は、10号墓によって北西側の墓壙が切られる。石材は、埋土内より少量検出されたが、現位置を留めず床面まで掘り下げた結果、抜跡が確認された。棺材は、抜跡から判断して、9号墓に近いタイプと考えられる。

遺物は、南側の墓壙外より高坏（第63図4・第11表45・図版28）が出土した。

(4) 83号墓（第9図・第40図・第4表4・図版16）

本遺構は、5区4号墳の南東側斜面より検出されたが、地形の改変によって南側が大きく破壊される。棺は、両側壁2石と小口1石、蓋石1石がかろうじて残っている。蓋石周辺には、固定のための粘土が検出された。石材はいずれも、変成岩質の塊石を使用している。

3. 石蓋土壙墓

1区より22号墓の1基、2区Aより5号墓と19号墓の2基、2区Bより12・13・73・74・75・77・78号墓の7基、3区より34号墓の1基が検出されている。

(1) 5号墓 (第6図・第38図・第5表1・図版17)

本遺構は、2区Aの最高所である標高41.40mより検出された。墓壙の北側は、盗掘による攪乱が認められ、石蓋も南側の1石を残してすべて欠失する。この東側では蔵骨器の破片が現位置を留めず出土した。(第62図1, 3, 6・第11表35, 37, 40・図版28)

(2) 12号墓 (第7図・第38図・第5表2・図版17)

本遺構は、2区Bの頂部である標高44.20mより検出された。石蓋は、7石使用し、両側から3石ずつ置き、最後に中1石置いているものと想定される。石蓋除去後、西側の小口部には、板石を立てており、床面西側と板石の間には、赤色顔料による枕状の高まりを有している。蓋石の下面と埋葬壙床面までの空間は、18cm程度で狭い。各石蓋の断面を観察すると、小口の板石に載った蓋石には変化がないが、それ以外の蓋石は、下に沈み込んでいる傾向が伺える。

(3) 13号墓 (第7図・第39図・第5表3・図版17)

本遺構は、2区Bの頂部より北西へ約12mで、標高42.90mより検出された。石蓋は、6石使用している。石蓋除去後すぐに地山が検出された。

(4) 19号墓 (第6図・第38図・第5表4・図版17)

本遺構は、5号墓の東約4mの所で検出された。南側には隣接して8号墓が検出されている。石蓋は、3石使用され、石材は花崗岩でいずれも風化している。隙間は、小石をはめ込み粘土で目貼りしている。石蓋除去後、埋葬壙の深さは、38cmを測る。

(5) 22号墓 (第5図・第35図・第5表5・図版18)

本遺構は、1号墳の西側くびれ部付近で検出された。1号墳の地山整形後に造墓されたものと想定される。石蓋は、3枚の石材を2段に重ねた状態で検出された。規模は小さく埋葬壙も狭いため小児用と考えられる。

(6) 34号墓 (第8図・第40図・第5表6・図版18)

本遺構は、3区の頂部より15m南東側へ下った稜線上で標高40.6mに位置する。当初より墓壙は認められず、石蓋が検出された。石蓋は、北西側に4石認められ、そのうち1石は、埋葬壙内に落ち込んでいた。埋葬壙の長さから石蓋は、南東側に3石程あったものと想定されるが欠失する。

(7) 73号墓 (第7図・第39図・第5表7・図版18)

本遺構は、2区B頂部から南へ約10mの傾斜面に検出された。そのため墓壙は、南側が欠失する。石蓋は、7石検出された。石蓋の断面は、西側の小口部が高く、中ほどから東側は全体的に沈み込んだ状態である。埋葬壙は、墓壙や石蓋の規模に比べるとかなり小さい。

(8) 74号墓 (第7図・第39図・第5表8・図版18)

本遺構は、73号墓の西側に隣接した所で検出した。遺構の上に樹木があり、石蓋のほとんどは、根に巻き込まれた状態で検出された。そのため現位置を保つものは1石のみである。墓壙は、北側で残りが良く、南側では欠失する。石蓋を除去後、石蓋下面から埋葬壙の床面までは、11cm程度で浅い。床面には、所々赤色顔料が認められる。

(9) 75号墓 (第7図・第39図・第5表9・図版19)

本遺構は、2区Bの頂部から北西側に約17mで、標高42.1mに位置する。地形は、西側へ緩く傾斜しており、トレンチ調査でこれより西側での遺構は、認められなかった。石蓋は、4石検出され、埋葬壙は、石蓋の中軸よりやや北側にずれて検出された。床面は、周辺地形と同様の傾斜があり、東側が高く一部に赤色顔料が検出された。

(10) 77号墓 (第7図・第39図・第5表10・図版19)

本遺構は、2区Bの頂部から北北西側に約20m、標高42.2mに位置する。南側3mには76号墓が検出されている。石蓋は、4石検出された。石蓋を除去後、石蓋下面から埋葬壙の床面までは、約10cm程度で浅い。

(11) 78号墓 (第7図・第38図・第5表11・図版19)

本遺構は、2区Bの頂部から北へ25mで、標高41.50mの稜線上に位置する。石蓋は、8石検出され、そのうち4石が埋葬壙内に落ち込んでいる。埋葬壙の東側壁は、崩落時の石蓋の重圧で変形している。

4. 木棺墓

1区より80号墓、2区Aより15号墓、5区より72号墓と3基検出された。

(1) 15号墓 (第6図・第37図・第6表1)

本遺構は、9号墓の北側より隣接して検出されたが、主軸方向は等高線にほぼ直角である。墓壙の西側には、弧状に溝が検出されたが、墓域を区画するものかどうかは不明である。墓壙床面には、組合木棺を想定する掘り込みが4方に検出され、北側では棺外に広い空間をもつ。

(2) 72号墓 (第9図・第40図・第6表2)

本遺構は、5区4号墳主体部の左側墓壙上面と北東側崖際の間より検出されたが、位置的には、7区38号墳との関連の強い遺構と考えられる。埋葬壙の床面は、U字形を呈し、一部で粘土の使用が認められ、割竹形木棺を想定する直葬である。

(3) 80号墓 (第5図・第35図・第6表3・図版19)

本遺構は、1区1号墳後円部の南側より検出され、これより南は急な下り傾斜となる。墓壙は、北側のコーナー部分が一部残ることから2段掘りと考えられる。埋葬壙は、横断土層の観察により、床面両裾で灰白色シルト土層が確認され、中央床面は地山を削り込んで断面をU字形にしていることから、割竹形木棺を想定する直葬である。

5. 土壙墓

1区より23・27・28・29・79号墓の5基、2区Aより8・16・17・18・20号墓の5基、2区Bより7・76号墓の2基、3区より33号墓が検出された。

(1) 7号墓 (第7図・第37図・第7表1・図版20)

本遺構は、2区B13号墓の南2m程の所より検出された。墓壙の平面形は、楕円形を呈し、中央部分に埋葬壙が検出された。埋葬壙の深さは、検出面から床面まで10cm程度で浅い。

(2) 8号墓 (第6図・第37図・第7表2・図版20)

本遺構は、2区A19号墓の南側に隣接して検出された。墓壙を検出する前に礫が4石並んで出土したことから、先に礫を計測し除去した後でその直下より墓壙を検出した。

(3) 16号墓 (第6図・第39図・第7表3)

本遺構は、9号墓の南東側約2m、標高39.6mの位置で検出された。墓壙の東側の小口は、板石を使用している。墓壙西側は、かなり削平され、一部は床面に達する。墓壙内の中央には、

浅い埋葬墳があったと考えられ、床面に段を有している。床面東側の一部には、赤色顔料が認められる。

(4) 17号墓 (第6図・第37図・第7表4)

本遺構は、16号墓のさらに南側より検出された。2区内では、最も低い標高 39.5m に位置する。埋葬墳は、かなり削平され、北東側コーナーが、一部残る程度である。

(5) 18号墓 (第6図・第37図・第7表5)

本遺構は、2区Aの8号墓、19号墓の東側 1m 程の所より検出された。墓墳は、素掘りである。埋葬墳はかなり削平を受け、東側では床面に達する。

遺物は、埋土よりガラス玉 (第63図11・第13表2・図版30) が出土した。

(6) 20号墓 (第6図・第37図・第7表6)

本遺構は、2区Aの稜線上から北へ傾斜する標高 40.40m より検出された。墓墳は、等高線に平行で検出され、標高の高い南側では2段確認できる。埋葬墳は、墓墳の主軸とほぼ平行で、中央より検出された。埋葬墳床面の北西側が、一段高くなることから頭位の可能性がある。

(7) 23号墓 (第5図・第35図・第7表7・図版20)

本遺構は、1区2号墳の掘切りの埋土中より礫が検出された。礫は、埋葬墳の上面で東西両小口側より検出され、特に東側の礫は、西側に比べ数が多く、小口部を囲むように検出された。埋葬墳は、地山より掘り込まれ、礫を検出した段階での掘り込みは確認できなかった。

(8) 27号墓 (第5図・第35図・第7表8)

本遺構は、1区1号墳の後円部南西側のフラットな地形に検出された。21号墳の主体部に隣接する。墓墳は、1段の素掘りである。79号墓の埋土とよく似ていることから同時期と考えられる。

(9) 28号墓 (第5図・第35図・第7表9)

本遺構は、1号墳の後円部南西側のフラットな地形に検出された。7号墓と79号墓のほぼ中間にある。墓墳は、1段の素掘りで、西側壁の膨らみは、掘りすぎによるものである。27号墓同様、79号墓の埋土とよく似ていることからいずれも同時期と考えられる。

(10) 29号墓 (第5図・第35図・第7表10・図版20)

本遺構は、1号墳後円部の南側より検出され、80号墓の東 2m ほどの所に位置する。墓墳は、素掘りである。埋葬墳東側には、小口に花崗岩の板石を使用している。

(11) 33号墓 (第8図・第40図・第7表11・図版20)

本遺構は、3区の最高所付近で、標高41.10mに検出された。岩盤に掘り込まれていたため墓壙は比較的保存状態は良かった。しかし、墓壙西側には、2段掘り込みの痕跡を残しているが、上面はかなり削平されている。埋土は、壁面から剥がれ落ちた岩盤の破片やその風化した砂粒土で、締まりはなかった。床面は、全面に赤色顔料が塗布され、一部壁面にも赤色顔料が認められた。

遺物は、墓壙床面の南東側で北東壁際より鉄剣を出土した。切先は、北西方向にむけていることから、被葬者は、南東方向に頭位をむけ、右手の肩部に柄を向け切先を脚側に置いていたものと推測される。

(12) 76号墓 (第7図・第37図・第7表12・図版20)

本遺構は、2区Bの頂部から北北東側へ約17m、標高42.50mより検出された。平面プランが楕円形を呈し、床面の断面はU字形である。

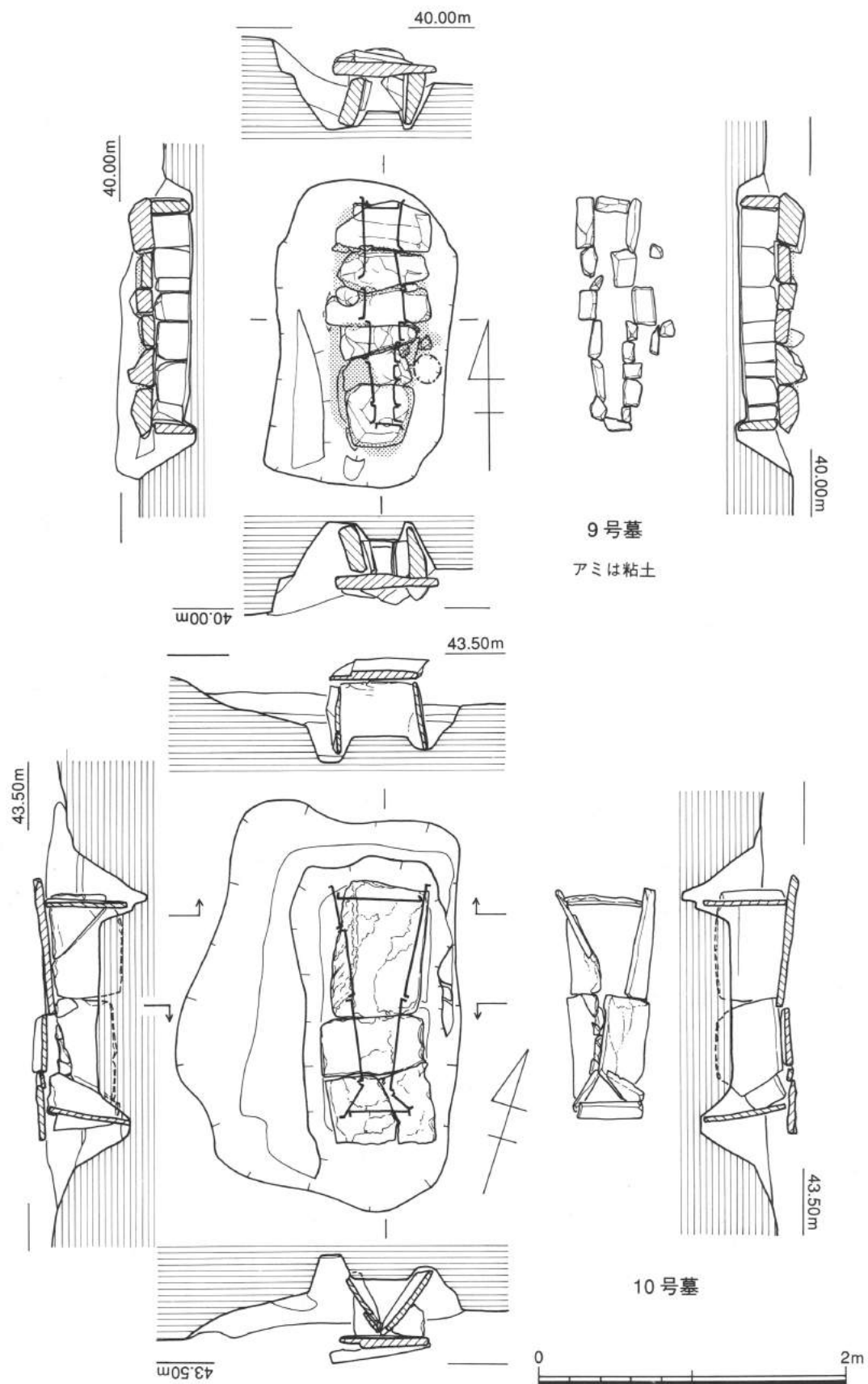
遺物は、墓壙中央の床面より鉄鏃(第63図7～9・第12表46～48)が出土している。

(13) 79号墓 (第5図・第35図・第7表13・図版20)

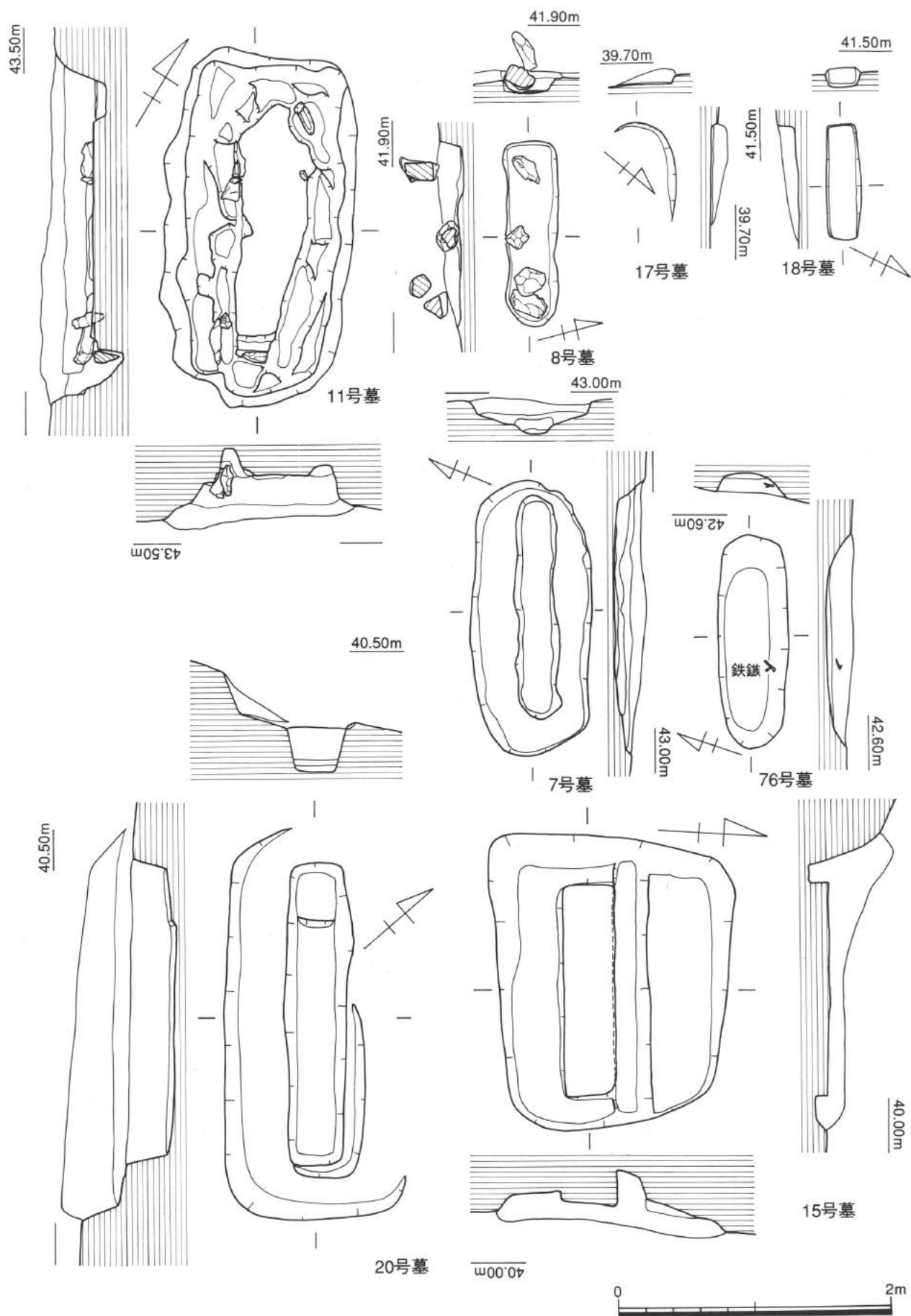
本遺構は、1区1号墳の後円部南側より検出された。床面西側では、深さ約40cmの掘り込みを検出した。これは足元掘り込みタイプの土壙墓であることから弥生時代中期から後期にかけての遺構と考えられる。

- 48.80m

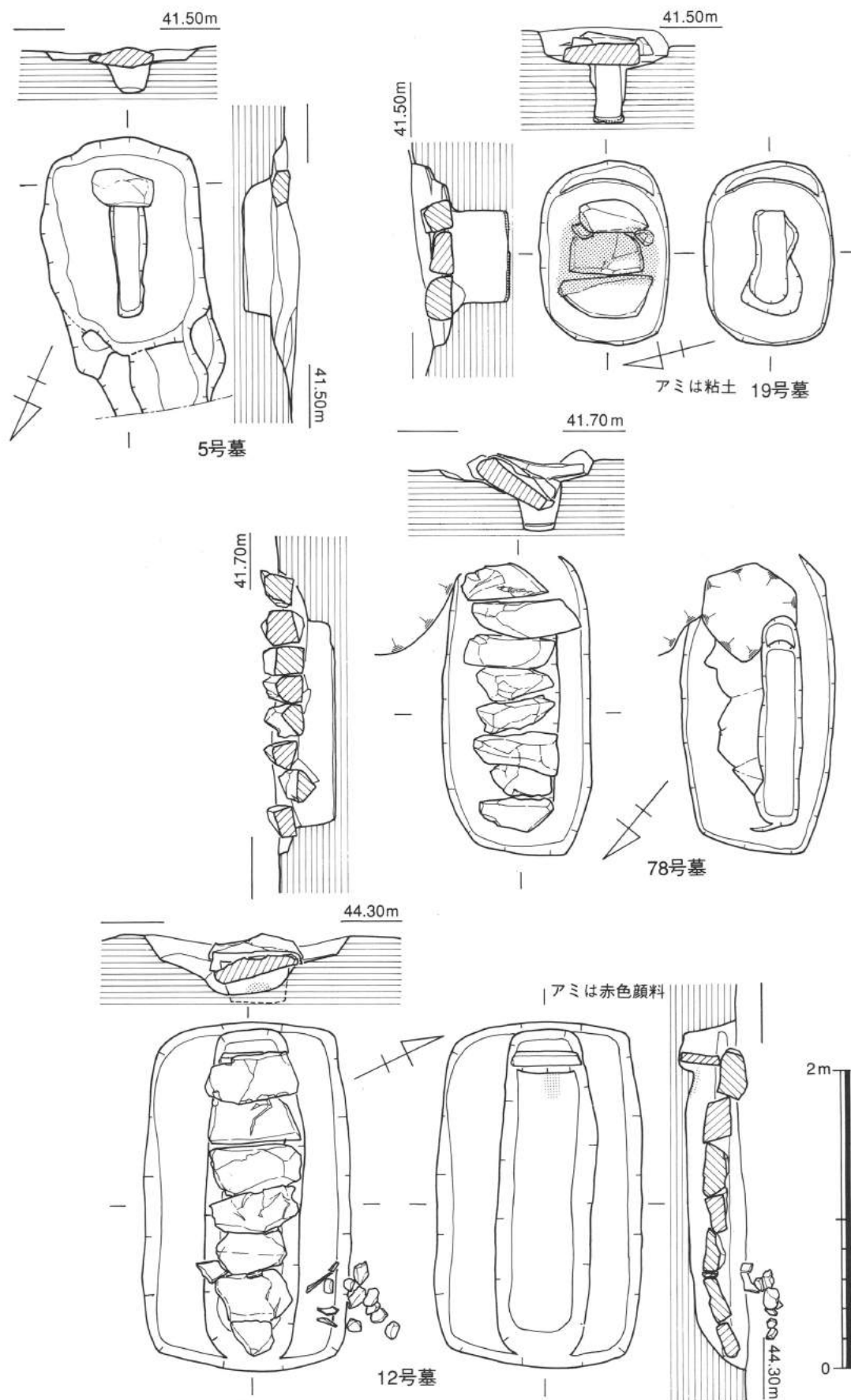




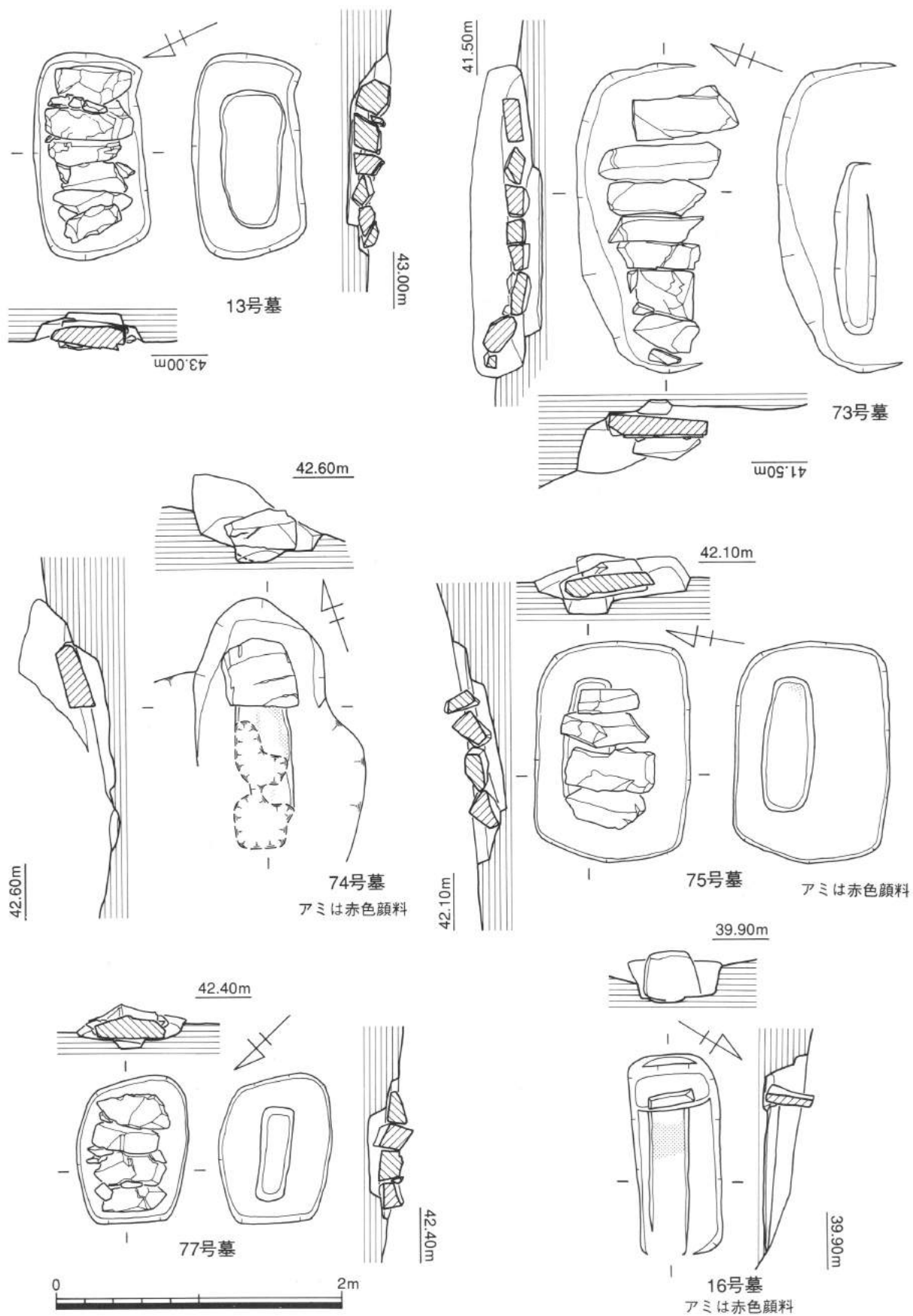
第36図 2区遺構実測図1 (1/40)



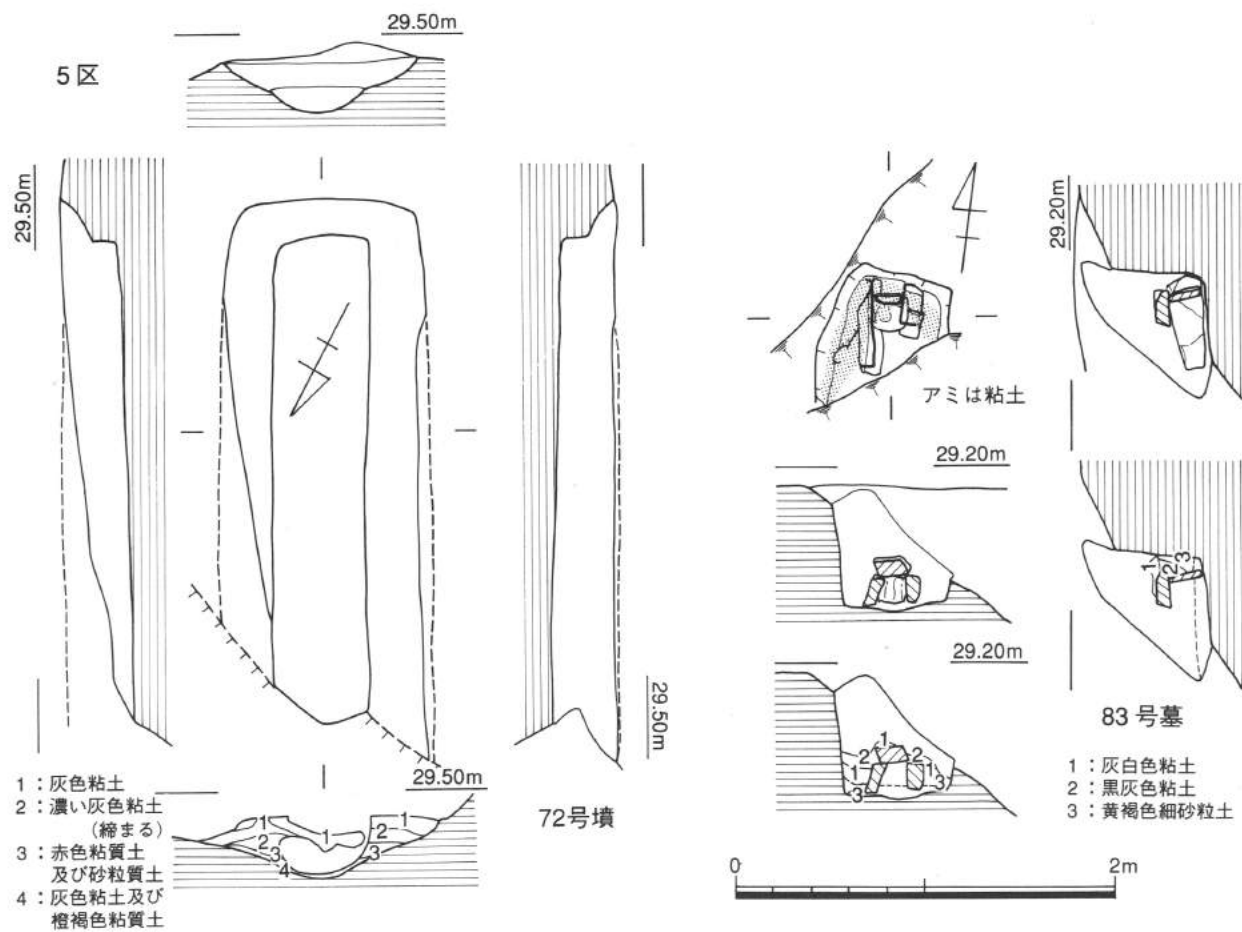
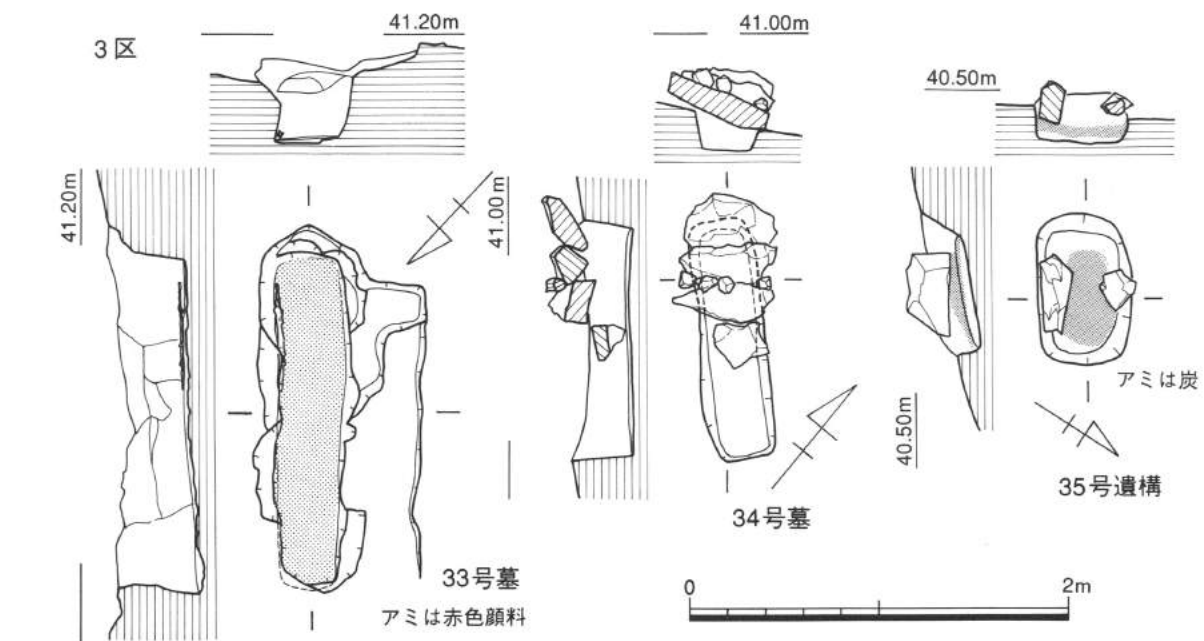
第37図 2区遺構実測図2 (1/40)



第38図 2区遺構実測図3 (1/40)



第39図 2区遺構実測図4 (1/40)



第40図 3区・5区遺構実測図 (1/40)

6. 集石墓

範囲の設定（第41図・図版21、22）集石墓群は、7区38号墳の墳裾より検出されたが、方位によってその分布にばらつきがみられるためその範囲を整理する。

南側に面した墳裾では、集石墓のほとんどが集中しているが、西側墳裾では5基、東側墳裾と墳頂に1基ずつ、北裾で1基検出された。北東側では、墳裾部の一部が削平されていることにもよるが、現状ではまったく検出されなかった。

これらを各群に分けると次のようになる。

墳裾南側をⅠ群とし、Ⅰ群の石列は、上下2列で検出されたため、上段と下段にわけた。Ⅰ群の西側に一段下って検出されたところをⅡ群とし、墳裾西側と北側をⅢ群、東側墳頂と墳裾をⅣ群とした。

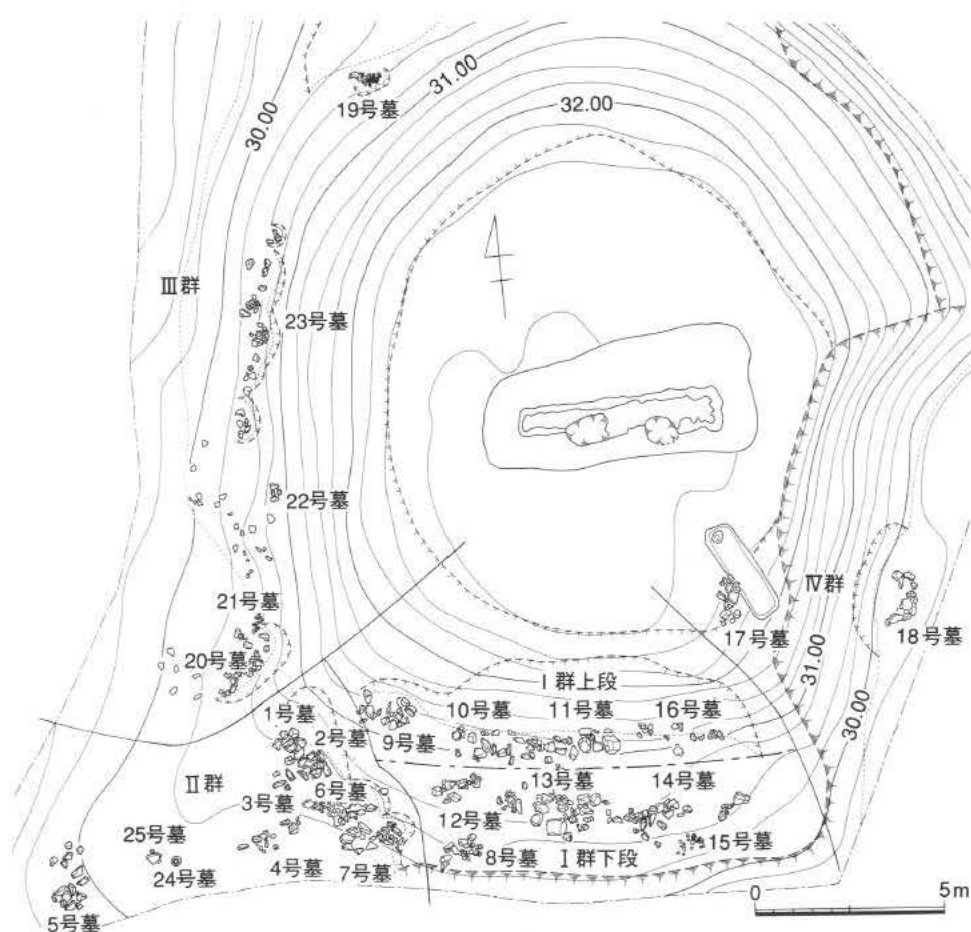
Ⅰ群上段は、9・10・11・16号墓の4基

Ⅰ群下段は、8・12・13・14・15号墓の5基

Ⅱ群は、1・2・3・4・5・6・7・24・25号墓の9基

Ⅲ群は、19・20・21・22・23号墓の5基

Ⅳ群は、17・18号墓の2基



第41図 集石遺構配置図 (1/200)

(1) 9号墓 (第42図)

I群上段の西端より検出された。墳裾の一部を削って平らな面を造りだし、南西から南東側の段落ちにかけて石を巡らす。巡らせた石列内には、2区画あり、東側のA区画と西側のB区画にわけた。主軸は、 $N-64^{\circ}-W$ を示す。

A区画は、南東側にかけて石を巡らし、さらにB区画の石列を共有し方形プランの輪郭を構成する。その中央部に自然石の尖った石材を立石としている。立石の下部には、径26cm・深さ13cmほどの小土壌が検出されたが、骨片や遺物などは出土しなかった。

B区画の輪郭は、南西側にかけて石を巡らした部分で、はっきりした区画はない。輪郭の内部に、長径28cm・短径25cm・深さ12cmの小土壌を検出した。小土壌内からは、元祐通宝と元豊通宝の銅銭2枚(第79図10, 11・第10表10, 11・図版29)が出土した。

(2) 10号墓 (第43図)

9号墓の東で、長さ4m、幅60cm程度の石列を設ける。その範囲にはA～Eの5区画で構成されていると想定されるが、明瞭な区画がないため判断しがたい。主軸は、 $N-87^{\circ}-W$ を示す。西端に検出されたA区画は、円礫群で構成されている。明瞭な小土壌は確認できていないが、不定形土壌内の一部から骨片が検出された。B～E区画も、小土壌は検出されなかった。C区画内からは、永楽通宝(第79図12・第10表12・図版29)が出土した。

(3) 11号墓 (第42図)

10号墓の東で2区画検出された。主軸は $N-89^{\circ}-W$ を示す。

A区画中央には、台状の方形の礫を置き、その左右には、2石で区画石を据え、方形の礫の背後には、丸みのある立石を置く。規模は、横89cm・奥行60cm程度を測る。

B区画は、前面中央に台状で方形の礫を置き、その左右には、2石で区画石を据え、背後には、円礫群で隙間を埋めている。規模は、A区画に比べやや大きく、横1.6m・奥行75cmを測る。

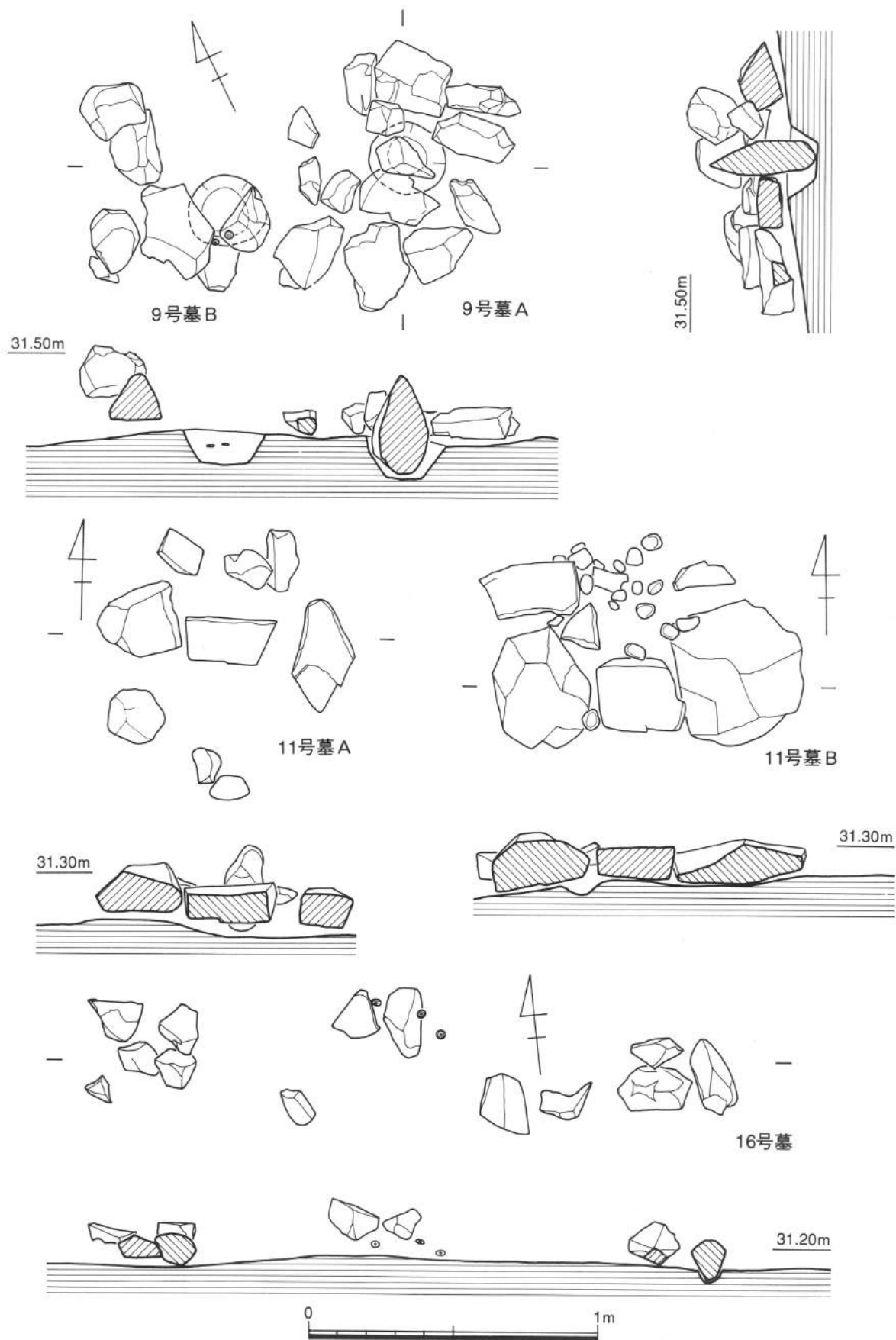
(4) 16号墓 (第42図)

11号墓の東より3つの集石が列状に検出された。主軸は $N-89^{\circ}-W$ を示す。いずれも小土壌は検出されなかったが、中央の集石より銅銭4枚(第79図13～16・第10表13～16・図版29)出土した。

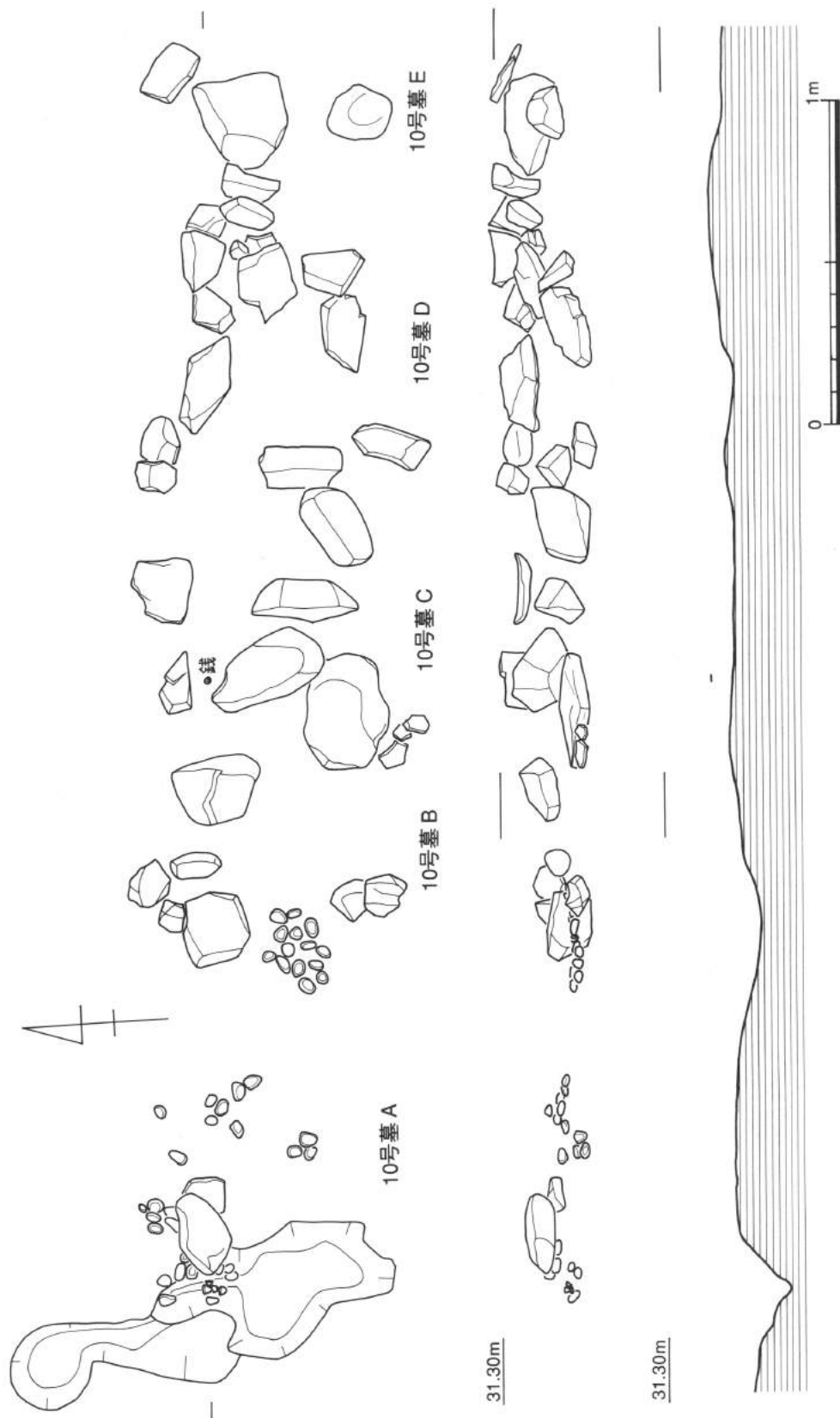
(5) 8号墓 (第44図)

I群下段の南西隅に2区画検出された。主軸は、 $N-66^{\circ}-E$ を示す。

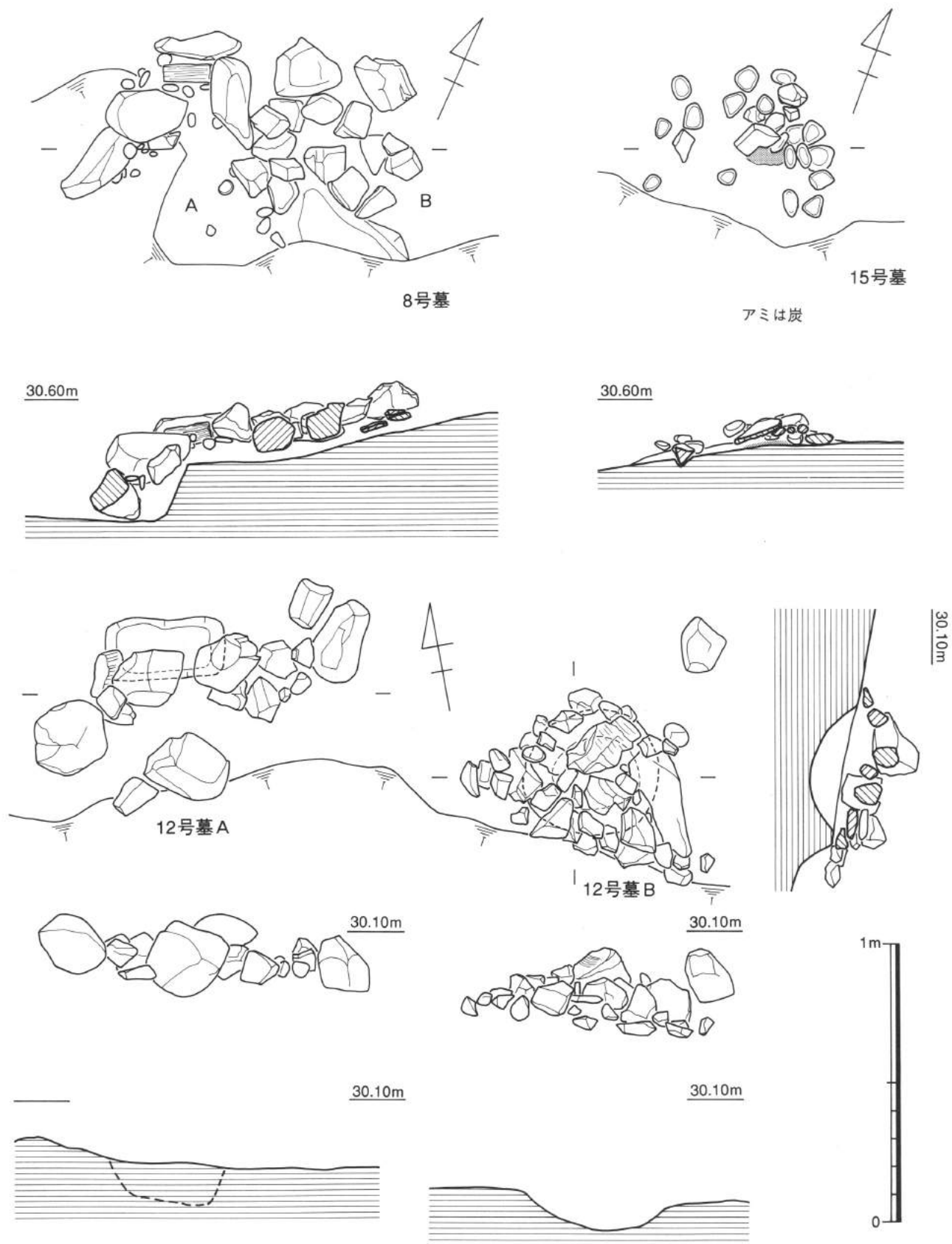
A区画は、方形に礫を組んで輪郭を造り内部に円礫を敷くタイプであるが、南側の段落ちに造墓されているために、一部崩落している。



第 42 図 I 群上段遺構実測図 1 (1/20)



第 43 图 I 群上段遺構実測図 2 (1/20)



第44図 I群下段遺構実測図1 (1/20)

B区画は、磔を中心に据え、そのまわりを磔で2重に囲むタイプである。一部は、A区画の区画石と共有している。

(6) 12号墓 (第44図)

I群下段の西端に2区画検出された。主軸は、 $N-80^{\circ}-W$ を示す。

A区画は、20～30cm大の磔を東西方向に置いている。磔群の範囲は、1.3mを測る。下部構造は、磔群の中央よりやや北西側で、上面プランが長方形を呈す小土壙を検出した。土壙内から人骨片が出土した。

B区画は、東側1辺が長さ40cm・幅15cmの細長い磔で区画するほかは、10～20cmの磔で1辺60cmの区画を造っている。造墓位置が、調査区南端の段落ちのため、1辺が崩落している。下部構造は、断面が椀型をした土壙である。規模は、径50～45cmで深さ10cmに満たない。

(7) 13号墓 (第45図)

I群下段のほぼ中央に2区画検出された。主軸は $N-80^{\circ}-W$ を示す。

A区画は、西側に40cm大の磔を3石並べ、北と東側は20～15cm大の磔で角をつけて囲んでいる。南側は、40cm四方の凝灰岩で石塔(第78図8・第14表9・図版32)の台座を転用している。台座は、上面が平らな面で仕上げ、下面は、突起状に削り出している。

区画の規模は、長辺1.2m・短辺1.0mを測る。その内側には、10～5cm大の小振りの円磔や角磔を敷く。さらにその下部には、土壙内を埋めるように大磔を置いている。

磔を除去後、下部遺構として、遺構上面プランが楕円形を呈した土壙を検出した。土壙規模は、長径1.07m・短径0.70m・深さ20cmを測る。

B区画は、北と西・南側を30～15cm大の磔で区画し、その内側に10cm前後の小磔を敷く。小磔の下より縦30cm・横15cm大の磔を検出した。区画の規模は、長辺0.90m・短辺0.70mで南東側が崩壊している。下部構造は、小土壙で、小土壙内より骨片を出土した。小土壙の規模は、径30～27cmの円形で、深さ18～13cmを測る。

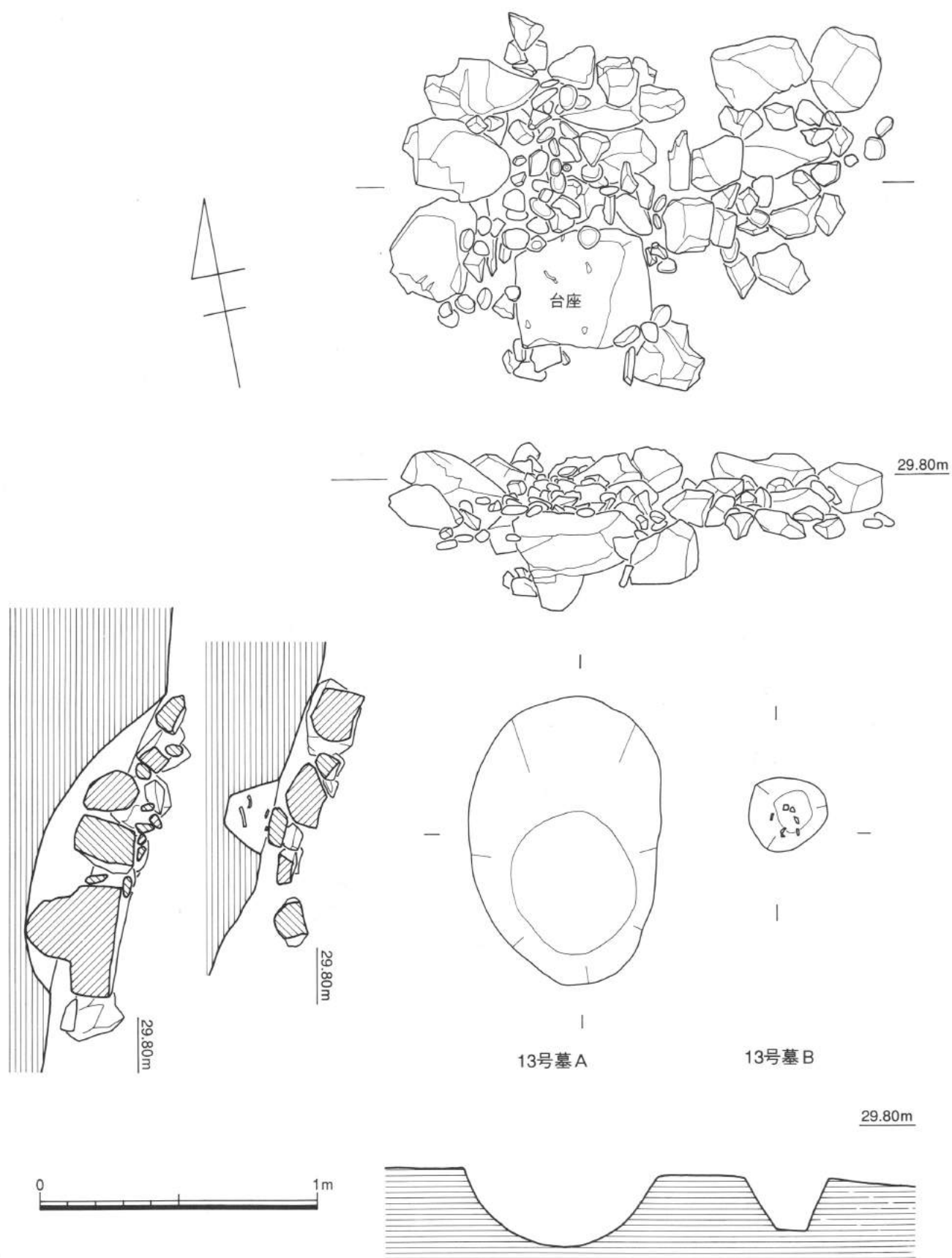
(8) 14号墓 (第46図)

I群下段の東に5区画検出した。この5区画は、西からA～E区画とした。主軸は、 $N-87^{\circ}-W$ を示す。いずれも明瞭な区画を有さず、磔群で列を成す。

A区画は、20～30cm大の磔でカギ形に構成する。区画内より下部構造である径30cm・深さ10～15cmの小土壙を検出した。

B区画は、A区画の1辺を共有してカギ形に構成する。区画内より下部構造である遺構上面プランが、不定楕円を呈する、長径37cm・短径24cm・深さ38～30cmを測る土壙を検出した。

C区画は、はっきりとした区画を見出せないが、30cm大の角磔と小円磔群からなる。その南東隅より蔵骨器を伴う小土壙を検出した。蔵骨器(第65図2・第11表52・図版29)は、土師



第45図 I群下段遺構実測図2 (1/20)



第46图 I群下段遺構実測図3 (1/20)

質で口縁が外反し、胴部最大径が上半部にあり下半部がすぼまる。

D区画は、小礫群だけからなる。下部構造の小土壌は、区画の南西隅より検出した。径25cmほどの隅丸三角形で、深さが5cm足らずと浅い。埋土から人骨片が出土した。

E区画は、角礫の集まりで方形に区画するが、南西側が崩壊する。下部構造の小土壌も、南側の半分が削平されている。土壌の埋土より人骨片が出土した。

(9) 15号墓 (第44図)

I群下段の南東隅より検出した。10～5cm大の円礫によって区画される。主軸は、N-60°-Eを示す。区画の南側は崖でその際に造墓されているため一部崩壊する。区画の規模は、長辺65cm・短辺55cmを測る。区画のほぼ中央では、地山と円礫の間より炭を検出した。

(10) 1号墓 (第47図・図版21)

II群の北に位置する。区画は、35～20cm大の礫を6つ使用し、円を描くように並べている。南西側は1石分の空きがあり、正面を意識しているものと想定される。区画内には、先の尖った高さ35cmの自然石をやや北西側に寄せて立石として用い、南東側には三角状の高さ35cm大の礫が横たわっている。三角礫の下には、5cm前後の円礫が敷き並べられている。区画の規模は、長辺0.91m・短辺0.84mを測る。主軸は、N-36°-Wを示す。下部構造は、区画内の中央部分より、長径36cm・短径27cmの楕円形を呈した深さ20cmの穴を穿つ小土壌を検出した。小土壌の埋土からは人骨片も出土した。

(11) 2号墓 (第47図・図版21)

1号墓の南東側に隣接する。区画は、縦25～40cm、横10～20cm大の細長い礫を使用して方形に区画している。北東側の2石と北西側の2石は、現位置のままであるが、南東側は1石だけしかなく南西側では現存しない。

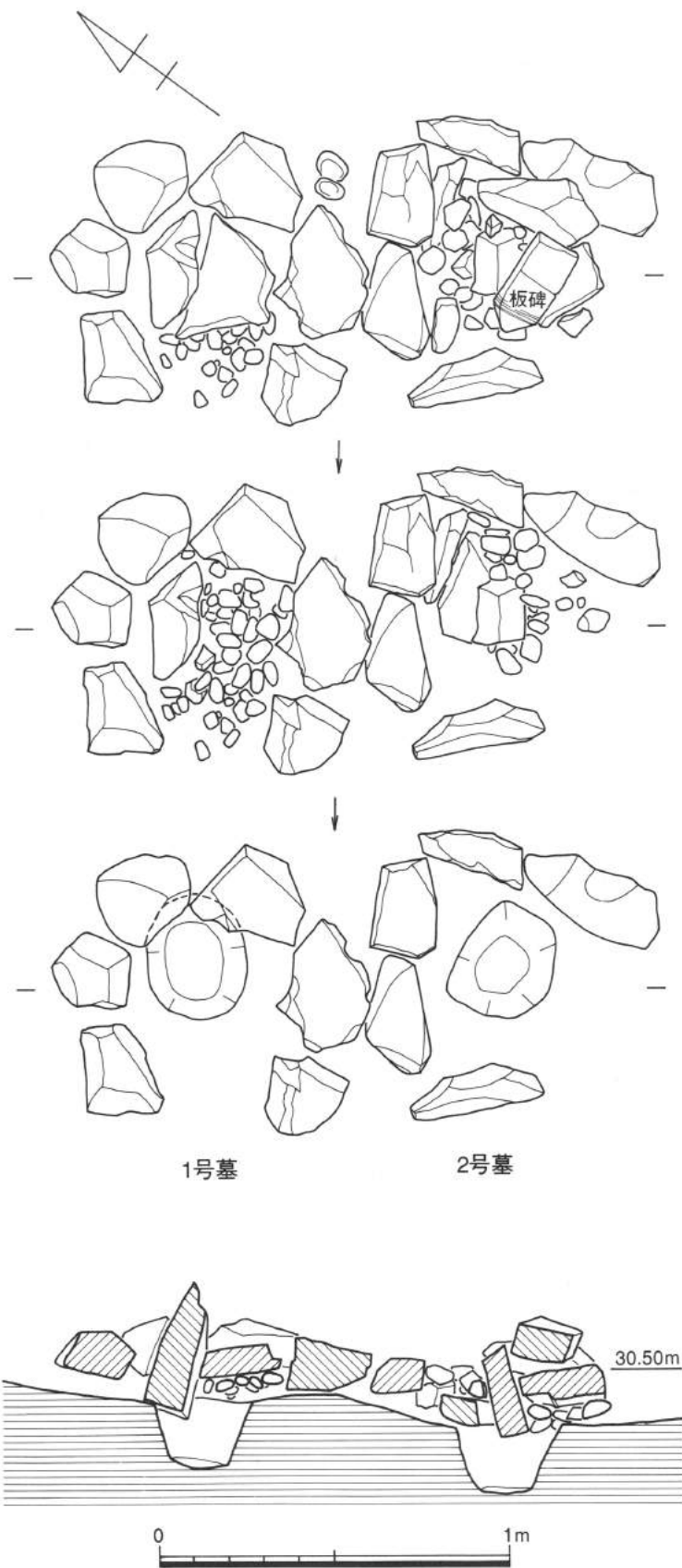
区画内の最上には、板碑が倒れた状態で検出した。板碑(第78図1・第14表2・図版32)は、高さ30cm・幅16cm・厚さ8cmを測る。胴部は直方体で天井部は切妻、天井と胴部の境には、2条の凹線がめぐる。石材は、砂岩製である。

板碑の下からは、平らな面をもつ縦22cm・横15cm・厚さ8cm大の礫を検出した。板碑の台座に相当するのではないかと想定する。

区画内のほぼ中央には、立石が検出された。立石は、高さ24cm・幅14cm・厚さ8cm大の礫を立てて使用している。

立石の周りには、径8cm前後の円礫を敷いている。

下部構造は、小土壌である。小土壌は、径32cmの不定円形を呈し・深さ20cmの穴を穿つ。埋土からは、人骨片を出土した。



第 47 図 II 群遺構実測図 1 (1/20)

(12) 3号墓 (第48図・図版21)

2号墓の西に隣接するところで検出した。主軸は、 $N-35^{\circ}-W$ を示す。

区画した石は、縦36cm・横15cm・厚さ13～8cm大の細長い礫1つである。区画石の南西側には、径5cm前後の円礫が50cm四方に広がっている。円礫の上より三角形を呈した高さ36cm程度の礫が倒れており、立石か小土壇の蓋として使用したものと推測する。

下部構造は、小土壇である。小土壇は、検出時の上面で径長軸33cm、短軸22cmの隅丸方形を呈し、中段は径長軸20cm、短軸15cm、地表から深さ24cmの穴を穿っている。埋土からは、人骨片を検出した。

(13) 4号墓 (第48図・図版22)

3号墓の南1.5mほどのところで2区画検出した。主軸は、 $N-72^{\circ}-E$ を示す。

A区画は、北側に20～25cm大の礫を2石、区画石として検出した。区画石の南側には、長軸60cm・短軸40cmの範囲に径5cm前後の円礫を敷いている。

下部構造は、円形プランで2段掘りの土壇である。規模は長軸70cm・短軸65cm・深さ20cmを測る。墓壇内には、土師器の坏(第65図1・第11表51・図版29)が伏せた状態で出土した。

B区画は、25cm大の礫2石をL字に組んで区画とし、その南側に径5cm程度の円礫を敷く。現状はかなり崩壊している。

下部構造は、隅丸方形プランの土壇である。規模は長軸40cm・短軸27cm・深さ18cmを測る。

(14) 5号墓 (第48図・図版22)

Ⅱ群の西端に位置する。主軸は $N-20^{\circ}-W$ を示す。

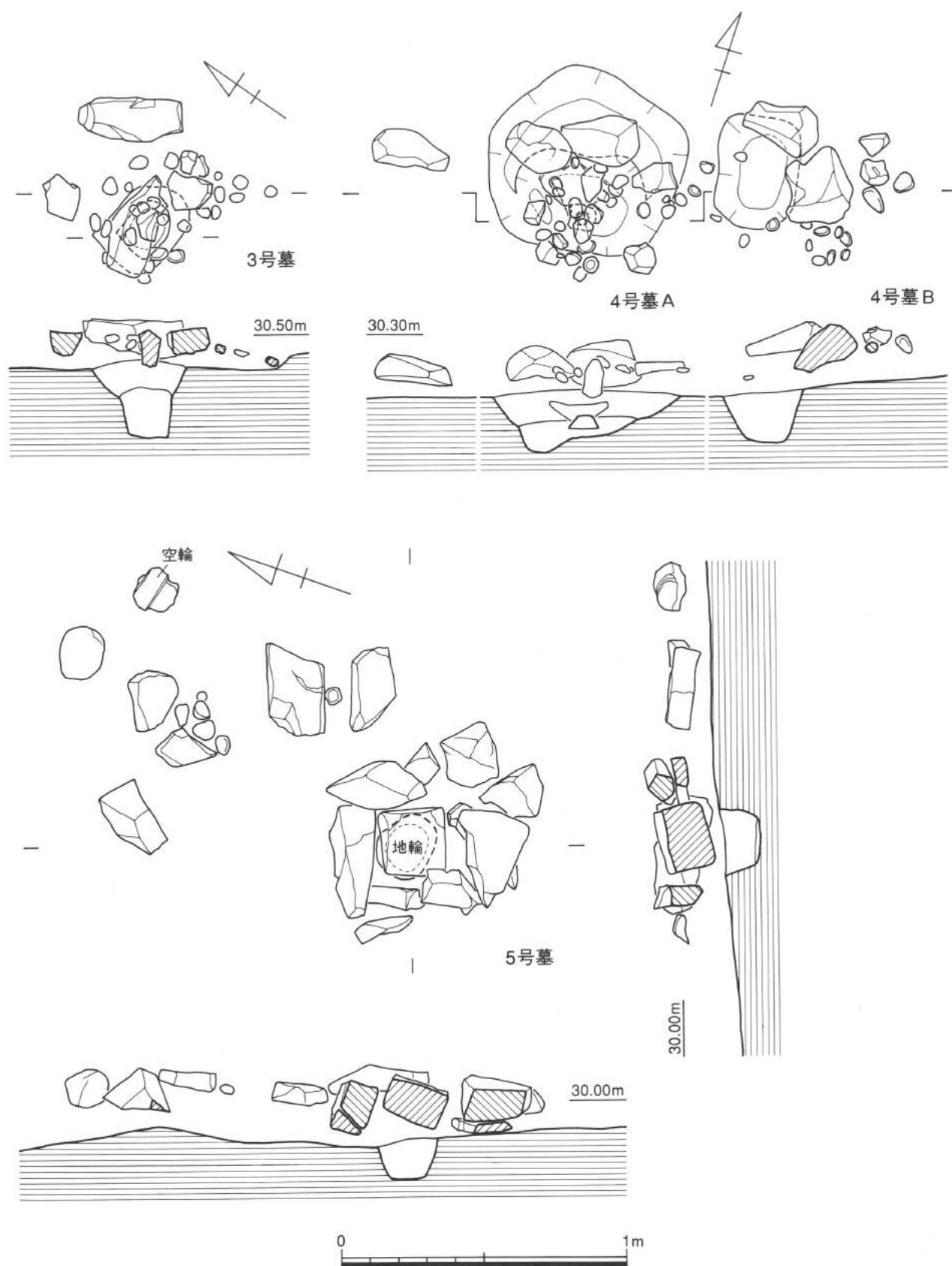
区画は、10石用いて四方を囲んでおり、区画内には、地輪が据えてある。当所は五輪塔が立てあったと考えられ、区画の北1mのところに空輪が、また、北50cmのところに家輪と想定される石材が検出された。(第78図2, 3, 5, 6・第14表3, 4, 6, 7・図版32)

下部構造は、小土壇である。規模は、長軸24cm・短軸18cm・深さ14cmを測る。埋土からは、人骨片を出土した。

(15) 6号墓 (第49図・図版22)

2号墓と3号墓の南1mのところにある礫群である。礫群は、3区画にわけられる。主軸は、 $N-71^{\circ}-E$ を示す。

A区画は、3区画の中で東端に位置し、傾斜地を40cmほど削り込んで平地にする。区画石は、B区画と共有している。区画の中心には、高さ40cm・幅10cmの細長い石材を立石としているが、やや傾いている。立石の南側には、祭壇のような平らな石を置く。下部構造は検出されていない。



第48図 II群遺構実測図2 (1/20)

B区画は、A区画とC区画の間に位置する。区画石は、A区画と共有し、東と西には10cm前後の角礫によって輪郭をかたちづくる。区画の中央部には、高さ36cm、幅（上部）15cm・（基部）20cmを測る立石を立てている。立石の南側には、A区画同様祭壇のような平らな石を置く。下部構造は検出されていない。

A・B区画は共に、立石の北側に10cm前後の角礫を、立石の南側には20～30cm大の礫を直線的に並べて共有している。

C区画は、3区画中の西端にあって北と東側を長軸30cm大の細長い礫でL字状に区画する。区画内は、10cm前後の角礫が敷かれているが、南西側は崩壊している。下部構造は、長軸26cm・短軸22cmの楕円形を呈した小土壌で、深さ14～10cmを測る。埋土から人骨片を出土した。

（16）7号墓（第49図）

6号墓の南すぐのところに位置し、2区画検出した。主軸は、 $N-85^{\circ}-W$ を示す。

A区画は、区画の中心に高さ25cmを測る三角錐状の立石があり、その立石を囲むように区画石が2重にめぐる。下部構造は検出されなかった。

B区画は、30～40cm大の5石で円を描くように区画される。区画内には、礫がまばらに置かれていた。下部構造は検出されなかった。

（17）24号墓（第49図・図版22）

4号墓と5号墓の間に造墓されているが、区画をもたず土壌内に蔵骨器（第65図3・第11表53・図版29）を検出した。主軸は、 $N-46^{\circ}-W$ を示す。

（18）25号墓（第49図・図版22）

標石を検出したため、その周辺を調査した。標石よりやや南西側で小土壌を検出した。規模は径29cm・深さ10cmではほぼ円形である。埋土からは、何も出土しなかったが、標石の北30cmほどの地表面から人骨片を出土した。主軸は $N-17^{\circ}-W$ を示す。

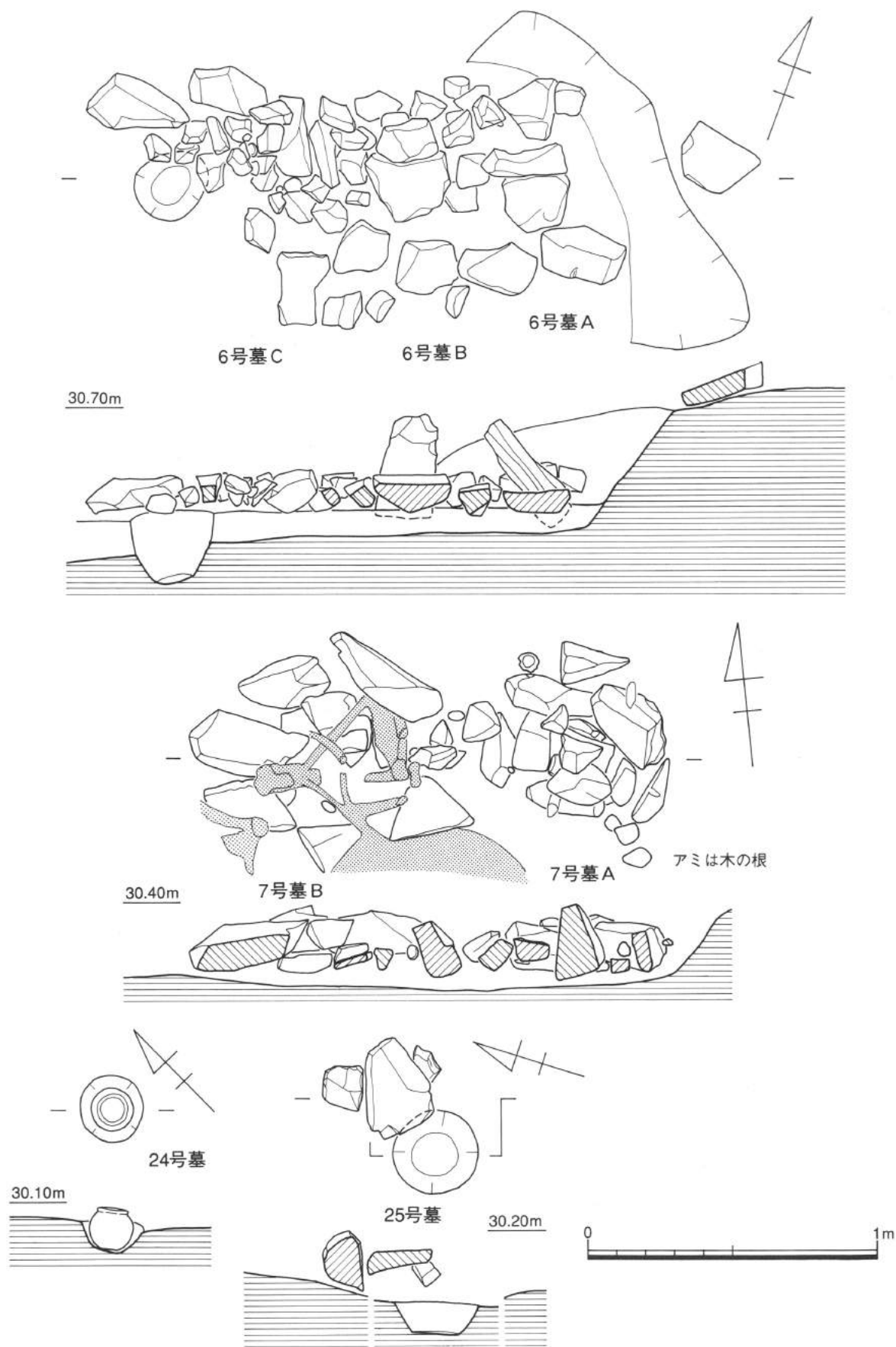
（19）19号墓（第50図）

Ⅲ群の北で単独に検出した。古墳の裾を削って墓域を設定している。墓域内には、長軸60cm・短軸40cmの範囲に、径10～5cm大の円礫を含む。下部構造は検出されず、人骨なども出土しなかった。主軸は $N-76^{\circ}-E$ を示す。

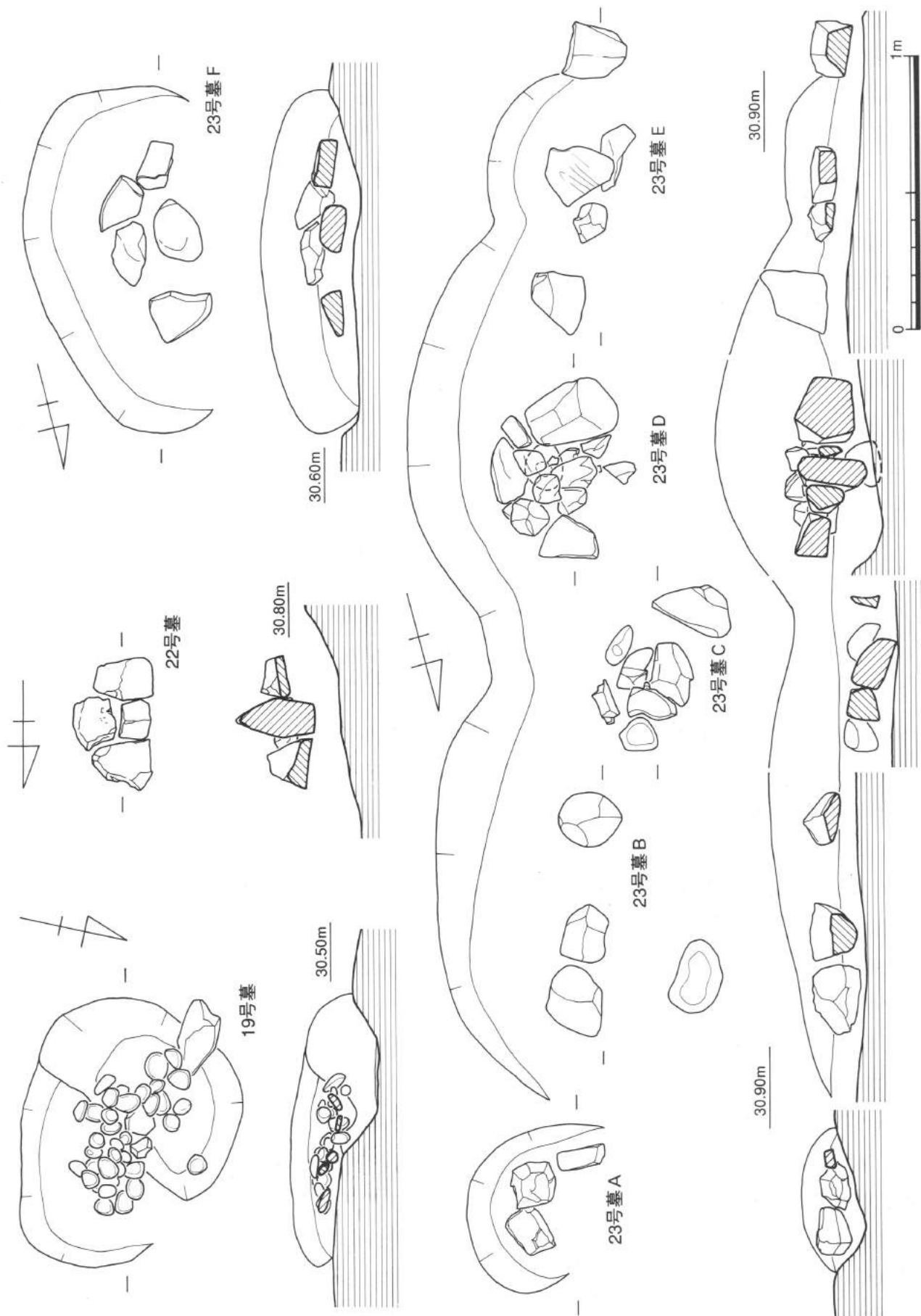
（20）20号墓（第51図）

Ⅲ群の南、Ⅱ群1号墓の北に位置する。2区画からなり床面を平らにするため、南東側の古墳裾を削っている。主軸は、 $N-56^{\circ}-E$ を示す。

A区画は、区画の中心に高さ23cmを測る三角錐状の自然石の立石を据え、その周りに10cm



第49図 II群遺構実測図3 (1/20)



第 50 図 Ⅲ群遺構実測図 (1/20)

程度の礫を置き、さらにその周りを 20 ～ 15cm 大の礫を四角く囲むが、北半分が崩壊している。区画の規模は、長軸 60cm である。下部構造は検出されなかった。

B 区画は、東側 1/4 の範囲を 20cm 大の礫 4 石で区画し、区画内には、長軸 50cm ・ 短軸 40cm 内に、径 5cm 強の円礫を含む。下部構造は、区画のほぼ中央より上面プラン円形の小土壙を検出した。小土壙の規模は、径 30cm ・ 深さ 20cm を測る。埋土より骨片を出土した。

(21) 21 号墓 (第 51 図)

20 号墓のすぐ北に検出された土壙である。規模は、長軸 75cm ・ 短軸 54cm ・ 深さ 27 ～ 15cm を測り、土壙内には長さ 55cm ・ 幅 15cm と細長い範囲に、径 5cm 程度の円礫を含む。円礫群中から人骨片が出土した。

(22) 22 号墓 (第 50 図)

21 号墓の北 3.5m の所に位置する。区画の中心には、高さ 27cm を測る立石があり、その北・東・南の 3 方向に 1 石づつ礫を置いて区画する。区画の規模は、長軸 50cm 程度である。下部構造は検出されなかった。

(23) 23 号墓 (第 50 図)

Ⅲ群の中核を成すもので、古墳の西側裾に 5.40m の長さで石列のように検出された。石列は 6 区画に分かれ、北から A 区画とした。

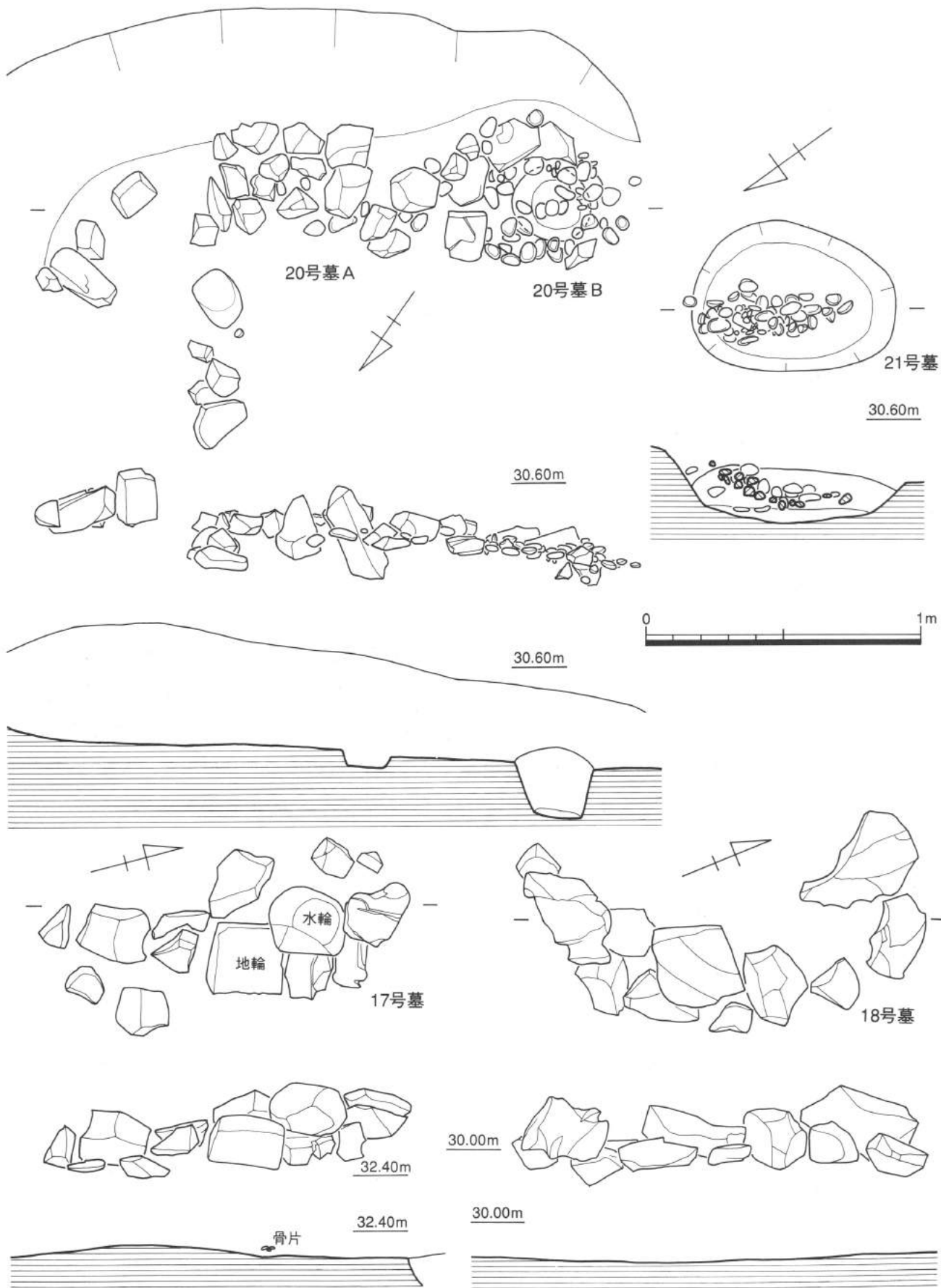
A 区画は、古墳裾西斜面を半円状に削り出し墓域を設定している。墓域の範囲は、60cm を測る。墓域内には、石材が 3 石あるが原形を留めていない。墓域内の中ほどはやや窪んでいるが、小土壙など下部構造は検出されなかった。

B 区画は、A 区画同様西側斜面を三日月状に削り出し墓域を設定している。墓域の範囲は、長軸 1.5m を測る。墓域内には、25 ～ 20cm 大の礫が 3 石あるが、いずれも原形を留めていない。下部構造は検出されなかった。

C 区画は、B 区画と D 区画の間に墓域を設定し、両区画と共有する。内部より集石遺構が検出された。小土壙など下部構造は検出されなかった。

D 区画は、23 号墓のほぼ中央にある。西側斜面を三日月状に削って墓域を設定している。墓域の範囲は、長軸 1.4m を測り、墓域内には、集石が認められる。集石は、中心に高さ 26cm の柱状の石を据え、周りに 10cm 前後の礫を置き、さらにその周りに 15 ～ 30cm 大の礫で囲んでいる。東側は、原形を留めているが、西側半分は崩壊している。下部構造は、集石の中心付近で小土壙を検出した。

E 区画は、D 区画の南に隣接している。西側斜面を三日月状に削って墓域を設定している。墓域の範囲は、長軸 50cm を測り、墓域内には、集石が認められる。集石は、3 石のみでほとんど崩壊していて原形を留めていない。小土壙など下部構造は検出されなかった。



第51図 III・IV群遺構実測図 (1/20)

F区画は、23号墓の南端に造墓された。西側斜面を三日月状に削って墓域を設定している。墓域の範囲は、長軸1.25mを測り、墓域内には、集石が認められる。集石は、1つの円礫を4石で囲むように検出された。小土壇など下部構造は検出されなかった。

(24) 17号墓 (第51図)

38号墳墳丘上の南東端より検出された。集石のみの区画で、長軸1.37m・短軸0.5mを範囲とし、主軸はN-14°-Eを示す。石材の中には、五輪塔の地輪と水輪(第78図4, 7・第14表5, 8・図版32)を検出した。下部構造はなかったが、地輪の下より人骨片を出土した。

(25) 18号墓 (第51図)

17号墓の東側直下で古墳の東側裾より検出した。集石のみの区画で、馬蹄形状に検出した。範囲は、長軸1.48m・短軸0.8m前後で、N-23°-Eを示す。下部構造は、検出されなかった。

7. 竪穴式住居

(1) 68号住居 (第52図・第8表1・図版23)

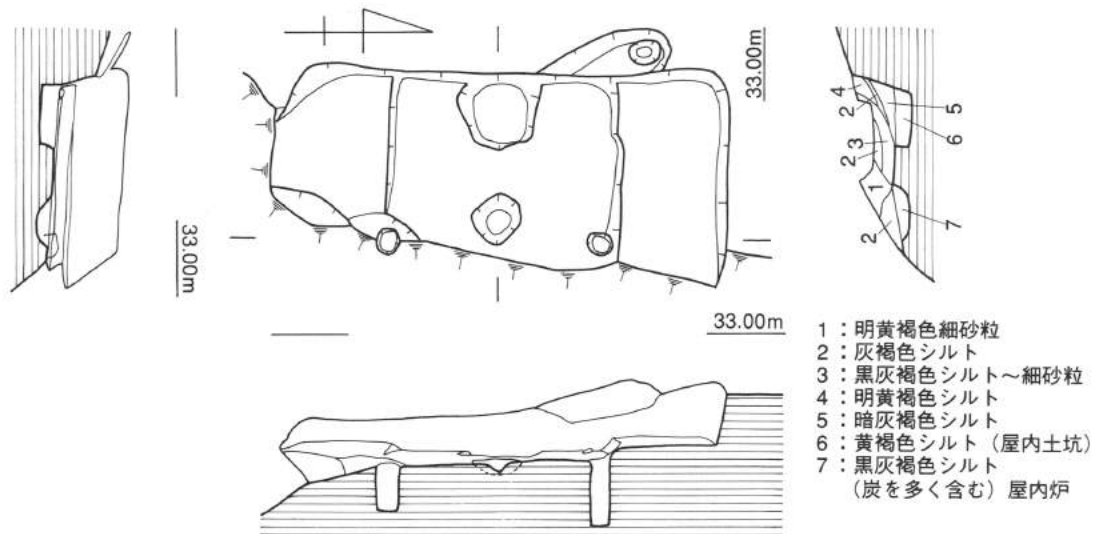
38号墳墳丘盛土下層の東側より検出され、旧表土除去後に検出された。東側半分は、先の削平によって失う。平面プランは、ほぼ方形で、住居南側と北側の床には、いずれも地山を削り出してベッド状遺構を造る。南側ベッドは、幅1.20m・高さ8cmを測り、北側ベッドは、幅1.00m・高さ12cmを測る。床面の中央部分に炉があって、西側の中央壁際に屋内土坑がある。柱は、2本柱で、いずれも西壁より1.60m、中心より南北1.1mのところに検出した。北側の柱穴は、径20cmで深さ70cmを測り、南側の柱穴は、径22cmで深さ46cmを測る。

(2) 69号住居 (第52図・第8表2・図版23)

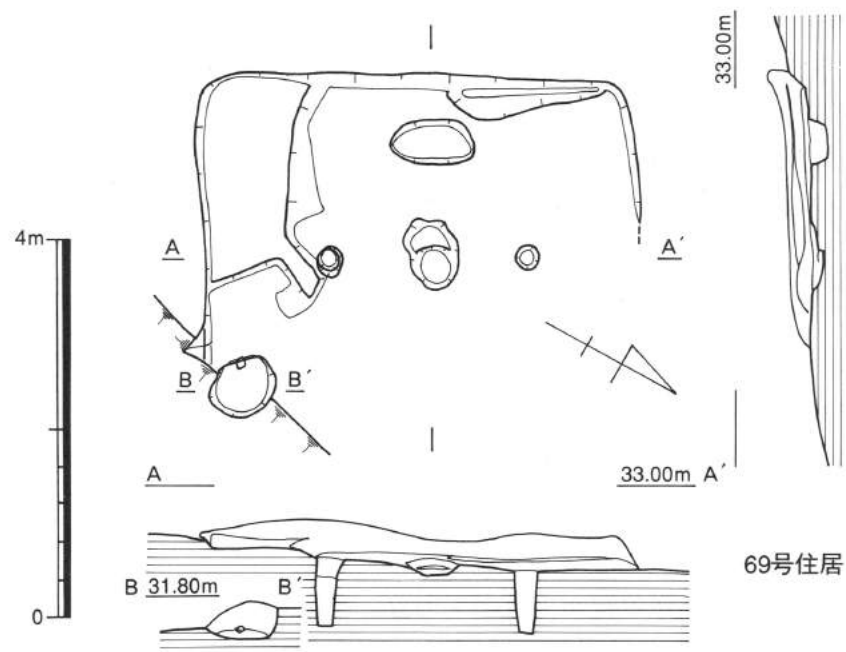
38号墳墳丘盛土下層の東側より検出され、古墳主体部の直下、旧表土除去後に検出された。北東側半分が先の削平によって失う。平面プランは、ほぼ方形で、住居南東側の床には、地山を削り出してベッド状遺構を造る。南東側ベッドは、幅85cm、高さ20cmを測る。

床面の中央部分に炉があって、西壁裾から30cmほど離れたところに屋内土坑がある。

柱は、2本柱で、いずれも西壁より2m、中心より南北1mのところに検出した。北側の柱穴は、径24cmで深さ66cmを測り、南側の柱穴は、径27cmで深さ70cmを測る。



68号住居



第 52 図 竪穴式住居実測図 (1/80)

8. その他の遺構

(1) 6号遺構（第53図・第9表1・図版23）

本遺構は、2区Bのトレンチ調査によって検出された。丘陵頂部より東へ5mの地点で、10号石棺墓のほぼ直上である。集石は、縦2.5m・横1.5mの範囲に営まれる。石材は20～50cm大の角礫を使用し、方形に区画されている。さらに区画された内側にも小礫がランダムに置かれていた。また、集石部分を南北に弧を描いて検出した溝は、北側の谷へ墓道のようにのびている。当初、終末期の古墳との認識で調査をしたが、明瞭なプランは確認できず、規則的に組まれているため、否定され不明集石遺構とした。

遺物は遺構内から直接出土されてはいないが、集石遺構およびその周辺に入れたトレンチ内より蔵骨器（第62図2, 4, 5, 7・第11表36, 38, 39, 41・図版28）がほとんど表採という状況で出土した。

(2) 24号遺構（第54図・第9表2・図版24）

本遺構は、1区2号墳の北西側より焼土坑を検出した。埋土のほとんどは炭であり、土坑の西壁コーナーに、焼壁が認められる。平面形は、長方形を呈する。遺物の出土はない。

(3) 25号遺構（第54図・第9表3・図版24）

本遺構は、1区2号墳の北東側より焼土坑を検出した。埋土のほとんどは炭であり、土坑の東壁コーナーに、焼壁が認められる。平面形は、隅丸方形を呈する。遺物の出土はない。

(4) 26号遺構（第54図・第9表4・図版23）

本遺構は、1区1号墳の前方部頂部より検出された小石室であるが、前方部の腐植土層より切り込まれているため1号墳に伴わない。石室の構造は、右腰石4、左腰石4+ α で、奥壁は、1石である。奥壁側には、1段から2段の積み石が残る。敷石には、5～10cm大の比較的平らな面を上にして敷かれており、終末期古墳の石室構造に類似する。墓道は、ほとんど発達せず、西側の墓壇を切って付設する程度である。

遺物は、埋土中より近世以降の椀が出土しており、前方部裾から2号墳堀切にかけて須恵器甕（第58図6, 7・第11表6, 7・図版26）などが出土している。

(5) 30号遺構とその周辺（第54図・第9表5・図版23）

本遺構は、1号墳後円部南側の裾より検出された。埋土上層より礫が検出され、同時に須恵器蓋（第59図6・第11表21・図版28）が出土した。

その周辺より遺構に伴わない土師器の皿片（第59図1～4・第11表16～19・図版28）などの出土がある。1区南西側斜面を重機によって拡張した際に、蓋と蔵骨器（第59図7, 8・第11表22, 23・図版28）を出土したが、現位置を捉えることができなかった。

(6) 35号遺構 (第40図・第9表6・図版23)

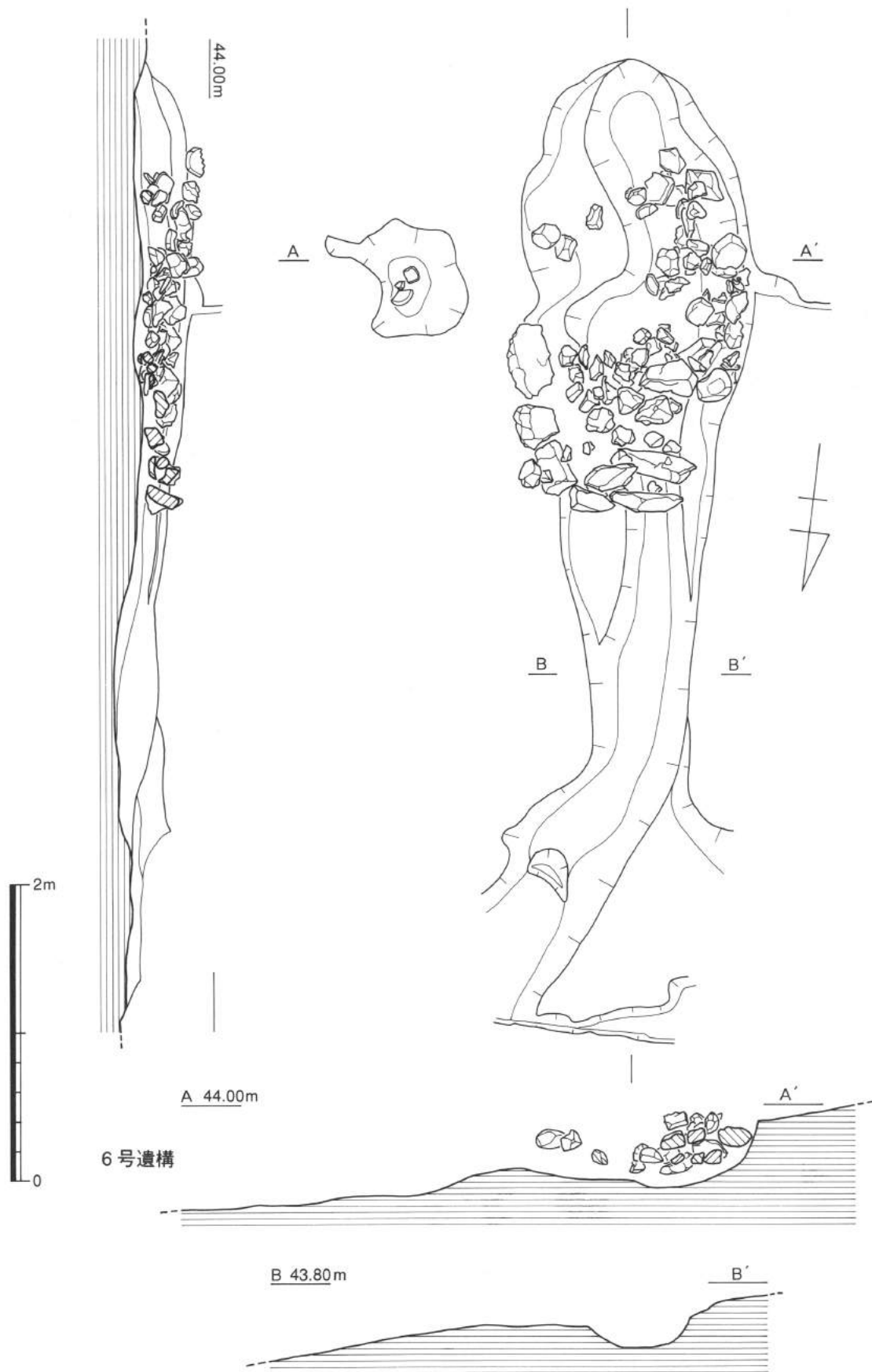
本遺構は、3区の稜線上で、標高40.50m付近で検出された。検出当初は、石材が2つあったため石棺墓と考えられたが、石材の下部から炭の層が厚さ5cmにわたって検出された。

(7) 64号遺構 (第55図・第9表7・図版24)

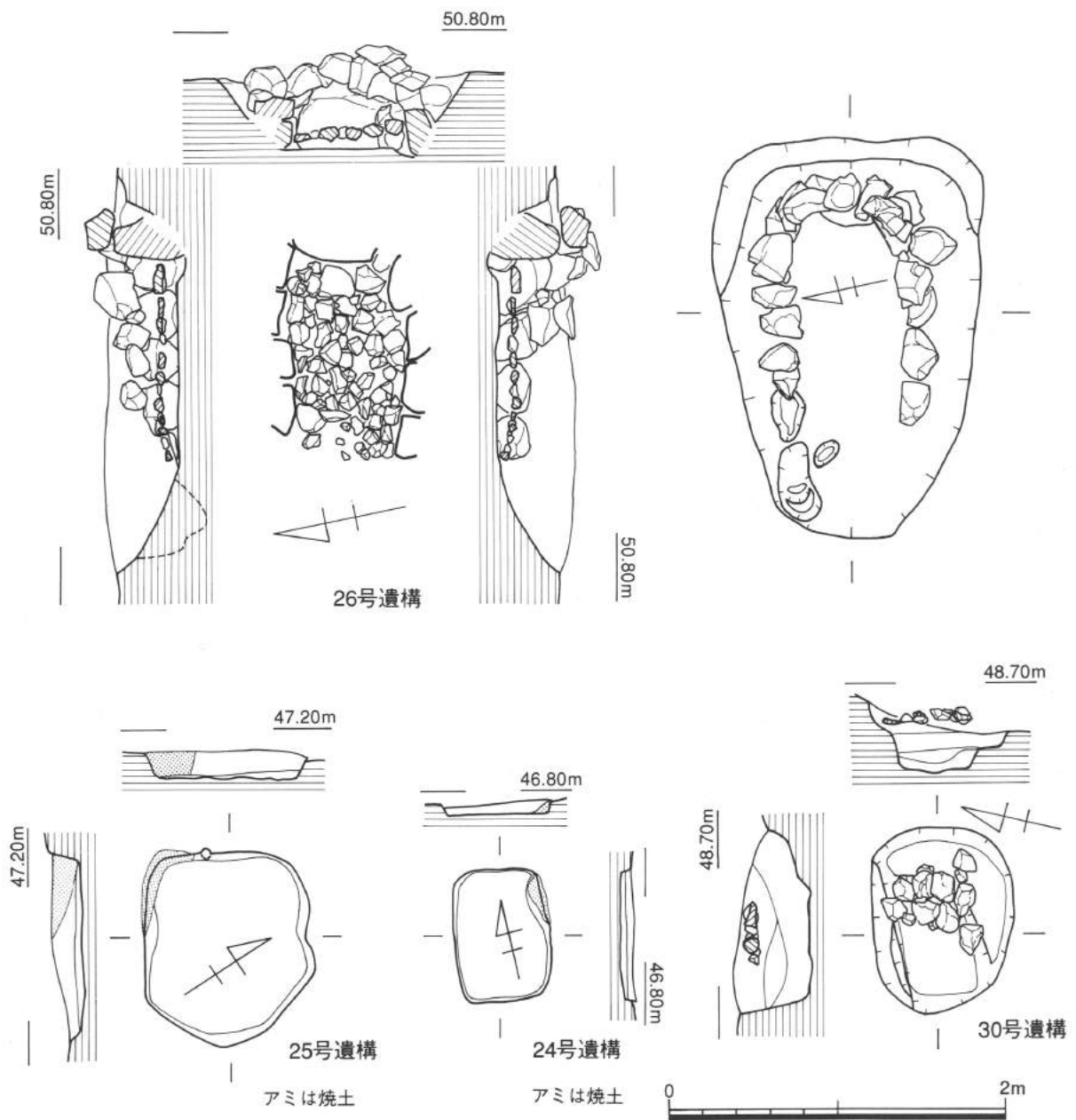
本遺構は、7区の38号墳墳丘上で南東側より検出された。検出面は、集石墓のⅣ群17号墓より下層、68号住居の上層で旧表土から掘り込まれていた。床面は検出面と平行に傾斜している。

(8) 65～67号遺構 (第55図・第9表8～11・図版24)

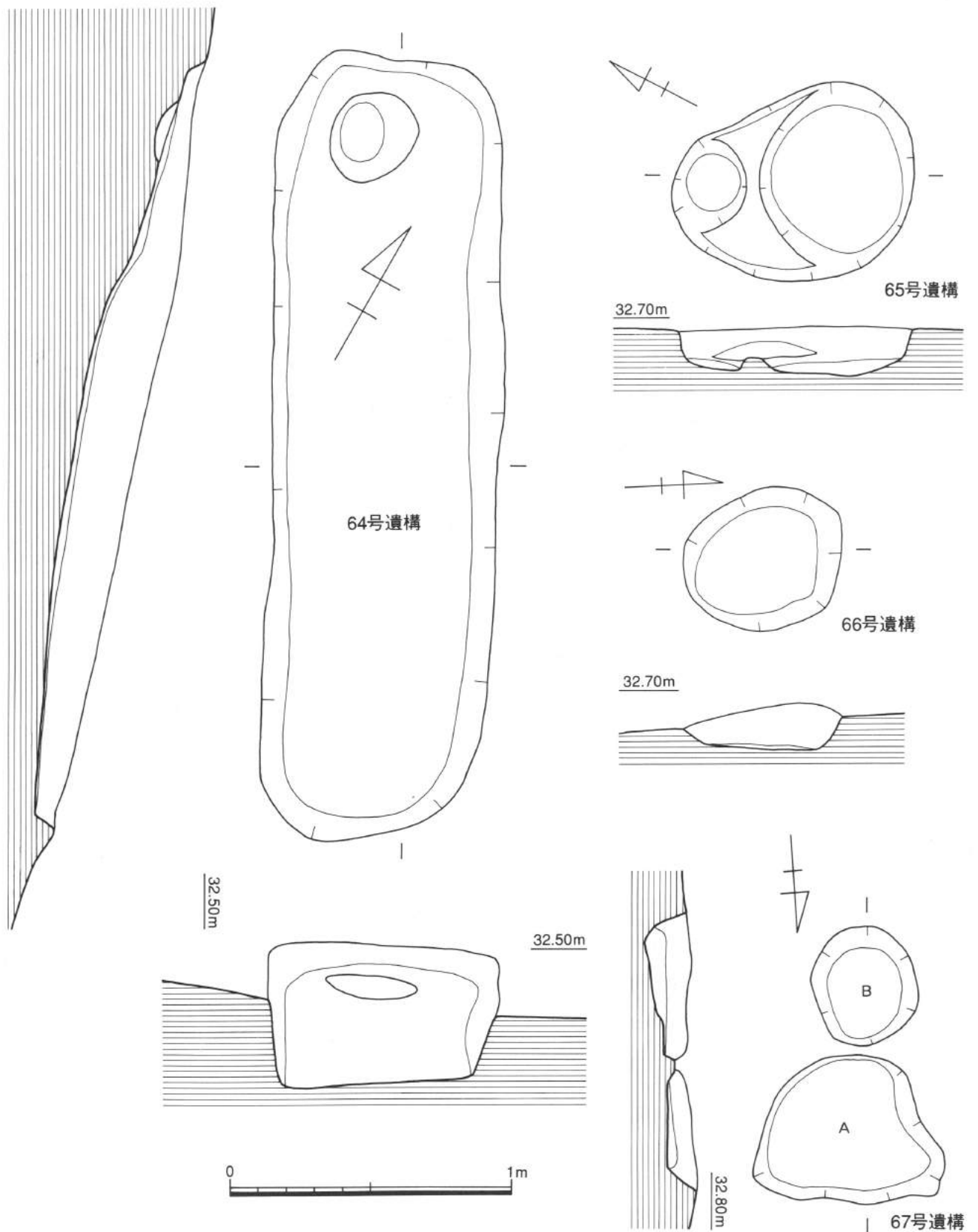
本遺構は、いずれも7区の38号墳墳丘上の旧表土除去後に検出された。68・69号住居跡と時期差がないものと考えられる。



第 53 図 その他の遺構実測図 1 (1/40)



第 54 図 その他の遺構実測図 2 (1/40)



第55図 その他の遺構実測図3 (1/20)

第3表 古墳・主体部計測表

単位m

NO	古墳 番号	区	墳 形	墳丘規模		主体部	埋葬形態	墓壇規模			埋葬壇		木棺内法		主軸	挿図番号
				全長	墳高			長軸	短軸	深さ	長軸	短軸	長軸	短軸		
1	1号墳	1区	前方後円墳	第2表 参照		第1主体部	粘土槨制竹形木棺	推定 4.40	推定 2.14	0.45	3.8	0.75	推定 3.25	推定 0.70	N58°E	第15図
2	1号墳	1区	前方後円墳			第2主体部	粘土槨制竹形木棺	推定 4.85	1.95	0.58	3.76	0.83	推定 3.49	推定 0.83	N52°E	第16図
3	1号墳	1区	前方後円墳			第3主体部	円筒棺	4.17	2.21	0.8	3.07	0.79	—	—	N55°E	第17図
4	1号墳	1区	前方後円墳			第4主体部	壺棺	0.78	0.52	0.52	—	—	—	—	N75°W	第19図
5	2号墳	1区	円墳	13~11	2.2	第1主体部	割竹形木棺直葬	3.42	1.77	0.66	2.79	0.65	推定 2.40	推定 0.50	N26°W	第23図
6	3号墳	2区C	円墳	8.75	1.2	第1主体部	初期横穴式石室	3.06	2.12	1.06	1.56	0.55	—	—	N63°E	第25図
7	4号墳	5区	円墳？	推定 25	2	第1主体部	単室横穴式石室	玄室規模			前庭部長		墓 道		N49°W	第27図
								左 3.10 主軸 3.35 右 3.26	前 1.88 中央 2.07 奥 1.80	1.7	左 0.68 右 0.65	右 1.4+ α	長軸 短軸			
8	14号墳	2区A	円墳	8	1	第1主体部	単室横穴式石室	2.67	1.98	0.66	—	—	2.6	0.6	N76°E	第29図
9	21号墳	1区	円墳	6	1	第1主体部	石棺系竪穴式石室	2.45	1.4	0.45	—	—	1.52	0.4	N52°E	第30図
10	31号墳	1区	円墳	5.5	1	第1主体部	石蓋土墳墓	1.82	1.3	0.6	1.07	0.2	—	—	N60°E	第31図
11	38号墳	7区	円墳	25.5	3.84 ～ 4.42	第1主体部	粘土槨制竹形木棺	7.16	東 3.26 中央 3.1 西 2.72	0.05 ～ 0.37	5.66	0.92	4.81	東 0.54 西 0.40	N86°W	第34図

第4表 石棺墓計測表

NO	遺構番号	調査区	石材	石材数(個)				墓壇(m)			内包(m)		主軸	挿図番号
				蓋石	小口	右側壁	左側壁	長軸	短軸	深さ	長軸	短軸		
1	9号墓	2区A	変成岩塊石	6	両側1	8	7	2.00	1.1	0.47	1.41	0.3	N—S	第36図
2	10号墓	2区B	頁岩質砂岩	2	両側1	2	2	2.56	1.83	0.35	1.3	0.37	N16°W	第36図
3	11号墓	2区B	変成岩塊石	不明	推定両側1	推定3~4	推定5	2.59	1.38	0.37	1.56	0.44	N30°E	第37図
4	83号墓	5区	変成岩塊石	1+α	1	1+α	1+α	0.52+α	0.6	0.65	—	—	N 8°W	第40図

第5表 石蓋土墳墓計測表

単位m

NO	遺構番号	調査区	石材	石材数	墓壇			埋葬壇			主軸	挿図番号
					長軸	短軸	深さ	長軸	短軸	深さ		
1	5号墓	2区A	変成岩塊石	石蓋 1+α	1.48	1.04	0.36	0.95	頭位 0.28 足位 0.17	0.2	N24°W	第38図
2	12号墓	2区B	変成岩塊石	石蓋 7	2.33	1.36	0.37	1.7	0.63	0.18	N64°W	第38図
3	13号墓	2区B	変成岩塊石	石蓋 6	1.43	0.76	0.2	0.97	0.41	0.07	N65°W	第39図
4	19号墓	2区A	花崗岩質風化礫	石蓋 3	1.23	0.86	0.64	1.23	0.86	0.38	N76°W	第38図
5	22号墓	1区	変成岩塊石	石蓋 3×2層	0.78	0.5	0.3	0.54	0.18	0.1	N 5°W	第35図
6	34号墓	3区	変成岩塊石	石蓋 4+α	—	—	—	1.27	0.34	0.3	N47°W	第40図
7	73号墓	2区B	変成岩塊石	石蓋 8	2.18	—	0.48	1.22	0.29	0.12	N69°W	第39図
8	74号墓	2区B	変成岩塊石	石蓋 1+α	—	0.91	0.55	—	0.35	0.11	N18°E	第39図
9	75号墓	2区B	変成岩塊石	石蓋 4	1.56	1.07	0.2	0.94	0.36	0.08	N85°E	第39図
10	77号墓	2区B	変成岩塊石	石蓋 4	1.01	0.78	0.2	0.66	0.2	0.1	N46°W	第39図
11	78号墓	2区B	変成岩塊石	石蓋 8	2.00+α	1	0.41	1.4	0.26	0.38	N40°E	第38図

第6表 木棺墓計測表

単位:m

NO	遺構番号	調査区	墓 塚			埋 葬 塚			主軸方向	挿図番号
			長 軸	短 軸	深 さ	長 軸	短 軸	深 さ		
1	15号墓	2区A	2.16	1.65	0.22	1.55	0.37	—	N75°W	第37図
2	72号墓	5区	3.00	1.07	0.32	2.56	0.50	0.16	N39°W	第40図
3	80号墓	1区	—	—	0.31	2.02	0.47	0.19	N75°W	第35図

第7表 土墳墓計測表

単位:m

NO	遺構番号	調査区	墓 塚			埋 葬 塚			主軸方向	挿図番号
			長 軸	短 軸	深 さ	長 軸	短 軸	深 さ		
1	7号墓	2区B	2.02	0.88	0.24	1.64	0.28	0.10	N67°E	第37図
2	8号墓	2区A	—	—	—	1.37	0.36	0.2	N77°W	第37図
3	16号墓	2区A	1.41	0.58	0.28	1.00	0.27	—	N58°E	第39図
4	17号墓	2区A	—	—	—	0.73+α	0.44+α	0.1	N50°E	第37図
5	18号墓	2区A	—	—	—	0.84	0.25	0.12	N62°E	第37図
6	20号墓	2区A	2.88	1.30	0.80	2.23	0.45	0.33	N48°W	第37図
7	23号墓	1区	—	—	—	1.95	0.48	0.31	N55°E	第35図
8	27号墓	1区	—	—	—	1.01	0.44	0.15	N40°E	第35図
9	28号墓	1区	—	—	—	1.25	0.45	0.15	N 9°E	第35図
10	29号墓	1区	—	—	—	1.67	0.42	0.28	N84°E	第35図
11	33号墓	3区	—	—	—	1.75	0.34	0.40	N44°W	第40図
12	76号墓	2区B	—	—	—	1.56	0.51	0.2	N56°E	第37図
13	79号墓	1区	1.94	—	0.54	1.28	0.27	0.21	N44°W	第35図

第8表 竪穴式住居計測表

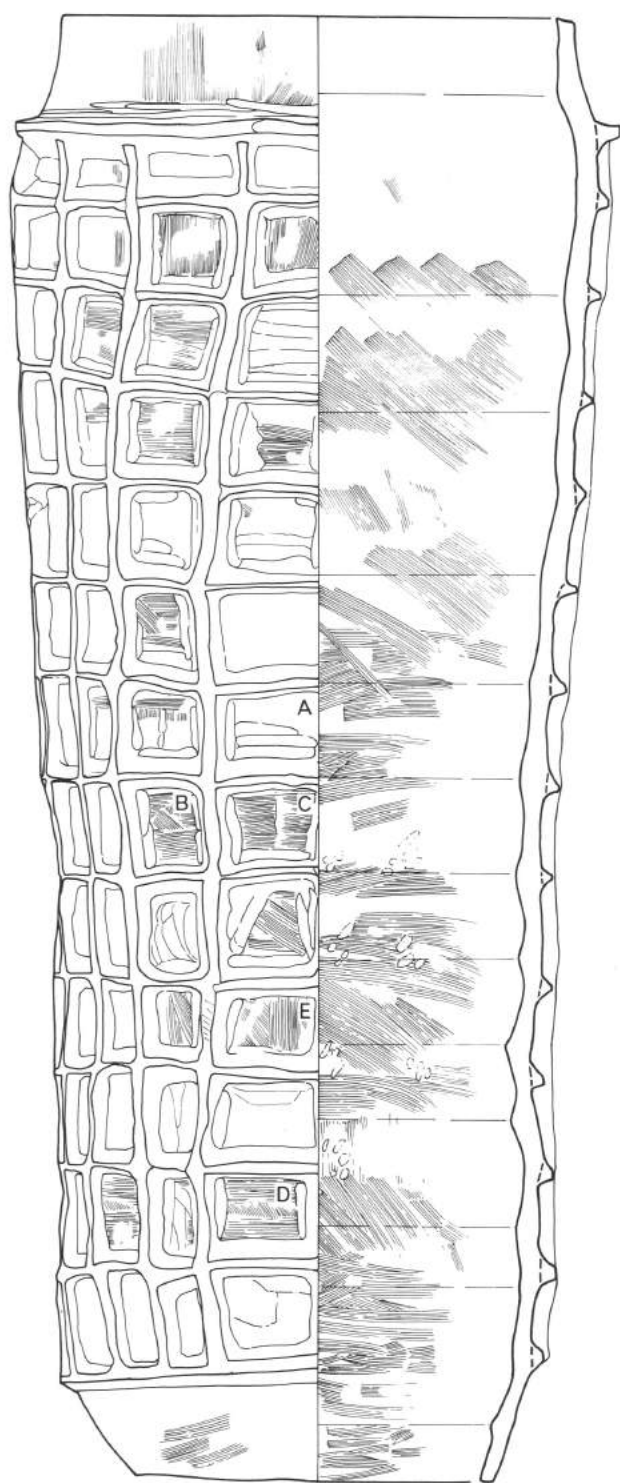
単位:m

NO	遺構番号	調査区	遺 構 内 容			規 模			主 軸	挿図番号
			平 面 形	構 造	柱 数	長 軸	短 軸	深 さ		
1	68号住居	7区	方形	ベッド状	2本柱	4.65	1.8×2	0.67	N—S	第52図
2	69号住居	7区	方形	ベッド状	2本柱	4.65	1.95×2	0.35	N24°W	第52図

第9表 その他の遺構計測表

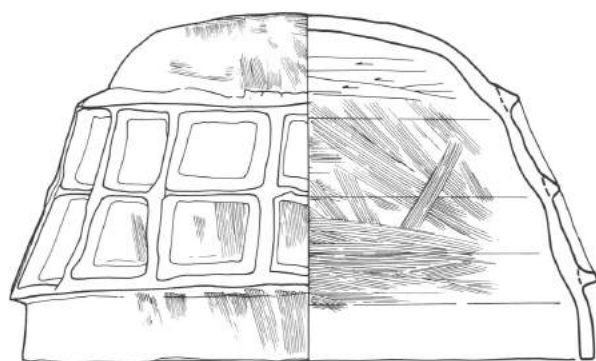
単位:m

NO	遺構番号	調査区	遺構内容	遺 構			主軸方向	挿図番号
				長 軸	短 軸	深 さ		
1	6号遺構	2区B	集石遺構	6.85	1.52	0.46	N 7°W	第53図
2	24号遺構	1区	焼土坑	0.78	0.57	0.08	N 12°E	第54図
3	25号遺構	1区	焼土坑	1.15	0.94	0.16	N 34°E	第54図
4	26号遺構	1区	小石室	2.4	1.58	0.4	N 78°W	第54図
5	30号遺構	1区	土坑	1.1	0.84	0.4	N 78°E	第54図
6	35号遺構	3区	焼土坑	0.79	0.5	0.2	N 57°E	第40図
7	64号遺構	7区	長方形土坑	2.66	0.80	0.20～0.06	N 30°W	第55図
8	65号遺構	7区	不定形土坑	0.85	0.69	0.17	N 57°W	第55図
9	66号遺構	7区	不定形土坑	0.56	0.50	0.16	N 30°E	第55図
10	67号遺構A	7区	不定形土坑	0.67	0.53	0.15	N 4°E	第55図
11	67号遺構B	7区	不定形土坑	0.43	0.38	0.10	N 4°E	第55図



棺 身

1区1号墳 第3主体部



上 蓋



A



B



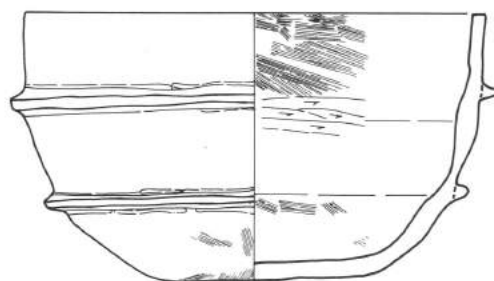
C



D



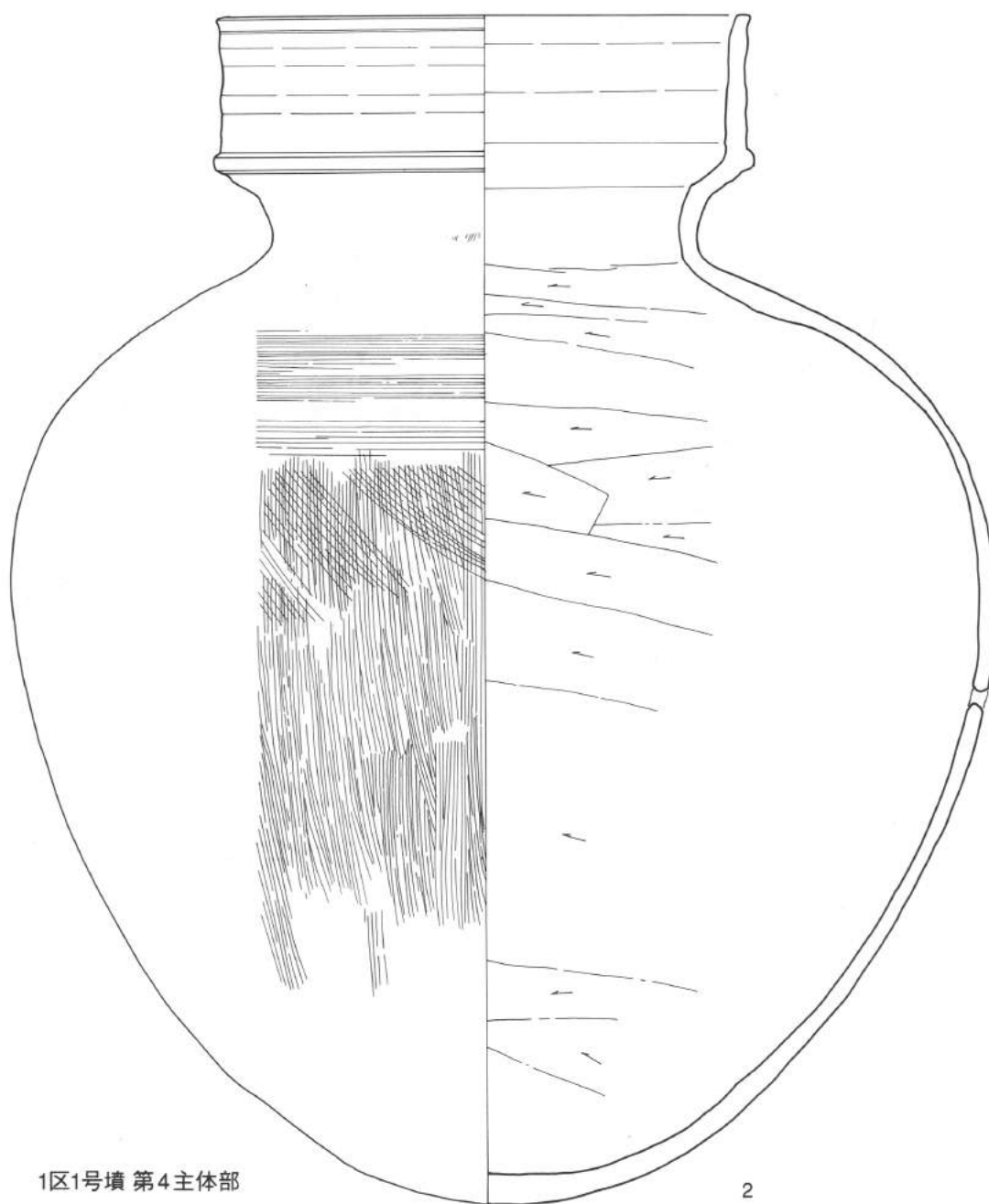
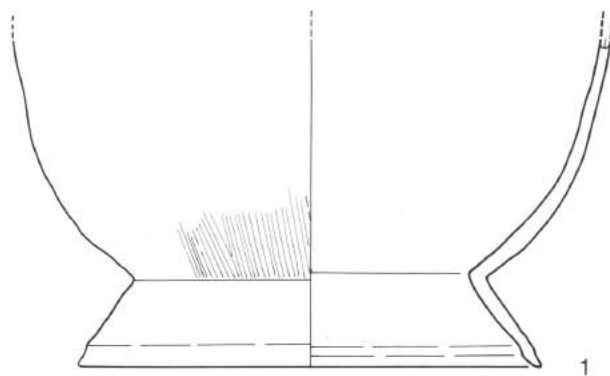
E



下 蓋



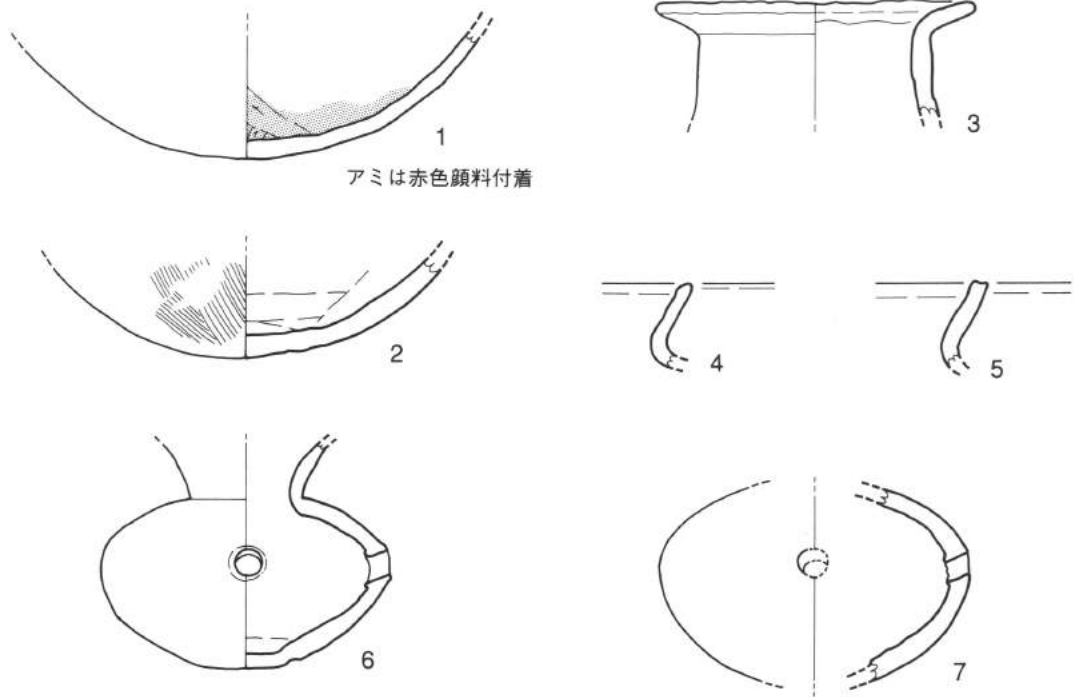
第56図 円筒棺実測図 (1/10)



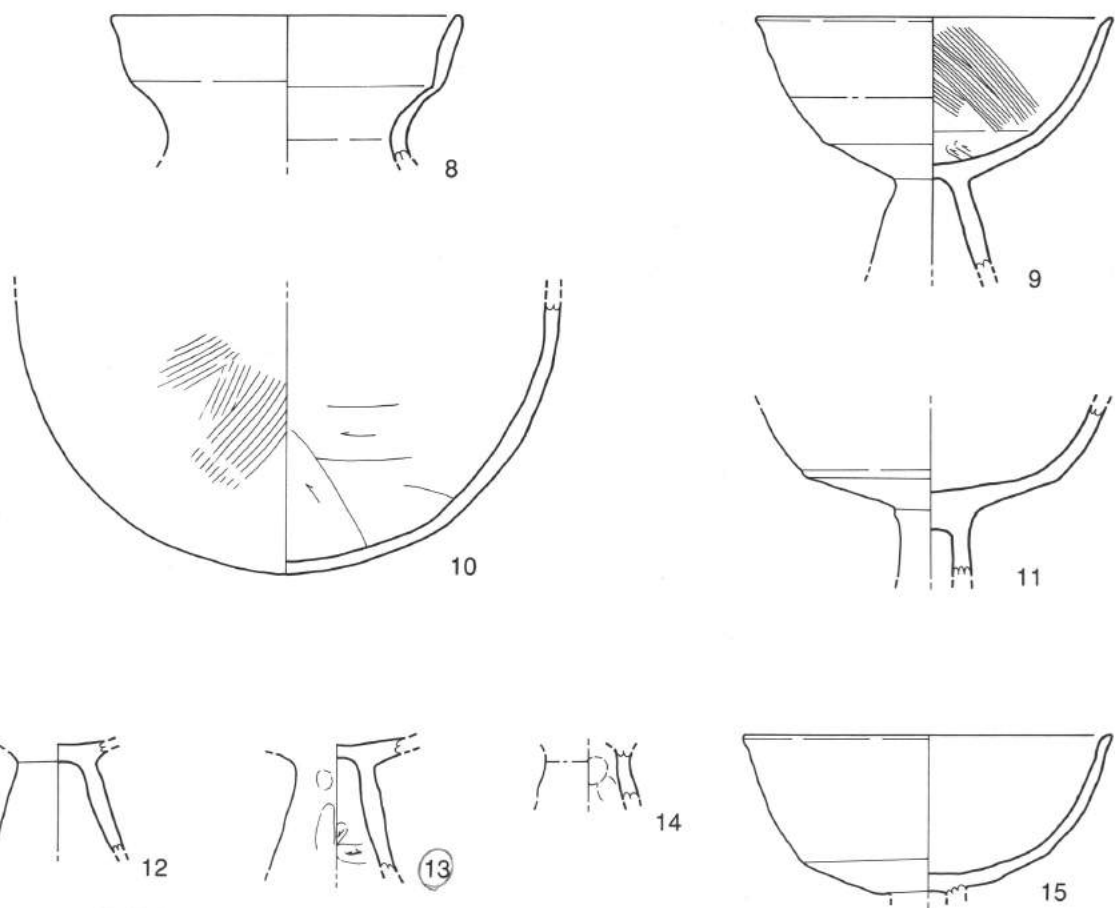
1区1号墳 第4主体部



第 57 図 壺棺実測図 (1/3)



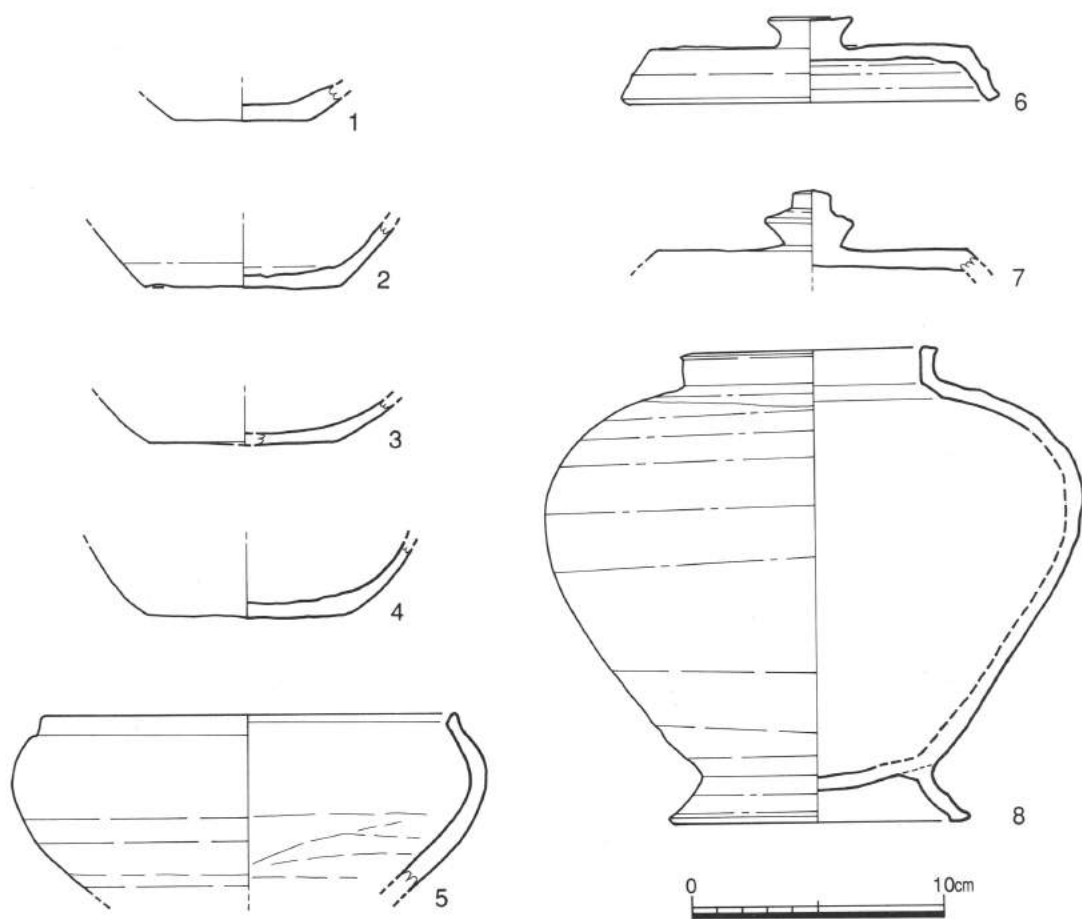
1～7:1号墳周辺出土遺物



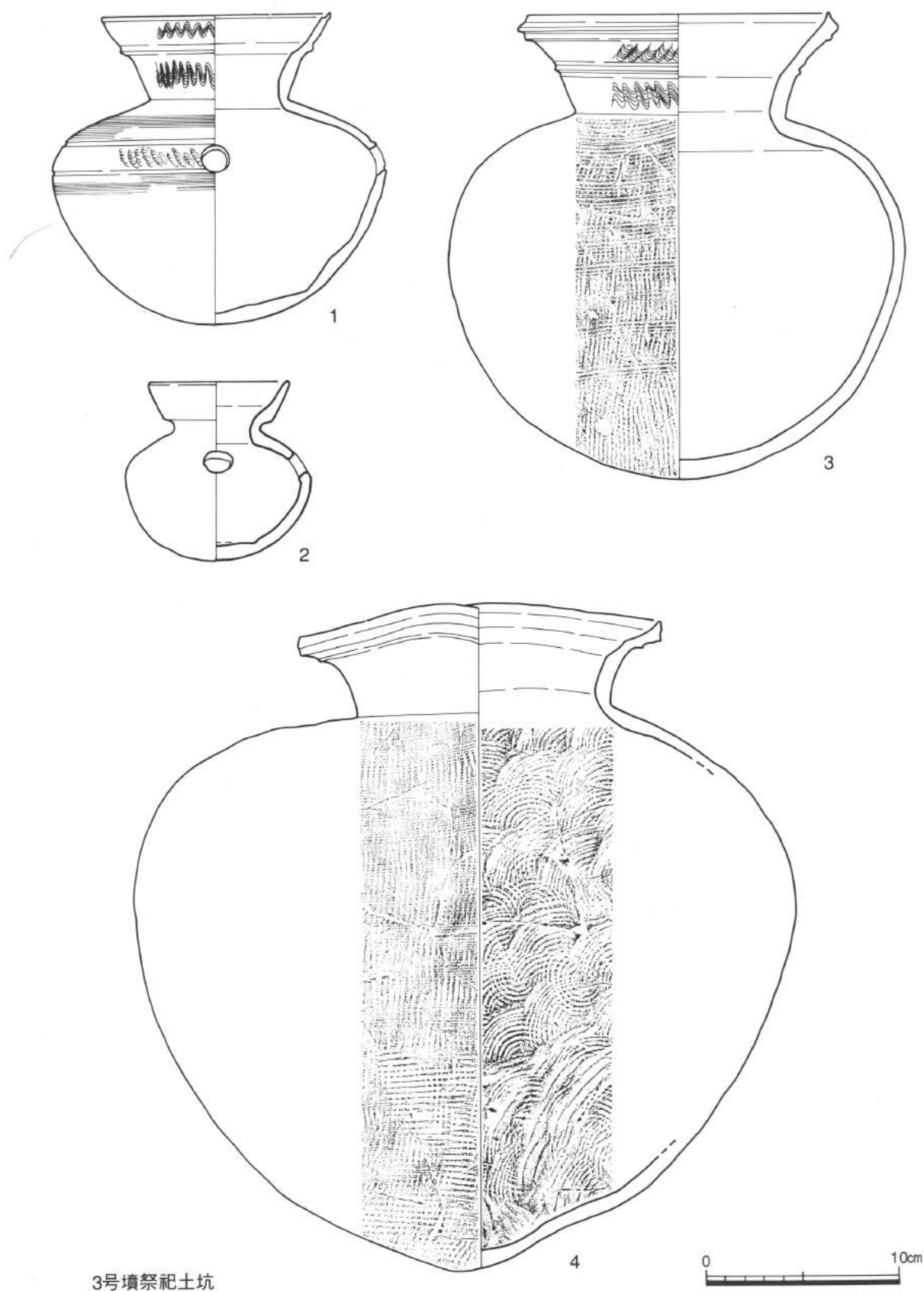
8～15:2号墳周辺出土遺物



第58図 1区出土遺物実測図1 (1/3)

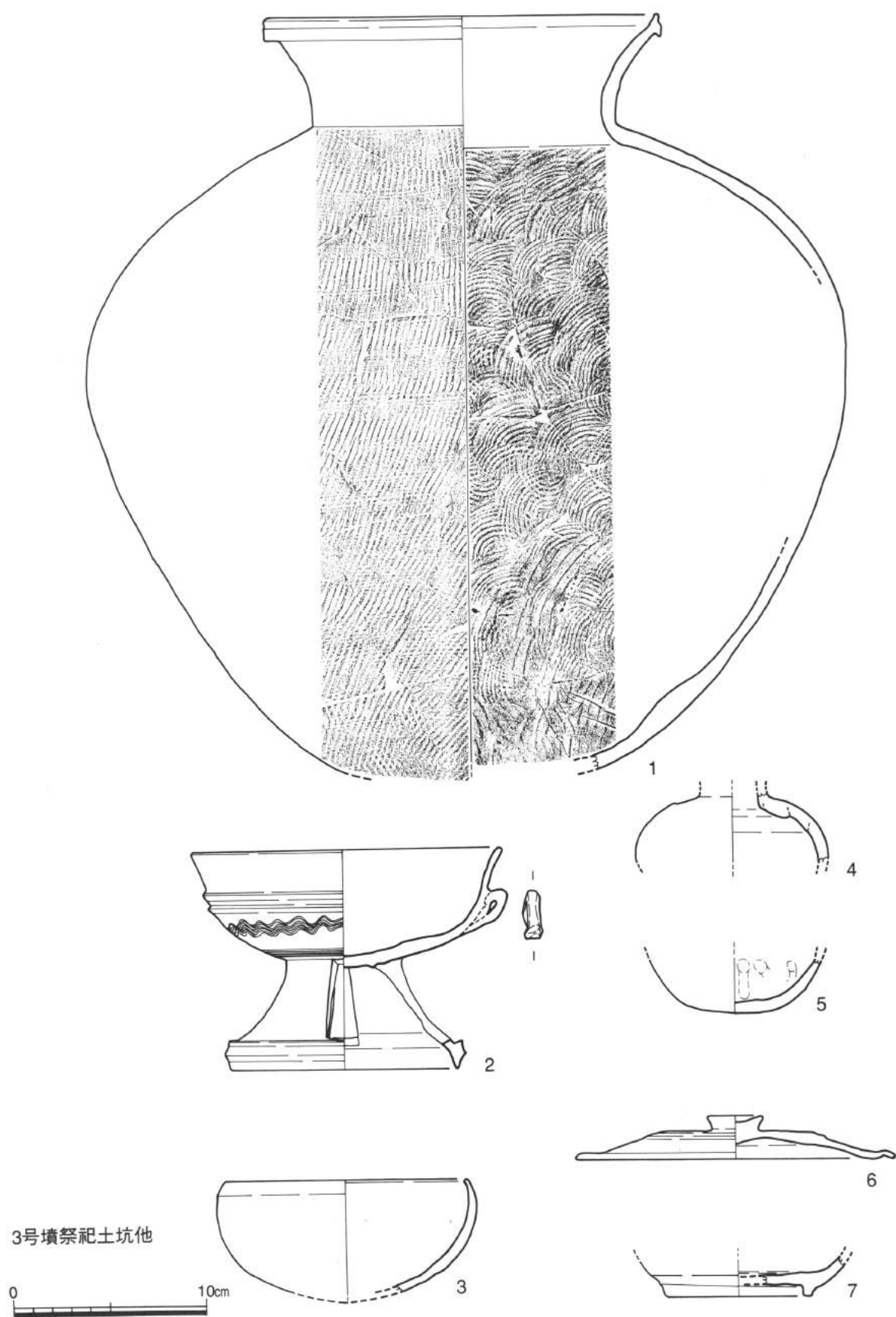


第 59 図 1 区出土遺物実測図 2 (1/3)

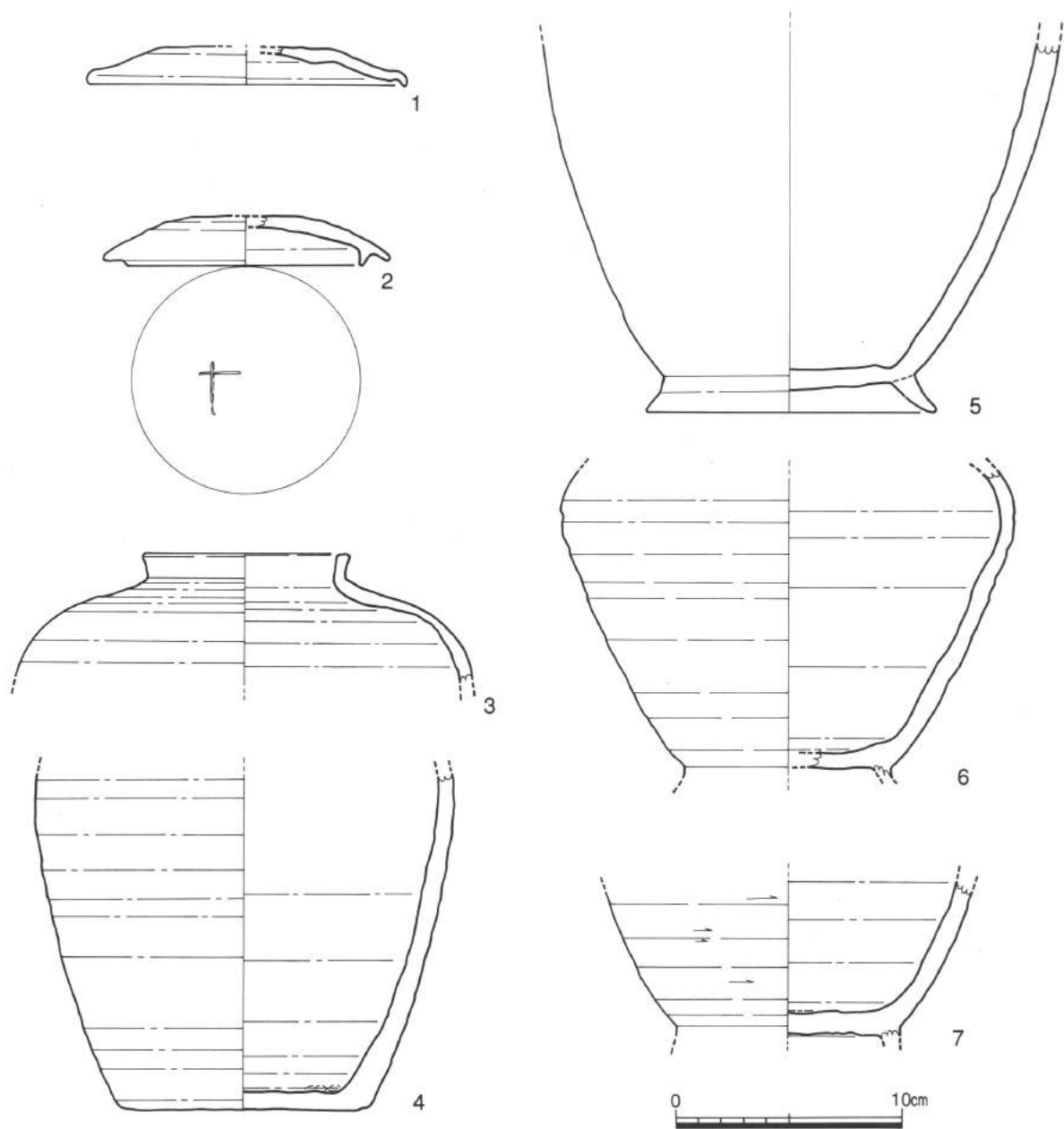


3号墳祭祀土坑

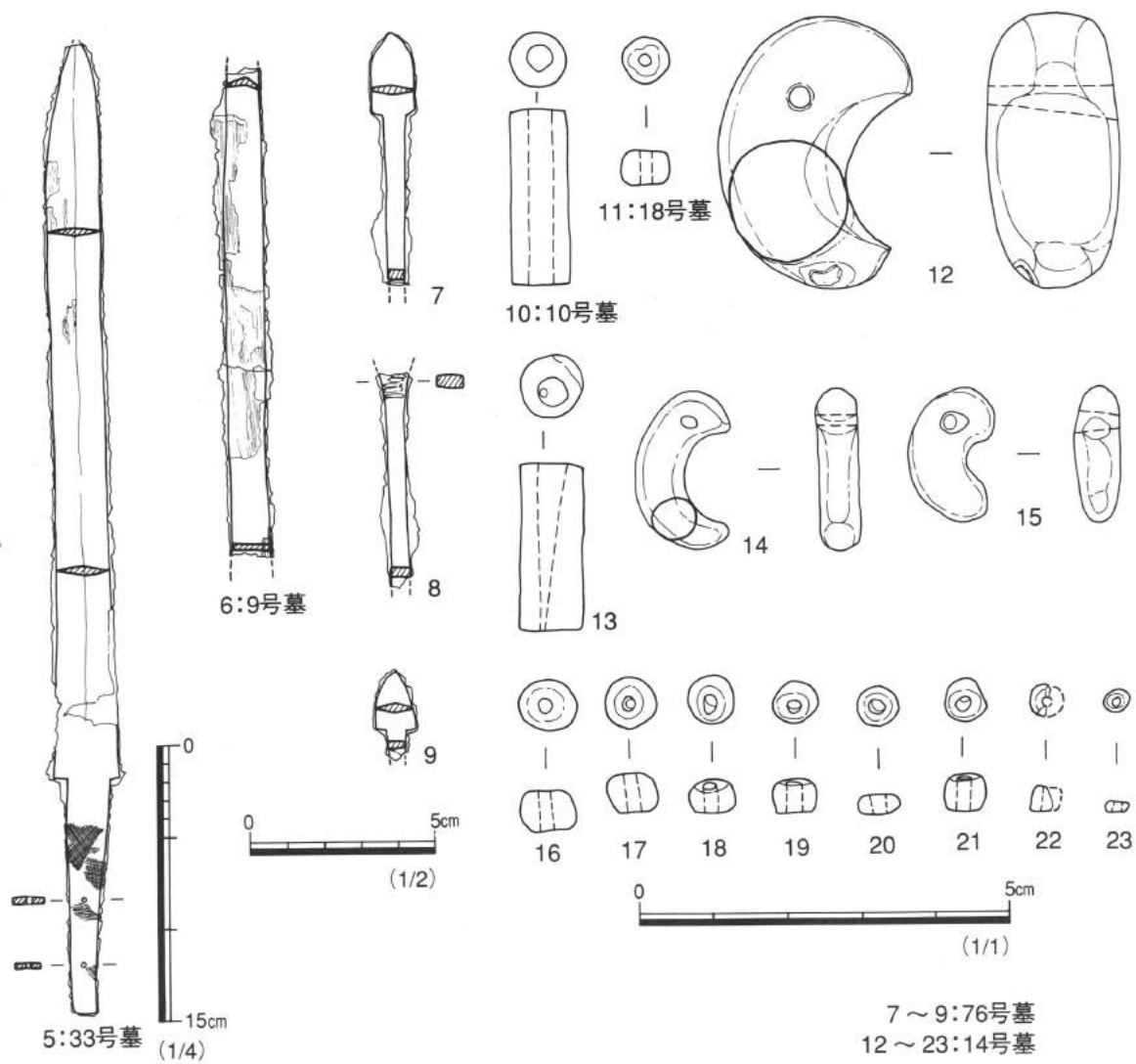
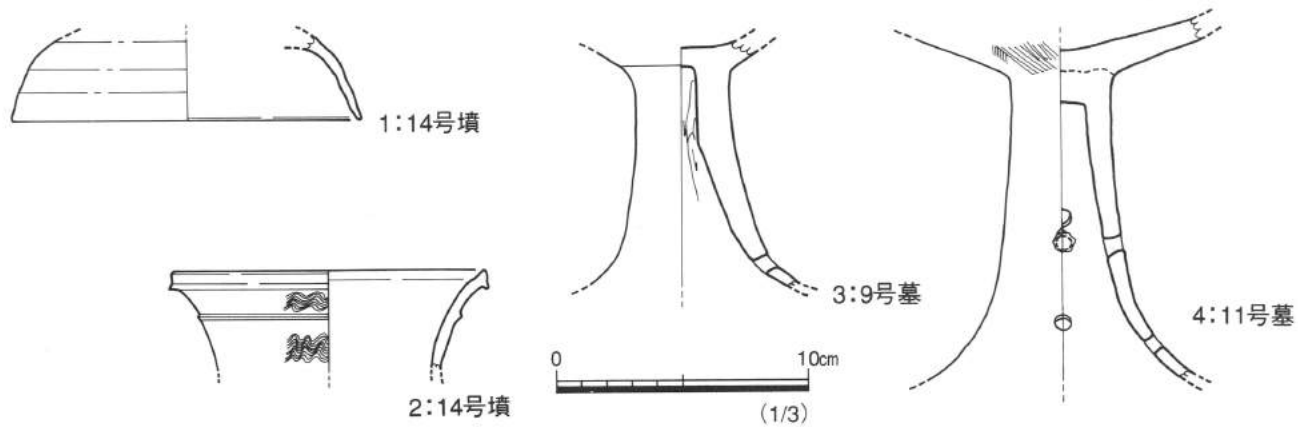
第 60 図 2 区出土遺物実測図 1 (1/3)



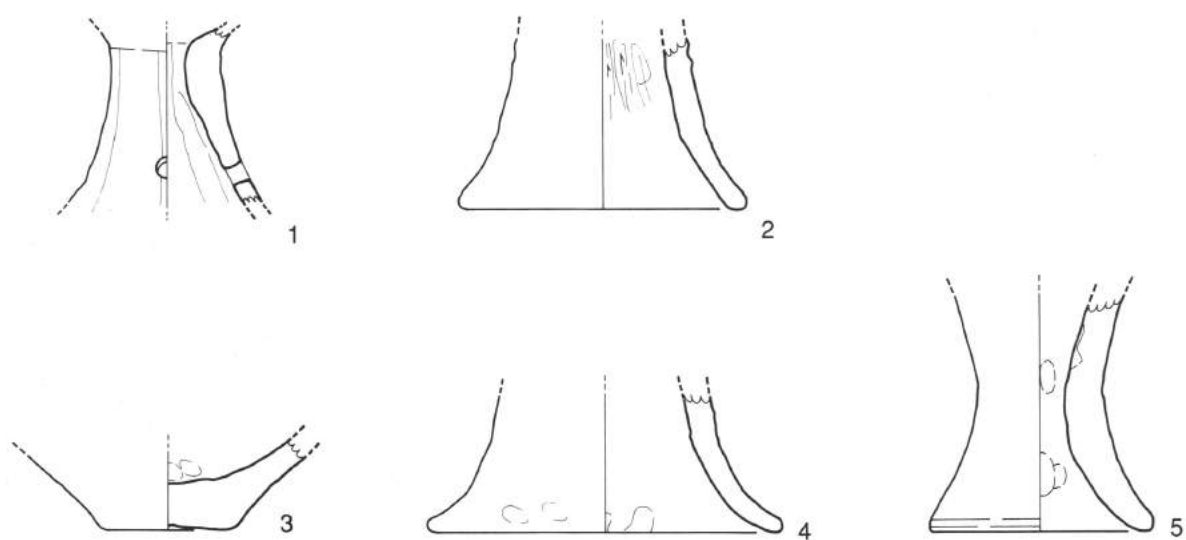
第61図 2区出土遺物実測図2 (1/3)



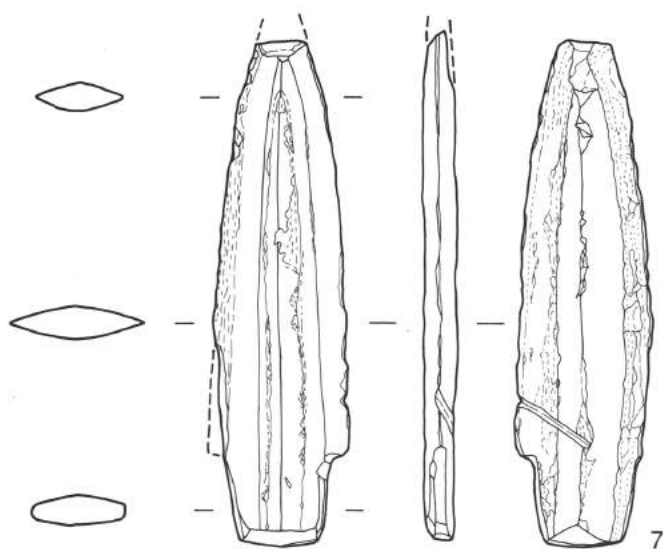
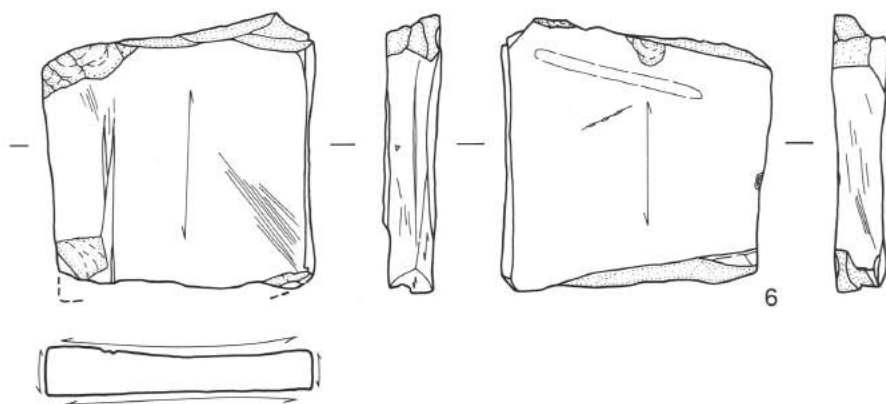
第 62 図 2 区出土遺物実測図 3 (1/3)



第63図 2区・3区出土遺物実測図 (1/4・1/3・1/2・1/1)

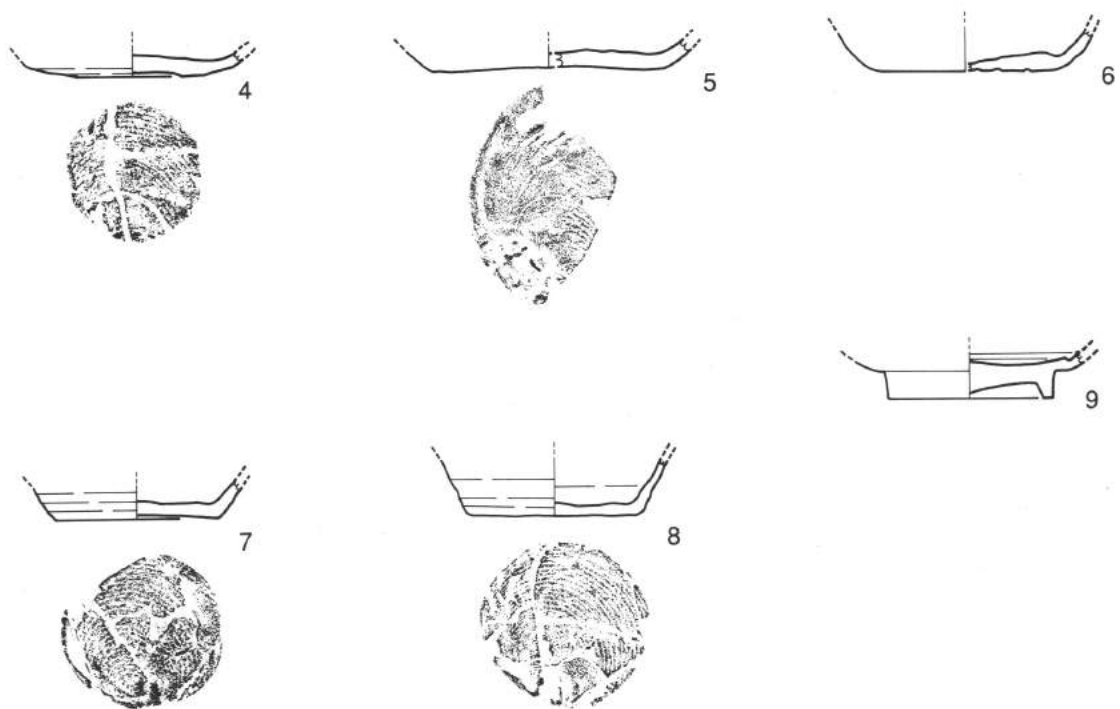
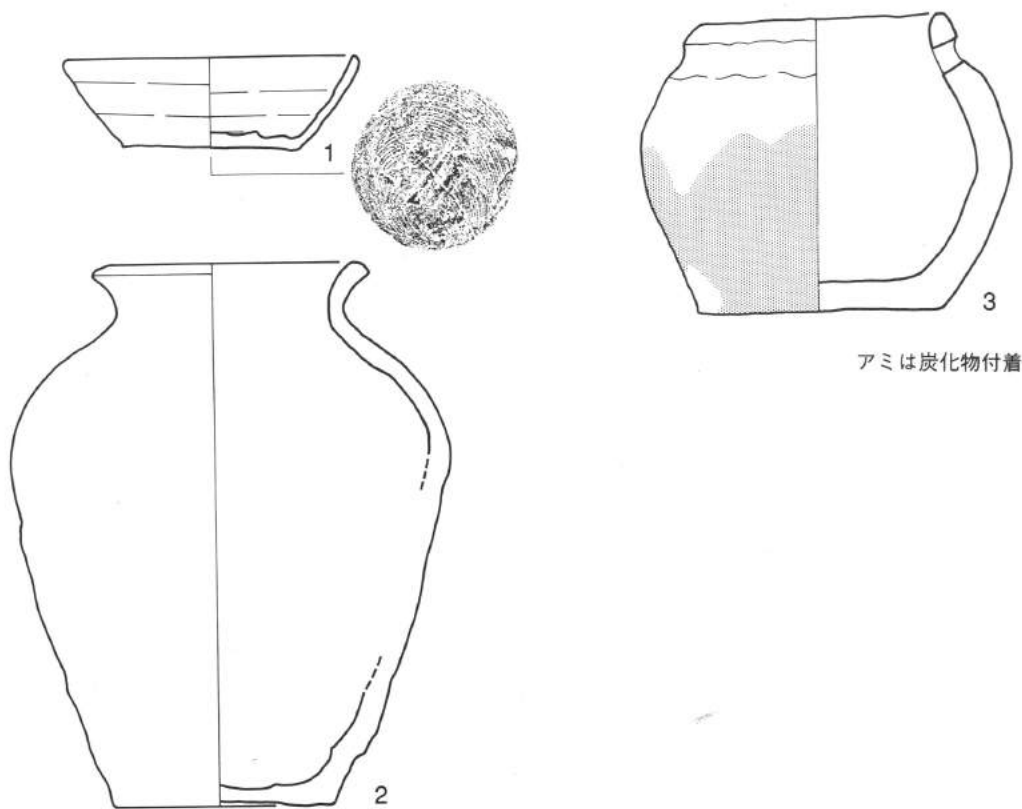


0 10cm
(1/3)



0 5cm
(1/2)

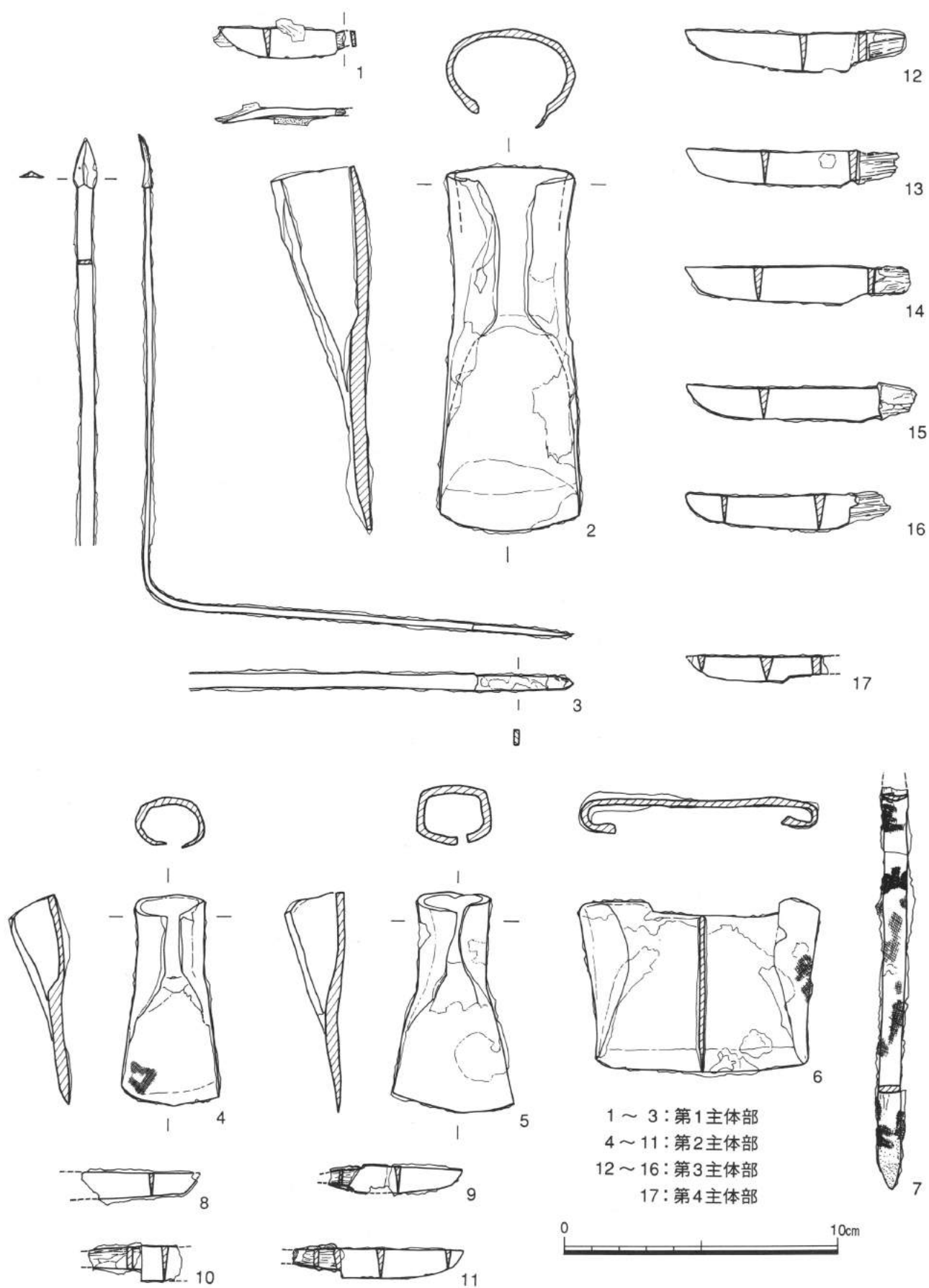
第64图 7区出土遺物実測図1 (1/3・1/2)



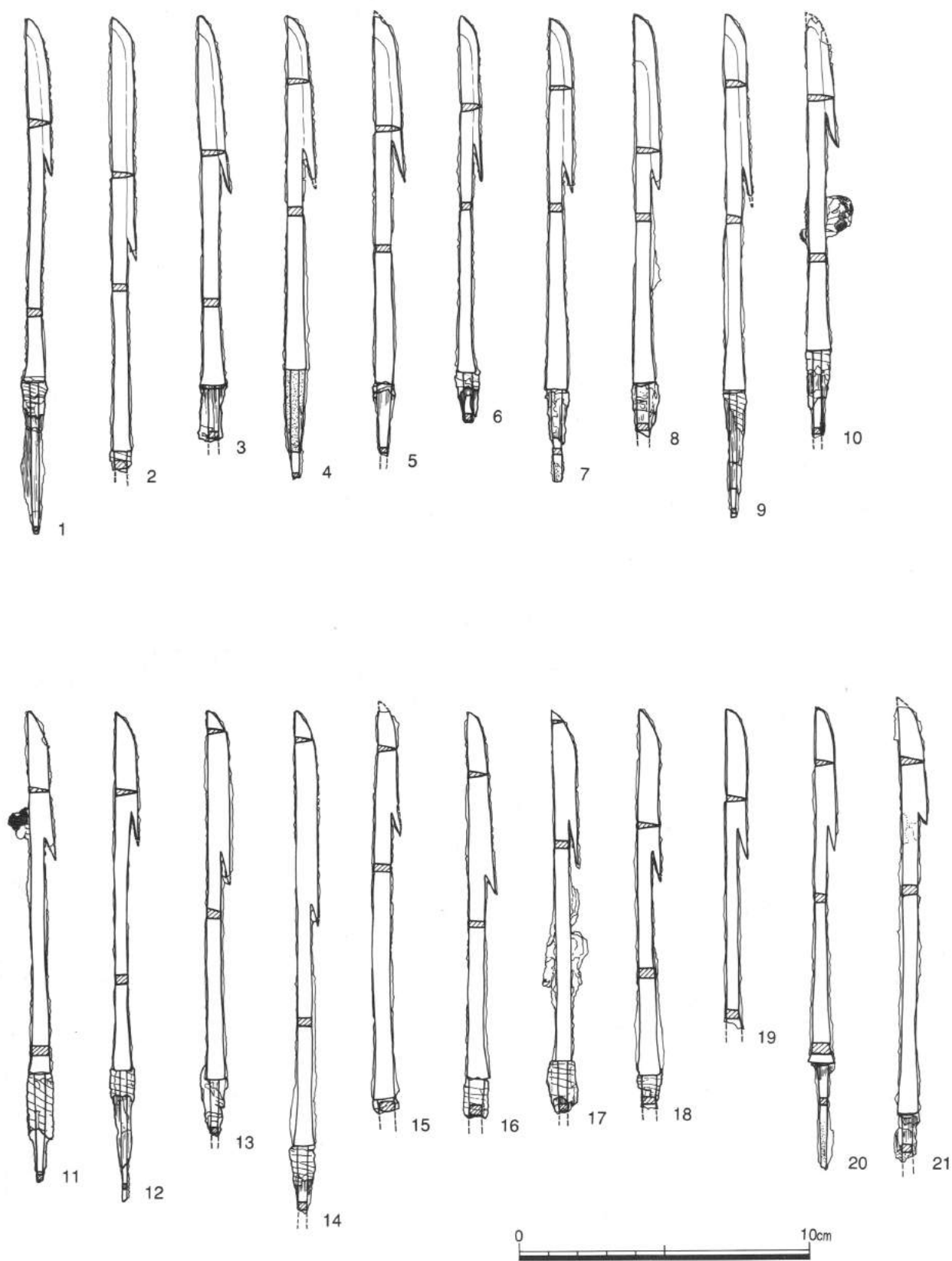
集石墓中より出土



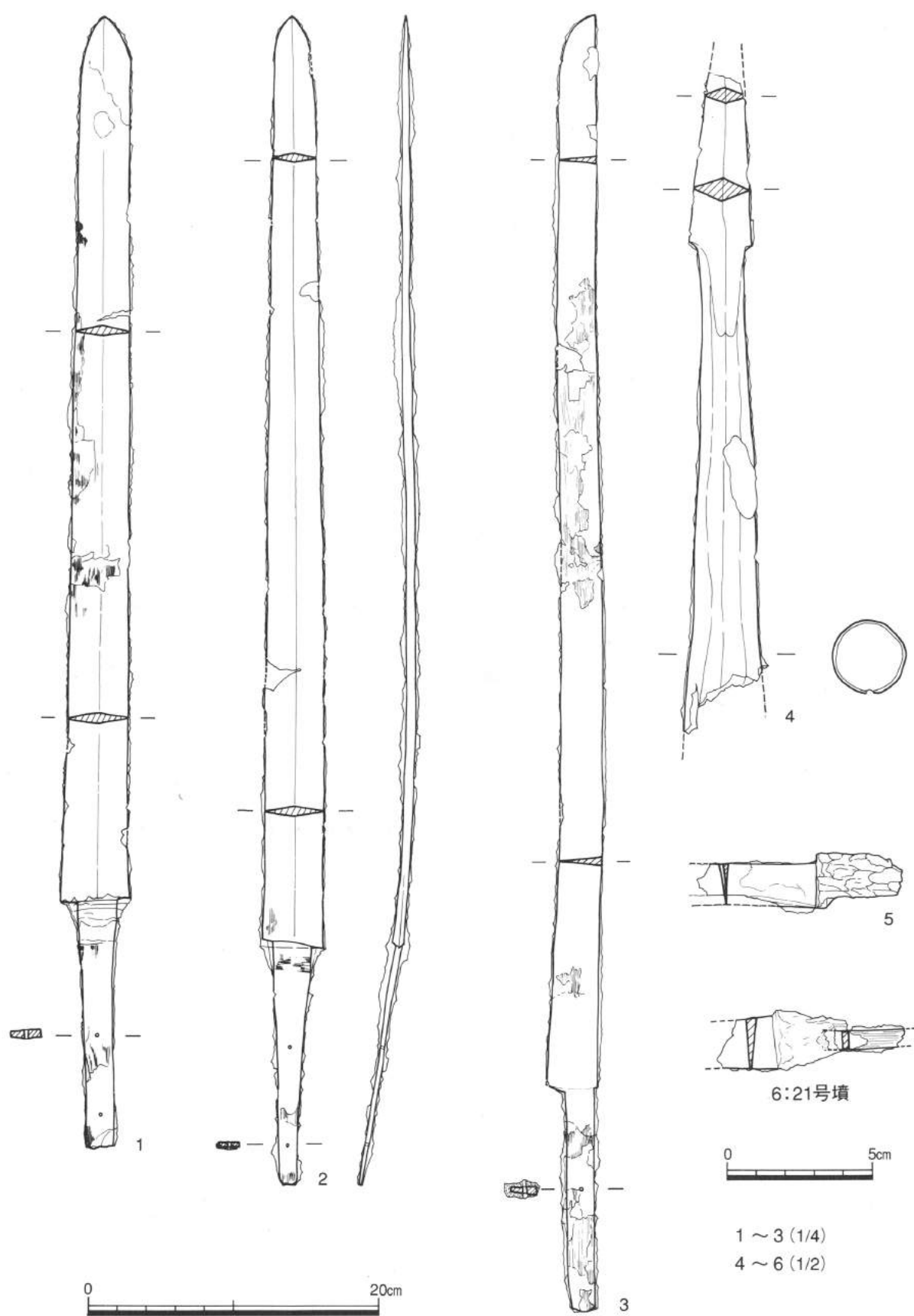
第65図 7区出土遺物実測図2 (1/3)



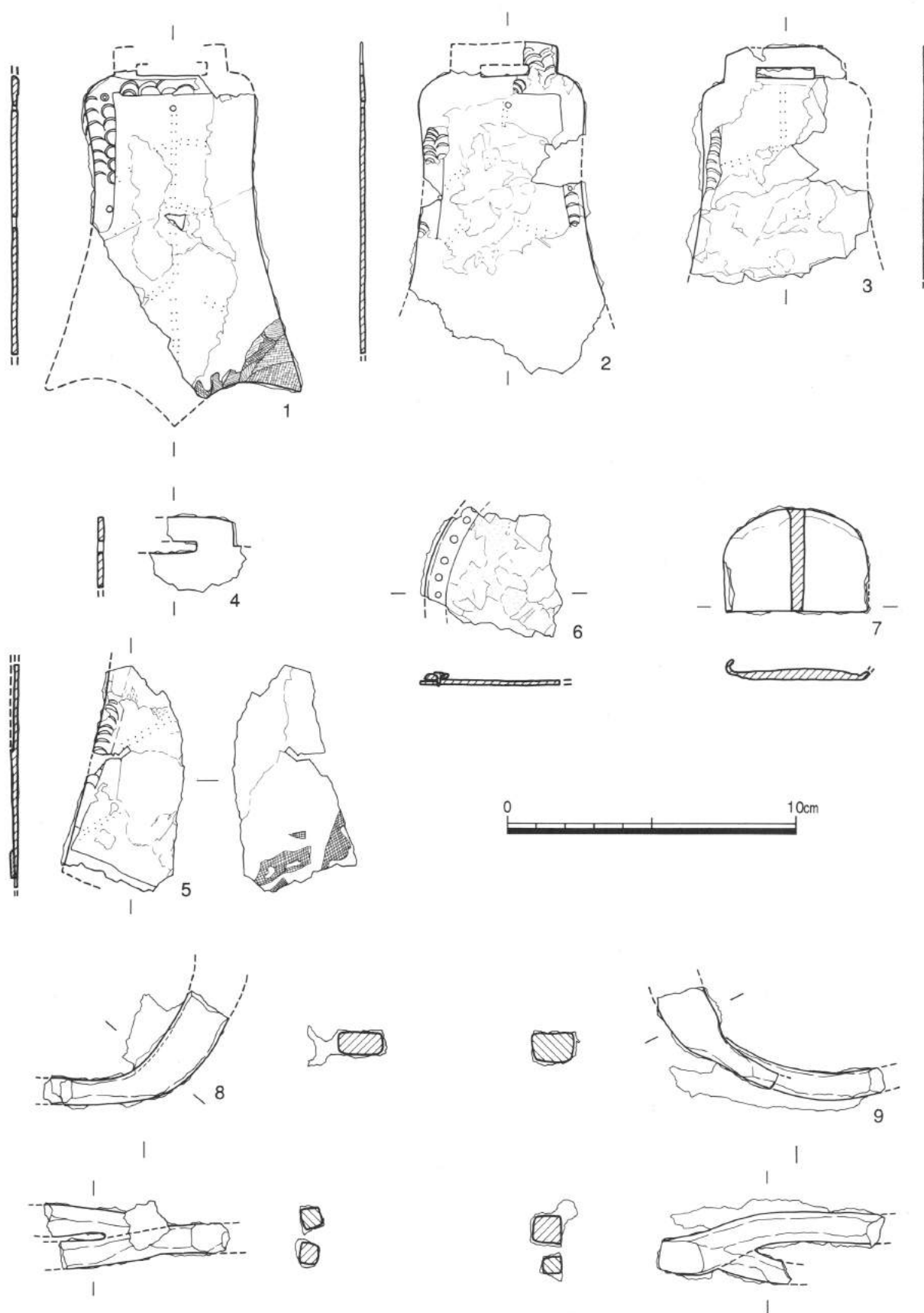
第66図 1号墳主体部出土鉄器実測図 (1/2)



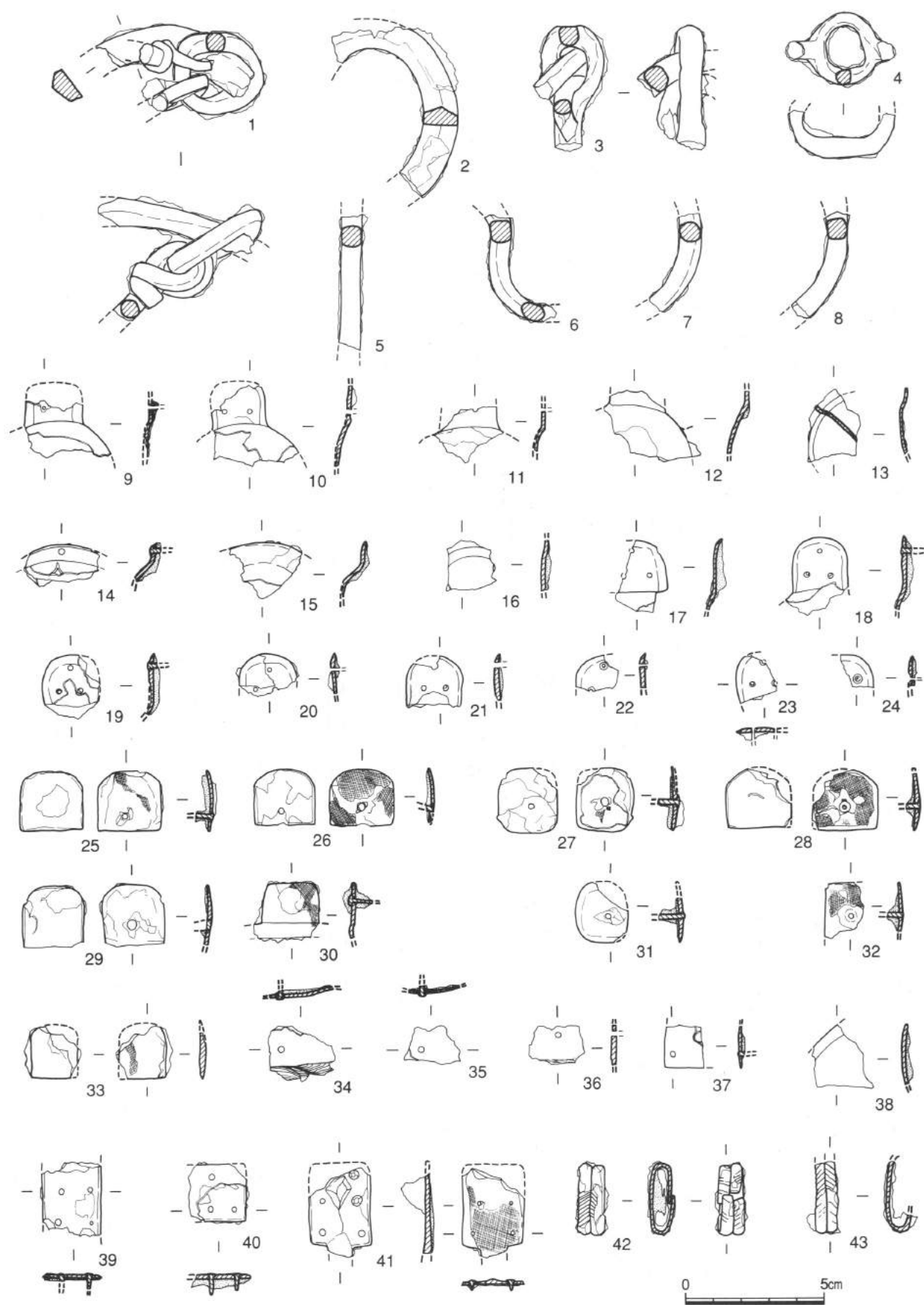
第 67 図 2 号墳主体部出土鉄器実測図 (1/2)



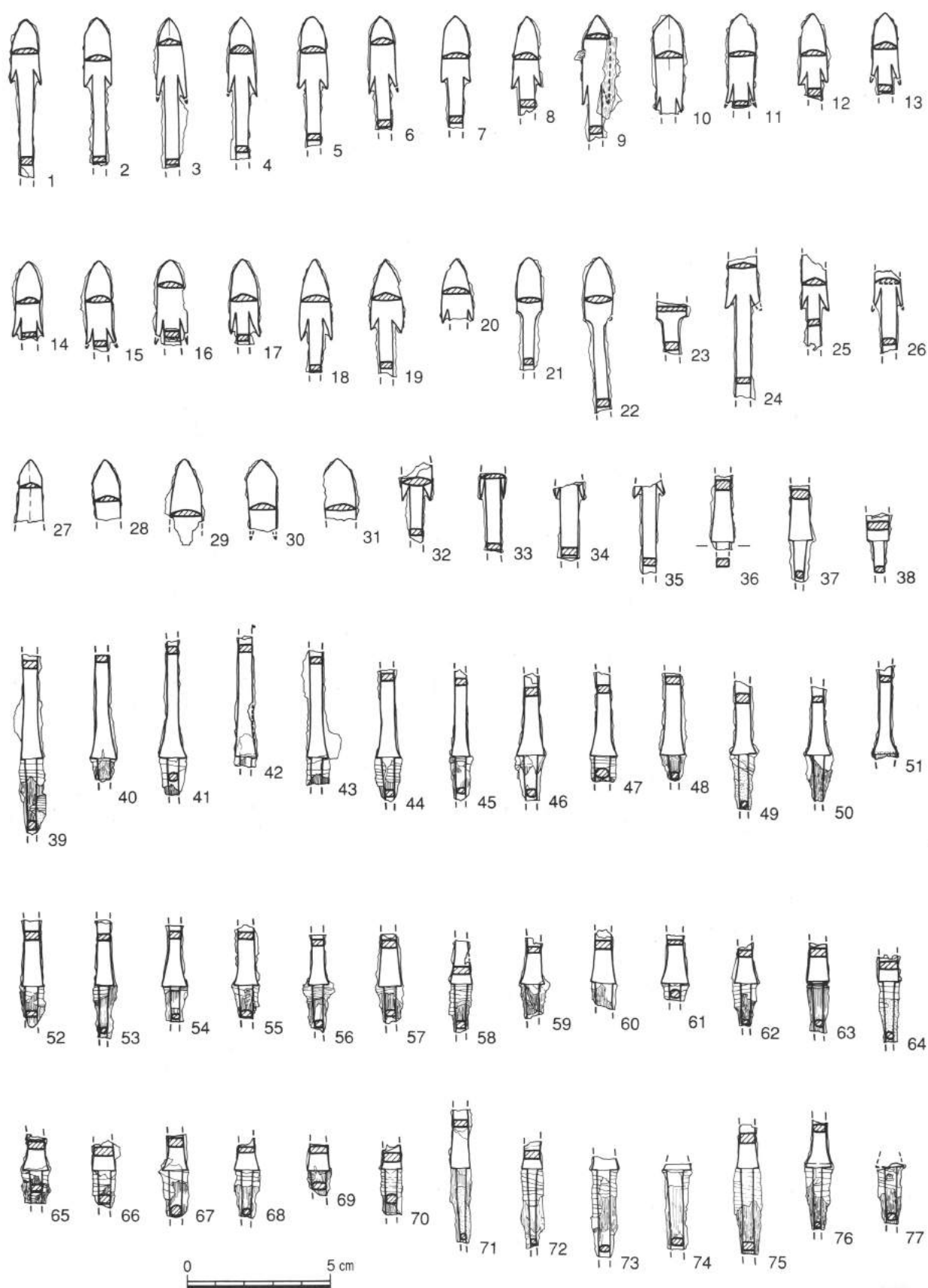
第 68 図 2 号墳・21 号墳主体部出土鉄器実測図 (1/4・1/2)



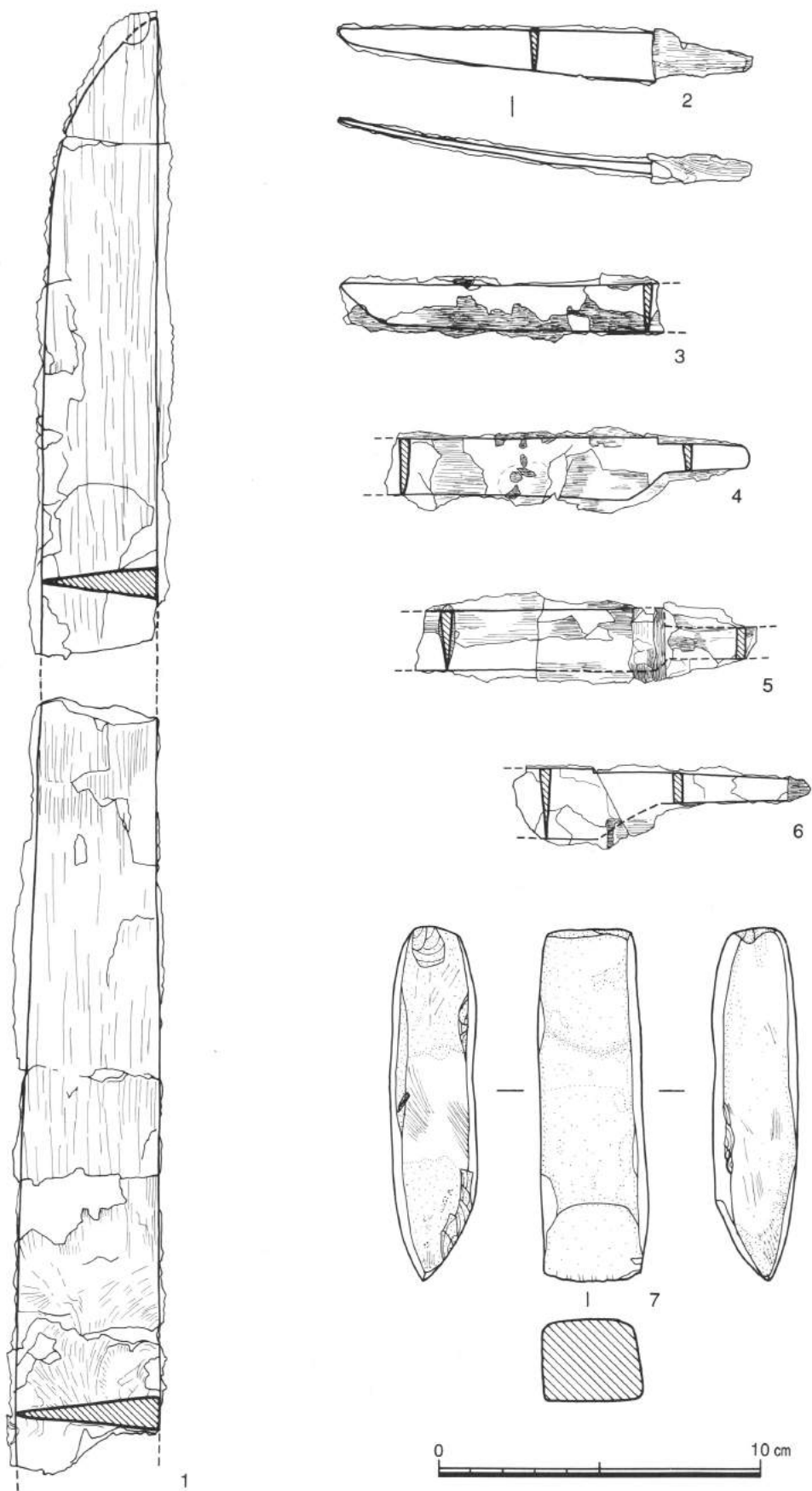
第69図 4号墳主体部出土鉄器実測図1 (1/2)



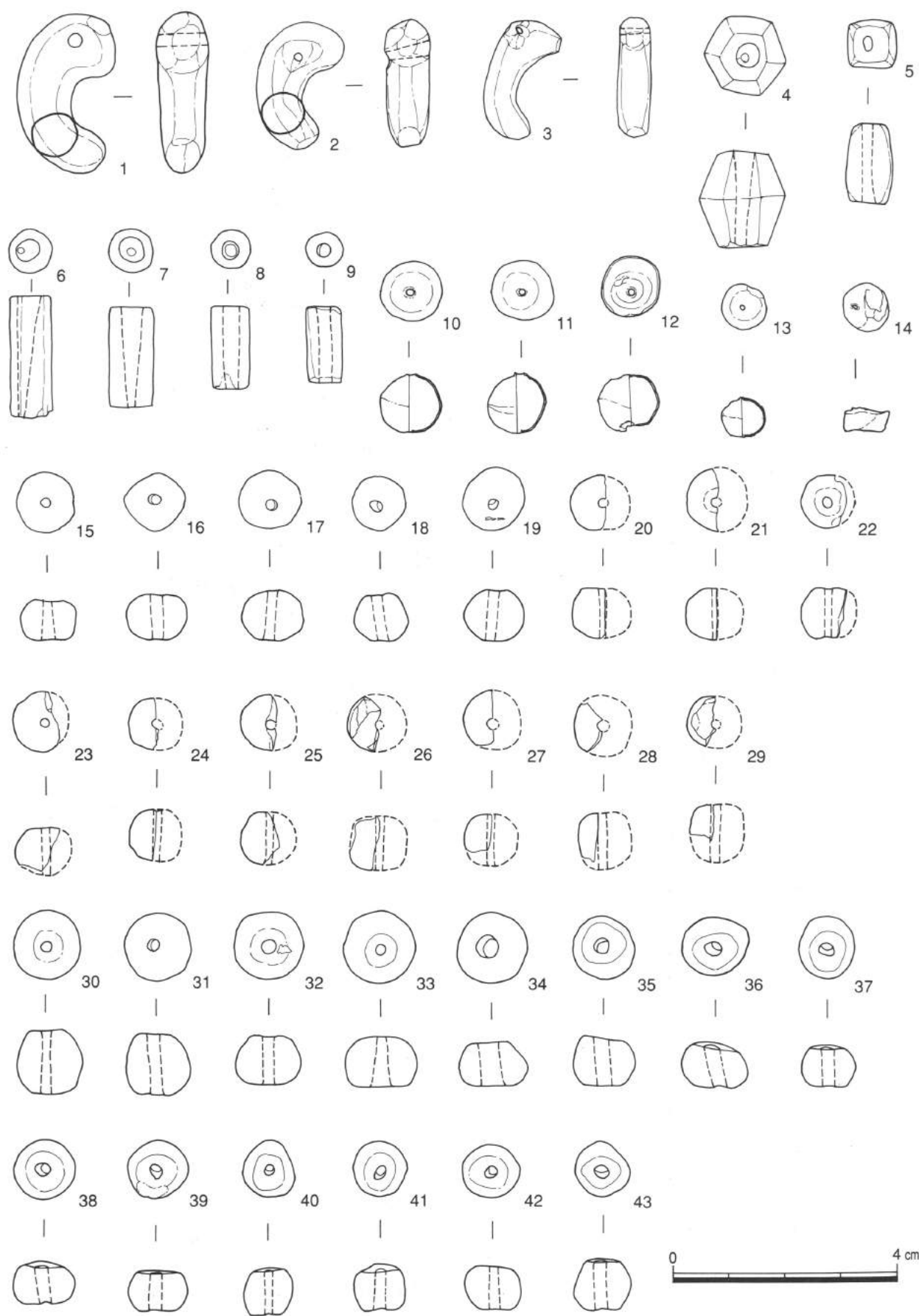
第70图 4号墳主体部出土鉄器実測図2 (1/2)



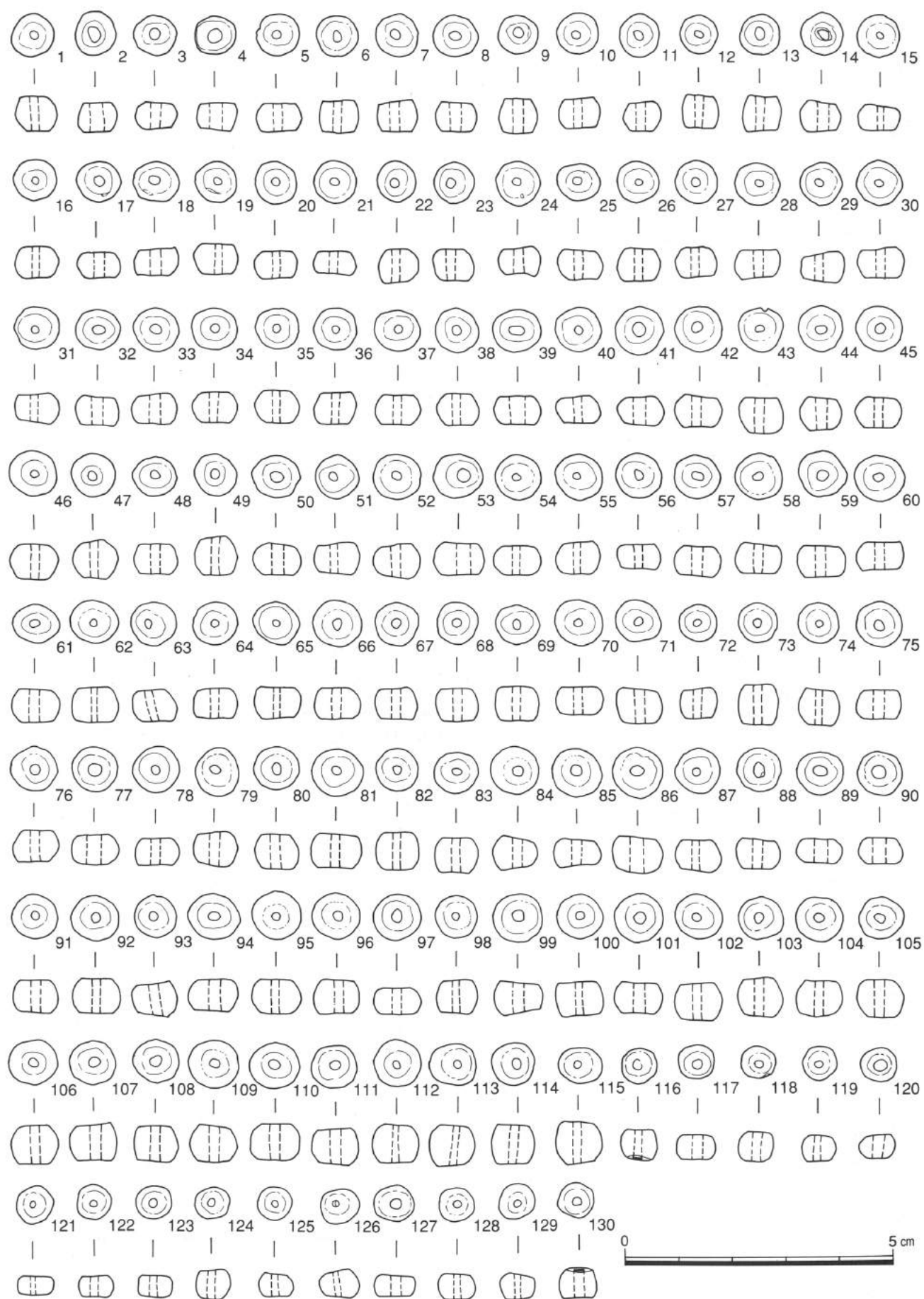
第71图 4号墳主体部出土鉄器実測図3 (1/2)



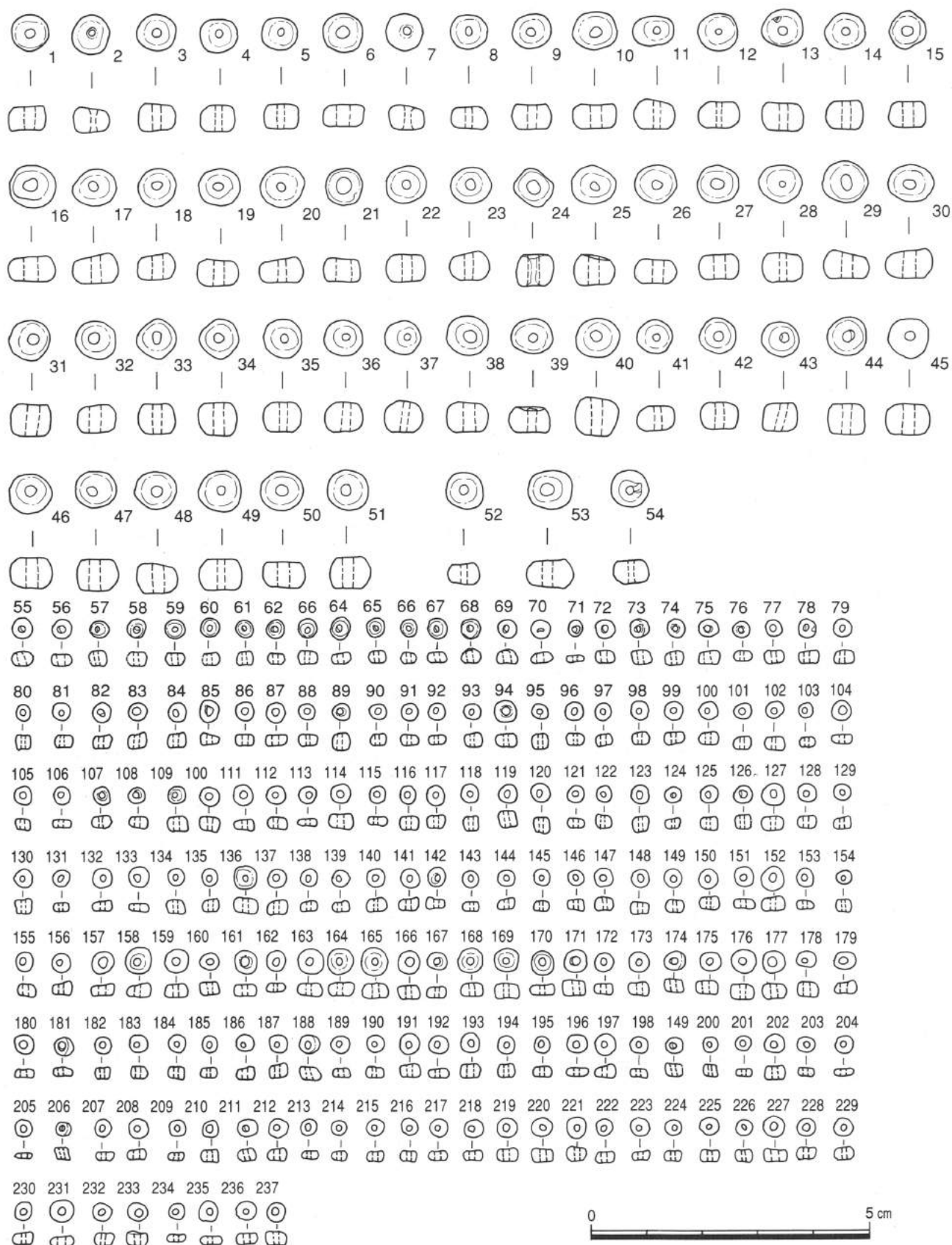
第72図 4号墳主体部出土鉄器・石器実測図(1/2)



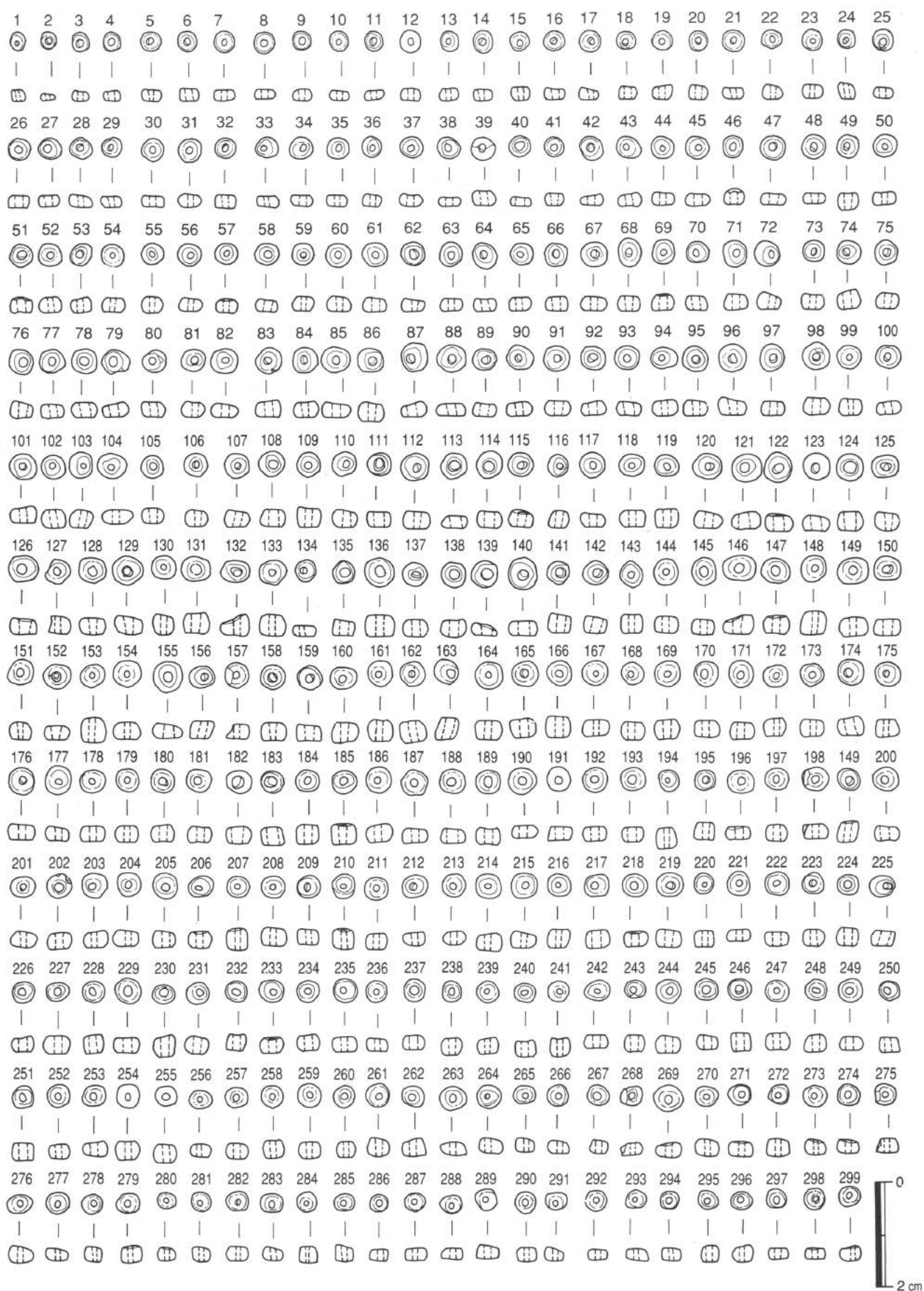
第73图 4号墳主体部出土玉類実測図1 (1/1)



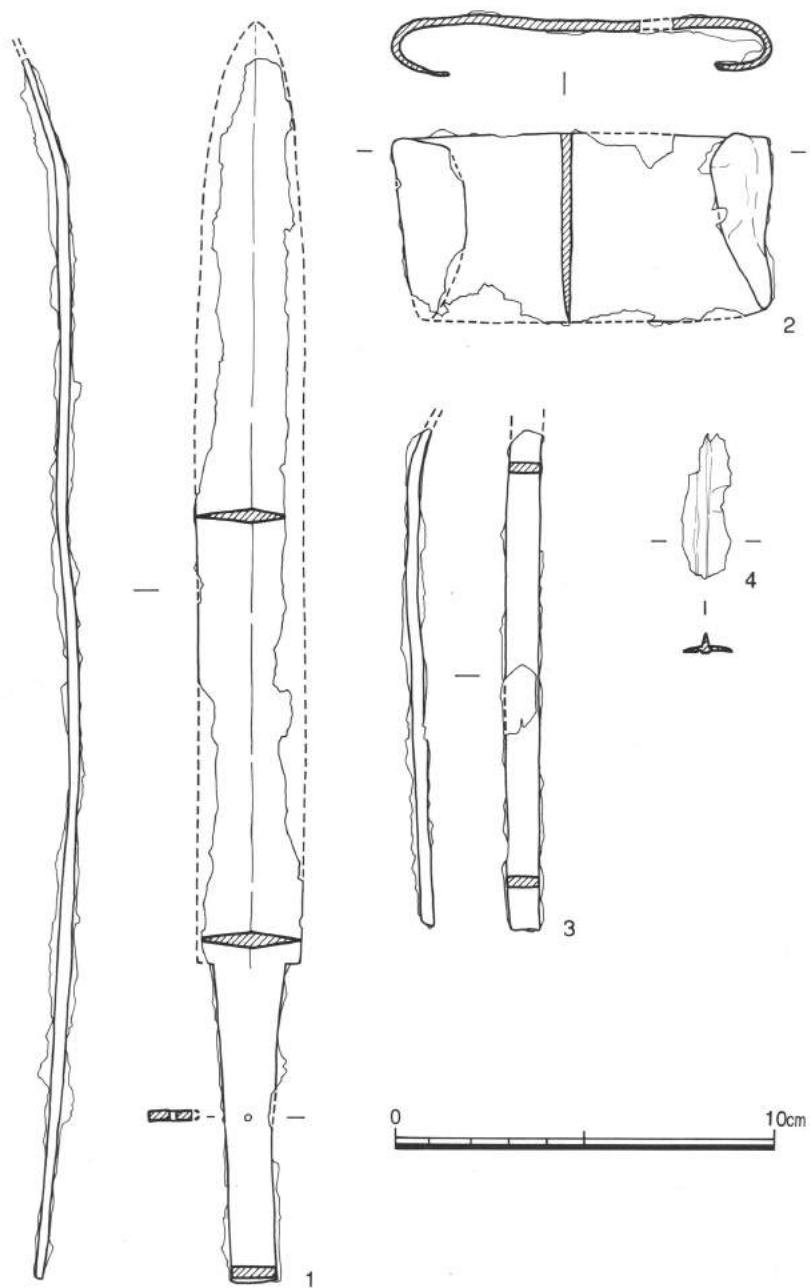
第74図 4号墳主体部出土玉類実測図2 (1/1)



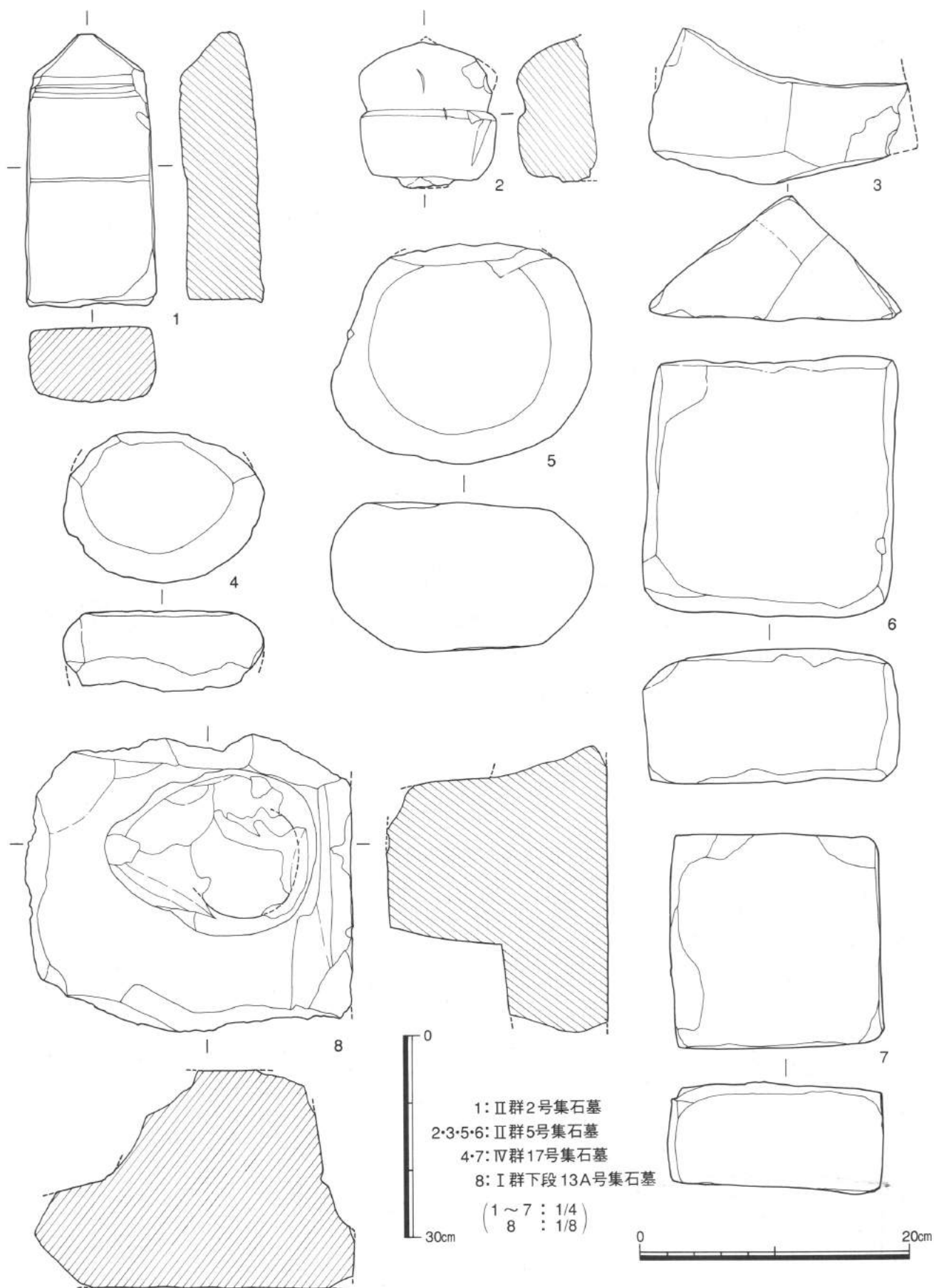
第 75 图 4 号墳主体部出土玉類実測図 3 (1/1)



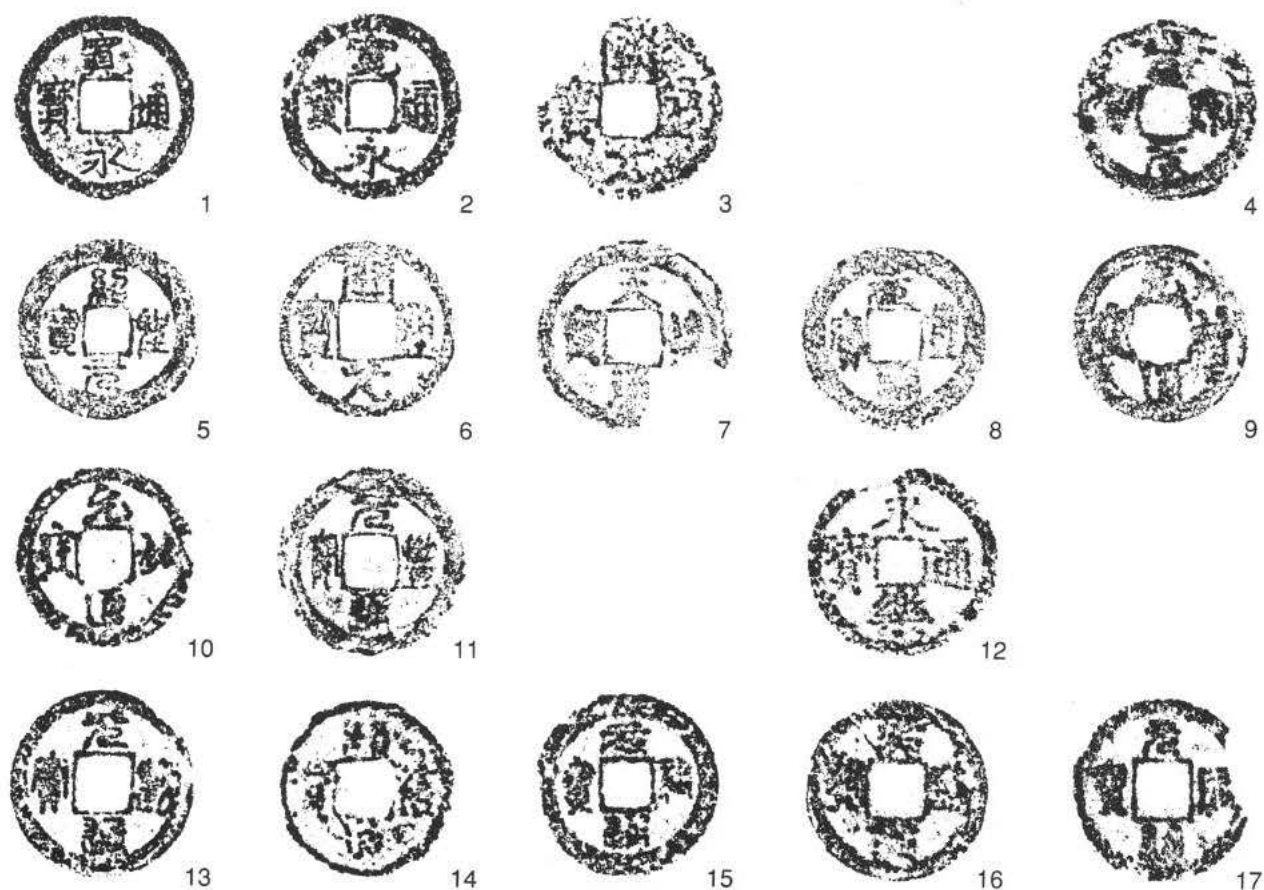
第76图 4号墳主体部出土玉類実測図4 (1/1)



第 77 図 38 号墳主体部出土鉄器実測図 (1/2)



第78図 集石墓出土石塔類実測図 (1/4・1/8)



第79図 集石墓出土古銭拓本 (1/1)

第10表 古銭計測表

単位mm

NO	区	遺 構	銭貨名	初鋳年	外 径	厚 さ	孔 径	重 さ	備 考
1	1区	表採	寛永通宝		24.7	1.2	6	2.45g	新寛永・マ頭通
2	7区	38号墳盛土北東側	寛永通宝		24.8	1.5	5.3	3.0g	古寛永・コ頭通
3	7区	38号墳盛土北東側	開元通宝	960	25.3	1.4	6.1	2.2g	
4	7区	38号墳墳丘裾南側	聖?宋元宝	1101	25.3	1.4	6.1	2.1g	
5	7区	Ⅱ群5号墓周辺	紹聖元宝	1094	24.7	1.1	5.8	2.9g	
6	7区	Ⅱ群5号墓周辺	開元通宝	960	23.6	1.2	6.9	2.2g	
7	7区	Ⅱ群5号墓周辺	天禧?通宝	1017	26.3	1.1	6.1	2.1g	
8	7区	Ⅱ群5号墓周辺	元豊通宝	1078	24.7	1.5	6	2.9g	
9	7区	Ⅱ群5号墓周辺	元豊通宝	1078	23.3	1.3	6.2	2.1g	
10	7区	I群上段9B号墓	元祐通宝	1086	24.2	1.2	6.9	1.9g	埋葬域内より出土
11	7区	I群上段9B号墓	元豊通宝	1078	25.1	1.4	6.8	2.4g	埋葬域内より出土
12	7区	I群上段10号墓	永樂通宝	1408	25.5	1.8	5.2	2.2g	集石下部より出土
13	7区	I群上段16号墓	元豊通宝	1078	25	1.2	7.1	2.25g	集石下部より出土
14	7区	I群上段16号墓	紹?○通宝		23.9	1.9	7.1	2.5g	集石下部より出土
15	7区	I群上段16号墓	元祐?通宝	1086	24.7	1.6	5.8	3.1g	集石下部より出土
16	7区	I群上段16号墓	○○元宝		24.9	1.2	7.1	2.9g	集石下部より出土
17	7区	Ⅳ群17号墓	元祐通宝	1086	24.8	1.4	7.1	2.6g	
18	7区	Ⅲ群20A号墓	元○○○			1.5	6.9		風化著しい
19	7区	Ⅲ群20A号墓				1.7	5.8		風化著しい
20	7区	Ⅱ群7号墓	○○元宝		23.5	1.1	6	2.35g	風化著しい

第 11 表 土器計測表

単位 cm

NO	出土地点	種 類	器 種	法 量					備 考	挿図番号
				口 径	頸部最小径	胴部最大径	底径脚径	器 高		
1	1区1号墳西側くびれ部	土師器	壺	—	—	—	—	—	丸底	第58図-1
2	1区1号墳前方部裾	土師器	壺	—	—	—	—	—	丸底	第58図-2
3	1区1号墳西側くびれ部	土師器	器台?	12.7	9.2	—	—	—		第58図-3
4	1区1号墳西側くびれ部表採	土師器	壺	—	—	—	—	—		第58図-4
5	1区1号墳西側くびれ部表採	土師器	壺	—	—	—	—	—		第58図-5
6	1区1号墳と2号墳の間の東側	須恵器	甌	—	—	12.4	—	—		第58図-6
7	1区1号墳と2号墳の間の東側	須恵器	甌	—	4.4	11.6	—	—		第58図-7
8	1区2号墳墳丘西側裾上層	土師器	二重口縁壺	14.0	9.6	—	—	—		第58図-8
9	1区2号墳墳丘東側裾	土師器	壺	—	2.3	21.8	—	—		第58図-9
10	1区2号墳墳丘南東側	土師器	高坏	—	3.1	—	—	—		第58図-10
11	1区2号墳墳丘南東側	土師器	高坏	—	3.1	—	—	—		第58図-11
12	1区2号墳墳丘東側	土師器	高坏	—	3.3	—	—	—		第58図-12
13	1区2号墳墳丘東側	土師器	高坏	14.2	2.9	—	—	—		第58図-13
14	1区2号墳墳丘東側	土師器	高坏	—	2.7	—	—	—		第58図-14
15	1区2号墳墳丘東側	土師器	高坏	14.6	3.0	—	—	—		第58図-15
16	1区1号墳後円部南西側土層埋土中	土師器	皿	—	—	—	5.5	—		第59図-1
17	1区1号墳後円部南側土層埋土中	土師器	皿	—	—	—	8.0	—	底部回転ヘラケズリ	第59図-2
18	1区1号墳後円部南側土層埋土中	土師器	皿	—	—	—	7.6	—		第59図-3
19	1区1号墳後円部南側土層埋土中	土師器	皿	—	—	—	7.6	—	風化著しい	第59図-4
20	1区1号墳西側くびれ部表採	須恵器	短頸壺	16.6	—	19.0	—	—		第59図-5
21	1区30号遺構	須恵器	蓋	14.3	2.4	—	—	3.4		第59図-6
22	1区81号遺構	須恵器	蓋	—	—	—	—	—		第59図-7
23	1区81号遺構	須恵器	火葬蔵骨器	9.2	10.2	21.6	10.6	19.3		第59図-8
24	2区C3号墳祭祀土坑	須恵器	甌	11.9	7.2	17.5	—	16.5		第60図-1
25	2区C3号墳祭祀土坑	土師器	甌	7.2	4.5	9.7	—	9.5		第60図-2
26	2区C3号墳祭祀土坑	須恵器	甕	16.0	11.4	14.3	—	24.5	底部打ちかけ・内面ナデ	第60図-3
27	2区C3号墳祭祀土坑	須恵器	甕	18.8	13.3	34.5	—	35.8	底部打ちかけ	第60図-4
28	2区C3号墳祭祀土坑	須恵器	甕	20.6	16.0	39.8	—	40.5	底部打ちかけ	第61図-1
29	2区C3号墳祭祀土坑	須恵器	高坏	16.2	6.1	—	12.0	11.8	片耳付き	第61図-2
30	2区C3号墳1区馬蹄形溝	土師器	椀	12.6	—	13.6	—	—		第61図-3
31	2区C3号墳墓道	土師器	壺	—	—	10.1	—	—		第61図-4
32	2区C3号墳墓道	土師器	壺	—	—	—	—	—		第61図-5
33	2区C3号墳1区馬蹄形溝端	須恵器	坏蓋	16.6	2.4	—	—	2.3		第61図-6
34	2区C3号墳4区馬蹄形溝	須恵器	坏身	—	—	—	7.8	—		第61図-7
35	2区A5号墓東側	須恵器	蓋	14.2	—	—	—	1.7	出土状況不明	第62図-1
36	2区B7号墓東側トレンチ	須恵器	蓋	10.4	—	—	—	2.2		第62図-2
37	2区A5号墓東側	須恵器	火葬蔵骨器?	8.3	8.8	—	—	—	出土状況不明	第62図-3
38	2区B6号遺構西拡張トレンチ	須恵器	火葬蔵骨器?	—	—	18.8	10.1	—		第62図-4
39	2区B南斜面	土師器	火葬蔵骨器?	—	—	—	12.8	—		第62図-5
40	2区A5号墓東側	須恵器	火葬蔵骨器?	—	—	20.3	—	—	出土状況不明	第62図-6
41	2区B表採	須恵器	火葬蔵骨器?	—	—	—	—	—		第62図-7
42	2区A14号墳	須恵器	坏蓋	14.0	—	—	—	—		第63図-1
43	2区A14号墳	須恵器	甕	12.4	—	—	—	—		第63図-2
44	2区A9号石棺墓	土師器	高坏	—	3.7	—	—	—		第63図-3
45	2区B11号石棺墓南西側	土師器	高坏	—	4.0	—	—	—		第63図-4
46	7区38号墳南西側盛土内	土師器	器台	—	4.3	—	—	—		第64図-1
47	7区38号墳北側盛土内	土師器	器台	—	—	—	11.0	—		第64図-2
48	7区38号墳旧表土内	弥生?	壺	—	—	—	5.0	—		第64図-3
49	7区38号墳旧表土内	弥生?	器台	—	—	—	13.6	—		第64図-4
50	7区38号墳旧表土内	弥生?	器台	—	5.0	—	8.8	—		第64図-5
51	7区4号集石墓	土師器	坏	11.8	7.0	—	3.6	—		第65図-1
52	7区14-C号集石墓	土師器	蔵骨器	10.0	9.3	17.9	8.9	21.9		第65図-2
53	7区24号集石墓	土師器	蔵骨器	9.5	—	14.8	9.8	12.0		第65図-3
54	7区38号墳南側裾	土師器	皿	—	—	—	5.1	—		第65図-4
55	7区38号墳南側裾	土師器	皿	—	—	—	9.2	—		第65図-5
56	7区38号墳南側裾	須恵器	皿	—	—	—	7.0	—	底部ヘラケズリ	第65図-6
57	7区38号墳南側裾	土師器	皿	—	—	—	6.6	—		第65図-7
58	7区38号墳南側裾	土師器	皿	—	—	—	6.5	—		第65図-8
59	7区38号墳南側裾	白磁	椀	—	—	—	6.6	—		第65図-9

第 12 表 鉄器計測表

単位 cm

NO	出土地点	名称	埋葬場所	出土部位	計測値	插图番号
1	1区1号墳第1主体部	刀子	割竹形木棺	頭位床	$A 4.2 \cdot B 0.3 + a \cdot C 0.25 \cdot D 1.1 \cdot E 0.6 \cdot F 1.8$	第66図- 1
2	1区1号墳第1主体部	鉄斧	割竹形木棺	頭位床	全長13.3・刃部幅5.1・袋部内径4.2×2.5	第66図- 2
3	1区1号墳第1主体部	鉋	割竹形木棺	頭位床	全長32.8・刃部長1.9・刃部幅0.8・柄長3.5	第66図- 3
4	1区1号墳第2主体部	鉄斧2	割竹形木棺	頭位床	全長7.8・刃部幅3.5・袋部内径2.1×1.4	第66図- 4
5	1区1号墳第2主体部	鉄斧1	割竹形木棺	頭位床	全長8.0・刃部幅4.4・袋部内径2.2×1.7	第66図- 5
6	1区1号墳第2主体部	鋤先	割竹形木棺	頭位床	最大幅8.8・長さ5.8・厚さ0.2	第66図- 6
7	1区1号墳第2主体部	鉋	割竹形木棺	頭位床	全長14.6+ a ・刃部幅1.0・柄厚0.25	第66図- 7
8	1区1号墳第2主体部	刀子1	割竹形木棺	頭位床	$A 4.2 + a \cdot C 1.1 \sim 0.9 \cdot D 0.2$	第66図- 8
9	1区1号墳第2主体部	刀子2	割竹形木棺	頭位床	$A 4.0 \cdot B 0.9 + a \cdot C 0.8 \cdot D 0.25$	第66図- 9
10	1区1号墳第2主体部	刀子3	割竹形木棺	頭位床	$A 1.5 + a \cdot B 1.9 \cdot C 1.3 \cdot D 0.3$	第66図-10
11	1区1号墳第2主体部	刀子4	割竹形木棺	頭位床	$A 4.5 \cdot B 1.7 \cdot C 1.1 \cdot D 0.3 \cdot E 0.5 \sim 0.8 \cdot F 0.18$	第66図-11
12	1区1号墳第3主体部	刀子1	円筒棺	脚部床	$A 5.9 \cdot B 2.0 \cdot C 1.4 \cdot D 0.3$	第66図-12
13	1区1号墳第3主体部	刀子2	円筒棺	脚部床	$A 5.6 \cdot B 2.1 \cdot C 1.3 \cdot D 0.3$	第66図-13
14	1区1号墳第3主体部	刀子3	円筒棺	脚部床	$A 5.6 \cdot B 2.1 \cdot C 1.4 \cdot D 0.3$	第66図-14
15	1区1号墳第3主体部	刀子4	円筒棺	脚部床	$A 6.3 \cdot B 2.0 \cdot C 1.1 \cdot D 0.35$	第66図-15
16	1区1号墳第3主体部	刀子5	円筒棺	脚部床	$A 5.5 \cdot B 1.9 \cdot C 1.3 \cdot D 0.2 \sim 0.35$	第66図-16
17	1区1号墳第4主体部	刀子	壺棺	棺外	$A 3.3 + a \cdot B 1.7 + a \cdot C 0.9 \cdot D 0.45$	第66図-17
18	1区2号墳主体部	鉄鏃1	割竹形木棺	脚部床	$A 5.4 + a \cdot B 0.7 \cdot C 12.5 \cdot D 5.3$ 細根片刃矢式	第67図- 1
19	1区2号墳主体部	鉄鏃2	割竹形木棺	脚部床	$A 8.0 + a \cdot B 0.75 \cdot C 15.0 \cdot D 0.7 + a$	第67図- 2
20	1区2号墳主体部	鉄鏃3	割竹形木棺	脚部床	$A 5.8 \cdot B 0.8 \cdot C 12.9 \cdot D 3.2$	第67図- 3
21	1区2号墳主体部	鉄鏃4	割竹形木棺	脚部床	$A 5.7 + a \cdot B 8.5 \cdot C 12.8 \cdot D 1.8 + a$	第67図- 4
22	1区2号墳主体部	鉄鏃5	割竹形木棺	脚部床	$A 4.5 \cdot B 7.5 \cdot C 12.6 \cdot D 3.8$	第67図- 5
23	1区2号墳主体部	鉄鏃6	割竹形木棺	脚部床	$A 5.7 + a \cdot B 0.7 \cdot C 12.7 \cdot D 2.0 + a$	第67図- 6
24	1区2号墳主体部	鉄鏃7	割竹形木棺	脚部床	$A 4.4 + a \cdot B 0.8 \cdot C 13.5 + a \cdot D 0.5 + a$	第67図- 7
25	1区2号墳主体部	鉄鏃8	割竹形木棺	脚部床	$A 6.4 \cdot B 0.9 \cdot C 12.7 \cdot D 1.3 + a$	第67図- 8
26	1区2号墳主体部	鉄鏃9	割竹形木棺	脚部床	$A 5.4 \cdot B 0.8 \cdot C 12.2 \cdot D 1.8 + a$	第67図- 9
27	1区2号墳主体部	鉄鏃10	割竹形木棺	脚部床	$A 6.1 \cdot B 0.8 \cdot C 12.8 \cdot D 1.8 + a$	第67図-10
28	1区2号墳主体部	鉄鏃11	割竹形木棺	脚部床	$A 5.6 + a \cdot B 8.5 \cdot C 12.2 \cdot D 3.8 + a$	第67図-11
29	1区2号墳主体部	鉄鏃12	割竹形木棺	脚部床	$A 5.5 + a \cdot B 0.9 \cdot C 12.7 + a \cdot D 2.5 + a$	第67図-12
30	1区2号墳主体部	鉄鏃13	割竹形木棺	脚部床	$A 5.7 \cdot B 0.6 \cdot C 12.4 \cdot D 1.7 + a$	第67図-13
31	1区2号墳主体部	鉄鏃14	割竹形木棺	脚部床	$A 6.2 \cdot B 0.8 \cdot C 13.1 \cdot D 4.3$	第67図-14
32	1区2号墳主体部	鉄鏃15	割竹形木棺	脚部床	$A 4.4 + a \cdot B 0.9 \cdot C 11.5 + a \cdot D 3.0$	第67図-15
33	1区2号墳主体部	鉄鏃16	割竹形木棺	脚部床	$A 4.4 + a \cdot B 0.8 \cdot C 12.4 \cdot D 4.5$	第67図-16
34	1区2号墳主体部	鉄鏃17	割竹形木棺	脚部床	$A 7.2 \cdot B 0.7 \cdot C 15.1 \cdot D 2.3 + a$	第67図-17
35	1区2号墳主体部	鉄鏃18	割竹形木棺	脚部床	$A 5.8 + a \cdot B 0.8 \cdot C 12.7 \cdot D 1.2 + a$	第67図-18
36	1区2号墳主体部	鉄鏃19	割竹形木棺	脚部床	$A 5.1 \cdot B 0.65 \cdot C 11.1 + a$	第67図-19
37	1区2号墳主体部	鉄鏃20	割竹形木棺	脚部床	$A 4.9 \cdot B 0.7 \cdot C 12.3 \cdot D 3.6$	第67図-20
38	1区2号墳主体部	鉄鏃21	割竹形木棺	脚部床	$A 4.1 + a \cdot B 0.8 \cdot C 14.1 + a \cdot D 1.7 + a$	第67図-21
39	1区2号墳主体部	鉄剣	割竹形木棺	胸部床	$A 61.0 \cdot B 17.4 + a \cdot C 1 3.4 \cdot C 2 3.7 \cdot C 3 4.6 \cdot D 0.6 \sim 0.8 \cdot E 2.0 \sim 2.7 \cdot F 0.7$	第68図- 1
40	1区2号墳主体部	鉄剣	割竹形木棺	胸部床	$A 64.2 \cdot B 16.5 \cdot C 1 2.7 \cdot C 2 3.8 \cdot C 3 4.2 \cdot D 0.6 \cdot E 1.2 \sim 2.6 \cdot F 0.3$	第68図- 2
41	1区2号墳主体部	鉄刀	割竹形木棺	胸部床	$A 74.2 \cdot B 15.4 \cdot C 1 2.6 \cdot C 2 3.0 \cdot C 3 3.5 \cdot D 0.6 \cdot E 2.0 \cdot F 0.6 \sim 0.3$	第68図- 3
42	1区2号墳主体部	鉄矛	割竹形木棺	棺外	$A 5.9 + a \cdot B 16.8 + a \cdot C 2.2 \cdot D 0.5 \sim 0.8$ ・袋部内径2.3	第68図- 4
43	1区2号墳主体部	刀子	割竹形木棺	胸部床	$A 4.1 + a \cdot B 2.9 \cdot C 1.5 \cdot D 0.3$	第68図- 5
44	1区21号墳主体部	刀子	石棺系竪穴式石室	胸部床	$A 1.8 + a \cdot B 4.3 \cdot C 1.8 \cdot D 0.3 \cdot E 0.6 \cdot F 0.2$	第68図- 6
45	2区A 9号墓	鉋	石棺	棺外	全長13.2+ a ・刃部幅0.9・柄厚0.2	第63図- 6
46	2区B 76号墓	鉄鏃1	土墳墓	胸部床	$A 2.1 \cdot B 1.2 \cdot C 6.8 + a$	第63図- 7
47	2区B 76号墓	鉄鏃2	土墳墓	胸部床	$A 1.6 \cdot B 1.1 \cdot C 2.4 + a$	第63図- 8

48	2区B 76号墓	鉄鍬3	土壙墓	胸部床	C 5.8+ α	第63図- 9
49	3区33号墓	鉄剣	土壙墓	胸部床	A 39+ α ・B 127・C 1 28・C 2 28・C 3 35・D 0.4~0.5・E 1.4~2.3・F 0.3~0.4	第63図- 5
50	5区4号墳	杏葉	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 11.3+ α ・幅 5.4	第69図- 1
51	5区4号墳	杏葉	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 11.3+ α ・幅 5.5	第69図- 2
52	5区4号墳	杏葉	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 8.2+ α ・幅 5.7	第69図- 3
53	5区4号墳	杏葉	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 2.5+ α ・幅 3.3	第69図- 4
54	5区4号墳	杏葉	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 7.9+ α ・幅 3.5	第69図- 5
55	5区4号墳	杏葉	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 4.5+ α ・幅 4.9+ α	第69図- 6
56	5区4号墳	帯金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 3.5・幅 5.0・厚さ 0.4	第69図- 7
57	5区4号墳	輪鍬	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 6.4+ α ・幅 2.3・高さ 4.0+ α ・右足側	第69図- 8
58	5区4号墳	輪鍬	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 7.8+ α ・幅 2.6・高さ 3.9+ α ・左足側	第69図- 9
59	5区4号墳	轡	横穴式石室	攪乱埋土	銜・引手・轡の交差部分	第70図- 1
60	5区4号墳	轡	横穴式石室	攪乱埋土	外径(復元) 7.0×6.1・断面形不定五角形 1.3×0.7	第70図- 2
61	5区4号墳	引手	横穴式石室	攪乱埋土		第70図- 3
62	5区4号墳	引手	横穴式石室	攪乱埋土	引手の端	第70図- 4
63	5区4号墳	引手	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 4.9+ α ・断面径 0.8	第70図- 5
64	5区4号墳	引手	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 3.9+ α	第70図- 6
65	5区4号墳	引手	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 3.8+ α ・断面径 0.7	第70図- 7
66	5区4号墳	引手	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 3.9+ α ・断面径 0.8	第70図- 8
67	5区4号墳	辻金具	横穴式石室	攪乱埋土	復元径 4.6	第70図- 9
68	5区4号墳	辻金具	横穴式石室	攪乱埋土	復元径 4.6	第70図-10
69	5区4号墳	辻金具	横穴式石室	攪乱埋土	復元径 5.3	第70図-11
70	5区4号墳	辻金具	横穴式石室	攪乱埋土	復元径 3.9	第70図-12
71	5区4号墳	辻金具	横穴式石室	攪乱埋土	復元径 4.7	第70図-13
72	5区4号墳	辻金具	横穴式石室	攪乱埋土	復元径 4.8	第70図-14
73	5区4号墳	雲珠?	横穴式石室	攪乱埋土	復元径 6.0	第70図-15
74	5区4号墳	辻金具	横穴式石室	攪乱埋土	復元径 4.8	第70図-16
75	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 1.9・幅 1.8+ α	第70図-17
76	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 2.8・幅 2.0・銚 3	第70図-18
77	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 2.4・幅 2.0・銚 3	第70図-19
78	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 1.5+ α ・幅 2.1・銚 3	第70図-20
79	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 1.9・幅 2.0・銚 3	第70図-21
80	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 1.5+ α ・幅 1.2+ α ・銚 2 以上	第70図-22
81	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 1.5+ α ・幅 1.4+ α ・銚 3	第70図-23
82	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 1.0+ α ・幅 1.2+ α ・銚 1 以上	第70図-24
83	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 2.15・幅 2.2・銚 1	第70図-25
84	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 2.0・幅 2.2・銚 1	第70図-26
85	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 2.35・幅 2.1・銚 1	第70図-27
86	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 2.2・幅 2.35・銚 1	第70図-28
87	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 2.2・幅 2.2・銚 1	第70図-29
88	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 2.0・幅 2.0・銚 1	第70図-30
89	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 2.2・幅 1.9	第70図-31
90	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 2.0+ α ・幅 1.4+ α ・銚 1	第70図-32
91	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 1.9・幅 2.0+ α	第70図-33
92	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 2.0・幅 2.4	第70図-34
93	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 1.4+ α ・幅 2.0+ α ・銚 1 以上	第70図-35
94	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 1.3+ α ・幅 2.0+ α	第70図-36
95	5区4号墳	留金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 1.4+ α ・幅 1.4+ α ・銚 1 以上	第70図-37
96	5区4号墳	不明	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 2.2+ α ・幅 2.0+ α	第70図-38
97	5区4号墳	鈎金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 2.6+ α ・幅 2.1・銚 4 以上	第70図-39

98	5区4号墳	鈎金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 2.0+ α ・幅 2.0 ・鉄 4 以上	第 70 図-40
99	5区4号墳	鈎金具	横穴式石室	攪乱埋土	長さ 3.2+ α ・幅 2.2 ・鉄 5 以上	第 70 図-41
100	5区4号墳	辻金具	横穴式石室	攪乱埋土	鉢本体と留金具の間にとりつく・長さ 2.6 ・幅 0.9 ・厚さ 0.8	第 70 図-42
101	5区4号墳	辻金具	横穴式石室	攪乱埋土	鉢本体と留金具の間にとりつく・長さ 2.6+ α ・幅 0.8 ・厚さ 0.9	第 70 図-43
102	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 2.3 ・ B 1.1 ・ C 5.6+ α	第 71 図- 1
103	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 2.4 ・ B 0.95 ・ C 5.2+ α	第 71 図- 2
104	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 2.8+ α ・ B 1.0 ・ C 5.3+ α	第 71 図- 3
105	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 2.7 ・ B 1.0 ・ C 5.0+ α	第 71 図- 4
106	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 2.5 ・ B 1.0 ・ C 4.6+ α	第 71 図- 5
107	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 2.7 ・ B 1.1 ・ C 4.0+ α	第 71 図- 6
108	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 2.3 ・ B 1.0 ・ C 4.0+ α	第 71 図- 7
109	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 2.5 ・ B 1.0 ・ C 3.5+ α	第 71 図- 8
110	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 3.1 ・ B 1.0 ・ C 4.4+ α	第 71 図- 9
111	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 3.3 ・ B 1.1 ・ C 3.5+ α	第 71 図-10
112	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 3.1+ α ・ B 1.1 ・ C 3.3+ α	第 71 図-11
113	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 2.5 ・ B 1.0 ・ C 3.0+ α	第 71 図-12
114	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 2.3+ α ・ B 1.0 ・ C 2.9+ α	第 71 図-13
115	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 2.6 ・ B 1.0 ・ C 2.8+ α	第 71 図-14
116	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 2.4 ・ B 1.0 ・ C 3.2+ α	第 71 図-15
117	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 2.7+ α ・ B 1.2 ・ C 3.0+ α	第 71 図-16
118	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 2.6 ・ B 1.1 ・ C 3.0+ α	第 71 図-17
119	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 2.8 ・ B 1.1 ・ C 4.0	第 71 図-18
120	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 2.7 ・ B 1.2 ・ C 4.1+ α	第 71 図-19
121	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 2.3 ・ B 1.2 ・ C 2.3+ α	第 71 図-20
122	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 1.9 ・ B 0.8 ・ C 4.0+ α	第 71 図-21
123	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 2.2 ・ B 1.9 ・ C 5.5+ α	第 71 図-22
124	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 0.6+ α ・ B 1.0 ・ C 1.9+ α	第 71 図-23
125	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 1.8+ α ・ B 1.2+ α ・ C 5.0+ α	第 71 図-24
126	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 1.9+ α ・ B 1.0 ・ C 3.3+ α	第 71 図-25
127	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 1.4+ α ・ B 1.1 ・ C 2.9+ α	第 71 図-26
128	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	B 1.0 ・ C 2.2+ α	第 71 図-27
129	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	B 0.95 ・ C 2.15	第 71 図-28
130	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	B 1.1 ・ C 3.0+ α	第 71 図-29
131	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	B 1.1 ・ C 2.5+ α	第 71 図-30
132	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	B 1.1 ・ C 2.2+ α	第 71 図-31
133	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 1.3+ α ・ B 1.05 ・ C 2.8+ α	第 71 図-32
134	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 0.9+ α ・ B 0.8 ・ C 2.8+ α	第 71 図-33
135	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 0.6+ α ・ B 1.05 ・ C 2.7+ α	第 71 図-34
136	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	A 0.5+ α ・ B 1.0 ・ C 3.3+ α	第 71 図-35
137	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	C 2.4+ α ・ D 0.3+ α	第 71 図-36
138	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	C 1.9+ α ・ D 1.5+ α	第 71 図-37
139	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	C 0.9+ α ・ D 1.1+ α	第 71 図-38
140	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	C 3.7+ α ・ D 2.6+ α	第 71 図-39
141	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	C 3.7+ α ・ D 0.8+ α	第 71 図-40
142	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	C 4.2+ α ・ D 1.3+ α	第 71 図-41
143	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	C 4.2+ α ・ D 0.3+ α	第 71 図-42
144	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	C 3.8+ α ・ D 1.0+ α	第 71 図-43
145	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	C 3.1+ α ・ D 1.4+ α	第 71 図-44
146	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	C 3.0+ α ・ D 1.6+ α	第 71 図-45
147	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	C 2.9+ α ・ D 1.6+ α	第 71 図-46

148	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 3.0+ \alpha \cdot D 0.9+ \alpha$	第71図-47
149	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 2.9+ \alpha \cdot D 0.9+ \alpha$	第71図-48
150	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 2.6+ \alpha \cdot D 1.9+ \alpha$	第71図-49
151	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 2.5+ \alpha \cdot D 1.6+ \alpha$	第71図-50
152	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 3.1+ \alpha \cdot D 0.2+ \alpha$	第71図-51
153	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 2.3+ \alpha \cdot D 1.5+ \alpha$	第71図-52
154	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 2.3+ \alpha \cdot D 1.8+ \alpha$	第71図-53
155	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 2.1+ \alpha \cdot D 1.3+ \alpha$	第71図-54
156	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 2.1+ \alpha \cdot D 1.2+ \alpha$	第71図-55
157	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 1.8+ \alpha \cdot D 1.6+ \alpha$	第71図-56
158	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 1.8+ \alpha \cdot D 1.4+ \alpha$	第71図-57
159	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 1.5+ \alpha \cdot D 1.7+ \alpha$	第71図-58
160	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 1.7+ \alpha \cdot D 1.2+ \alpha$	第71図-59
161	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 1.9+ \alpha \cdot D 0.9+ \alpha$	第71図-60
162	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 1.7+ \alpha \cdot D 0.6+ \alpha$	第71図-61
163	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 1.5+ \alpha \cdot D 1.5+ \alpha$	第71図-62
164	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 1.4+ \alpha \cdot D 1.7+ \alpha$	第71図-63
165	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 0.9+ \alpha \cdot D 2.1+ \alpha$	第71図-64
166	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 1.3+ \alpha \cdot D 1.1+ \alpha$	第71図-65
167	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 1.0+ \alpha \cdot D 1.3+ \alpha$	第71図-66
168	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 1.3+ \alpha \cdot D 1.7+ \alpha$	第71図-67
169	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 1.2+ \alpha \cdot D 1.6+ \alpha$	第71図-68
170	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 1.0+ \alpha \cdot D 0.8+ \alpha$	第71図-69
171	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 0.8+ \alpha \cdot D 1.2+ \alpha$	第71図-70
172	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 2.1+ \alpha \cdot D 2.6+ \alpha$	第71図-71
173	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 0.95+ \alpha \cdot D 2.75+ \alpha$	第71図-72
174	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 0.4+ \alpha \cdot D 3.0+ \alpha$	第71図-73
175	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 0.2+ \alpha \cdot D 2.8+ \alpha$	第71図-74
176	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 1.5+ \alpha \cdot D 3.0+ \alpha$	第71図-75
177	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 1.7+ \alpha \cdot D 2.1+ \alpha$	第71図-76
178	5区4号墳	鉄鏃	横穴式石室	攪乱埋土	$C 0.2+ \alpha \cdot D 2.0+ \alpha$	第71図-77
179	5区4号墳	大刀	横穴式石室	攪乱埋土	$A 44.9+ \alpha \cdot C 4.4 \cdot D 0.95$	第72図- 1
180	5区4号墳	刀子	横穴式石室	攪乱埋土	$A 9.7 \cdot B 3.0 \cdot C 1.5 \cdot D 0.2$	第72図- 2
181	5区4号墳	小刀	横穴式石室	攪乱埋土	$A 9.9 \cdot C 1.5 \cdot D 0.25$	第72図- 3
182	5区4号墳	小刀	横穴式石室	攪乱埋土	$A 7.5+ \alpha \cdot B 3.7 \cdot C 1.7 \cdot D 0.25 \cdot E 0.85 \cdot F 0.2$	第72図- 4
183	5区4号墳	小刀	横穴式石室	攪乱埋土	$A 7.5+ \alpha \cdot B 3.1 \cdot C 1.9 \cdot D 0.35 \cdot E 0.9 \cdot F 0.3$	第72図- 5
184	5区4号墳	小刀	横穴式石室	攪乱埋土	$A 2.5+ \alpha \cdot B 6.7 \cdot C 2.2 \cdot D 0.3 \cdot E 0.9 \cdot F 0.3$	第72図- 6
185	7区38号墳	鉄剣	割竹形木棺	東側	$A 23.8 \cdot B 8.5 \cdot C 推定 2.8 \cdot D 0.3 \cdot E 1.2 \sim 1.8 \cdot F 0.25$	第77図- 1
186	7区38号墳	鉞	割竹形木棺	東側	全長13.3・幅0.8・厚さ0.25	第77図- 2
187	7区38号墳	鋤先	割竹形木棺	東側	長さ5.0・幅10.0・厚さ0.25	第77図- 3
188	7区38号墳	不明鉄器	割竹形木棺	東側	長さ3.8+ α ・幅1.2・高さ0.55	第77図- 4

第 13 表 玉類計測表

単位 mm

NO	器 形	遺 構	材 質	高 さ	幅	孔 径	重 さ	色	挿図番号
1	管玉	10 号墓	グリーンタフ	23.5	7.8	3.5	2.2g	淡緑	第 63 図-10
2	丸玉	18 号墓	ガラス	4.4	5.9	1.8	0.3g	濃紺	第 63 図-11
3	勾玉	14 号墳	軟玉	37.0	17.0	3.0 ~ 5.0	27.3g	白～緑	第 63 図-12
4	管玉	14 号墳	グリーンタフ	22.0	8.6	3.5 ~ 1.0	3.1g	濃緑色	第 63 図-13
5	勾玉	14 号墳	ガラス	22.0	5.3	2.0	1.9g	青緑	第 63 図-14
6	勾玉	14 号墳	軟玉	18.0	6.2	3.8	1.8g	乳白色	第 63 図-15
7	丸玉	14 号墳	ガラス	6.4	7.2	2.0	0.4g	濃紺	第 63 図-16
8	丸玉	14 号墳	ガラス	5.3	7.0	1.8	0.4g	濃紺	第 63 図-17
9	丸玉	14 号墳	ガラス	4.5	6.9	2	0.2g	濃紺	第 63 図-18
10	丸玉	14 号墳	ガラス	4.6	6.0	2.2	0.2g	濃紺	第 63 図-19
11	丸玉	14 号墳	ガラス	2.7	5.5	2.1	0.1g 以下	緑	第 63 図-20
12	丸玉	14 号墳	ガラス	5.0	5.7	1.8	0.2g	濃紺	第 63 図-21
13	丸玉	14 号墳	ガラス	3.5	4.5	1.2	0.1g 以下	緑	第 63 図-22
14	丸玉	14 号墳	ガラス	2.4	3.3	1.1	0.1g 以下	黄緑	第 63 図-23
15	勾玉	4 号墳	軟玉	28.5	8.6	2.5 ~ 3.3	6.7g	白緑	第 73 図- 1
16	勾玉	4 号墳	水晶	22.5	7.8	1.0 ~ 3.0	3.3g	透明	第 73 図- 2
17	勾玉	4 号墳	水晶	20.7	6.3	1.0	2.0g	透明	第 73 図- 3
18	切子玉	4 号墳	水晶	17.3	15.0	2.5 ~ 3.0	4.6g	透明	第 73 図- 4
19	切子玉	4 号墳	ガラス	13.9	8.6	2.0 ~ 3.0	1.8g	薄緑透明	第 73 図- 5
20	管玉	4 号墳	水晶	22.2	7.6	1.0 ~ 4.0	2.3g	透明	第 73 図- 6
21	管玉	4 号墳	水晶	18.3	7.8	1.0 ~ 4.0	2.1g	透明	第 73 図- 7
22	管玉	4 号墳	ガラス	15.0	6.8	2.2 ~ 3.0	1.2g	緑	第 73 図- 8
23	管玉	4 号墳	ガラス	13.8	6.9	1.6 ~ 2.3	1.0g	青	第 73 図- 9
24	空玉	4 号墳	銀	10.9	10.8	1.0	0.9g	淡灰	第 73 図-10
25	空玉	4 号墳	銀	10.3	10.1	1.0	0.7g	淡灰	第 73 図-11
26	空玉	4 号墳	銀	10.6	9.4	1.3 ~ 2.7	0.8g	淡灰	第 73 図-12
27	空玉	4 号墳	銀	7.6	6.4	1.0	0.2g	淡灰	第 73 図-13
28	空玉	4 号墳	銀	8.4	3.3	—	0.3g	淡灰	第 73 図-14
29	土玉	4 号墳	土	9.5	11.0	2.0 ~ 3.0	0.9g	黒褐	第 73 図-15
30	土玉	4 号墳	土	8.3	9.6	2.0 ~ 2.5	0.6g	黒褐	第 73 図-16
31	土玉	4 号墳	土	8.9	15.0	2.0	0.9g	黒褐	第 73 図-17
32	土玉	4 号墳	土	7.8	15.0	2.0	0.8g	黒褐	第 73 図-18
33	土玉	4 号墳	土	7.3	13.0	2.0	0.7g	黒褐	第 73 図-19
34	土玉	4 号墳	土	9.0	9.9	2.0	—	灰黒褐	第 73 図-20
35	土玉	4 号墳	土	8.8	10.1	2.0	—	灰黒褐	第 73 図-21
36	土玉	4 号墳	土	8.1	9.7	2.1	—	黒褐	第 73 図-22
37	土玉	4 号墳	土	—	10.1	1.5	—	黒褐	第 73 図-23
38	土玉	4 号墳	土	8.5	9.4	1.8	—	黒褐	第 73 図-24
39	土玉	4 号墳	土	9.9	9.7	1.6	—	黒褐	第 73 図-25
40	土玉	4 号墳	土	9.3	9.6	—	—	黒褐	第 73 図-26
41	土玉	4 号墳	土	—	9.8	2.0	—	黒褐	第 73 図-27
42	土玉	4 号墳	土	—	—	—	—	黒褐	第 73 図-28
43	土玉	4 号墳	土	—	—	—	—	黒褐	第 73 図-29
44	丸玉	4 号墳	ガラス	11.1	11.5	2.0	2.1g	濃青	第 73 図-30
45	丸玉	4 号墳	ガラス	8.3	12.0	3.5 ~ 4.0	1.6g	濃青	第 73 図-31
46	丸玉	4 号墳	ガラス	8.9	12.4	1.5 ~ 3.5	2.0g	濃青	第 73 図-32
47	丸玉	4 号墳	ガラス	8.8	10.8	2.5	1.5g	濃青	第 73 図-33
48	丸玉	4 号墳	ガラス	7.6	11.6	2.0	1.3g	濃青	第 73 図-34
49	丸玉	4 号墳	ガラス	7.2	10.2	2.0	1.1g	濃青	第 73 図-35
50	丸玉	4 号墳	ガラス	6.8	10.4	2.0	1.2g	濃青	第 73 図-36
51	丸玉	4 号墳	ガラス	6.5	10.3	2.0 ~ 3.0	1.1g	濃青	第 73 図-37
52	丸玉	4 号墳	ガラス	8.1	9.4	1.5	1.0g	濃青	第 73 図-38
53	丸玉	4 号墳	ガラス	7.5	9.6	2.0	1.0g	濃青	第 73 図-39
54	丸玉	4 号墳	ガラス	7.7	9.5	1.5 ~ 2.0	1.0g	濃青	第 73 図-40
55	丸玉	4 号墳	ガラス	8.8	9.5	2.0	1.1g	濃青	第 73 図-41
56	丸玉	4 号墳	ガラス	9.0	11.7	2.0 ~ 3.0	1.9g	濃青	第 73 図-42
57	丸玉	4 号墳	ガラス	11.2	11.8	2.0 ~ 2.3	2.2g	濃青	第 73 図-43

NO	器 形	遺 構	高さ	幅	穴 径	色	材 質	挿図番号
58	丸玉	4号墳	7.0	8.0	1.5	濃紺	ガラス	第74図- 1
59	丸玉	4号墳	5.5	7.5	2.0	濃紺	ガラス	第74図- 2
60	丸玉	4号墳	5.5	8.0	2.0	濃紺	ガラス	第74図- 3
61	丸玉	4号墳	5.5	7.5	2.0	濃紺	ガラス	第74図- 4
62	丸玉	4号墳	5.0	8.5	1.8	濃紺	ガラス	第74図- 5
63	丸玉	4号墳	6.0	7.0	1.5	濃紺	ガラス	第74図- 6
64	丸玉	4号墳	6.0	7.5	2.0	濃紺	ガラス	第74図- 7
65	丸玉	4号墳	5.5	8.0	2.0	濃紺	ガラス	第74図- 8
66	丸玉	4号墳	6.3	7.5	2.0	濃紺	ガラス	第74図- 9
67	丸玉	4号墳	5.3	8.0	1.8	濃紺	ガラス	第74図-10
68	丸玉	4号墳	5.5	7.0	1.8	濃紺	ガラス	第74図-11
69	丸玉	4号墳	6.0	7.0	1.5	濃紺	ガラス	第74図-12
70	丸玉	4号墳	6.8	7.0	1.8	濃紺	ガラス	第74図-13
71	丸玉	4号墳	5.9	7.8	2.0	濃紺	ガラス	第74図-14
72	丸玉	4号墳	5.0	7.9	1.2	濃紺	ガラス	第74図-15
73	丸玉	4号墳	5.9	8.0	1.3	濃紺	ガラス	第74図-16
74	丸玉	4号墳	4.8	8.0	2.0	濃紺	ガラス	第74図-17
75	丸玉	4号墳	5.5	8.4	2.0	濃紺	ガラス	第74図-18
76	丸玉	4号墳	5.3	8.0	1.3	濃紺	ガラス	第74図-19
77	丸玉	4号墳	5.0	7.8	1.8	濃紺	ガラス	第74図-20
78	丸玉	4号墳	4.0	8.0	1.8	濃紺	ガラス	第74図-21
79	丸玉	4号墳	6.5	7.0	1.7	濃紺	ガラス	第74図-22
80	丸玉	4号墳	5.5	7.8	1.5	濃紺	ガラス	第74図-23
81	丸玉	4号墳	5.5	7.8	2.0	濃紺	ガラス	第74図-24
82	丸玉	4号墳	5.4	8.0	1.8	濃紺	ガラス	第74図-25
83	丸玉	4号墳	6.0	8.0	1.8	濃紺	ガラス	第74図-26
84	丸玉	4号墳	5.8	7.5	1.8	濃紺	ガラス	第74図-27
85	丸玉	4号墳	5.5	8.2	1.8	濃紺	ガラス	第74図-28
86	丸玉	4号墳	5.8	8.2	1.7	濃紺	ガラス	第74図-29
87	丸玉	4号墳	6.0	8.8	1.8	濃紺	ガラス	第74図-30
88	丸玉	4号墳	6.0	8.0	1.5	濃紺	ガラス	第74図-31
89	丸玉	4号墳	5.5	8.0	2.1	濃紺	ガラス	第74図-32
90	丸玉	4号墳	5.8	8.1	2.1	濃紺	ガラス	第74図-33
91	丸玉	4号墳	5.5	8.1	1.8	濃紺	ガラス	第74図-34
92	丸玉	4号墳	6.1	8.2	1.7	濃紺	ガラス	第74図-35
93	丸玉	4号墳	6.0	8.0	1.5	濃紺	ガラス	第74図-36
94	丸玉	4号墳	5.8	8.4	1.7	濃紺	ガラス	第74図-37
95	丸玉	4号墳	6.0	8.0	1.6	濃紺	ガラス	第74図-38
96	丸玉	4号墳	5.3	8.8	2.4	濃紺	ガラス	第74図-39
97	丸玉	4号墳	5.2	8.2	1.8	濃紺	ガラス	第74図-40
98	丸玉	4号墳	5.8	9.0	2.2	濃紺	ガラス	第74図-41
99	丸玉	4号墳	6.1	8.4	1.4	濃紺	ガラス	第74図-42
100	丸玉	4号墳	7.3	8.2	1.8	濃紺	ガラス	第74図-43
101	丸玉	4号墳	6.2	8.0	2.0	濃紺	ガラス	第74図-44
102	丸玉	4号墳	5.2	8.3	1.8	濃紺	ガラス	第74図-45
103	丸玉	4号墳	6.6	8.8	1.7	濃紺	ガラス	第74図-46
104	丸玉	4号墳	7.3	8.0	1.6	濃紺	ガラス	第74図-47
105	丸玉	4号墳	5.6	8.0	1.7	濃紺	ガラス	第74図-48
106	丸玉	4号墳	7.6	8.0	1.8	濃紺	ガラス	第74図-49

107	丸玉	4号墳	6.0	8.4	2.1	濃紺	ガラス	第74図-50
108	丸玉	4号墳	6.1	8.3	1.3	濃紺	ガラス	第74図-51
109	丸玉	4号墳	6.6	8.5	1.9	濃紺	ガラス	第74図-52
110	丸玉	4号墳	6.2	9.4	2.2	濃紺	ガラス	第74図-53
111	丸玉	4号墳	5.2	8.6	1.3	濃紺	ガラス	第74図-54
112	丸玉	4号墳	6.0	8.5	1.5	濃紺	ガラス	第74図-55
113	丸玉	4号墳	5.0	8.2	1.5	濃紺	ガラス	第74図-56
114	丸玉	4号墳	5.9	8.4	2.0	濃紺	ガラス	第74図-57
115	丸玉	4号墳	6.0	8.8	1.8	濃紺	ガラス	第74図-58
116	丸玉	4号墳	5.9	9.0	2.0	濃紺	ガラス	第74図-59
117	丸玉	4号墳	5.3	9.2	1.8	濃紺	ガラス	第74図-60
118	丸玉	4号墳	6.2	9.0	2.0	濃紺	ガラス	第74図-61
119	丸玉	4号墳	6.5	8.8	1.0	濃紺	ガラス	第74図-62
120	丸玉	4号墳	6.0	8.1	1.4	濃紺	ガラス	第74図-63
121	丸玉	4号墳	5.7	8.2	1.8	濃紺	ガラス	第74図-64
122	丸玉	4号墳	6.0	8.8	1.2	濃紺	ガラス	第74図-65
123	丸玉	4号墳	5.8	8.8	1.8	濃紺	ガラス	第74図-66
124	丸玉	4号墳	6.0	8.0	1.9	濃紺	ガラス	第74図-67
125	丸玉	4号墳	6.2	7.8	1.8	濃紺	ガラス	第74図-68
126	丸玉	4号墳	6.2	8.1	1.6	濃紺	ガラス	第74図-69
127	丸玉	4号墳	5.0	8.8	1.5	濃紺	ガラス	第74図-70
128	丸玉	4号墳	6.8	8.4	1.7	濃紺	ガラス	第74図-71
129	丸玉	4号墳	5.7	6.8	1.8	濃紺	ガラス	第74図-72
130	丸玉	4号墳	7.5	7.6	1.8	濃紺	ガラス	第74図-73
131	丸玉	4号墳	7.0	7.8	1.5	濃紺	ガラス	第74図-74
132	丸玉	4号墳	5.0	8.1	2.0	濃紺	ガラス	第74図-75
133	丸玉	4号墳	5.8	8.3	1.8	濃紺	ガラス	第74図-76
134	丸玉	4号墳	5.3	8.8	2.2	濃紺	ガラス	第74図-77
135	丸玉	4号墳	5.0	8.4	1.9	濃紺	ガラス	第74図-78
136	丸玉	4号墳	6.3	8.1	2.0	濃紺	ガラス	第74図-79
137	丸玉	4号墳	6.2	8.2	1.9	濃紺	ガラス	第74図-80
138	丸玉	4号墳	6.2	9.8	1.9	濃紺	ガラス	第74図-81
139	丸玉	4号墳	7.0	8.1	1.8	濃紺	ガラス	第74図-82
140	丸玉	4号墳	6.6	8.2	1.7	濃紺	ガラス	第74図-83
141	丸玉	4号墳	6.6	9.0	2.0	濃紺	ガラス	第74図-84
142	丸玉	4号墳	5.1	9.2	2.0	濃紺	ガラス	第74図-85
143	丸玉	4号墳	6.8	9.8	2.3	濃紺	ガラス	第74図-86
144	丸玉	4号墳	5.9	8.3	1.2	濃紺	ガラス	第74図-87
145	丸玉	4号墳	5.3	8.0	2.0	濃紺	ガラス	第74図-88
146	丸玉	4号墳	4.5	8.1	2.4	濃紺	ガラス	第74図-89
147	丸玉	4号墳	4.9	9.2	2.2	濃紺	ガラス	第74図-90
148	丸玉	4号墳	6.1	8.2	1.8	濃紺	ガラス	第74図-91
149	丸玉	4号墳	6.2	9.0	1.8	濃紺	ガラス	第74図-92
150	丸玉	4号墳	6.5	8.0	1.8	濃紺	ガラス	第74図-93
151	丸玉	4号墳	6.0	9.9	2.2	濃紺	ガラス	第74図-94
152	丸玉	4号墳	6.0	9.2	1.8	濃紺	ガラス	第74図-95
153	丸玉	4号墳	6.2	8.9	1.4	濃紺	ガラス	第74図-96
154	丸玉	4号墳	4.6	8.6	1.8	濃紺	ガラス	第74図-97
155	丸玉	4号墳	6.2	7.9	1.2	濃紺	ガラス	第74図-98
156	丸玉	4号墳	6.2	9.1	2.0	濃紺	ガラス	第74図-99

157	丸玉	4号墳	6.5	8.5	1.5	濃紺	ガラス	第74図-100
158	丸玉	4号墳	5.8	9.3	2.1	濃紺	ガラス	第74図-101
159	丸玉	4号墳	7.0	8.8	1.6	濃紺	ガラス	第74図-102
160	丸玉	4号墳	7.2	8.2	1.9	濃紺	ガラス	第74図-103
161	丸玉	4号墳	6.2	8.5	1.8	濃紺	ガラス	第74図-104
162	丸玉	4号墳	7.0	8.5	2.0	濃紺	ガラス	第74図-105
163	丸玉	4号墳	7.1	8.9	1.7	濃紺	ガラス	第74図-106
164	丸玉	4号墳	7.0	8.8	2.0	濃紺	ガラス	第74図-107
165	丸玉	4号墳	6.3	8.4	2.0	濃紺	ガラス	第74図-108
166	丸玉	4号墳	7.0	9.1	1.8	濃紺	ガラス	第74図-109
167	丸玉	4号墳	6.8	9.7	1.9	濃紺	ガラス	第74図-110
168	丸玉	4号墳	6.3	8.8	2.0	濃紺	ガラス	第74図-111
169	丸玉	4号墳	6.8	8.8	1.8	濃紺	ガラス	第74図-112
170	丸玉	4号墳	7.1	8.5	1.7	濃紺	ガラス	第74図-113
171	丸玉	4号墳	7.1	8.1	2.0	濃紺	ガラス	第74図-114
172	丸玉	4号墳	7.6	8.4	1.7	濃紺	ガラス	第74図-115
173	丸玉	4号墳	5.8	7.2	2.0	濃紺	ガラス	第74図-116
174	丸玉	4号墳	4.3	7.2	2.0	濃紺	ガラス	第74図-117
175	丸玉	4号墳	5.1	6.4	1.6	濃紺	ガラス	第74図-118
176	丸玉	4号墳	4.8	6.4	1.4	濃紺	ガラス	第74図-119
177	丸玉	4号墳	4.3	6.7	2.2	濃紺	ガラス	第74図-120
178	丸玉	4号墳	3.3	7.0	1.3	濃紺	ガラス	第74図-121
179	丸玉	4号墳	4.2	7.0	1.5	濃紺	ガラス	第74図-122
180	丸玉	4号墳	4.0	6.6	1.7	濃紺	ガラス	第74図-123
181	丸玉	4号墳	5.0	6.7	1.6	濃紺	ガラス	第74図-124
182	丸玉	4号墳	4.2	6.5	1.2	濃紺	ガラス	第74図-125
183	丸玉	4号墳	5.3	7.0	1.2	濃紺	ガラス	第74図-126
184	丸玉	4号墳	4.0	7.7	2.0	濃紺	ガラス	第74図-127
185	丸玉	4号墳	4.8	7.2	1.6	濃紺	ガラス	第74図-128
186	丸玉	4号墳	5.1	7.0	1.5	濃紺	ガラス	第74図-129
187	丸玉	4号墳	4.8	7.0	1.8	濃紺	ガラス	第74図-130
188	丸玉	4号墳	4.5	7.0	1.9	濃紺	ガラス	第75図- 1
189	丸玉	4号墳	4.3	6.9	1.2	濃紺	ガラス	第75図- 2
190	丸玉	4号墳	4.8	7.1	1.7	濃紺	ガラス	第75図- 3
191	丸玉	4号墳	4.8	6.6	1.4	濃紺	ガラス	第75図- 4
192	丸玉	4号墳	5.5	6.3	1.5	濃紺	ガラス	第75図- 5
193	丸玉	4号墳	4.9	7.6	2.4	濃紺	ガラス	第75図- 6
194	丸玉	4号墳	4.3	6.9	1.6	濃紺	ガラス	第75図- 7
195	丸玉	4号墳	3.8	7.0	1.5	濃紺	ガラス	第75図- 8
196	丸玉	4号墳	4.7	7.2	1.9	濃紺	ガラス	第75図- 9
197	丸玉	4号墳	4.3	8.1	2.0	濃紺	ガラス	第75図- 10
198	丸玉	4号墳	5.2	7.2	1.5	濃紺	ガラス	第75図- 11
199	丸玉	4号墳	4.8	7.0	1.2	濃紺	ガラス	第75図- 12
200	丸玉	4号墳	5.0	7.2	1.8	濃紺	ガラス	第75図- 13
201	丸玉	4号墳	5.1	6.9	1.6	濃紺	ガラス	第75図- 14
202	丸玉	4号墳	4.3	6.7	2.1	濃紺	ガラス	第75図- 15
203	丸玉	4号墳	4.3	8.2	2.5	濃紺	ガラス	第75図- 16
204	丸玉	4号墳	5.0	8.2	2.2	濃紺	ガラス	第75図- 17
205	丸玉	4号墳	4.4	7.3	2.1	濃紺	ガラス	第75図- 18
206	丸玉	4号墳	4.6	7.7	1.9	濃紺	ガラス	第75図- 19

207	丸玉	4号墳	4.4	7.8	1.8	濃紺	ガラス	第75図-20
208	丸玉	4号墳	4.0	6.9	2.7	濃紺	ガラス	第75図-21
209	丸玉	4号墳	4.8	7.3	1.9	濃紺	ガラス	第75図-22
210	丸玉	4号墳	5.0	7.2	1.9	濃紺	ガラス	第75図-23
211	丸玉	4号墳	5.3	7.0	2.6	濃紺	ガラス	第75図-24
212	丸玉	4号墳	5.0	7.4	2.1	濃紺	ガラス	第75図-25
213	丸玉	4号墳	4.4	7.5	2.0	濃紺	ガラス	第75図-26
214	丸玉	4号墳	4.1	7.3	2.2	濃紺	ガラス	第75図-27
215	丸玉	4号墳	5.1	7.8	1.6	濃紺	ガラス	第75図-28
216	丸玉	4号墳	4.3	8.2	2.7	濃紺	ガラス	第75図-29
217	丸玉	4号墳	5.2	8.3	2.2	濃紺	ガラス	第75図-30
218	丸玉	4号墳	5.8	7.3	2.2	濃紺	ガラス	第75図-31
219	丸玉	4号墳	5.0	7.3	2.0	濃紺	ガラス	第75図-32
220	丸玉	4号墳	5.1	7.0	2.2	濃紺	ガラス	第75図-33
221	丸玉	4号墳	5.7	7.1	2.0	濃紺	ガラス	第75図-34
222	丸玉	4号墳	5.3	6.9	1.5	濃紺	ガラス	第75図-35
223	丸玉	4号墳	5.6	6.8	1.4	濃紺	ガラス	第75図-36
224	丸玉	4号墳	5.6	6.4	1.2	濃紺	ガラス	第75図-37
225	丸玉	4号墳	5.5	7.7	2.2	濃紺	ガラス	第75図-38
226	丸玉	4号墳	4.4	7.6	1.9	濃紺	ガラス	第75図-39
227	丸玉	4号墳	6.3	7.7	2.0	濃紺	ガラス	第75図-40
228	丸玉	4号墳	4.2	6.7	1.4	濃紺	ガラス	第75図-41
229	丸玉	4号墳	5.1	6.7	1.8	濃紺	ガラス	第75図-42
230	丸玉	4号墳	5.6	6.2	1.8	濃紺	ガラス	第75図-43
231	丸玉	4号墳	5.3	7.2	2.3	濃紺	ガラス	第75図-44
232	丸玉	4号墳	5.4	7.3	2.0	濃紺	ガラス	第75図-45
233	丸玉	4号墳	5.2	7.6	1.9	濃紺	ガラス	第75図-46
234	丸玉	4号墳	5.4	7.6	2.0	濃紺	ガラス	第75図-47
235	丸玉	4号墳	5.2	7.4	2.2	濃紺	ガラス	第75図-48
236	丸玉	4号墳	5.3	7.5	1.7	濃紺	ガラス	第75図-49
237	丸玉	4号墳	4.8	7.8	2.1	濃紺	ガラス	第75図-50
238	丸玉	4号墳	5.7	7.5	2.1	濃紺	ガラス	第75図-51
239	丸玉	4号墳	4.9	6.9	2.0	緑	ガラス	第75図-52
240	丸玉	4号墳	5.4	8.2	2.6	淡青	ガラス	第75図-53
241	丸玉	4号墳	3.8	6.4	1.8	橙	メノウ	第75図-54

58 ~ 238 平均 0.48g

242	丸玉	4号墳	2.7	4.0	1.5	淡青	ガラス	第75図-55
243	丸玉	4号墳	2.0	4.0	1.0 ~ 1.5	淡青	ガラス	第75図-56
244	丸玉	4号墳	2.7	3.5	1.0	淡青	ガラス	第75図-57
245	丸玉	4号墳	2.5	3.5	1.0	淡青	ガラス	第75図-58
246	丸玉	4号墳	2.2	3.5	1.0	淡青	ガラス	第75図-59
247	丸玉	4号墳	2.0	3.5	1.0	淡青	ガラス	第75図-60
248	丸玉	4号墳	2.5	3.0	1.0	淡青	ガラス	第75図-61
249	丸玉	4号墳	2.0	3.3	1.0	淡青	ガラス	第75図-62
250	丸玉	4号墳	2.5	3.5	1.0	淡青	ガラス	第75図-63
251	丸玉	4号墳	2.0	4.0	1.0	淡青	ガラス	第75図-64
252	丸玉	4号墳	2.4	3.5	1.0 ~ 1.5	淡青	ガラス	第75図-65
253	丸玉	4号墳	2.0	3.0	1.0	淡青	ガラス	第75図-66
254	丸玉	4号墳	2.0	3.4	1.1	淡青	ガラス	第75図-67
255	丸玉	4号墳	2.4	3.1	0.8	淡青	ガラス	第75図-68

256	丸玉	4号墳	2.7	3.5	1.5	淡青	ガラス	第75図- 69
257	丸玉	4号墳	1.9	3.8	0.9	淡青	ガラス	第75図- 70
258	丸玉	4号墳	1.0	2.5	1.0	淡青	ガラス	第75図- 71
259	丸玉	4号墳	2.1	3.8	1.2	淡青	ガラス	第75図- 72
260	丸玉	4号墳	2.8	3.6	1.0	淡青	ガラス	第75図- 73
261	丸玉	4号墳	2.1	3.2	1.1	淡青	ガラス	第75図- 74
262	丸玉	4号墳	2.0	3.5	1.2	淡青	ガラス	第75図- 75
263	丸玉	4号墳	2.0	3.0	1.0	淡青	ガラス	第75図- 76
264	丸玉	4号墳	2.5	3.4	1.0	淡青	ガラス	第75図- 77
265	丸玉	4号墳	2.1	3.6	1.3	淡青	ガラス	第75図- 78
266	丸玉	4号墳	2.2	3.5	1.2	淡青	ガラス	第75図- 79
267	丸玉	4号墳	3.0	2.6	1.0	淡青	ガラス	第75図- 80
268	丸玉	4号墳	2.1	3.4	1.0	淡青	ガラス	第75図- 81
269	丸玉	4号墳	2.3	3.5	1.0	淡青	ガラス	第75図- 82
270	丸玉	4号墳	2.1	3.3	1.2	淡青	ガラス	第75図- 83
271	丸玉	4号墳	2.3	3.5	1.3	淡青	ガラス	第75図- 84
272	丸玉	4号墳	2.5	4.4	1.9	淡青	ガラス	第75図- 85
273	丸玉	4号墳	2.5	3.5	1.0	淡青	ガラス	第75図- 86
274	丸玉	4号墳	2.0	3.8	1.5	淡青	ガラス	第75図- 87
275	丸玉	4号墳	2.2	3.5	1.4	淡青	ガラス	第75図- 88
276	丸玉	4号墳	3.2	3.5	1.0	淡青	ガラス	第75図- 89
277	丸玉	4号墳	2.1	3.5	1.2	淡青	ガラス	第75図- 90
278	丸玉	4号墳	2.1	3.5	1.1	淡青	ガラス	第75図- 91
279	丸玉	4号墳	2.0	3.1	1.0	淡青	ガラス	第75図- 92
280	丸玉	4号墳	2.5	3.5	1.0	淡青	ガラス	第75図- 93
281	丸玉	4号墳	2.5	4.0	1.5	淡青	ガラス	第75図- 94
282	丸玉	4号墳	2.8	3.0	1.0	淡青	ガラス	第75図- 95
283	丸玉	4号墳	2.2	3.5	1.0	淡青	ガラス	第75図- 96
284	丸玉	4号墳	2.0	3.6	1.1	淡青	ガラス	第75図- 97
285	丸玉	4号墳	2.8	3.6	1.0	淡青	ガラス	第75図- 98
286	丸玉	4号墳	2.0	3.6	1.1	淡青	ガラス	第75図- 99
287	丸玉	4号墳	2.5	3.6	1.1	淡青	ガラス	第75図-100
288	丸玉	4号墳	2.5	3.2	1.0	淡青	ガラス	第75図-101
289	丸玉	4号墳	2.8	3.1	1.2	淡青	ガラス	第75図-102
290	丸玉	4号墳	2.0	3.0	1.0	淡青	ガラス	第75図-103
291	丸玉	4号墳	2.0	3.9	1.5	淡青	ガラス	第75図-104
292	丸玉	4号墳	2.3	3.3	1.3	淡青	ガラス	第75図-105
293	丸玉	4号墳	1.5	3.2	1.3	淡青	ガラス	第75図-106
294	丸玉	4号墳	2.1	3.7	1.2	淡青	ガラス	第75図-107
295	丸玉	4号墳	2.5	3.5	1.0	淡青	ガラス	第75図-108
296	丸玉	4号墳	3.0	3.5	1.3	淡青	ガラス	第75図-109
297	丸玉	4号墳	3.0	3.9	1.3	淡青	ガラス	第75図-110
298	丸玉	4号墳	2.8	3.9	1.3	淡青	ガラス	第75図-111
299	丸玉	4号墳	2.8	3.7	1.0	淡青	ガラス	第75図-112
300	丸玉	4号墳	1.6	3.3	1.2	淡青	ガラス	第75図-113
301	丸玉	4号墳	3.0	3.6	1.2	淡青	ガラス	第75図-114
302	丸玉	4号墳	2.0	3.1	1.0	淡青	ガラス	第75図-115
303	丸玉	4号墳	3.0	3.0	1.1	淡青	ガラス	第75図-116
304	丸玉	4号墳	2.2	3.3	1.1	淡青	ガラス	第75図-117
305	丸玉	4号墳	2.8	3.0	1.2	淡青	ガラス	第75図-118

306	丸玉	4号墳	2.5	3.2	1.5	淡青	ガラス	第75図-119
307	丸玉	4号墳	3.0	3.7	1.5	淡青	ガラス	第75図-120
308	丸玉	4号墳	2.0	3.0	1.1	淡青	ガラス	第75図-121
309	丸玉	4号墳	2.5	3.0	1.2	淡青	ガラス	第75図-122
310	丸玉	4号墳	2.5	3.3	1.3	淡青	ガラス	第75図-123
311	丸玉	4号墳	2.0	3.0	1.0	淡青	ガラス	第75図-124
312	丸玉	4号墳	2.5	3.2	1.0	淡青	ガラス	第75図-125
313	丸玉	4号墳	2.8	3.5	1.2	淡青	ガラス	第75図-126
314	丸玉	4号墳	2.5	4.0	1.3	淡青	ガラス	第75図-127
315	丸玉	4号墳	2.2	3.5	1.0	淡青	ガラス	第75図-128
316	丸玉	4号墳	2.2	3.0	1.0	淡青	ガラス	第75図-129
317	丸玉	4号墳	3.0	3.3	1.0	淡青	ガラス	第75図-130
318	丸玉	4号墳	1.7	3.3	1.0	淡青	ガラス	第75図-131
319	丸玉	4号墳	2.0	3.5	1.1	淡青	ガラス	第75図-132
320	丸玉	4号墳	2.1	3.8	1.2	淡青	ガラス	第75図-133
321	丸玉	4号墳	2.8	3.0	1.0	淡青	ガラス	第75図-134
322	丸玉	4号墳	2.3	3.0	1.2	淡青	ガラス	第75図-135
323	丸玉	4号墳	2.7	4.3	1.1	淡青	ガラス	第75図-136
324	丸玉	4号墳	2.7	3.5	1.2	淡青	ガラス	第75図-137
325	丸玉	4号墳	2.1	3.1	1.1	淡青	ガラス	第75図-138
326	丸玉	4号墳	2.0	3.3	1.0	淡青	ガラス	第75図-139
327	丸玉	4号墳	2.5	3.8	1.0	淡青	ガラス	第75図-140
328	丸玉	4号墳	2.6	3.7	1.0	淡青	ガラス	第75図-141
329	丸玉	4号墳	2.2	3.8	1.1	淡青	ガラス	第75図-142
330	丸玉	4号墳	2.0	3.2	1.0	淡青	ガラス	第75図-143
331	丸玉	4号墳	2.0	3.2	1.0	淡青	ガラス	第75図-144
332	丸玉	4号墳	2.5	3.3	0.9	淡青	ガラス	第75図-145
333	丸玉	4号墳	2.1	2.8	1.0	淡青	ガラス	第75図-146
334	丸玉	4号墳	2.6	3.5	1.1	淡青	ガラス	第75図-147
335	丸玉	4号墳	2.5	3.2	1.3	淡青	ガラス	第75図-148
336	丸玉	4号墳	2.7	3.2	1.0	淡青	ガラス	第75図-149
337	丸玉	4号墳	2.6	3.8	1.1	淡青	ガラス	第75図-150
338	丸玉	4号墳	2.0	3.7	1.1	淡青	ガラス	第75図-151
339	丸玉	4号墳	2.7	4.2	1.1	淡青	ガラス	第75図-152
340	丸玉	4号墳	1.7	3.3	1.2	淡青	ガラス	第75図-153
341	丸玉	4号墳	2.6	2.7	0.8	淡青	ガラス	第75図-154
342	丸玉	4号墳	2.1	3.6	1.1	淡青	ガラス	第75図-155
343	丸玉	4号墳	2.0	3.3	1.1	淡青	ガラス	第75図-156
344	丸玉	4号墳	2.0	4.0	2.0	淡青	ガラス	第75図-157
345	丸玉	4号墳	2.2	4.5	1.1	淡青	ガラス	第75図-158
346	丸玉	4号墳	2.3	4.2	1.3	淡青	ガラス	第75図-159
347	丸玉	4号墳	2.2	3.5	1.0	淡青	ガラス	第75図-160
348	丸玉	4号墳	2.0	4.2	1.5	淡青	ガラス	第75図-161
349	丸玉	4号墳	1.9	3.8	1.2	淡青	ガラス	第75図-162
350	丸玉	4号墳	2.5	4.5	1.3	淡青	ガラス	第75図-163
351	丸玉	4号墳	2.6	4.8	1.2	淡青	ガラス	第75図-164
352	丸玉	4号墳	2.8	5.0	1.4	淡青	ガラス	第75図-165
353	丸玉	4号墳	2.2	4.2	1.5	淡青	ガラス	第75図-166
354	丸玉	4号墳	2.2	3.4	1.2	淡青	ガラス	第75図-167
355	丸玉	4号墳	2.2	4.5	1.2	淡青	ガラス	第75図-168

356	丸玉	4号墳	2.8	4.5	1.0	淡青	ガラス	第75図-169
357	丸玉	4号墳	2.2	4.5	1.5	淡青	ガラス	第75図-170
358	丸玉	4号墳	3.2	3.9	2.2	淡青	ガラス	第75図-171
359	丸玉	4号墳	2.0	3.4	1.8	淡青	ガラス	第75図-172
360	丸玉	4号墳	2.4	3.8	1.5	淡青	ガラス	第75図-173
361	丸玉	4号墳	2.6	3.6	1.7	淡青	ガラス	第75図-174
362	丸玉	4号墳	2.7	3.7	1.5	淡青	ガラス	第75図-175
363	丸玉	4号墳	2.6	4.2	1.7	淡青	ガラス	第75図-176
364	丸玉	4号墳	3.0	4.0	1.8	淡青	ガラス	第75図-177
365	丸玉	4号墳	2.9	3.2	1.1	淡青	ガラス	第75図-178
366	丸玉	4号墳	2.3	3.7	1.5	淡青	ガラス	第75図-179
367	丸玉	4号墳	1.7	3.6	1.8	淡青	ガラス	第75図-180
368	丸玉	4号墳	1.7	3.3	1.4	淡青	ガラス	第75図-181
369	丸玉	4号墳	2.1	3.0	1.3	淡青	ガラス	第75図-182
370	丸玉	4号墳	2.3	3.3	1.0	淡青	ガラス	第75図-183
371	丸玉	4号墳	2.5	3.3	1.2	淡青	ガラス	第75図-184
372	丸玉	4号墳	1.8	3.0	1.2	淡青	ガラス	第75図-185
373	丸玉	4号墳	2.5	3.0	1.0	淡青	ガラス	第75図-186
374	丸玉	4号墳	2.4	3.2	1.0	淡青	ガラス	第75図-187
375	丸玉	4号墳	2.5	3.7	1.8	淡青	ガラス	第75図-188
376	丸玉	4号墳	1.8	3.2	1.2	淡青	ガラス	第75図-189
377	丸玉	4号墳	2.0	3.0	1.0	淡青	ガラス	第75図-190
378	丸玉	4号墳	2.3	3.7	1.5	淡青	ガラス	第75図-191
379	丸玉	4号墳	1.9	3.4	1.3	淡青	ガラス	第75図-192
380	丸玉	4号墳	2.4	3.5	1.2	淡青	ガラス	第75図-193
381	丸玉	4号墳	2.4	3.2	1.4	淡青	ガラス	第75図-194
382	丸玉	4号墳	2.0	2.8	1.3	淡青	ガラス	第75図-195
383	丸玉	4号墳	1.9	3.6	1.4	淡青	ガラス	第75図-196
384	丸玉	4号墳	2.2	3.5	1.0	淡青	ガラス	第75図-197
385	丸玉	4号墳	1.7	2.9	1.1	淡青	ガラス	第75図-198
386	丸玉	4号墳	2.0	3.3	1.0	淡青	ガラス	第75図-199
387	丸玉	4号墳	2.3	2.8	1.1	淡青	ガラス	第75図-200
388	丸玉	4号墳	1.3	2.9	1.1	淡青	ガラス	第75図-201
389	丸玉	4号墳	2.3	3.6	1.1	淡青	ガラス	第75図-202
390	丸玉	4号墳	1.6	3.0	1.2	淡青	ガラス	第75図-203
391	丸玉	4号墳	1.7	3.2	1.0	淡青	ガラス	第75図-204
392	丸玉	4号墳	1.2	3.0	1.1	淡青	ガラス	第75図-205
393	丸玉	4号墳	2.1	2.5	1.0	淡青	ガラス	第75図-206
394	丸玉	4号墳	1.9	3.0	1.0	淡青	ガラス	第75図-207
395	丸玉	4号墳	2.0	3.5	1.4	淡青	ガラス	第75図-208
396	丸玉	4号墳	1.9	3.2	1.4	淡青	ガラス	第75図-209
397	丸玉	4号墳	2.2	3.2	1.4	淡青	ガラス	第75図-210
398	丸玉	4号墳	2.2	3.5	1.5	淡青	ガラス	第75図-211
399	丸玉	4号墳	2.4	3.5	1.2	淡青	ガラス	第75図-212
400	丸玉	4号墳	1.8	3.1	1.3	淡青	ガラス	第75図-213
401	丸玉	4号墳	1.9	2.9	1.0	淡青	ガラス	第75図-214
402	丸玉	4号墳	2.0	3.1	1.1	淡青	ガラス	第75図-215
403	丸玉	4号墳	2.4	3.2	1.0	淡青	ガラス	第75図-216
404	丸玉	4号墳	1.7	3.4	1.5	淡青	ガラス	第75図-217

405	丸玉	4号墳	2.0	3.3	1.5	淡青	ガラス	第75図-218
406	丸玉	4号墳	2.5	3.7	1.7	淡青	ガラス	第75図-219
407	丸玉	4号墳	2.7	3.7	1.6	淡青	ガラス	第75図-220
408	丸玉	4号墳	2.6	3.8	1.3	淡青	ガラス	第75図-221
409	丸玉	4号墳	2.3	3.2	1.3	淡青	ガラス	第75図-222
410	丸玉	4号墳	2.0	3.6	1.2	淡青	ガラス	第75図-223
411	丸玉	4号墳	1.8	3.3	1.1	淡青	ガラス	第75図-224
412	丸玉	4号墳	2.5	3.3	1.1	淡青	ガラス	第75図-225
413	丸玉	4号墳	2.1	3.0	1.2	淡青	ガラス	第75図-226
414	丸玉	4号墳	2.6	3.9	1.7	淡青	ガラス	第75図-227
415	丸玉	4号墳	2.2	3.3	1.1	淡青	ガラス	第75図-228
416	丸玉	4号墳	2.4	3.5	1.2	淡青	ガラス	第75図-229
417	丸玉	4号墳	2.6	3.6	1.1	淡青	ガラス	第75図-230
418	丸玉	4号墳	2.0	4.0	1.5	淡青	ガラス	第75図-231
419	丸玉	4号墳	2.3	3.3	1.2	淡青	ガラス	第75図-232
420	丸玉	4号墳	2.6	3.7	1.5	淡青	ガラス	第75図-233
421	丸玉	4号墳	1.5	3.0	1.2	淡青	ガラス	第75図-234
422	丸玉	4号墳	1.7	3.8	1.2	淡青	ガラス	第75図-235
423	丸玉	4号墳	1.9	3.5	1.3	淡青	ガラス	第75図-236
424	丸玉	4号墳	2.3	3.6	1.2	淡青	ガラス	第75図-237

242 ～ 424 平均 0.04g

425	丸玉	4号墳	2.1	3.2	1.0	青緑	ガラス	第76図- 1
426	丸玉	4号墳	1.3	3.1	1.1	青	ガラス	第76図- 2
427	丸玉	4号墳	2.0	3.6	1.5	青	ガラス	第76図- 3
428	丸玉	4号墳	1.7	3.5	1.3	青	ガラス	第76図- 4
429	丸玉	4号墳	2.1	3.4	1.1	青	ガラス	第76図- 5
430	丸玉	4号墳	2.3	3.9	1.3	青	ガラス	第76図- 6
431	丸玉	4号墳	1.8	4.0	0.8	青	ガラス	第76図- 7
432	丸玉	4号墳	1.8	4.3	1.4	青	ガラス	第76図- 8
433	丸玉	4号墳	2.2	3.6	1.2	青	ガラス	第76図- 9
434	丸玉	4号墳	1.8	3.5	1.0	青	ガラス	第76図- 10
435	丸玉	4号墳	2.0	3.6	1.2	青	ガラス	第76図- 11
436	丸玉	4号墳	2.2	4.0	1.5	青	ガラス	第76図- 12
437	丸玉	4号墳	2.3	4.0	1.0	青	ガラス	第76図- 13
438	丸玉	4号墳	2.0	4.0	1.4	青	ガラス	第76図- 14
439	丸玉	4号墳	2.6	3.4	1.0	青	ガラス	第76図- 15
440	丸玉	4号墳	2.3	4.0	1.3	青	ガラス	第76図- 16
441	丸玉	4号墳	2.9	4.0	1.4	青	ガラス	第76図- 17
442	丸玉	4号墳	2.5	3.4	1.3	青	ガラス	第76図- 18
443	丸玉	4号墳	2.6	4.0	1.0	青	ガラス	第76図- 19
444	丸玉	4号墳	2.8	3.8	1.0	青	ガラス	第76図- 20
445	丸玉	4号墳	2.2	4.1	1.3	濃紺	ガラス	第76図- 21
446	丸玉	4号墳	3.0	4.0	1.2	青	ガラス	第76図- 22
447	丸玉	4号墳	2.6	4.0	1.0	濃紺	ガラス	第76図- 23
448	丸玉	4号墳	3.0	3.5	1.1	青	ガラス	第76図- 24
449	丸玉	4号墳	2.1	4.0	1.4	青	ガラス	第76図- 25
450	丸玉	4号墳	2.4	4.0	1.3	青	ガラス	第76図- 26
451	丸玉	4号墳	2.2	4.1	1.4	青	ガラス	第76図- 27
452	丸玉	4号墳	2.2	4.2	1.5	青	ガラス	第76図- 28
453	丸玉	4号墳	2.0	3.8	1.5	青	ガラス	第76図- 29

454	丸玉	4号墳	2.3	4.2	1.5	青	ガラス	第76図-30
455	丸玉	4号墳	2.3	4.3	1.5	青	ガラス	第76図-31
456	丸玉	4号墳	2.5	4.0	1.3	青	ガラス	第76図-32
457	丸玉	4号墳	2.4	4.1	1.3	青	ガラス	第76図-33
458	丸玉	4号墳	2.0	4.4	1.2	青	ガラス	第76図-34
459	丸玉	4号墳	2.0	4.0	1.5	青	ガラス	第76図-35
460	丸玉	4号墳	2.5	4.0	1.3	青	ガラス	第76図-36
461	丸玉	4号墳	2.3	4.3	1.5	濃紺	ガラス	第76図-37
462	丸玉	4号墳	1.7	4.3	1.5	濃青	ガラス	第76図-38
463	丸玉	4号墳	2.9	4.4	1.4	青	ガラス	第76図-39
464	丸玉	4号墳	1.8	4.0	1.9	青	ガラス	第76図-40
465	丸玉	4号墳	2.2	3.7	1.2	青	ガラス	第76図-41
466	丸玉	4号墳	2.0	4.4	1.6	青	ガラス	第76図-42
467	丸玉	4号墳	2.2	4.6	1.4	濃紺	ガラス	第76図-43
468	丸玉	4号墳	2.4	4.2	1.2	青	ガラス	第76図-44
469	丸玉	4号墳	2.2	4.3	1.3	青	ガラス	第76図-45
470	丸玉	4号墳	2.9	3.9	1.4	青	ガラス	第76図-46
471	丸玉	4号墳	2.0	4.5	1.6	青	ガラス	第76図-47
472	丸玉	4号墳	2.1	4.3	1.3	青	ガラス	第76図-48
473	丸玉	4号墳	3.2	4.1	1.4	青	ガラス	第76図-49
474	丸玉	4号墳	2.5	4.2	1.3	青	ガラス	第76図-50
475	丸玉	4号墳	3.0	4.3	1.6	青	ガラス	第76図-51
476	丸玉	4号墳	2.9	4.4	1.4	濃青	ガラス	第76図-52
477	丸玉	4号墳	2.7	4.2	1.3	青	ガラス	第76図-53
478	丸玉	4号墳	2.7	4.3	1.1	青	ガラス	第76図-54
479	丸玉	4号墳	3.2	4.0	1.3	濃青	ガラス	第76図-55
480	丸玉	4号墳	2.8	4.3	1.3	青	ガラス	第76図-56
481	丸玉	4号墳	2.5	4.1	1.3	濃青	ガラス	第76図-57
482	丸玉	4号墳	2.6	4.2	1.3	青	ガラス	第76図-58
483	丸玉	4号墳	3.0	4.1	1.2	青	ガラス	第76図-59
484	丸玉	4号墳	3.0	4.4	1.4	濃青	ガラス	第76図-60
485	丸玉	4号墳	2.7	4.8	1.3	青	ガラス	第76図-61
486	丸玉	4号墳	2.6	4.4	2.2	青	ガラス	第76図-62
487	丸玉	4号墳	2.4	4.7	1.3	青	ガラス	第76図-63
488	丸玉	4号墳	2.5	5.0	1.5	青	ガラス	第76図-64
489	丸玉	4号墳	2.8	4.3	1.3	青	ガラス	第76図-65
490	丸玉	4号墳	2.6	4.4	1.7	青緑	ガラス	第76図-66
491	丸玉	4号墳	2.9	5.0	1.3	青	ガラス	第76図-67
492	丸玉	4号墳	3.0	5.5	1.7	濃青	ガラス	第76図-68
493	丸玉	4号墳	3.2	4.7	1.5	青	ガラス	第76図-69
494	丸玉	4号墳	2.7	4.2	1.6	青	ガラス	第76図-70
495	丸玉	4号墳	2.9	4.9	1.6	青	ガラス	第76図-71
496	丸玉	4号墳	3.2	4.8	1.6	青	ガラス	第76図-72
497	丸玉	4号墳	2.9	4.2	1.4	青	ガラス	第76図-73
498	丸玉	4号墳	3.7	4.6	1.4	青	ガラス	第76図-74
499	丸玉	4号墳	3.1	4.5	1.3	青	ガラス	第76図-75
500	丸玉	4号墳	3.3	4.7	1.8	青緑	ガラス	第76図-76
501	丸玉	4号墳	2.6	4.8	1.4	濃紺	ガラス	第76図-77
502	丸玉	4号墳	3.0	4.7	1.8	青	ガラス	第76図-78
503	丸玉	4号墳	2.9	5.0	2.0	青	ガラス	第76図-79

504	丸玉	4号墳	3.0	4.4	1.4	青	ガラス	第76図- 80
505	丸玉	4号墳	3.1	4.4	1.2	青	ガラス	第76図- 81
506	丸玉	4号墳	2.8	5.0	1.6	青	ガラス	第76図- 82
507	丸玉	4号墳	3.2	5.0	1.5	青	ガラス	第76図- 83
508	丸玉	4号墳	3.0	4.8	1.3	青	ガラス	第76図- 84
509	丸玉	4号墳	3.0	5.3	1.4	青緑	ガラス	第76図- 85
510	丸玉	4号墳	3.8	5.0	1.6	青	ガラス	第76図- 86
511	丸玉	4号墳	3.0	5.5	1.8	青	ガラス	第76図- 87
512	丸玉	4号墳	2.3	5.0	1.7	青緑	ガラス	第76図- 88
513	丸玉	4号墳	2.7	4.2	1.7	青	ガラス	第76図- 89
514	丸玉	4号墳	2.9	5.0	1.4	濃青	ガラス	第76図- 90
515	丸玉	4号墳	3.0	5.0	1.5	青	ガラス	第76図- 91
516	丸玉	4号墳	2.9	4.8	1.7	青	ガラス	第76図- 92
517	丸玉	4号墳	2.8	4.8	1.6	青緑	ガラス	第76図- 93
518	丸玉	4号墳	3.0	5.1	1.2	青	ガラス	第76図- 94
519	丸玉	4号墳	3.0	5.0	1.5	青	ガラス	第76図- 95
520	丸玉	4号墳	3.4	5.4	1.8	青緑	ガラス	第76図- 96
521	丸玉	4号墳	2.8	5.2	1.6	青	ガラス	第76図- 97
522	丸玉	4号墳	3.2	5.1	1.5	青	ガラス	第76図- 98
523	丸玉	4号墳	3.1	4.5	0.8	青	ガラス	第76図- 99
524	丸玉	4号墳	2.3	4.4	1.3	青	ガラス	第76図-100
525	丸玉	4号墳	3.0	5.1	1.3	青	ガラス	第76図-101
526	丸玉	4号墳	3.6	4.7	1.4	青	ガラス	第76図-102
527	丸玉	4号墳	3.6	5.0	1.2	青	ガラス	第76図-103
528	丸玉	4号墳	2.8	5.4	1.2	青	ガラス	第76図-104
529	丸玉	4号墳	3.0	4.6	1.3	青	ガラス	第76図-105
530	丸玉	4号墳	3.2	4.4	1.1	青	ガラス	第76図-106
531	丸玉	4号墳	3.2	4.8	1.1	青	ガラス	第76図-107
532	丸玉	4号墳	3.3	5.2	1.8	青	ガラス	第76図-108
533	丸玉	4号墳	3.8	4.8	1.5	濃青	ガラス	第76図-109
534	丸玉	4号墳	3.6	4.7	1.3	青	ガラス	第76図-110
535	丸玉	4号墳	3.0	4.5	1.8	青	ガラス	第76図-111
536	丸玉	4号墳	3.4	5.4	1.4	濃青	ガラス	第76図-112
537	丸玉	4号墳	2.2	5.0	2.0	青	ガラス	第76図-113
538	丸玉	4号墳	3.1	5.2	1.7	青	ガラス	第76図-114
539	丸玉	4号墳	3.3	4.8	1.4	青	ガラス	第76図-115
540	丸玉	4号墳	3.3	4.0	1.4	青	ガラス	第76図-116
541	丸玉	4号墳	2.8	4.8	1.4	青	ガラス	第76図-117
542	丸玉	4号墳	3.2	5.0	1.3	青	ガラス	第76図-118
543	丸玉	4号墳	3.9	4.6	1.8	濃青	ガラス	第76図-119
544	丸玉	4号墳	3.3	5.5	1.7	青緑	ガラス	第76図-120
545	丸玉	4号墳	3.3	5.8	2.2	青	ガラス	第76図-121
546	丸玉	4号墳	3.3	5.8	2.1	濃青	ガラス	第76図-122
547	丸玉	4号墳	3.0	5.3	1.9	青	ガラス	第76図-123
548	丸玉	4号墳	3.7	5.0	2.2	青	ガラス	第76図-124
549	丸玉	4号墳	2.9	5.0	1.6	濃青	ガラス	第76図-125
550	丸玉	4号墳	3.1	5.5	2.0	青	ガラス	第76図-126
551	丸玉	4号墳	2.9	4.9	1.6	青	ガラス	第76図-127
552	丸玉	4号墳	2.7	5.0	1.9	青	ガラス	第76図-128
553	丸玉	4号墳	3.1	5.6	1.8	青緑	ガラス	第76図-129

554	丸玉	4号墳	3.3	4.4	1.2	濃青	ガラス	第76図-130
555	丸玉	4号墳	3.8	5.2	1.9	青	ガラス	第76図-131
556	丸玉	4号墳	3.5	5.4	1.8	青	ガラス	第76図-132
557	丸玉	4号墳	3.5	4.7	1.5	青	ガラス	第76図-133
558	丸玉	4号墳	2.0	4.1	1.4	青	ガラス	第76図-134
559	丸玉	4号墳	3.2	4.2	1.6	青緑	ガラス	第76図-135
560	丸玉	4号墳	2.7	4.5	1.5	青	ガラス	第76図-136
561	丸玉	4号墳	3.1	4.5	1.5	青	ガラス	第76図-137
562	丸玉	4号墳	3.3	4.7	1.6	青	ガラス	第76図-138
563	丸玉	4号墳	2.3	5.0	2.2	青	ガラス	第76図-139
564	丸玉	4号墳	2.7	5.8	1.8	青	ガラス	第76図-140
565	丸玉	4号墳	3.6	4.3	1.7	濃紺	ガラス	第76図-141
566	丸玉	4号墳	3.1	4.5	1.8	青	ガラス	第76図-142
567	丸玉	4号墳	3.4	4.6	1.6	青	ガラス	第76図-143
568	丸玉	4号墳	3.0	4.9	1.5	青緑	ガラス	第76図-144
569	丸玉	4号墳	2.6	5.0	2.1	青	ガラス	第76図-145
570	丸玉	4号墳	3.5	6.1	2.0	青	ガラス	第76図-146
571	丸玉	4号墳	3.4	5.3	1.8	青	ガラス	第76図-147
572	丸玉	4号墳	4.1	4.9	1.1	青	ガラス	第76図-148
573	丸玉	4号墳	3.5	5.5	1.4	青	ガラス	第76図-149
574	丸玉	4号墳	2.8	5.0	1.6	青	ガラス	第76図-150
575	丸玉	4号墳	3.1	4.7	1.5	青	ガラス	第76図-151
576	丸玉	4号墳	2.6	5.0	1.7	青緑	ガラス	第76図-152
577	丸玉	4号墳	3.9	4.6	1.3	青	ガラス	第76図-153
578	丸玉	4号墳	3.6	5.1	1.4	青緑	ガラス	第76図-154
579	丸玉	4号墳	2.7	5.7	1.6	青	ガラス	第76図-155
580	丸玉	4号墳	3.3	5.6	1.6	青	ガラス	第76図-156
581	丸玉	4号墳	3.6	4.4	1.3	青	ガラス	第76図-157
582	丸玉	4号墳	3.0	4.9	2.0	青	ガラス	第76図-158
583	丸玉	4号墳	3.1	4.5	1.3	青	ガラス	第76図-159
584	丸玉	4号墳	3.4	4.8	1.4	青	ガラス	第76図-160
585	丸玉	4号墳	4.0	5.2	1.3	濃紺	ガラス	第76図-161
586	丸玉	4号墳	4.1	5.2	1.8	濃紺	ガラス	第76図-162
587	丸玉	4号墳	4.3	4.8	1.8	青	ガラス	第76図-163
588	丸玉	4号墳	3.3	5.3	1.5	濃紺	ガラス	第76図-164
589	丸玉	4号墳	3.7	5.5	2.0	青	ガラス	第76図-165
590	丸玉	4号墳	4.1	5.0	1.7	濃紺	ガラス	第76図-166
591	丸玉	4号墳	3.1	5.3	1.2	青	ガラス	第76図-167
592	丸玉	4号墳	3.7	4.8	1.4	青	ガラス	第76図-168
593	丸玉	4号墳	3.4	5.2	1.6	青	ガラス	第76図-169
594	丸玉	4号墳	3.3	4.9	1.6	青	ガラス	第76図-170
595	丸玉	4号墳	3.5	5.3	1.5	青	ガラス	第76図-171
596	丸玉	4号墳	3.5	4.9	1.1	青	ガラス	第76図-172
597	丸玉	4号墳	3.1	4.7	1.6	青	ガラス	第76図-173
598	丸玉	4号墳	3.3	5.2	2.2	青緑	ガラス	第76図-174
599	丸玉	4号墳	3.1	5.0	1.2	青	ガラス	第76図-175
600	丸玉	4号墳	3.8	5.3	1.5	濃紺	ガラス	第76図-176
601	丸玉	4号墳	2.4	5.4	1.4	青	ガラス	第76図-177
602	丸玉	4号墳	2.8	5.0	1.4	青緑	ガラス	第76図-178
603	丸玉	4号墳	3.1	4.5	1.5	青	ガラス	第76図-179

604	丸玉	4号墳	3.0	4.5	1.7	青	ガラス	第76図-180
605	丸玉	4号墳	3.0	4.8	1.5	青	ガラス	第76図-181
606	丸玉	4号墳	3.0	4.9	2.0	青	ガラス	第76図-182
607	丸玉	4号墳	3.0	4.7	1.8	青緑	ガラス	第76図-183
608	丸玉	4号墳	3.5	4.5	1.6	青緑	ガラス	第76図-184
609	丸玉	4号墳	3.6	4.8	1.6	青	ガラス	第76図-185
610	丸玉	4号墳	3.1	5.0	1.3	濃紺	ガラス	第76図-186
611	丸玉	4号墳	2.7	5.1	1.5	青	ガラス	第76図-187
612	丸玉	4号墳	2.6	4.7	1.7	青	ガラス	第76図-188
613	丸玉	4号墳	3.0	5.0	1.9	青緑	ガラス	第76図-189
614	丸玉	4号墳	2.3	5.4	1.6	青	ガラス	第76図-190
615	丸玉	4号墳	2.7	4.7	1.8	濃紺	ガラス	第76図-191
616	丸玉	4号墳	2.8	4.9	1.5	青	ガラス	第76図-192
617	丸玉	4号墳	2.7	4.9	1.8	青	ガラス	第76図-193
618	丸玉	4号墳	4.0	4.2	1.1	青	ガラス	第76図-194
619	丸玉	4号墳	3.3	4.2	1.3	青	ガラス	第76図-195
620	丸玉	4号墳	2.7	5.3	1.6	青	ガラス	第76図-196
621	丸玉	4号墳	2.8	4.6	1.2	青	ガラス	第76図-197
622	丸玉	4号墳	2.6	4.8	1.6	濃青	ガラス	第76図-198
623	丸玉	4号墳	3.8	4.8	1.5	青	ガラス	第76図-199
624	丸玉	4号墳	2.7	5.0	1.5	青	ガラス	第76図-200
625	丸玉	4号墳	3.2	5.2	1.1	濃青	ガラス	第76図-201
626	丸玉	4号墳	3.0	4.7	1.7	青	ガラス	第76図-202
627	丸玉	4号墳	2.8	4.7	1.6	青	ガラス	第76図-203
628	丸玉	4号墳	2.8	4.8	1.3	青緑	ガラス	第76図-204
629	丸玉	4号墳	2.6	4.7	1.5	青緑	ガラス	第76図-205
630	丸玉	4号墳	2.8	4.6	1.3	青	ガラス	第76図-206
631	丸玉	4号墳	3.9	4.4	1.3	青	ガラス	第76図-207
632	丸玉	4号墳	3.2	4.7	1.5	濃青	ガラス	第76図-208
633	丸玉	4号墳	3.8	4.6	1.4	青緑	ガラス	第76図-209
634	丸玉	4号墳	3.4	4.0	1.3	濃青	ガラス	第76図-210
635	丸玉	4号墳	2.8	4.5	1.2	青	ガラス	第76図-211
636	丸玉	4号墳	2.9	5.0	1.6	濃青	ガラス	第76図-212
637	丸玉	4号墳	2.5	4.5	1.0	青	ガラス	第76図-213
638	丸玉	4号墳	3.0	4.8	1.4	濃青	ガラス	第76図-214
639	丸玉	4号墳	3.0	5.0	1.3	青	ガラス	第76図-215
640	丸玉	4号墳	3.5	4.6	1.3	濃青	ガラス	第76図-216
641	丸玉	4号墳	3.0	4.7	1.5	青	ガラス	第76図-217
642	丸玉	4号墳	2.8	4.8	1.4	青	ガラス	第76図-218
643	丸玉	4号墳	3.0	5.0	1.2	青	ガラス	第76図-219
644	丸玉	4号墳	3.0	4.1	1.2	青	ガラス	第76図-220
645	丸玉	4号墳	2.8	4.6	1.4	青	ガラス	第76図-221
646	丸玉	4号墳	2.4	4.8	1.3	青緑	ガラス	第76図-222
647	丸玉	4号墳	3.2	4.5	1.5	青	ガラス	第76図-223
648	丸玉	4号墳	3.3	4.3	1.5	青	ガラス	第76図-224
649	丸玉	4号墳	2.9	4.6	2.0	青	ガラス	第76図-225
650	丸玉	4号墳	2.8	4.4	1.3	青	ガラス	第76図-226
651	丸玉	4号墳	3.4	4.7	2.0	青	ガラス	第76図-227
652	丸玉	4号墳	3.4	4.3	1.4	青	ガラス	第76図-228
653	丸玉	4号墳	2.9	5.0	1.7	青	ガラス	第76図-229

654	丸玉	4号墳	3.6	4.4	1.5	青	ガラス	第76図-230
655	丸玉	4号墳	3.5	4.6	1.4	青	ガラス	第76図-231
656	丸玉	4号墳	3.1	4.2	1.7	濃紺	ガラス	第76図-232
657	丸玉	4号墳	2.7	4.6	1.4	青	ガラス	第76図-233
658	丸玉	4号墳	3.0	4.3	1.3	青	ガラス	第76図-234
659	丸玉	4号墳	2.7	4.5	1.6	青	ガラス	第76図-235
660	丸玉	4号墳	2.7	4.1	1.1	青	ガラス	第76図-236
661	丸玉	4号墳	2.7	4.5	1.6	青	ガラス	第76図-237
662	丸玉	4号墳	3.3	4.2	1.3	青	ガラス	第76図-238
663	丸玉	4号墳	2.7	4.1	1.2	濃紺	ガラス	第76図-239
664	丸玉	4号墳	3.2	4.0	1.3	濃青	ガラス	第76図-240
665	丸玉	4号墳	3.5	4.2	1.3	青	ガラス	第76図-241
666	丸玉	4号墳	2.4	5.0	1.5	青	ガラス	第76図-242
667	丸玉	4号墳	3.0	4.2	1.3	青	ガラス	第76図-243
668	丸玉	4号墳	3.0	4.6	1.6	濃紺	ガラス	第76図-244
669	丸玉	4号墳	2.9	4.6	1.4	青	ガラス	第76図-245
670	丸玉	4号墳	3.4	4.4	1.5	青	ガラス	第76図-246
671	丸玉	4号墳	3.0	4.7	1.2	濃青	ガラス	第76図-247
672	丸玉	4号墳	3.0	4.4	1.5	青	ガラス	第76図-248
673	丸玉	4号墳	2.7	4.7	1.3	青	ガラス	第76図-249
674	丸玉	4号墳	2.7	4.1	1.6	濃紺	ガラス	第76図-250
675	丸玉	4号墳	2.9	4.0	1.6	濃紺	ガラス	第76図-251
676	丸玉	4号墳	2.5	4.6	1.6	濃青	ガラス	第76図-252
677	丸玉	4号墳	2.7	4.6	1.5	青緑	ガラス	第76図-253
678	丸玉	4号墳	3.6	4.6	1.4	青	ガラス	第76図-254
679	丸玉	4号墳	3.6	4.3	1.4	青	ガラス	第76図-255
680	丸玉	4号墳	2.6	4.8	1.4	青	ガラス	第76図-256
681	丸玉	4号墳	2.9	4.5	1.3	青	ガラス	第76図-257
682	丸玉	4号墳	2.4	4.1	1.3	青	ガラス	第76図-258
683	丸玉	4号墳	2.8	4.3	1.5	濃青	ガラス	第76図-259
684	丸玉	4号墳	2.7	4.1	1.0	青	ガラス	第76図-260
685	丸玉	4号墳	2.9	4.4	1.4	青	ガラス	第76図-261
686	丸玉	4号墳	2.4	3.9	1.4	青	ガラス	第76図-262
687	丸玉	4号墳	2.7	4.9	1.7	青	ガラス	第76図-263
688	丸玉	4号墳	3.1	4.8	1.2	濃青	ガラス	第76図-264
689	丸玉	4号墳	2.8	4.4	1.3	青	ガラス	第76図-265
690	丸玉	4号墳	2.9	4.2	1.2	青	ガラス	第76図-266
691	丸玉	4号墳	2.5	4.6	1.5	青	ガラス	第76図-267
692	丸玉	4号墳	2.7	4.5	1.2	青	ガラス	第76図-268
693	丸玉	4号墳	2.6	5.3	1.9	青	ガラス	第76図-269
694	丸玉	4号墳	3.0	4.4	1.4	青	ガラス	第76図-270
695	丸玉	4号墳	2.7	4.2	1.4	青	ガラス	第76図-271
696	丸玉	4号墳	3.1	4.0	1.2	青	ガラス	第76図-272
697	丸玉	4号墳	2.7	4.7	1.8	青	ガラス	第76図-273
698	丸玉	4号墳	2.7	4.6	1.4	青	ガラス	第76図-274
699	丸玉	4号墳	2.6	4.7	1.4	青	ガラス	第76図-275
700	丸玉	4号墳	2.3	4.5	1.5	青	ガラス	第76図-276
701	丸玉	4号墳	2.3	4.3	1.5	青	ガラス	第76図-277
702	丸玉	4号墳	2.9	3.8	1.5	濃紺	ガラス	第76図-278
703	丸玉	4号墳	2.5	4.5	1.1	青	ガラス	第76図-279

704	丸玉	4号墳	2.7	3.9	1.0	濃青	ガラス	第76図-280
705	丸玉	4号墳	2.6	3.9	1.2	青	ガラス	第76図-281
706	丸玉	4号墳	2.7	4.4	1.3	青	ガラス	第76図-282
707	丸玉	4号墳	2.6	4.3	1.3	青	ガラス	第76図-283
708	丸玉	4号墳	2.9	3.8	1.0	青	ガラス	第76図-284
709	丸玉	4号墳	3.5	3.8	1.1	青	ガラス	第76図-285
710	丸玉	4号墳	2.0	3.7	1.3	青	ガラス	第76図-286
711	丸玉	4号墳	2.5	4.0	1.2	青	ガラス	第76図-287
712	丸玉	4号墳	2.3	4.0	1.3	青	ガラス	第76図-288
713	丸玉	4号墳	2.1	4.2	1.4	青	ガラス	第76図-289
714	丸玉	4号墳	2.6	4.2	1.5	青	ガラス	第76図-290
715	丸玉	4号墳	2.6	3.9	1.1	青	ガラス	第76図-291
716	丸玉	4号墳	2.0	4.2	1.5	青	ガラス	第76図-292
717	丸玉	4号墳	2.4	3.9	1.1	青	ガラス	第76図-293
718	丸玉	4号墳	2.7	3.8	1.3	青	ガラス	第76図-294
719	丸玉	4号墳	3.2	3.7	1.1	青	ガラス	第76図-295
720	丸玉	4号墳	2.7	3.9	1.3	青	ガラス	第76図-296
721	丸玉	4号墳	2.4	4.2	1.6	青	ガラス	第76図-297
722	丸玉	4号墳	2.7	4.5	1.3	濃青	ガラス	第76図-298
723	丸玉	4号墳	2.3	4.1	1.6	青	ガラス	第76図-299

425 ~ 723 平均 0.08g

第14表 石器・石塔類計測表

単位 cm

NO	区	遺構	器形	材質	長軸	短軸	高さ	備考	挿図番号
1	5区	4号墳	柱状片刃石斧	泥岩	11.0	3.0	2.5		第72図-7
2	7区	Ⅱ群2号集石墓	板碑	砂岩	29.9	14.0	8.3		第78図-1
3	7区	Ⅱ群5号集石墓	空輪	砂岩	16.3	15.2	8.1		第78図-2
4	7区	Ⅱ群5号集石墓	火輪?	砂岩	27.9	13.9	17.4		第78図-3
5	7区	Ⅳ群17号集石墓	水輪	砂岩	22.2	17.0	9.0		第78図-4
6	7区	Ⅱ群5号集石墓	水輪	砂岩	28.8	24.7	16.6		第78図-5
7	7区	Ⅱ群5号集石墓	地輪	砂岩	28.3	27.8	14.8		第78図-6
8	7区	Ⅳ群17号集石墓	地輪	砂岩	23.9	23.3	11.5		第78図-7
9	7区	Ⅰ群下段13A号集石墓	地輪?	凝灰岩	47+ α	44+ α	32.2	臍部長軸 30.8・短軸 24.5・高さ 16.2	第78図-8
10	7区	69号住居内土坑	砥石	泥岩	6.6+ α	6.7 ~ 7.1	0.9 ~ 1.5		第64図-6
11	7区	38号墳墳丘北東側旧表土下	石剣	頁岩	13.5	3.5	0.8		第64図-7

第3章 まとめ

田久瓜ヶ坂遺跡は、前方後円墳1基をはじめ38基の墳墓を調査した。これらの古墳は、立地・埋葬施設・遺物など多種多様な条件で、多くの問題を内包している。今回は、前方後円墳を中心として、その周辺に分布する遺構を整理し、墳墓群の構成を微力ながら考えていきたい。

1. 前方後円墳

墳丘

小形の前方後円墳である1号墳は、丘陵の頂部に築造されており、かなり地形の制約を受けている。土層の観察では、後円部東側と南側で盛土を最も厚く施すという特徴があり、前方部では、地山整形で墳形を整えている。具体的には、中軸から東西両墳裾までの距離と比高差に差が認められ、前方部から後円部までいずれも東側の数値が大きいことから、東側からの視眼を意識して造営されたことが想定される。

このような在り方は、2つの条件が考えられる。1つは、⁴⁴⁷森將軍塚古墳・⁴²⁸三国の鼻1号墳・⁴⁵¹豊前坊1号墳の例で、限られた地形を最大限いかして築かれていることから地形による制約、1つは、⁴¹⁵大分県築山古墳の例で、北側には集落および海が広がるが、南側は山であることから北側の墳丘は大きく見せ掛け、南側は山を切って堀切がめぐるといった、立地的要因である。

1号墳の場合、築造される以前の旧地形を復元すると、墳裾より下の傾斜角度から推測して、古墳の中軸上に丘陵稜線があったと考えられる。つまり、当初から必然的に丘陵の東寄りに造られたことになる。しかし、墳裾を築く段階で、東側では西側に比べ約1mほど低い所に基底部を造られたことが認められ、さらに後円部の盛土も東側に補強される状況は、東側からの景観を意識しているものと考えられる。

当古墳からの景観であるが、北側および東側は、釣川の中・上流域にあたり、河川によって形成された平地に赤間の宿などが見渡せる。このことは当時もその周辺に古墳との関係を持つ集落が存在したことが考えられる。しかし西側・南側は、南北に延びるいく筋もの丘陵によって平地がなく、見通しも悪いことから、集落の存在は望めない。

以上のことから、小形の前方後円墳であるにもかかわらず、築造に際して綿密な計画が成されていたことが想像される。

主体部

前方後円墳の主体部は、4基でいずれも後円部の頂部より検出された。前方後円墳の墳丘上に4基以上の埋葬施設をもつ古墳は、九州内において^{註46より検索}5基が知られる。福岡県内では、^{註39}老司古墳・^{註40}鋤先古墳の2基、佐賀県内では、谷口古墳の1基、熊本県内では、^{註41}檜崎古墳・^{註42}院塚古墳の2基である。そのうち檜崎古墳と院塚古墳では、いずれも後円部頂部より検出されている。

こうした多棺葬の前方後円墳が築造される時期には、差が認められず、老司古墳・鋤先古墳・谷口古墳では埴輪のⅡ式（4期）、榑崎古墳・院塚古墳は4期から5期の範囲である。

第15表 九州における多棺埋葬表（前方後円墳に4棺以上）

	第1主体部	第2主体部	第3主体部	第4主体部	第5主体部
老司古墳	後円部 竪穴系横口式石室	後円部 竪穴系横口式石室	後円部 竪穴系横口式石室	前方部 竪穴系横口式石室	
鋤先古墳	後円部 竪穴系横口式石室	前方部 埴輪棺	前方部 埴輪棺	前方部 埴輪棺	前方部 小石室
谷口古墳	後円部西 竪穴系横口式石室	後円部東 竪穴系横口式石室	前方部 舟形石棺	くびれ部西 土師器棺	
榑崎古墳	後円部西 組合式家形石棺	後円部中央 舟形石棺	後円部中央 組合式家形石棺	後円部東 石蓋土壇	前方部 箱式石棺
院塚古墳	後円部西 舟形石棺	後円部南 舟形石棺	後円部中央 舟形石棺	後円部やや南 舟形石棺	
田久瓜ヶ坂1号墳	後円部中央 粘土槨	後円部北 粘土槨	後円部南 円筒棺	後円部西 壺棺	

2. 埋葬施設と階層差

種類

今回の調査で検出された古墳時代の埋葬施設は39基を数え、これらを分類すると、割竹形木棺（粘土槨）3基、円筒棺1基、壺棺1基、割竹形木棺（直葬）3基、組合木棺墓1基、石棺墓4基、石蓋土壇墓12基、土壇墓10基、石棺系竪穴式石室1基、横穴式石室3基である。これらには、その立地や副葬品などから、階層差が埋葬構造に反映しているのではないかと考えられる。

割竹形木棺（粘土槨）

1号墳の最初の埋葬施設である第1主体部と次に造られた第2主体部は、ともに粘土槨である。38号墳の主体部も粘土槨であるが、1号墳とは、まったく異なった構造をしている。

1号墳の第1主体部・第2主体部の墓壇は、いずれも地山から掘り込まれ、その中央に棺床を掘り込んでいる。棺床に粘土を貼って割竹形木棺の棺身を固定し、棺蓋を載せてさらに粘土で覆っていたと考えられる。^{註41} B1型式に属すると考えられるが、棺床に粘土を貼らなければ構造上2段掘り込みの土壇墓となりそうな深い棺床である。割竹形木棺は上蓋まで、棺床内に納まっていたと考えられる。内法長は、第1主体部3.25 m、第2主体部3.49 mを測る。

38号墳の主体部は、A1型式とB1型式の折衷型で、墓壇底面に浅い棺床を掘削し、その後粘土で棺台を造り、その上に割竹形木棺の棺身を置き、さらに棺蓋を載せた後、上部を粘土で覆うものである。内法長は4.81 mを測る。

この2基は、前方後円墳と大形円墳で、墳形もまったく異なり、主体部の規模は、前方後円

墳より円墳の方が大きい。これが、どのように階層差や時代の変化に現れるのか今後の課題である。

割竹形木棺（直葬）

2号墳は、墳丘を有すが、72号墓、80号墓は、墳丘を持たない。

2号墳は、1号墳、38号墳に比べると墳丘規模は小さいが、立地では、1号墳について高立地である。副葬品は、主に武器類を保持しており武人色の強い人物と考えられる。

72号墓は、38号墳の西側で検出され、80号墓は、1号墳後円部の南西側で検出された。

石棺墓

9号墓は、変成岩質の塊石を使用していたものである。11号墓は、盗掘によって既に棺材を失うが、抜き痕から同一の石材を使用したものと想定される。それに対して10号墓は、砂岩質の頁岩を使用したものである。この石材は、薄く板状に剥がれる性質があり、両小口1枚と両側壁2枚、蓋石2枚の計8枚で組み上げられている。

10号墓と11号墓には、切り合いが認められ、10号墓が後に造られている。

石蓋土壙墓

31号墳以外は、墳丘を有さない。

5・19・34・78号墓は、石蓋を除去後埋葬壙床面まで深さ20cm以上を測る。いわゆる通常の埋葬壙を有すものである。以下石蓋土壙墓Aとする。

12・13・73・74・75・77号墓は、石蓋を除去後埋葬壙床面まで深さ20cm以下を測る。石蓋から床面まで空間がほとんどなく、そのままでは人骨の埋葬が考えられにくいことから、木棺などの腐朽しやすい構築物があったのではないかと想定されるが、その痕跡など土層では確認できなかった。このタイプは、いずれも2区Bの、標高の高い所に占地していることが伺われる。以下石蓋土壙墓Bとする。

土壙墓

土壙墓で墳丘を有する古墳は、認められなかった。33号墓は、3区の頂部より検出され、副葬品として鉄剣を有している。このほか16・23・29号墓は、小口部に板石を有すもの、7・20号墓は、墓壙と埋葬壙の2段に分かれるもの、8・17・18・76号墓は、埋葬壙だけの1段掘りと3タイプに分けることができる。

以上の結果をもとに整理すると、割竹形木棺（粘土槨）は、前方後円墳や大形円墳などに採用され、また、鉄器の副葬などが認められることから有力首長層クラスと考えられる。墳丘をもつ割竹形木棺（直葬）は、その次ぎの地位もしくは、世代を想定することができる。

割竹形木棺（直葬）や石蓋土壙墓は、同じ埋葬施設でも墳丘を有すものと有さないものがある。¹¹⁵⁰宇野氏の墳墓形態別分類段階表にあてはめると、第三段階の時期であり、墳丘を有すものは特定個人墓、有さないものは集団墓となる。

この集団墓の中でも、立地条件で差が認められる。特に顕著に現れるのは石蓋土墳墓である。2区Bの頂部には、12号墓があり、その周辺の南側斜面に73・74号墓、西側に7・13号墓、北側に6・77号墓、東側に10・11号墓が検出された。これらは石蓋土墳墓B 5基・石棺墓2基・土墳墓2基である。土墳墓とした7号墓は、石蓋土墳墓Bの石蓋を除去した状況と酷似し、76号墓に関しても、副葬品として鉄鏃3を出土しており、床面の形状から割竹形木棺（直葬）の可能性も否定できない。ところが、2区Bの中でも標高の低い位置で検出された78号墓は、石蓋土墳墓Aであり、さらに東へ下る2区Aでは、5・8・18・19・20号墓と9・15・16・17号墓の2グループに分かれ、石棺墓1基、石蓋土墳墓A 2基、組合木棺1基、土墳墓5基などで、石蓋土墳墓Bの形態の埋葬墳は認められない。このことから、石蓋土墳墓Bは比較的高

第16表 墳墓階層表

西暦	在地首長墓	特定個人墓	集団墓
300			7・13・73・74・ 76・77号墳
400	38号墳 1号墳	12号墓・33号墓 72号墓・80号墓 31号墓 21号墓	9・11・ 34・78 号墳 10号墓
500	4号墳	3号墓・14号墓	5・8・9 15・16・ 17・18・ 19・20 号墳

立地に営まれ、2区Aと2区Bの集団墓では格差に有意性が認められると考えられる。また、33号墓においても、他の土墳墓とは、格差が認められる。

3. 出土遺物

円筒棺

円筒棺は、1号墳の第3主体部として検出された。

九州内では、円筒棺の蓋のみが北九州市内で出土しているが、棺身からセットで出土する例は現在の所確認されていない。円筒棺に比較的近い形態の棺として知られる、円筒埴輪を転用した埴輪棺は、福岡市内で2遺跡から検出されている。

北九州市の高江古墳は、円墳であり、その主体部である粘土槨の両小口部に、円筒棺の蓋が検出されている。

福岡市の^{if28}鋤先古墳では、埴輪棺が多棺埋葬である第2主体部から第4主体部として3基出土しており、丸隈山古墳では、後円部南側裾の第7トレンチより1基検出されている。いずれも後円部の主墳として埋葬されることはない。

本古墳において検出された円筒棺は、次の通りである。

円筒棺の形態は、初めから棺として製作された酸化焰焼成の大形棺である。棺身は単式で上部と下部の口径が異なり、口径の大きい方を上とし頭位と考える。棺身の上部と下部には、半

球形の専用蓋をはめ込んでいる。棺身の突帯文様は、格子状突帯を施し、上蓋は、棺身同様格子状で、下蓋は2条の横方向の突帯を巡らす。

出土位置は、前方後円墳の後円部墳頂南側の第3主体部で、埋葬施設は、墓壇に浅い埋葬壇を掘り、そこへ棺台の白色粘土を用い、棺を固定する。棺身と両棺蓋を装着後さらに白色粘土で覆う。副葬品は、棺身の内部から刀子5本、いずれも刃を南西に向け出土している。

この円筒棺の年代について、九州で比較検討することは皆無であるため、出土例の多い近畿・吉備・関東で比較する。円筒棺は、^{if53}全国で棺身46例、蓋20例28個が知られる。

古くは、^{if1}香川県香川郡円座村の小円墳から検出されたもので、当時、弥生時代の九州の甕棺墓と関連付けている。棺の出土位置は、竪穴式石槨内で、棺身の特徴として、胴部の中央部がやや膨らみ、外面は格子状の突帯を施している。

^{if14}橋本博文氏の論文から検討すると、円筒棺の起源は、弥生時代後期の特殊器台に求められ、古墳時代初頭の特殊円筒には埴輪棺と同様な要素をもち、5世紀代に、円筒棺、埴輪棺が多くなるという状況が考えられている。円筒棺の古い例としては、岡山県瀬戸町江尻陣馬山と鳥取県羽合町橋津馬山4号墳などで出土した円筒棺で、^{if36}川西編年のⅡ期に相当している。その後、土師の里周辺から出土している円筒棺などは、5世紀以降の埴輪工人集団の集団墓地的関わり
の強い人物の墓とされている。

この時期、宗像周辺において、古墳の調査などでⅡ期前後の埴輪の検出例は少ない。現在知られているものでは、^{if27}古賀市浜山・千鳥遺跡14号墳の溝より出土した口縁部が朝顔状に広がる埴輪と、^{if37}東郷高塚や^{if51}豊前坊1号墳から出土した壺形埴輪である。それ以降も埴輪の検出例が顕著でなく、Ⅴ期になって^{if52}津屋崎町須多田天降神社古墳や^{if35}久原Ⅱ-3号墳などに認められる。

現時点において、宗像の地では、円筒棺と埴輪工人とのつながりは何一つ認められない。むしろ、分布域の集中する畿内との関係と、鋤先古墳や丸隈山古墳の埴輪棺を含めてその影響力を考えていく必要がある。

二重口縁壺

本調査で出土した二重口縁壺は、1号墳第4主体部の壺棺と2号墳の墳丘裾から出土した口縁部の2点である。今回の調査では、土器の出土が少く時期を推測する資料に乏しいため、あえてこの二重口縁壺を検討する。二重口縁壺には、畿内系・山陰系・在地系の^{if40}3タイプに分かれることがいわれるが、1号墳第4主体部の壺棺の棺身は、口縁部が直立し、口縁端部と屈曲部に張り出しを有し、胴部外面の調整が肩部でヨコ方向のハケを施し、その下に斜め方向のハケとそれ以下に縦方向のハケが認められ、内面が削り調整である。これは、^{if21}常松幹雄氏が掲載した山陰系土器を代表するおもな形式の図のなかで、神原神社古墳埋納壇より出土した壺と特徴が非常に近いことから、山陰系の系統をもつタイプと考えても異論はないと考えた。宗像周辺においてこのような二重口縁壺棺が出土する例が多いが、いずれも山陰系の特徴を残しながら退化形態を示し、これによって在地の要素も色濃なるものと考えられる。

^{if42}富地原梅木遺跡は、1号墓、2号墓それぞれ壺棺墓として出土している。1号墓は、18号墳周

溝内東端より検出されており、2号墳は、24号墳の北辺周溝に接して出土している。

東郷高塚古墳は、くびれ部周溝から出土している。このほか、畿内系二重口縁壺からの流れをもつと考えられている壺形埴輪なども出土しており、老司古墳より先行し、三国の鼻1号墳よりも新しい時期を置いている。

浜山・千鳥遺跡では、14号墳で周溝内より埴輪が同時に出土しており、この埴輪から5世紀初頭に位置づけている。このほか、8号墳の埴丘と15号墳の埴丘西側溝内からもそれぞれ出土している。

⁴¹³深町第2号墳は、中心埋葬施設が石蓋土壙墓で、その南東隅より壺棺が出土している。

以上の二重口縁壺には、大きく3つに分類することができる。

1. 東郷高塚や田久瓜ヶ坂1号墳第4主体部は、口縁部が直行あるいはやや外反し、端部と屈曲部に段を明瞭に施す。深町遺跡や富地原梅木1号壺棺では、屈曲部の段をつまみ出す傾向にある。胴部最大径は上半部にあり扁球形である。
2. 富地原梅木遺跡2号壺棺墓や浜山・千鳥遺跡15号墳出土の二重口縁壺⁴¹⁵165は、口縁部がやや内傾しながら屈曲するが、端部や屈曲部に明瞭な段を有さない。胴部は、上半部から中程にかけて最大径を有す。
3. 田久瓜ヶ坂遺跡2号墳や浜山・千鳥遺跡8号墳、14号墳は、口縁部の退化の最終段階に属すもので、胴部は、ほぼ球形である。

これらに実年代を与えることはこの段階ではとても不可能に近いので、他の編年観を代用する。常松幹雄氏の編年では、1～3まで第Ⅵ式以降の範疇に納まり、柳田編年に従うと1は2b、2は2c、3は3aとなる。⁴¹⁴井上裕弘氏の編年では1は古墳前期1式・2式、2は3式・4式、3は、5式に該当するものと想定される。

1号墳の築造時期は、古墳前期の範疇に納まるが、細部に関しては検討を要する。2号墳の埴丘裾より出土した二重口縁壺と同時に出土した高坏の特徴から、3の時期以降であり中期初頭段階とする。

農工具と武器

鉄器は、本遺跡において主に1号墳・2号墳・38号墳の主体部より検出された。前期の範疇に属する1号墳と中期初頭の2号墳とでは、副葬品の内容に大きな差違が認められる。前者はすべて農工具、後者は刀子を除きすべて武器類である。38号墳は、武器と農工具が揃って検出されている。県内の4～5世紀代の埋葬施設から出土した鉄器を中心に、農工具と武器の副葬にどのような画期が考えられるか検討する。

農工具単純出土例は、萱葉3号墳、浜山・千鳥7号墳、富地原梅木17号墳、小寺7号墓などが上げられる。萱葉3号墳は4世紀中頃、富地原梅木17号墳は5世紀中頃と時期幅があり、農工具だけの副葬で時代は限定できない。

農工具と武器類が揃って出土する状況は、51基中25基が該当し、そのなかで3つに分類することができる。

A・武器1に対し農工具の種類が多く出土するもの（京ノ隈古墳、萱葉1・2号墳、豊前坊2

第17表 福岡県内前・中期古墳鉄器出土一覧表

	遺 跡 名	遺 構 番 号	墳 形	埋 葬 施 設	農 工 具	武 器	備 考	註
1	炭焼古墳群	3号墳		木棺	鉈1			4
2	炭焼古墳群	5号墳		石棺系石室	刀子1	剣1・鉄鏃15		4
3	油田古墳群	1号墳		木棺		鉄鏃片2	鏡片	6
4	油田古墳群	2号墳		石棺	刀子1			6
5	油田古墳群	3号墳		木棺	刀子1			6
6	油田古墳群	4号墳		木棺	刀子片1			6
7	若八幡宮古墳		前方後円墳	舟形木棺	鉈1・鉄斧1・刀子1	剣1・環頭大刀2	二神二獸鏡・短甲	8
8	原古墳群	1号墳		小形竪穴式石室			短甲片	10
9	原古墳群	2号墳		木棺		剣1		10
10	京ノ隈古墳		前方後方墳	粘土槨割竹形木棺	鉈1・鋤先1	剣1		11
11	神蔵古墳		前方後円墳	竪穴式石室	鉄斧1・鋤先1	剣2	四神四獸鏡	12
12	妙法寺古墳群	2号墳第1主体部	前方後方墳	割竹形木棺	鉈1・鉄斧1・刀子1		六神四獸鏡	15
13	小寺墳墓群	1号墓		石蓋土壙墓	鎌1・刀子1	鏃11・刀1		16
14	小寺墳墓群	5号墓		石蓋土壙墓	鉄斧1・鎌1	鏃14・刀1		16
15	小寺墳墓群	6号墓		石蓋土壙墓	鉄斧2・U字形鋤先1・鎌1・刀子1	鏃10・刀1		16
16	小寺墳墓群	7号墓		石蓋土壙墓	鎌1・刀子1			16
17	小寺墳墓群	9号墓		石蓋土壙墓	鉈1・鎌1	鏃12・剣1		16
18	小寺墳墓群	11号墓		石蓋土壙墓	鐮形鉄斧1・鎌1・刀子1	鏃1		16
19	藤崎遺跡	6号墳	方形周溝墓	組合木棺	鉈1・刀子1	素環頭大刀1・鏃1	二神二車馬鏡	17
20	井河古墳群	5号墳		割竹形木棺	鉈1	剣1		20
21	萱葉古墳群	1号墳	円墳	木棺	鉄針3・刀子3・鉈1・鎌1	剣1・鏃2	倣製四獸鏡	22
22	萱葉古墳群	2号墳	円墳	竪穴式石室	鉈1・刀子1・鎌1・鉄斧1・鋤先1	剣1		22
23	萱葉古墳群	3号墳	方形墳	木棺	鉈1・刀子1			22
24	赤坂遺跡	1号墳	円墳	粘土槨割竹形木棺	鎌1・鋤先1・鉈1・鋤1・鉄斧1	剣1・刀1・鏃7		23
25	赤坂遺跡	2号墳	方形墳	木棺	刀子3・鉈基部1	剣1		23
26	朝町妙見遺跡	1号墳第2主体部	円墳	石棺墓	鉄斧1・鋤先1	鏃4・槍1	不明1	24
27	朝町妙見遺跡	2号墳		石棺墓	鎌2・刀子1			24
28	花見遺跡	1号墳		割竹形木棺	鋤先1・鎌1・鉄斧1	剣1・刀1		25
29	浜山・千鳥遺跡	5号墳		木棺	刀子1	刀1		27
30	浜山・千鳥遺跡	7号墳		粘土槨	刀子1・鋤先1			27
31	浜山・千鳥遺跡	8号墳	円墳	割竹形木棺	刀子1	鏃4		27
32	浜山・千鳥遺跡	20号墳	円墳	竪穴式石室	刀子1	剣2		27
33	浜山・千鳥遺跡	21号墳		組合木棺	刀子7・小刀2・鉈1	刀2・剣3・矛1		27
34	三国の鼻遺跡	1号墳第1主体部	前方後円墳	木棺		剣片1	不明鉄器	28
35	三国の鼻遺跡	1号墳第2主体部		粘土槨		剣1・鏃3		28
36	辻古墳		円墳	割竹形木棺	鉈2	刀3・剣2	盤龍鏡	38
37	富地原梅木遺跡	17号墳		組合木棺	鋤先2・鉄斧1・鋤2・鉈1・刀子4			42
38	宮司井手ノ上古墳	1号墳第2主体部	円墳	箱式石棺	鉄柄手斧3・鉄斧2・鋤1・鎌1 U字形鋤先1・刀子2	鎌25・剣2・刀2・矛1	短甲	45
39	宮司井手ノ上古墳	1号墳	円墳	石蓋土壙墓(棺外)	鎌1・刀子1	鏃1・刀1・矛1		45
40	鳥津・塚の元古墳	1号墳		竪穴式石室	刀子3	剣1・刀1・矛1		48
41	豊前坊古墳群	3号墳	前方後円墳	箱式石棺		鏃2・剣1		51
42	豊前坊古墳群	2号墳	円墳	箱式石棺	鎌1・鉄斧1・刀子1	剣1	不明鉄器	51
43	田久瓜ヶ坂遺跡	1号墳第1主体部	前方後円墳	粘土槨	鉄斧1・鉈1・刀子1			本報告
44	田久瓜ヶ坂遺跡	1号墳第2主体部	前方後円墳	粘土槨	鉄斧2・鋤先1・鉈1・刀子4			本報告
45	田久瓜ヶ坂遺跡	1号墳第3主体部	前方後円墳	円筒棺	刀子5			本報告
46	田久瓜ヶ坂遺跡	1号墳第4主体部	前方後円墳	壺棺	刀子1			本報告
47	田久瓜ヶ坂遺跡	2号墳	円墳	木棺	刀子1	鏃21・剣2・刀1・矛1		本報告
48	田久瓜ヶ坂遺跡	38号墳	円墳	粘土槨割竹形木棺	鋤先1・鉈1	剣1	不明鉄器	本報告

号墳、田久瓜ヶ坂 38 号墳)

B・農工具と武器を対等に保持するもの(赤坂 1 号墳、花見 1 号墳など)

C・武器の中で鉄鏃を 10 本以上まとまって出土する遺構には剣もしくは刀の出土が認められるもの(炭焼 5 号墳、小寺 1・5・6・9 号墓、宮司井手ノ上古墳第 2 主体部、田久瓜ヶ坂 2 号墳)、また剣・刀・矛が同時に出土し、農工具の種類が少ないもの(浜山・千鳥 21 号墳、島津・塚の元 1 号墳、宮司井手ノ上古墳第 3 主体部、田久瓜ヶ坂 2 号墳)。

A・B に関しては、農工具単純出土と同じく時期幅があり時代の限定には至らなかったが、C に関しては、5 世紀初頭以降になって出現するものと考えられる。

⁴²³赤坂遺跡は、B と C の折衷であるが、粘土槨内に農工具の他、剣(身の長いタイプ)・刀・鉄鏃が多数出土する状況が認められる。

以上のように出土鉄器において明瞭な画期は認められなかったが、徐々に変化しているのではないかと考えられる。今後の資料の増加に期待し、時代幅を広げ検討する必要がある。

4. 墳墓の構成

動向

前方後円墳の後円部南西側には、おそらく弥生時代中期以降と考えられる土壙墓が 3 基検出された。それ以降 1 区では、前方後円墳の出現まで集団墓の検出は認められず、2 区より検出された。その分布域をみると、2 区の丘陵頂部に近いところで、石蓋土壙墓 B が検出され、その周辺に石棺墓・石蓋土壙墓 A があり、さらに土壙墓が丘陵の低い位置で検出された。これらの配置には、それぞれ 2～3 基を単位とするまとまりで営まれている。そのなかで、2 区や 3 区の丘陵頂部という景観の良い高立地に埋葬墳を設ける人物が現れたものと推測する。2 区では 12 号墓である石蓋土壙墓 B が専地し、石蓋 9 枚、北西側の床面に顔料で枕を施し、同小口部に板石を立てる。類似する外の石蓋土墓棺墓 B とは、やや手の込んだ丁寧な造りである。3 区では 33 号墓である土壙墓が検出され、床面全面に赤色顔料を施し、鉄剣を保持していることから、他の集団墓と格差があることがわかる。

最も標高の高い 1 区には、この前後に前方後円墳の造墓が行われ、後円部の東側に 31 号墳、北側に 2 号墳、西側に 21 号墳が次々に築造されている。これらは、2 区の集団墓とは異なり、2・21・31 号墳は墳丘を持つことから特定個人墓とし、1 号墳は、在地首長墓という序列が成立したものと推測される。

それ以降、横穴式石室である 3 号墳と 14 号墳が築かれる。これは、先代の 12 号墓や 33 号墓と、共に距離が近いこと同じ系統を引く人物の墓と考えられる。4 号墳は、石室内から出土した馬具や武器、玉類の豪華さなどから 1 号墳および 38 号墳からの系統と考えられる。4 号墳の造営以後古墳及び墓所は、8 世紀に入り、火葬蔵骨器が検出されるまで、認められない。

註

1. 上原準一 特殊なる型式の甕棺を発見したる讃岐国香川郡円座村山崎の古墳に就いて
考古学雑誌 第十六卷 第六号 1921
2. 一貴山銚子塚古墳調査報告書 史蹟名勝天然記念物調査報告書 第十輯 史蹟の部 福岡県 1952
3. 間壁忠彦 円筒棺 瀬戸内考古学第二卷第一号(通巻 第3号) 瀬戸内考古学会 1958
4. 炭焼古墳群 福岡県文化財調査報告書 第37集 福岡県教育委員会 1968
5. 築山古墳 中ノ原・馬場古墳緊急発掘調査 1968
6. 油田古墳群 福岡県文化財調査報告書 第42集 福岡県教育委員会 1969
7. 七夕池遺跡群 糟屋郡志免町所在の墓地群調査報告会資料 福岡県教育委員会・志免町教育委員会 1969
8. 若八幡宮古墳 今宿バイパス関係埋蔵文化財調査報告 第2集 福岡県教育委員会 1971
9. 石部正志 前期古墳における特殊な多葬について 榎原考古学研究所論集 創立三十五周年記念 吉川弘文館 1975
10. 原古墳群 山陽新幹線関係埋蔵文化財調査報告 第2集 福岡県教育委員会 1976
11. 京の隈遺跡 福岡市西区田島所在の古墳と経塚の調査 段谷地所開発株式会社 1976
12. 神蔵古墳 甘木市文化財調査報告 第3集 甘木市教育委員会 1978
13. 深町第1・第2号墳 九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告 XX I 福岡県教育委員会 1978
14. 橋本博文 円筒棺と埴輪棺 滝口宏先生古稀記念考古学論集 古代探叢 早稲田大学出版部 1980
15. 妙法寺古墳群 那珂川町文化財調査報告書 第7集 那珂川町教育委員会 1981
16. 小寺墳墓群 甘木市文化財調査報告 第14集 甘木市教育委員会 1982
17. 藤崎遺跡 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第80集 福岡市教育委員会 1982
18. 阿志岐古墳群 筑紫野市文化財調査報告書 第7集 筑紫野市教育委員会 1982
19. 柳田康雄 三・四世紀の土器と鏡 森貞次郎博士古希記念 古文化論集 下巻 1982
20. 井河古墳群 那珂川町文化財調査報告書 第10集 那珂川町教育委員会 1983
21. 神領古墳群 宇美町文化財調査報告書 宇美町教育委員会 1984
22. 萱葉古墳群 志免町文化財調査報告書 第2集 志免町教育委員会 1984
23. 赤坂遺跡 飯塚市文化財調査報告書 第5集 飯塚市教育委員会 1984
24. 朝町妙見遺跡 宗像市文化財調査報告書 第7集 宗像市教育委員会 1984
25. 花見遺跡 古賀町文化財調査報告書 第4集 古賀町教育委員会 1984
26. 鋤崎古墳 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第112集 福岡市教育委員会 1984
27. 浜山・千鳥遺跡 古賀町文化財調査報告書 第5集 古賀町教育委員会 1985
28. 三国の鼻遺跡Ⅰ 小郡市文化財調査報告書 第25集 小郡市教育委員会 1985
29. 丸隈山古墳Ⅱ 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第146集 福岡市教育委員会 1986
30. 那珂八幡古墳 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第141集 福岡市教育委員会 1986
31. 常松幹雄 北部九州におけるいわゆる山陰系土器 九州考古学 第60集 1986
32. 千鳥古墳群Ⅱ 福岡県文化財調査報告書 第75集 福岡県教育委員会 1987
33. 高江古墳 北九州教育要覧 1987 中村修身氏の御享受による
34. 石塚山古墳発掘調査概報 荏田町文化財調査報告書 第9集 荏田町教育委員会 1988
35. 久原遺跡 宗像市文化財調査報告書 第19集 宗像市教育委員会 1988
36. 川西宏幸 古墳時代政治史序説 塙書房 1988
37. 東郷高塚Ⅰ 宗像市文化財調査報告書 第21集 宗像市教育委員会 1989
38. 辻古墳 飯塚市文化財調査報告書 第11集 飯塚市教育委員会 1989
39. 老司古墳 福岡市埋蔵文化財調査報告書 第209集 福岡市教育委員会 1989
40. 蒲原宏行 北部九州出土の畿内系二重口縁壺 古文化談叢発刊記念論集 第20集(中) 1989
41. 吉留秀敏 九州の割竹形木棺 古文化談叢 第20集発刊記念論集(中) 1989
42. 富地原梅木遺跡 宗像市文化財調査報告書 第25集 宗像市教育委員会 1990
43. 古墳時代の研究 第6巻 土師器と須恵器 雄山閣出版株式会社 1991
44. 井上裕弘 北部九州における古墳出現期前後の土器群とその背景 児嶋隆人先生喜寿記念論集 古文化論叢 1991
45. 宮司井手ノ上古墳 津屋崎町文化財調査報告 第7集 津屋崎町教育委員会 1991
46. 近藤義郎 前方後円墳集成 九州編 山川出版社 1992
47. 史跡 森將軍塚古墳 保存整備事業発掘調査報告書 森將軍塚古墳発掘調査団 更埴市教育委員会 1992
48. 島津・塚の元古墳群 遠賀町文化財調査報告書 第6集 遠賀町教育委員会 1993
49. 土師の里8号墳 藤井寺市文化財報告 第11集 藤井寺市教育委員会 1994
50. 山崎ハヶ尻墳墓群 北九州市埋蔵文化財調査報告書 第158集 北九州市教育文化事業団埋蔵文化調査室 1994
51. 豊前坊古墳群・経塚 遠賀町文化財調査報告書 第8集 遠賀町教育委員会 1996
52. 須多田古墳群 津屋崎町文化財報告書 第12集 津屋崎町教育委員会 1996
53. 田中涼子 円筒棺にみる階層性 古事 天理大学考古学研究室紀要 第1冊 1997 円筒棺の総数に高江古墳の蓋を加える

版 圖

航空写真



① 全 景



① 1 区



② 2 区 A



③ 2 区 B



④ 2 区 C



⑤ 3 区



⑥ 5 区



⑦ 7 区



① 現 況



② 遠 景 (北から)



① 主体部と土層



② 後円部東側土層



③ 後円部南側土層



④ 前方部南側土層



⑤ 前方部東側土層



⑥ くびれ部西側土層



⑦ くびれ部屈曲部（西側）



⑧ くびれ部遺物出土状況



① 遠 景 (西から)



② 主 体 部 (西から)



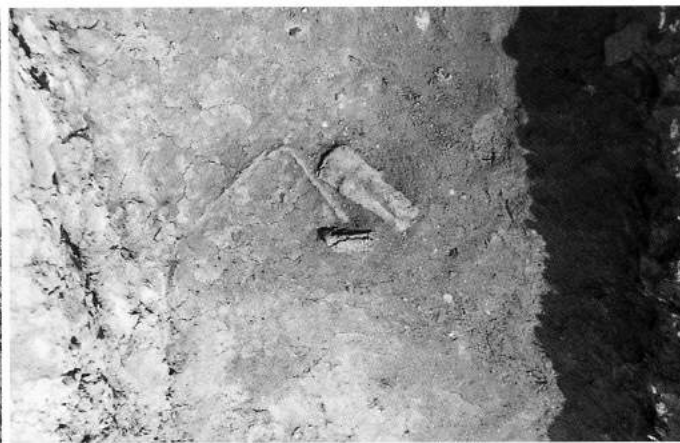
① 小口部土層（東側）



② 横断土層（中央）



③ 床面近景（東側）



④ 遺物出土状況



⑤ 上粘土検出（西から）



⑥ 床面検出



⑦ 粘土除去



① 小口部土層（東側）



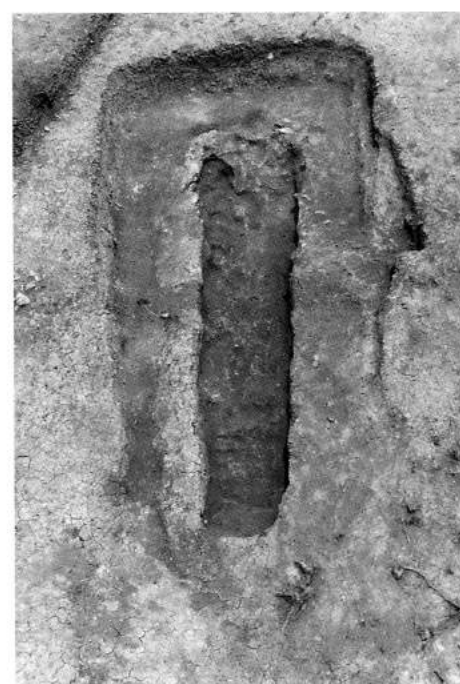
② 横断土層（中央）



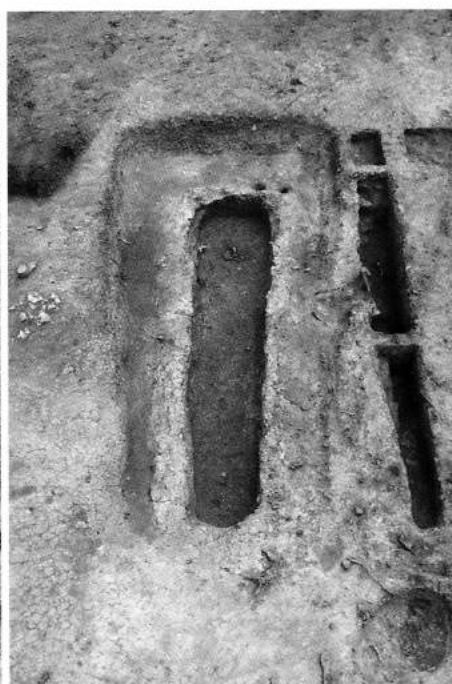
③ 床面近景（東側）



④ 遺物出土状況



⑤ 上粘土検出（西から）



⑥ 床面検出（西から）



⑦ 粘土除去（西から）



① 下蓋粘土土層



② 上蓋粘土土層



③ 下蓋下粘土土層



④ 上蓋下粘土土層



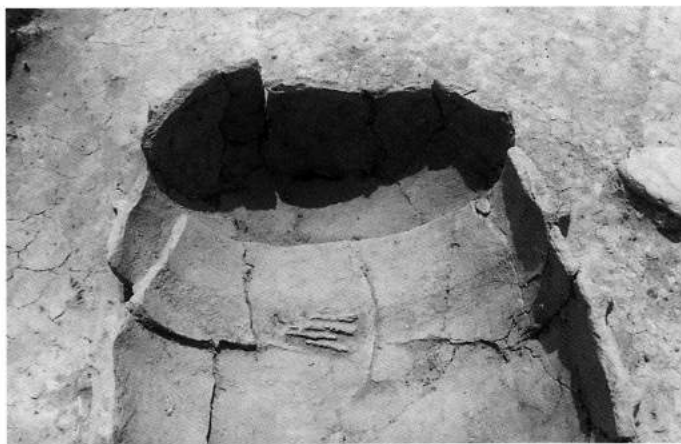
⑤ 円筒棺検出（西から）



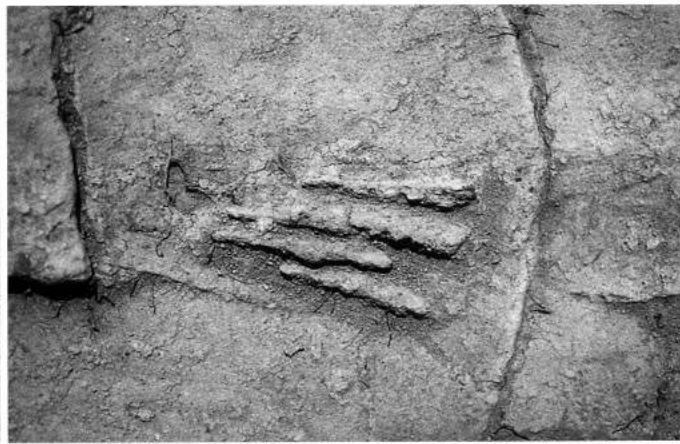
⑥ 円筒棺床面検出（西から）



⑦ 円筒棺除去（西から）



① 第3主体部下蓋近景



② 第3主体部遺物出土状況



③ 第3主体部上蓋と身の接合部分



④ 第4主体部上蓋下蓋接合部



⑤ 第4主体部壺棺検出状況



⑥ 第4主体部壺棺除去



① 全 景



② 現 況



③ 盛土土層（北側）



④ 盛土土層（東側）



⑤ 盛土土層（南側）



① 墳丘裾出土遺物



② 南側堀切土層



③ 主体部全景（北から）



④ 小口部土層（南側）



⑤ 横断土層（中央）



⑥ 鉄剣出土状況



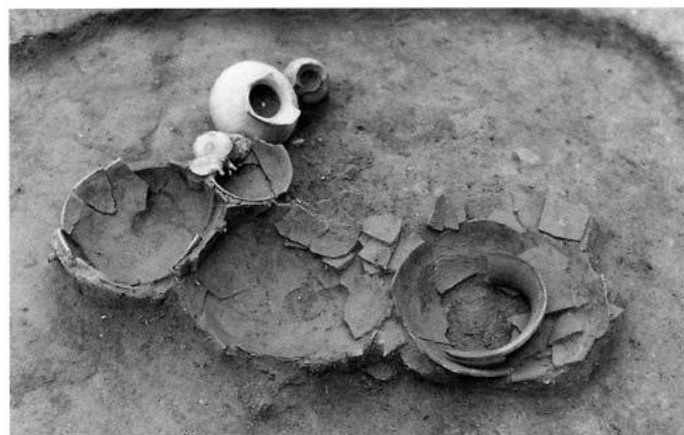
⑦ 鉄矛・鉄鏃出土状況



① 3号墳現況



② 3号墳表土除去



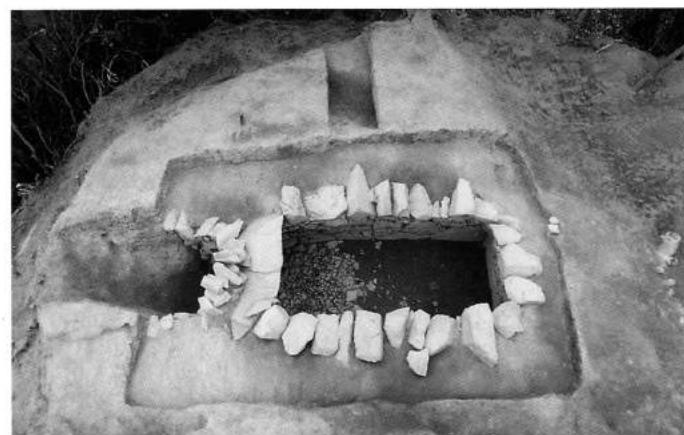
③ 3号墳祭祀土坑



④ 4号墳主体部(北から)



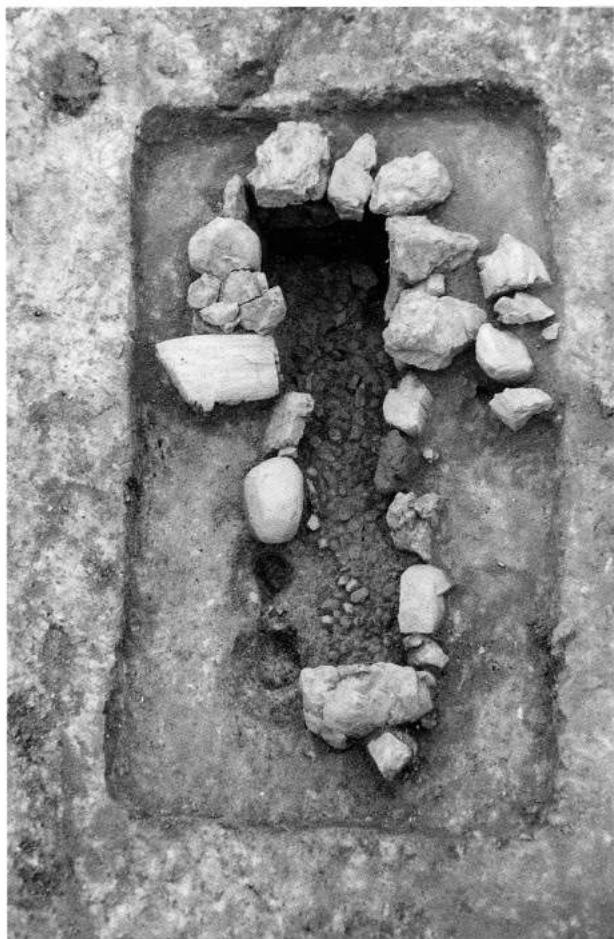
⑦ 14号墳主体部(西から)



⑤ 4号墳主体部(東から)



⑥ 4号墳閉塞石



① 21号墳全景（西から）



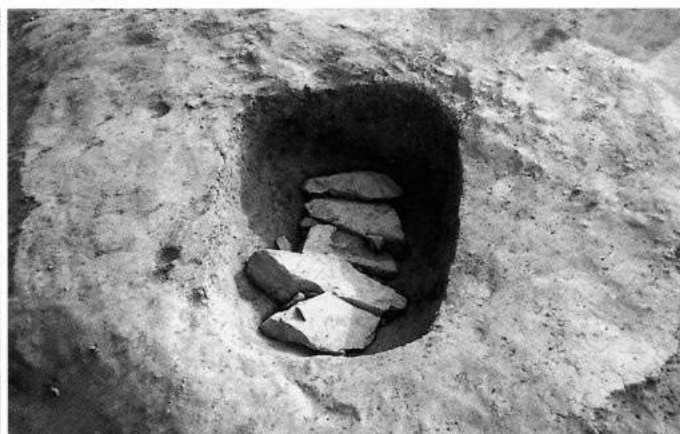
② 21号墳側壁（南から）



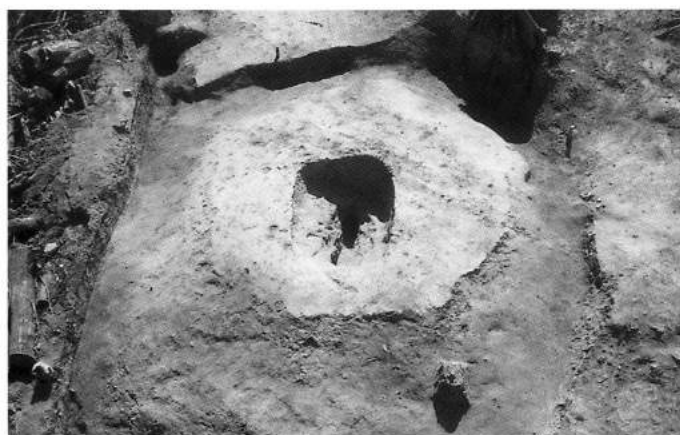
③ 21号墳小口部（東側）



④ 31号墳墳丘（東から）



⑤ 31号墳主体部石蓋



⑥ 31号墳石蓋除去墳丘（東から）



⑦ 31号墳主体部石蓋除去



① 全 景



② 墳丘土層（北側）



③ 墳丘土層（南西側）



④ 盛土土層（南東側）



⑤ 盛土土層（北東側）



① 墓壇検出



② 上粘土検出



③ 床面検出



④ 横断土層



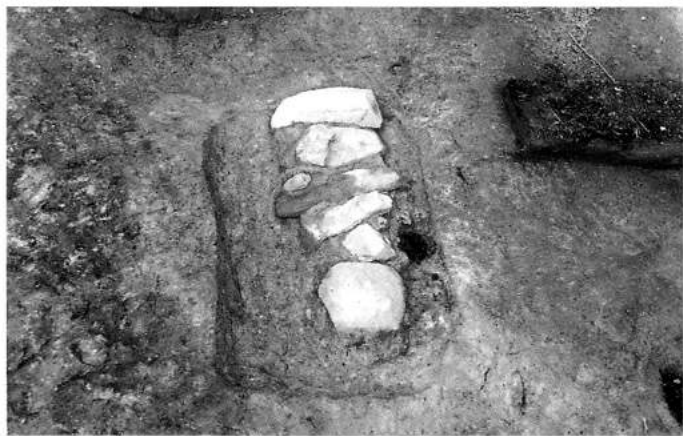
⑤ 小口部 (西側)



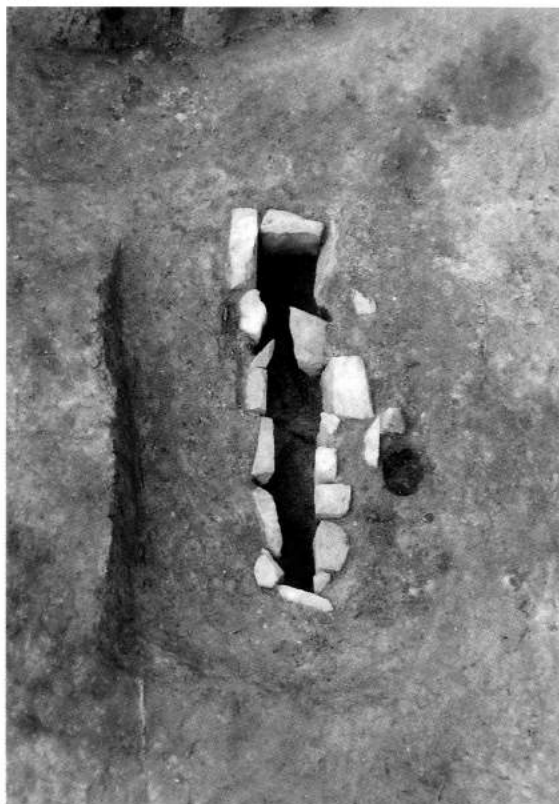
⑥ 鉄剣検出



⑦ 鉄剣出土状況



① 9号墓石蓋



② 9号墓石蓋除去



③ 10号墓11号墓検出



④ 10号墓石蓋除去



⑤ 10号墓11号墓掘上



⑥ 83号墓粘土検出



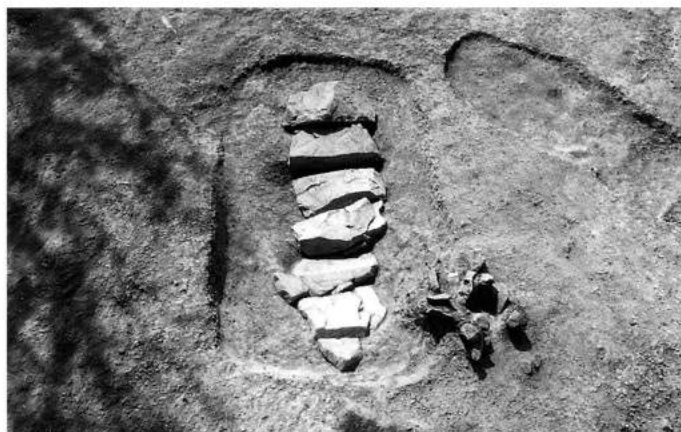
⑦ 83号墓粘土縦断土層



① 5号墓石蓋検出



② 5号墓石蓋除去



③ 12号墓石蓋検出



④ 12号墓石蓋除去



⑤ 13号墓石蓋検出



⑥ 13号墓石蓋除去



⑦ 19号墓石蓋検出



⑧ 19号墓石蓋除去



① 22号墓石蓋検出



② 22号墓石蓋除去



③ 34号墓石蓋検出



④ 34号墓石蓋除去



⑤ 73号墓石蓋検出



⑥ 73号墓石蓋除去



⑦ 74号墓石蓋検出



⑧ 74号墓石蓋除去



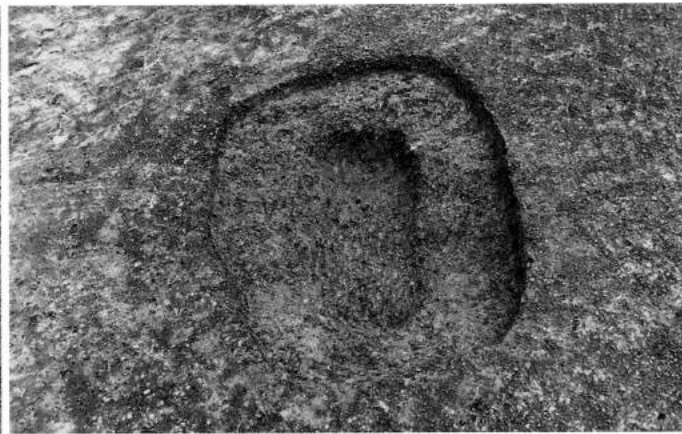
① 75号墓石蓋検出



② 75号墓石蓋除去



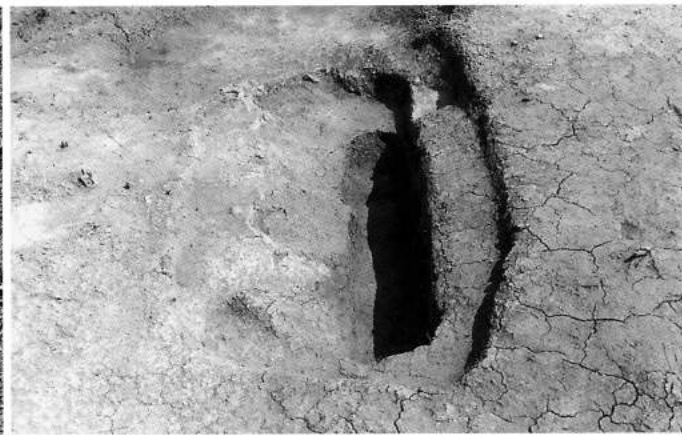
③ 77号墓石蓋検出



④ 77号墓石蓋除去



⑤ 78号墓石蓋検出



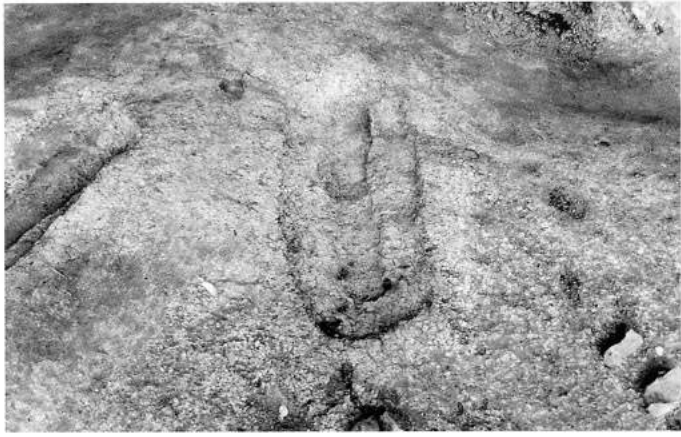
⑥ 78号墓石蓋除去



⑦ 80号墓横断土層



⑧ 80号墓完掘



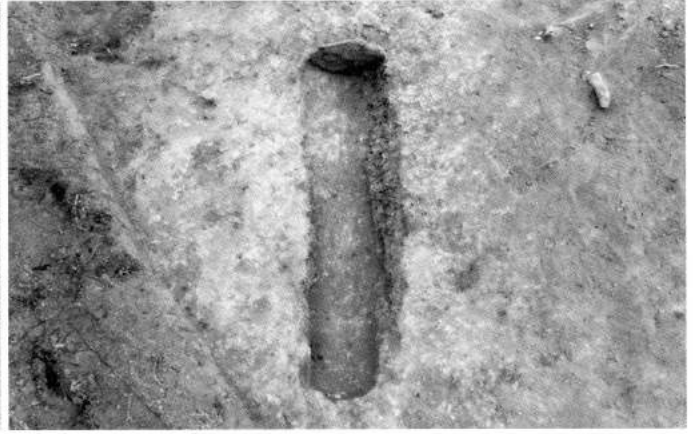
① 7 号 墓



② 8 号 墓



③ 23 号 墓



④ 29 号 墓



⑤ 33 号 墓



⑥ 33号墓鉄剣出土状況



⑦ 76 号 墓



⑧ 79 号 墓



① 1号墓集石検出



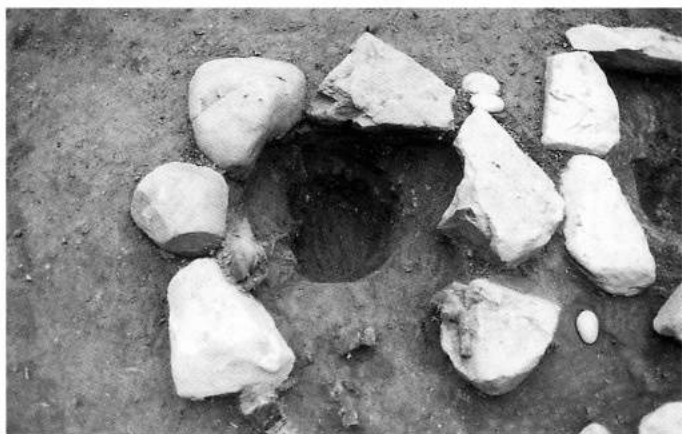
② 2号墓集石検出



③ 1号墓集石上石除去



④ 2号墓集石上石除去



⑤ 1号墓下部構造



⑥ 2号墓下部構造



⑦ 3号墓集石検出



⑧ 3号墓下部構造



① 4号墓集石検出



② 4号墓下部構造



③ 5号墓集石検出



④ 5号墓下部構造



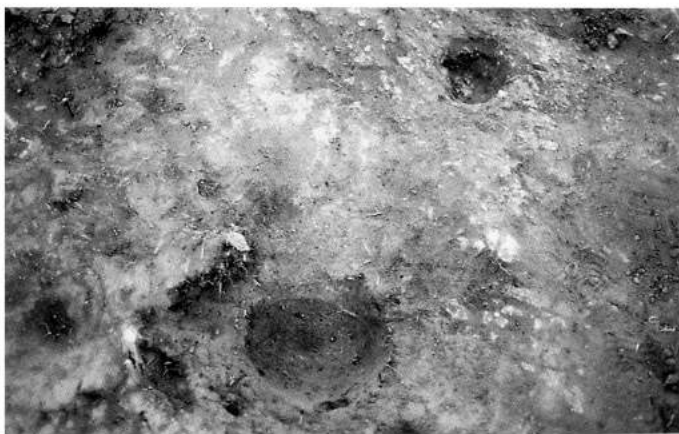
⑤ 6号墓集石検出



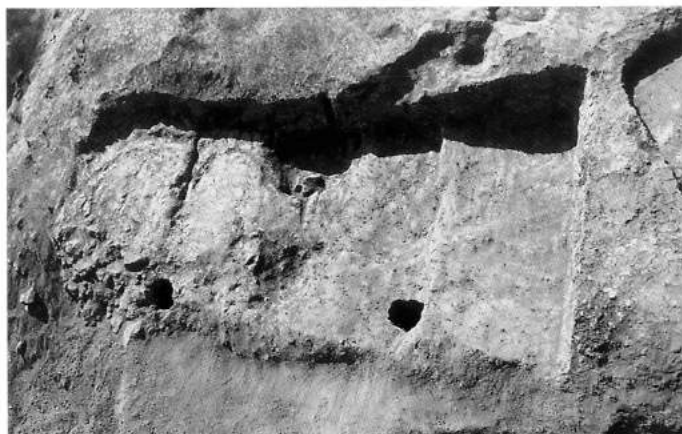
⑥ 6号墓下部構造



⑦ 24・25号墓集石検出



⑧ 24・25墓下部構造



① 68号住居



② 69号住居



③ 6号遺構検出



④ 6号遺構石材除去



⑤ 30号遺構礫検出



⑥ 30号遺構掘上



⑦ 26号小石室



⑧ 35号遺構



① 24号遺構



② 25号遺構



③ 67号遺構



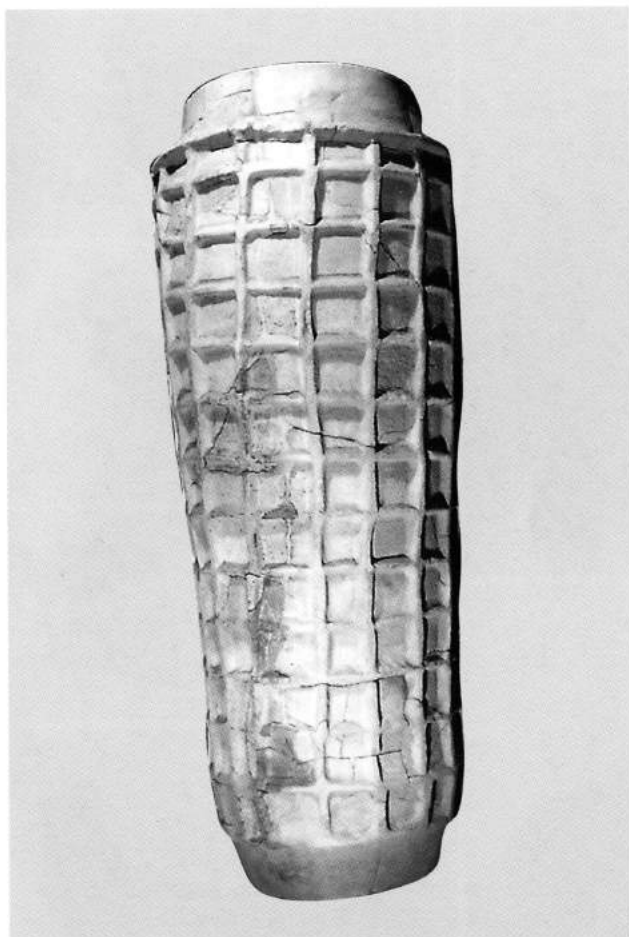
④ 64号遺構



⑤ 65号遺構



⑥ 66号遺構



① 棺身



② 上蓋



③ 下蓋



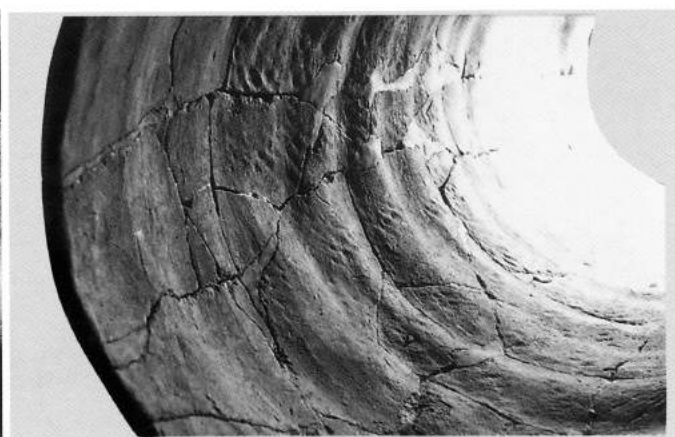
④ 棺身外面調整1



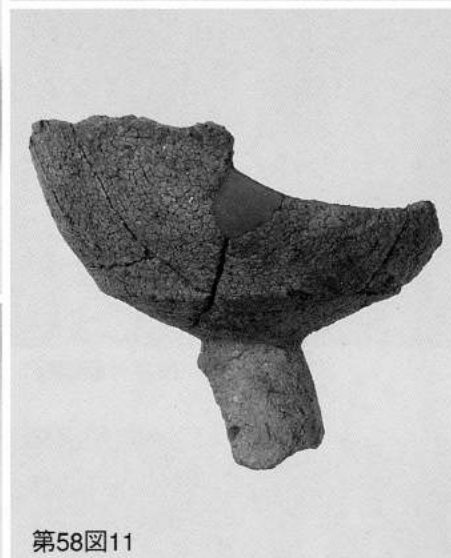
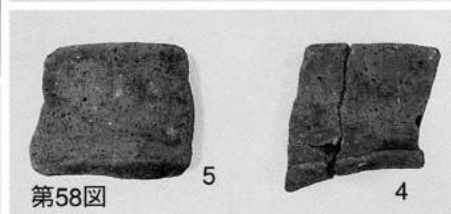
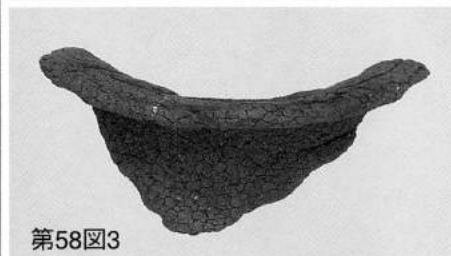
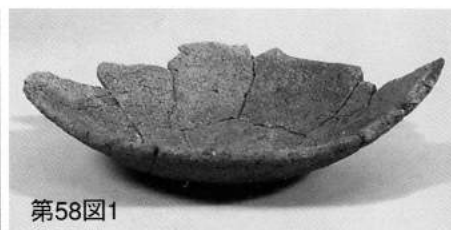
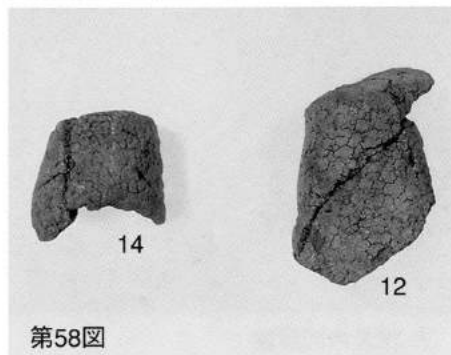
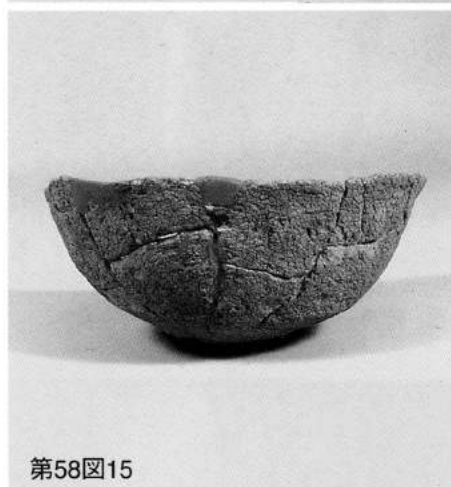
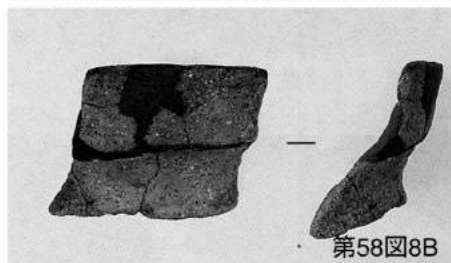
⑤ 棺身外面調整2



⑥ 棺身外面調整3



⑦ 棺身内面調整





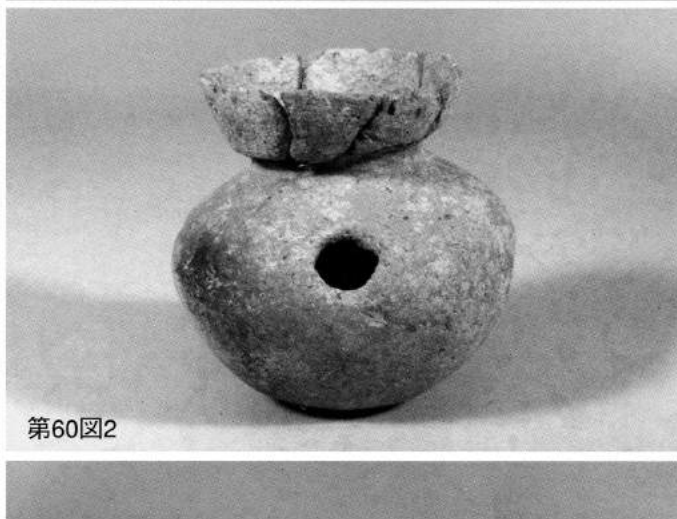
第60图3



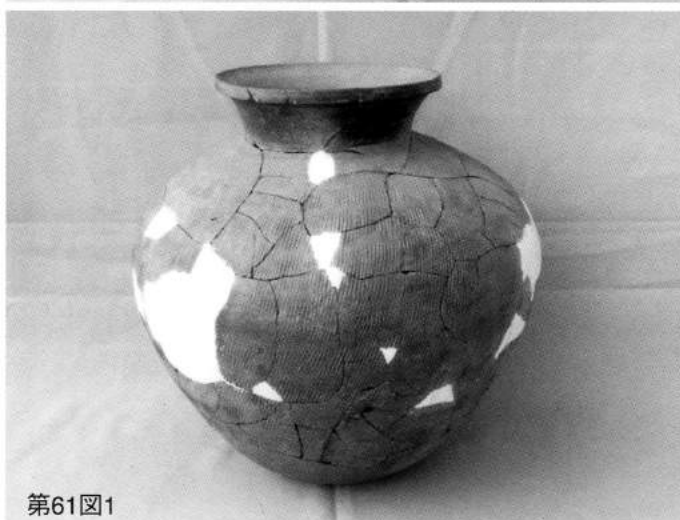
第60图1



第60图4



第60图2



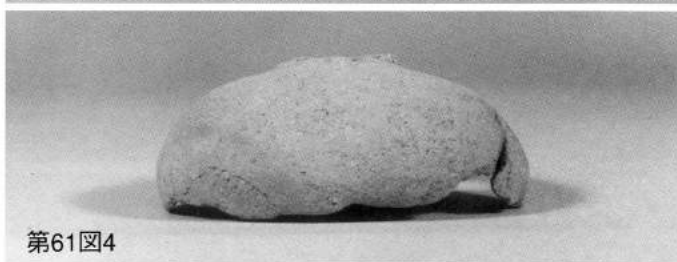
第61图1



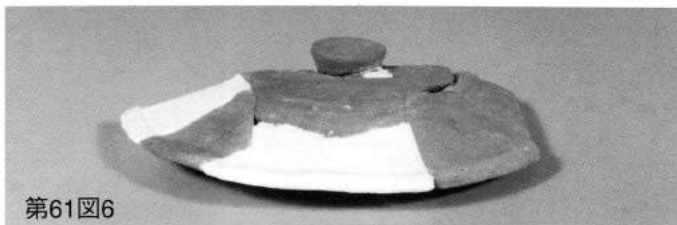
第61图2



第61图3



第61图4



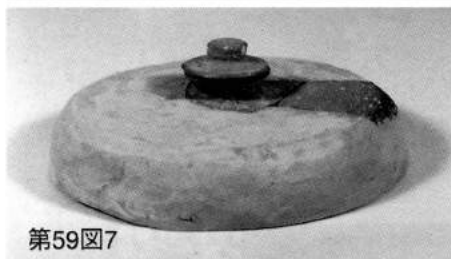
第61图6



第63图1



第63图2



第59图7



第59图8



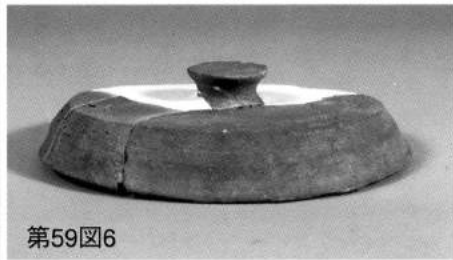
第62图5



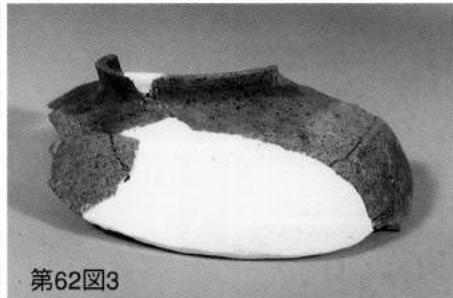
第63图3



第63图4



第59图6



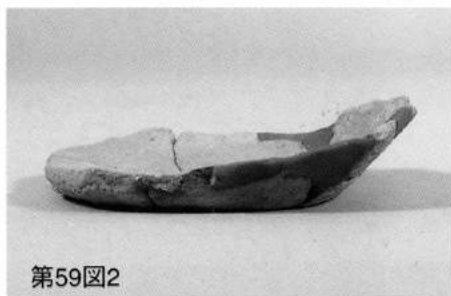
第62图3



第62图6



第59图1



第59图2



第59图3



第59图4



第62图1



第62图2



第62图4



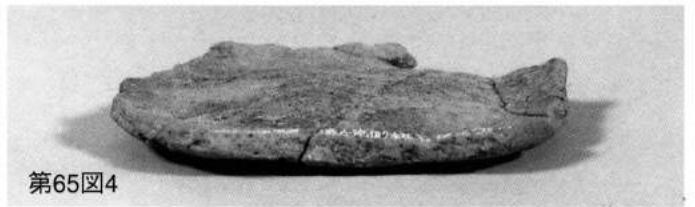
第65図2



第65図3



第65図1



第65図4



第65図5



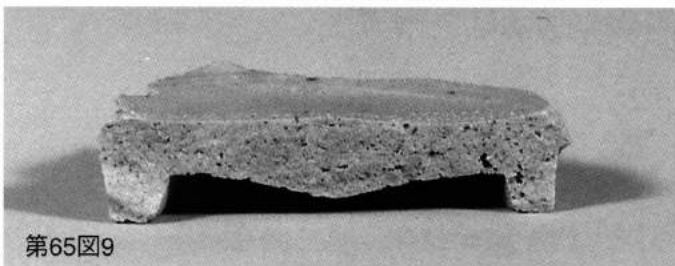
第65図6



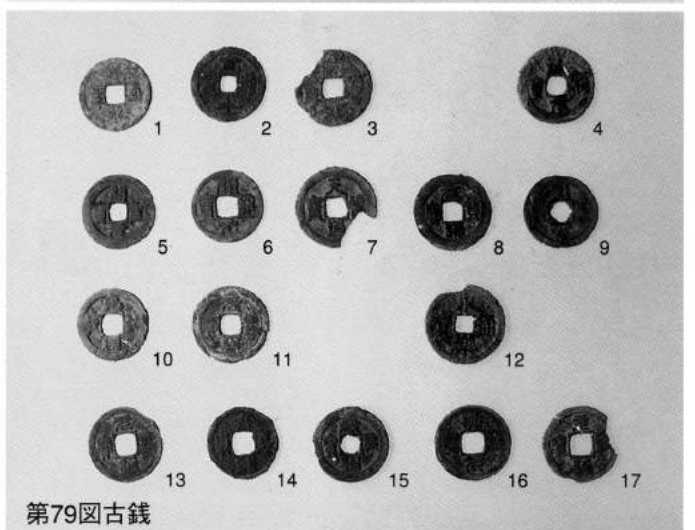
第65図7



第65図8



第65図9



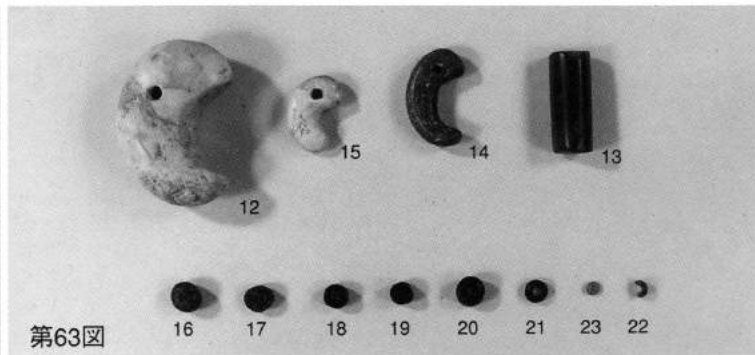
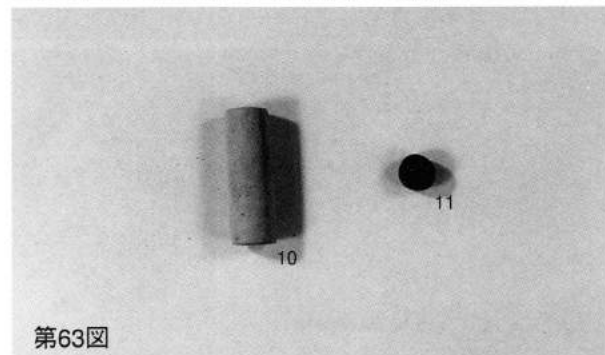
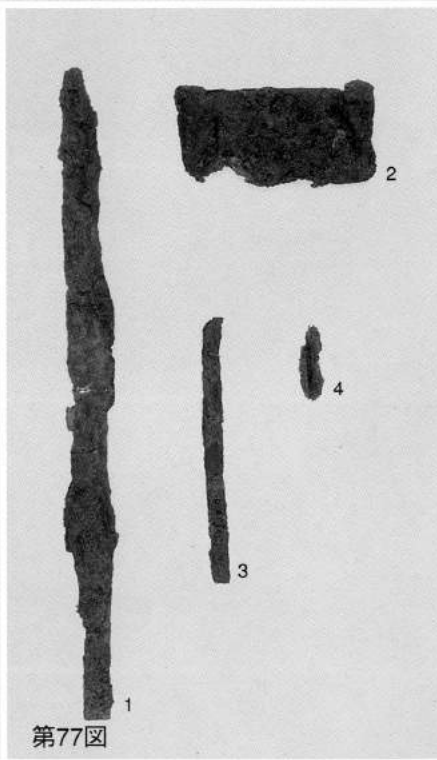
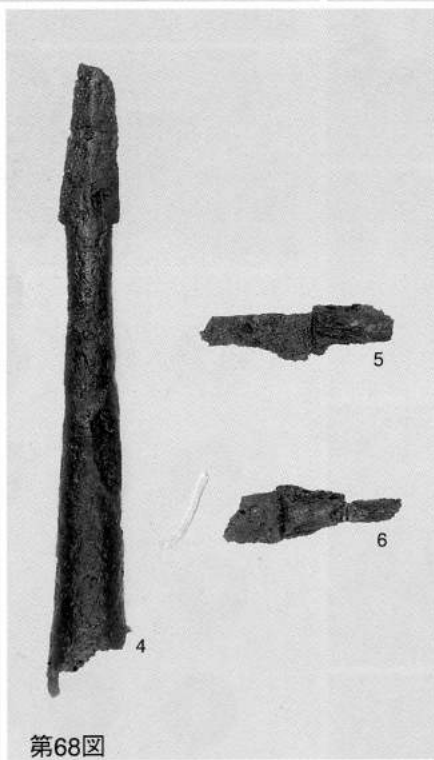
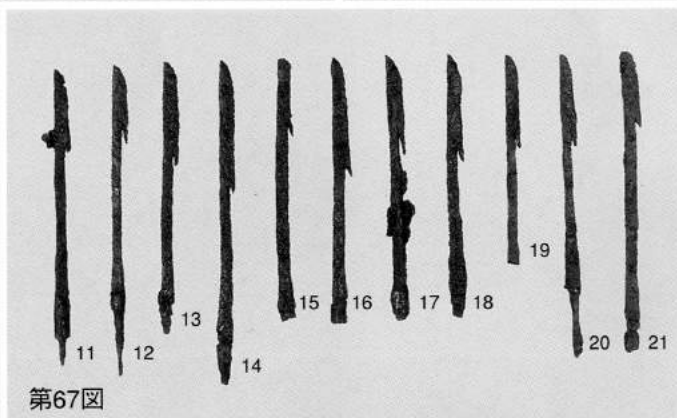
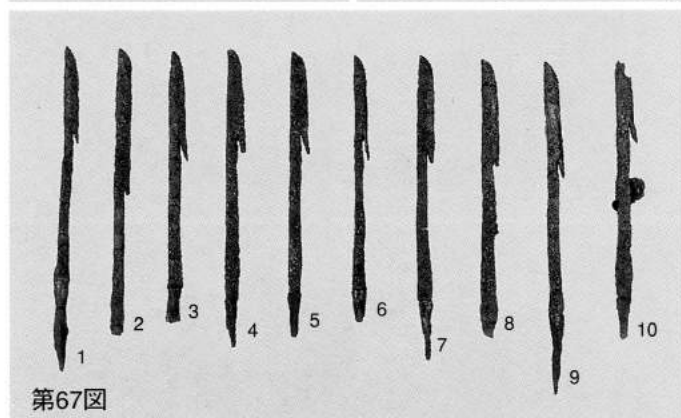
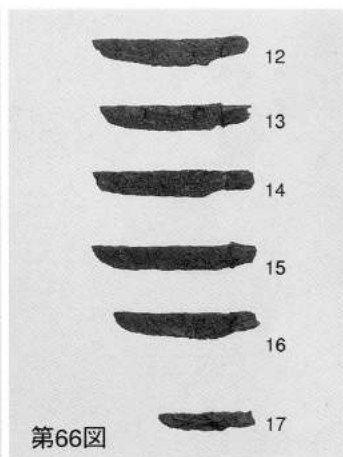
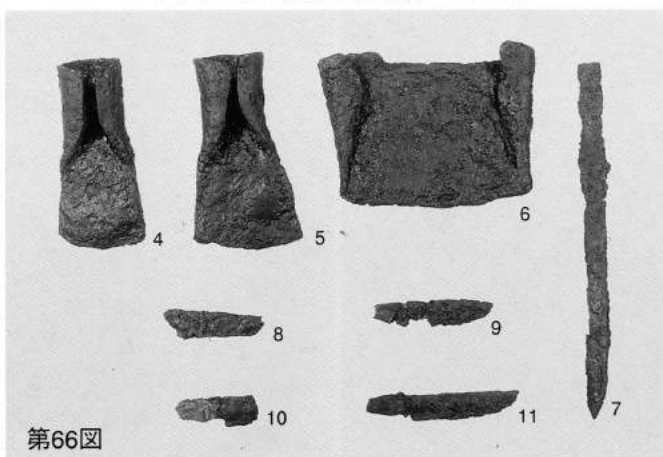
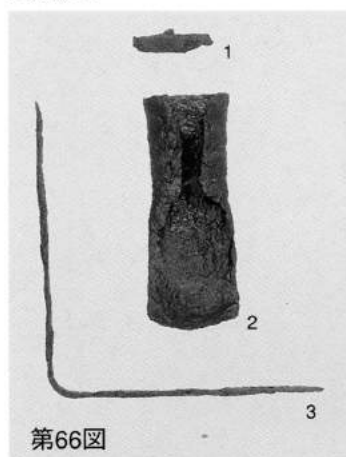
第79図古銭

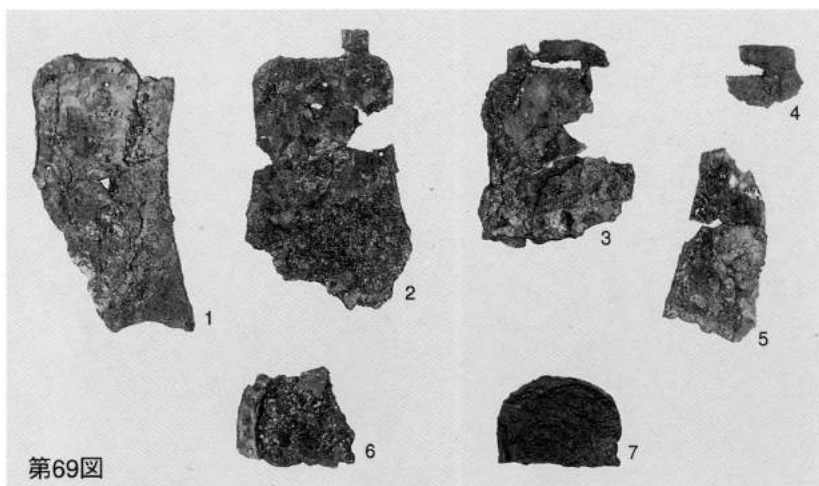


第64図5

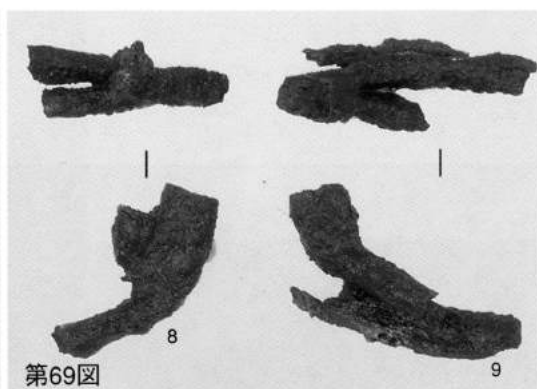


第64図3

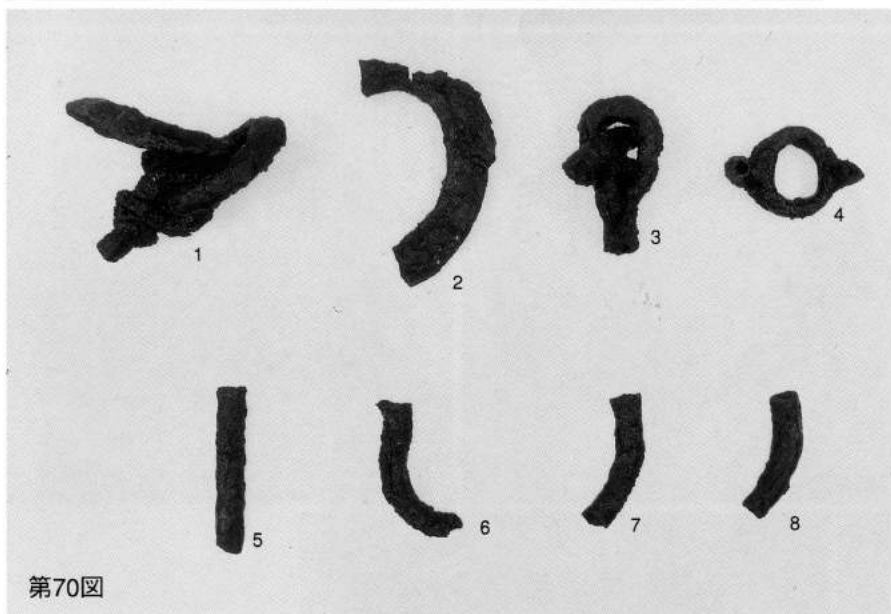




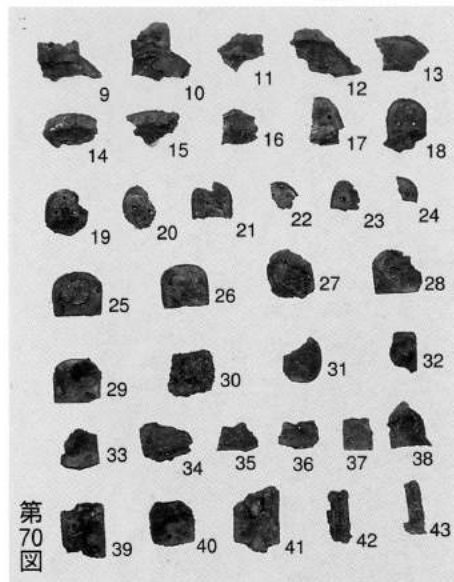
第69図



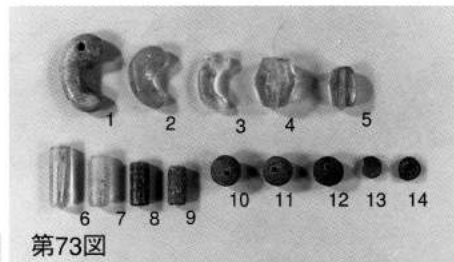
第69図



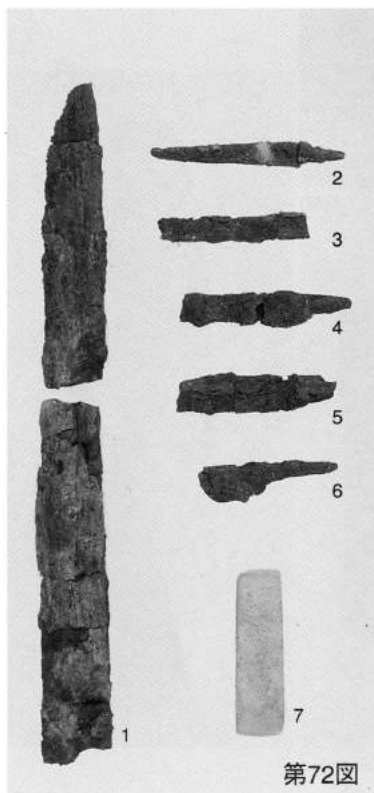
第70図



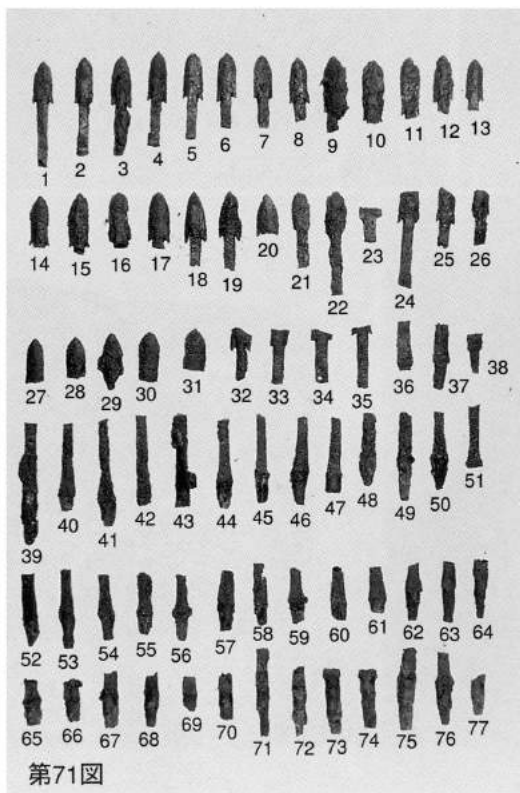
第70図



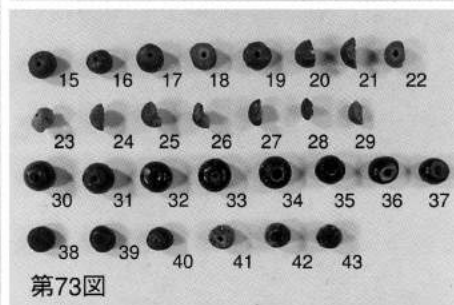
第73図



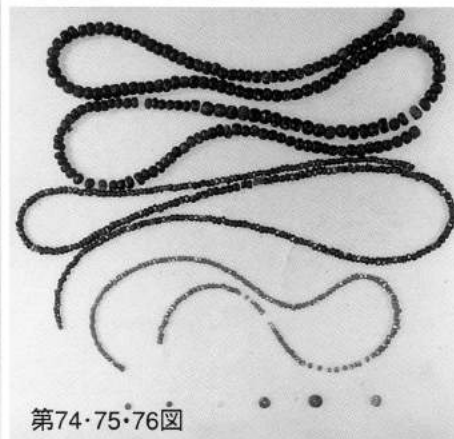
第72図



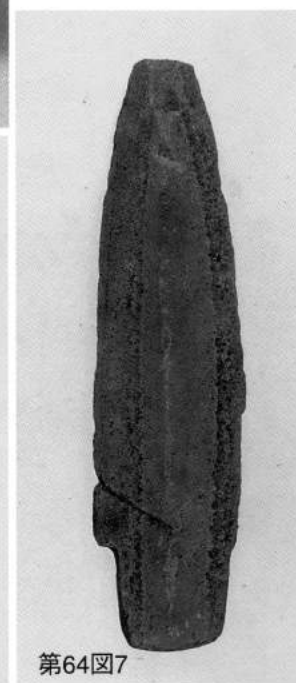
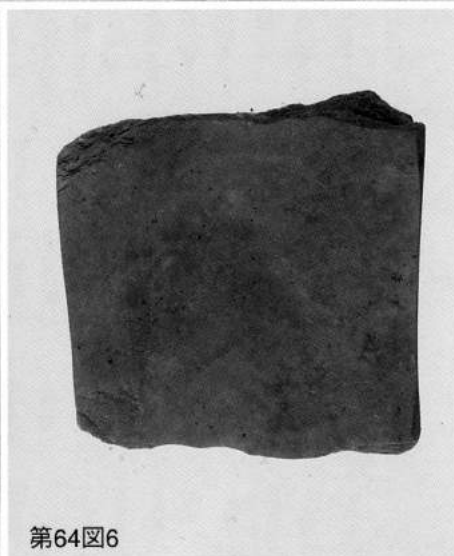
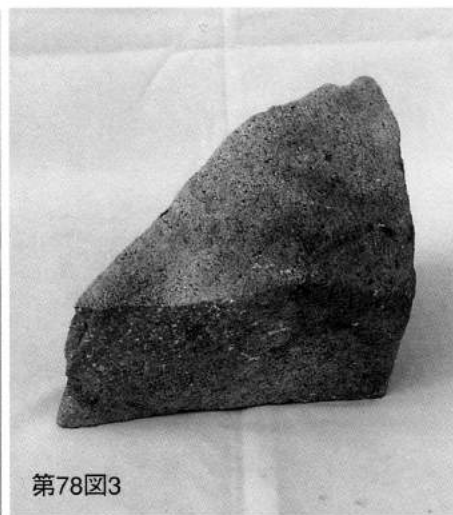
第71図



第73図



第74・75・76図



報 告 書 抄 録

フリガナ	タクウリガサカ							
書 名	田久瓜ヶ坂							
副 書 名	福岡県宗像市田久所在遺跡の発掘調査報告							
巻 次								
シ リ ー ズ 名	宗像市文化財調査報告書							
シ リ ー ズ 番号	第 46 集							
編 著 者 名	岡 崇							
編 集 機 関	宗像市教育委員会							
所 在 地	〒 811 - 3492 福岡県宗像市大字東郷 995 番地 TEL(0940)36 - 1540							
発 行 年 月 日	西暦 1999 年 3 月 31 日							
フリガナ 所 収 遺 跡	フリガナ 所 在 地	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
タ ク ウ リ ガ サ カ 田 久 瓜 ケ 坂	ムナカサシオオサダ 宗像市大字田久 1 他	40220	330312 外	33° 47' 43"	130° 33' 19"	1996.1.12 ~ 1997.10.31	5000㎡	宅地造成
所 収 遺 跡 名	種 別	主な時代	主 な 遺 構	主 な 遺 物		特 記 事 項		
田 久 瓜 ケ 坂	古 墳	古 墳	墳 墓	土器・鉄器・装身具		前方後円墳の第3主体 部より円筒棺出土		

田 久 瓜 ケ 坂

宗像市文化財報告書

第 46 集

平成 11 年 3 月 31 日

発 行 宗像市教育委員会

宗像市大字東郷 995 番地

印 刷 (有)青雲印刷